関西外国語大学大学院外国語研究科
博士学位申請論文　平成 30 年度

自己表現育成のための外国語教育

−中国語教育における教材と指導法を中心に−

関西外国語大学大学院
外国語研究科　言語文化専攻

915301
白 煜

目次

序論　研究の背景と研究方法

0.1　日本における自己表現育成の現状……6

0.2　21 世紀におけるコミュニケーションと表現力における意識の変化……7

0.3　外国語教育におけるパラダイム・シフト……8

0.4　外国語教育におけるグローバルスタンダード……9

0.5　研究の動機……10

0.6　研究方法……12

第 1 章　外国語教育における自己表現型教育の概念と重要性

1.1　「自己表現」の定義……14

1.2　自己表現の必要性と重要性……15

1.3　自己表現活動の利点……17

1.4　未来に向けた自己表現の教育効果……21

1.5　自己表現型指導法の実践事例……22

第 2 章 外国語教授法の変遷について

2.1　外国語教授法のはじまり……28

2.2　文法訳読法……28

2.3　文法訳読法に代わる教授法のはじまり……29

2.3.1 ナチュラル・メソッド……29

2.3.2 直接法……29

2.3.3 グアン式教授法……30

2.3.4 ベルリッツ・メソッド……30

2.3.5 オーラル・メソッド……30

2.4　構造言語学に基づいた教授法……31

2.4.1 ASTP（アーミー・メソッド）……31

2.4.2 オーディオ・リンガルメソッド……32

2.5　心理学、認知理論に基づいた教授法……32
2.5.1 サイレント・ウェイ……33
2.5.2 トータル・フィジカル・レスポンス……33
2.5.3 CL/CLL……34
2.5.4 サジェスト・ペディア……34
2.6　コミュニカティブ・アプローチ……35

第 3 章　中国語教育の変遷と第二中国語教育が直面する問題

3.1　1940 年代～1950 年代「中国語授業の黎明期」……37
3.2　1960 年代「オーラル･アプローチ」…… 37
3.3　1970 年代「第二外国語科目としての中国語」……38
3.4　1980～1990 年代「中国語教育における第二次成長期」……38
3.5　2000 年以降「第二外中国語教育の新たな発展性」……39
3.6　第二外中国語教育が直面する課題……40

第 4 章　初級中国語学習者における文法と発音の誤用に関する考察

4.1　自由な発話を目指して……44
4.2　文法における誤用……45
4.2.1「了」における誤用について……46
4.2.2「了」における誤用についての分析……47
4.2.3「把」における誤用について……48
4.2.4「把」における誤用についての分析……49
4.2.5「会」と「能」における誤用について……50
4.2.6「会」と「能」における誤用についての分析……51
4.2.7 量詞における誤用について……52
4.2.8 量詞における誤用分析について……52
4.2.9 文法誤用に関するまとめ……53
4.3　発音における誤用……55

4.3.1 発音の誤用における調査……56
4.3.2 発音において誤用のある表現の分析結果……60
4.3.3 発音の誤用に関するまとめ……75

第5章　日本の大学における中国語教材の現状

5.1　CSL と CFL の環境下で学ぶ中国語教育……78
5.2　第二外中国語教育(CFL)の先行研究で教材研究が占める割合……79
5.3　日本で出版されている中国語教材の現状について……81
5.4　教材の設定場面について……82
5.5　教材のトピック（題材）について……84
5.6　教材の練習問題について……86

第6章　日本の大学における中国語学習者の学習意識調査

6.1　研究目的……97
6.2　調査の対象者数……98
6.2.1 中国語学習者の授業数……99
6.2.2 中国語学習者の授業数に関する考察……100
6.3　中国語学習者が希望する授業形態……101
6.3.1 希望する授業形態に関する考察……103
6.4　中国語学習に楽しさを感じているのか……104
6.4.1 中国語学習の楽しさに関する考察……106
6.5　第二外中国語学習者が授業を楽しくないと考える理由……107
6.5.1 中国語が楽しくない理由、その考察……109
6.6　中国語教師の指導内容と学習者が求めている学習内容に関する比較分析……110
6.7　中国語の学習動機……111
6.8　中国語の学習動機に関する考察……113
6.9　教材内容について……114
6.9.1 教材内容に関する考察……115
6.9.2 初級中国語学習者に対するインタビュー結果……116

第 7 章　自己表現育成のためのカリキュラム・デザイン案

7.1　自己表現育成のためのカリキュラム・デザインを作成するに至った理由……119
7.2　従来の第二外中国語授業の一般的な流れ……119
7.3　「自己表現プロジェクト」のための教材について……120
7.3.1 「自己表現プロジェクト」のための教材内容について……121
7.3.2 「自己表現プロジェクト」の学習イメージ……123
7.3.3　実施要件について……129
7.4　「自己表現プロジェクト」の目次について……130
7.5　「自己表現プロジェクト」のための序説……136
7.6　「自己表現プロジェクト」のための教材本編……138
7.7　「自己表現プロジェクト」に関する教師の役割……250

結論……252
参考文献……255

序論
研究の背景と研究方法

0.1　日本における自己表現育成の現状

本研究は、日本の大学の中国語教育において、自己表現育成のための有効な教材と指導法を実践可能な形で提案することを目的とする。

現在、日本の自己表現育成のための教育法は様々な分野において注目を集めるようになった。大別すると 2 つになる。

まず第一として、変化の激しい現代社会の中で、言語における表現力や学生の人格形成の観点から、言語教育に取り入れられるようになった自己表現育成である。特に、初等中等教育、そして高等教育を中心とした国語科の授業、さらには英語教育を中心とした外国語教育において自己表現に関する研究や実践的な授業が多く行われるようになった。その背景にあるのは、近年、教師中心の授業（teacher-centered）から学習者中心の授業（students-centered）への変化が注目されるようになったことがある。21 世紀型の人材育成として、キーコンピテンシーを核とした発信型の人材が求められるようになったのである。外国語教育がパラダイム・シフトしてゆく中で、外国語の授業に求められるものはもはや言語知識だけではないことがますます明らかになっている。国語科、そして外国語の授業において、自己表現育成を取り入れた授業を通し、学習者の自主性を育て、自分自身で考え、情報を発信できる人材の育成が強く求められるようになったのである。

第二に、精神的な問題を抱えている人々や、対人コミュニケーションを苦手とする若者のために、社会性に関わる問題への対応策としてソーシャル・スキルの役割を果たす自己表現（アサーション）である。現在、人前で話すことを苦手とする学生が増加していく中で、外国語の授業において自己表現に対する意識的な指導が今後ますます重要となってくるのではないだろうか。

0.2　21 世紀におけるコミュニケーションと表現力における意識の変化

少子化による大学存続の危機により、大学教育自体の形骸化が指摘されるようになった現在、90 年代初期[1]と比較すると、日本語による「ことば教育」や、外国語教育における言語教育の方向性にも明らかに変化がみられる。これまでの言語教育においては、文法的な「正しさ」や文章としての「美しさ」が追求されたが、今後は情報や意見を的確に伝える言語の機能的側面や、日本語や外国語を通して自己表現を行い、他者とのコミュニケーションを学ぶ教育へと向かいつつある。

まず、1990 年代半ばの日本において、国際社会への発信力や伝達能力など、英語による会話能力、発信型の表現法が注目され広がりをみせる中、思考力、説得力のある話し方など、様々な表現能力を身につけることができるツールとして教育ディベートが大きく注目されるようになった[2]。研究授業にディベートを持ち込むことが大流行し、その結果、「話しことば」による教育が多く行われるようになった。また、日本人はあまり思ったことを口にしないというステレオタイプからの脱皮という意識改革も影響して、表現力とは「自己主張する力」と強調されるようになった。

そして、21 世紀となり、学校や企業、また、社会の様々な場所において外国語母語話者と接することが多くなり、海外との結びつきやコミュニケーションが便利となった現在、「国際化」というキーワードが特に目新しいことではなくなり、「表現すること」と「コミュニケーション」の関連性にも変化が生まれるようになった。それは、大学生の就職活動の際、採用者側が「コミュニケーション能力がある学生を求めている」という点や、面接される側が「自分の長所は初めて知り合った人とも上手にコミュニケーションが取れること」をアピールすることからも判断できる。自分のことばによる表現で相手を打ち負かしたりすることよりも、社会の中で、他人と気持よくコ

---

[1]90 年代初期、1991 年 2 月、大学審議会は、大学設置基準の大縄化を文部（現文部科学）大臣に答申し、これにより大学は、組織的には教養部の廃止へと一気に動き出すと同時に、「くさび型」カリキュラム編成、教養教育の実施、特色ある授業科目の導入、選択幅の拡大などのカリキュラム改革を進めることになった。筒井洋一(2008)「日本語表現法の意義と今後の展望」『月刊言語』37(3)pp. 19-24

[2]渡部敦(2009)「子どもの自己表現能力を高めるために」『国際文化フォーラム』(82) pp. 1-2

ラボレーションしたり、人と人の結びつきや共存をより豊かに表現できる能力が好まれるようになったということである。即ち、表現力とは「自己主張すること」という視点から、表現力とは「他者とつながりあう力」へと視点がシフトしたのではないかといえる。

これまで見てきたように、コミュニケーションと表現することは、切っても切れない関係にある。特に、21 世紀の「表現」とは「他者とつながりあう力」とあるように、大学生たちにとって、外国語の授業は自己表現力育成の場、実社会に出る前の他者とのコミュニケーションや相互理解を学ぶ場として、さらには自分自身の新たな一面を発見することができる場として機能することになる。

また、自己表現力を磨き、自己実現を目指すとき、学生たちは何段階も成長してゆくことができる。そのためには、まず学生たちにとって自己表現をいかにして向上させていくかがキーワードとなってくる。

0.3　外国語教育におけるパラダイム・シフト

現在、外国語教育はパラダイム・シフトといえるほどの大きな変化の過程にある。すなわち、教師が一方的に学習者に知識を詰め込む知識伝達型の学習法、教師の知識を学習者の脳に移動させようとする知識移動モデルから、学習者の自主性を育てる学生参加型、情報発信型、そして自己発見型の教育に向かう動きがみられるようになっている。これは、世界の外国語教授法の変遷からみれば非常に分かりやすい。教授法の長い歴史を辿ると、授業で学習すべき内容が文法構造や語彙であった頃、言語教育の中心は「なに」を学ぶかという点が重要であった。しかしその後、言語教育は「どのようにして」習得するのかという点に注意が払われるようになる。そして、70 年代後半から言語学習における機能や場面というものが大きく注目されるようになっていくのである。

そして現在、「なに」から「どのように」、さらに「なぜ」外国語を学ぶのか、という点に重みが置かれるようになり、外国語を通した社会とのつながりや、人と人との

相互理解など、言語学習を通したヒューマニスティックな面がより強くより強く注目されるようになった。

日本における中国語教育における特徴も、情報コミュニケーション技術やデジタル機器の活用による学習法の多角化など、教授法をめぐる議論が多様化してきている。その底流には、教師と学生側が一方的に知識を伝達・受信するという「教授」スタイルから、学生自身が周囲の人々や社会との相互作用を通じて学びを構成していく「学習」スタイルへの移行がある[3]。すなわち、「与えられた知識を吸収することよりも、学習者自らが問題を見つけ、解決方法を探ることのできる力、メタ認知能力を養う」という「グローバル時代に対応する能力の養成に重点が置かれるようになった[4]」とし、このような変化の潮流は「客観主義から社会構成主義へ」という教育理論のパラダイム・シフトとして捉えられている。「客観主義」にみられる教育理論は、教授内容を分析、そして構造化することで、教師から生徒への知識や技能の伝達を行うことに特化したものである。それに対し「構成主義」の教育理論は、学習者が社会的な状況や日常生活に積極的に携わろうとする意欲、そして他者との相互作用など実践的な交流や体験を通し、学びを得ることを重視している。

0.4　外国語教育におけるグローバルスタンダード

現在、外国語教育における１つのグローバルスタンダードとして機能しているのは、2001 年に欧州評議会（Council of Europe）が策定した CEFR 「ヨーロッパ言語共通参照枠」（Common European Framework of Reference for Languages : Learning, teaching, assessment）である。これは[5]、外国語教育において、従来のように教師を中心としたものから学生を中心にとしたものへと転換し、コミュニケーション能力の育成に重点を置くべきであるという考えを打ち出したものである。具体的には、「ニーズ調査」などにより学習者の関心や必要性のある分野を分析して学習内容を決定したり、教室外

[3]張宏波（2015）「本学の教学改革と中国語教育の方向性 ： 他大学の先行事例に学びつつ」『明治学院大学教養教育センター紀要』9(1)pp. 63-78
[4]植村麻紀子(2013)「21 世紀型のスキル養成と中国語教育を考える-グローバル社会を生きる人材を育てるという視点から」『中国語教育』第 11 号、中国語教育学会 pp. 1-19
[5]寺西光輝（2012)「第二外国語としての中国語の学習者をとりまく言語環境 ： コミュニケーション能力の育成と「複言語主義」の観点から」『教育学部紀要』(5)pp. 47-57

の社会環境や母語話者とのコミュニケーションに関する内容を積極的に教室内活動に取り入れた指導法を行っている。CEFR では、言語の使用や学習をある「課題」（tasks）を遂行するためのものとする「行動中心の考え方」が採用されており、その具体的な熟達度が「～できる」（can-do statement）という形で示される。特に、従来の教育観と異なっている点は、4 技能を均等に伸ばしていくことによる母語話者並みの言語習得に拘るのではなく、むしろ「部分的能力」（partial competence） をも認めていることにある。即ち、ある限られた領域や状況で発揮される部分的なコミュニケーション能力も肯定している立場にある[6]。この CEFR は、国内の中国語教育において何らかの影響を与えていると考えられる。

0.5　研究の動機

以上のような背景をもとに、現在の問題点を改善するためには、自己表現育成を取り入れた中国語教育法の研究が必要であるという考えに至った。開発の第一歩としては、まず第二外中国語の特徴を理解する必要がある。中国語を含む大学の第二外国語科目は、「教養科目」として短期間で学ばれ、週 2 回程度の授業が 1 年ないし 2 年で終わることが多い。またクラス規模も比較的大きい場合が多いことから、高レベルの外国語を習得するための教育環境が十分整っているとは言い難い。中学・高校で 6 年間学んできた英語と違い、第二外中国語の学習者のほとんどは初修者である。入門段階に合わせて編纂されたこれまでの多くの教材では、文法や構造を中心としたシラバスが採用され、その授業内容は文法項目の伝達や発音の訓練、あるいは構文・単語を暗記させることなどが中心となってきた。一方、コミュニケーション能力を育成し、自己学習の動機を高める必要性が認識されるにつれ、文型を重視する従来の教師主導型の教え方に対する反省がみられるようになった。そして、コミュニケーション重視、

[6]寺西（2012）前掲注

学習者中心の新たな教授法に関する研究もなされ、[7]大西のように、初級から中級までの段階を追って学べる中国語の統一教材など、実用的な中国語を教えるための教材も開発されてきた。

しかし、こうした改善の動きも今のところ第二外中国語の現状を改善させているとはいえない状況にある。実用的な中国語を唱える教材の多くは、対話形式の会話文を導入し、コミュニケーション能力の育成を狙っている。確かに、会話練習を繰り返すことは、基礎的なコミュニケーションを身に着ける効果的な方法であると考えられる。しかし、教材に対話形式の会話文を導入しただけでは、これまでのように、学習者は受動的に授業を受講し、中国語による自己表現を実際に行うことがないままであることが多い。理屈の上では、学生にとって中国語母語話者と多くコミュニケーションと取ること、よく話すことで上達していくことは誰でも分かっているが、どのようにして話かけたらいいのか分からない。話しかけるのが恥ずかしい、何を話したら良いか分からないなど、様々な考えが頭の中に浮かび、結局のところ躊躇してしまうということも多い。

このように見ていくと、日本の大学における中国語教育の問題点は、学習時間の問題や、教材内容の問題だけでなく、教材と授業の両方において、学んだことを通して実際に自己表現する場がない点、さらには、そのような現状があまり論じられずにきたという点にある。

人は外国語を学び、その学んだ外国語を通し、まず語りたいのは自分自身のことである。また、自分のことを語り、相手のことも知ることで、多様な交流の輪が広がり、それにより大きな学びを得ることができる。本論文では、これらの要素と、これからますます注目されるようになる情報発信型の学習法、そして知識よりも実用性が重視される時代の潮流に着目したい。そして、それを基盤に、現在の日本の大学における

---

[7]大西博子（2008）「これからの第二外国語教育の方向性--中国語統一テキスト開発の取り組み」『語学教育部ジャーナル』(4)pp. 13-24

第二外中国教育における教材と指導法の問題点に視点を向け、第二外中国語教育のための自己表現育成に特化した教材と指導法を提案し、今後の日本の大学における第二外中国語教育に貢献したいと考える。

0.6　研究方法

本研究では、以下のステップを踏まえながら、第二外中国語の教育現場で実践可能な教育法の提案を行う。

(1)先行研究のレビュー

「自己表現」の定義と意義、自己表現型教育法が注目される背景、および英語教育と日本語教育における自己表現型教育法の応用に関する先行研究の成果を明らかにし、中国語教育への自己表現型教育法の応用における問題点を抽出する。

(2)教授法におけるまとめ

文法訳読法から、コミュニカティブ・アプローチまで、現在世界で使われている教授法をまとめ、第7章の教材案に生かす。

(3)日本における中国語教育の変遷

日本の大学において中国語教育がどのような歴史を経て現在の状況に至っているのか、その変遷をみていきたい。

(4)初級学習者によくみられる文法と発音における主な問題点

日本の大学における初級中国語学習者によくみられる文法と発音における主な問題点に関して考察をおこなう。

(5)教材分析

既存の中国語教材における背景場面、そしてトピックの設定に関する調査分析を行い、自己表現型教育の観点から第二外中国語の効率化と合理化を進めるために、背景地域およびトピック設定の是非、さらに学習目標の明確化、学習・練習方法の単純化の方法を検証する。

(6) 量的アンケートによる調査

第二外中国語の学習者を対象にアンケート調査を行い、学習方法、教材、学習効果などにおける問題点を明らかにする。

(7) 自己表現型中国語教育法のデザイン

上記（1）～（6）を踏まえて、本教育法によるカリキュラム、教材、学習活動、および学習支援のデザインを行う。

第１章
外国語教育における自己表現型教育の概念と重要性

1.1「自己表現」の定義

「自己表現」育成のための中国語研究をするにあたり、「自己表現」の定義について明らかにする必要がある。本論文では、自己表現をまずは「自分の気持ちや考えを伝えたり、自分の意志を示したりするという自己を表現する能力」というように定義したい。

私たちはできるかぎり自分らしい自分を相手に見せたい、伝えたい、と思っています。そして、相手に正確に自分を理解してもらいたい、自分を十分に、できたらよりよくみてほしい、と思っています。自己表現とは、このように、自分を、そして自分の気持ちを相手に伝えること、そして相手の心を引きつける、魅了することなのです[8]。

自己表現に関する研究は数多くあるが、なかでも斉藤(2008)によると、自己表現とは「教えられた文型をただ繰り返すだけでなく、その文型を使って自分なりの考えを述べること」、「疑問に思ったことを質問すること」、そして最終的には、「スピーチ」や「ディベート」ができるようになることである。

つまり、これまで教室において行われてきた言語活動とは違い、自己表現活動とは、学習者が自分自身で考えた情報をやりとりする言語活動をさす。やり取りする情報についてどれだけ自分自身で考え、新しい情報を加えながら相手とやり取りするか、そのようなプロセスこそが自己表現活動である。人は誰でもまず自分自身について知ってもらいたいものである。自分を理解してもらいたい、認めてもらいたい。これはいわば人間の根源的で本能的な欲求ではないだろうか。日常の生活においても、人とほんの些細な会話や雑談をする際においても、この欲求は必ず働いている。言葉を操る第一の楽しみは、この自分自身を表現することにあると考えられる。ただ、それだけでは本当の自己表現活動とはいえ

[8] 斎藤勇（1989）『自己表現上達法』講談社 p. 4

ない。

田中ほか（2003）によると「自己表現とは、自分の知っていることや考えていること、あるいは自分の気持ちを他者に表現することである。相手の考えや思いを聞き取って行動したり表現したりすることも、自己表現に含まれる」とする。すなわち、自己表現とはまずは自分について発信することであるが、重要な点はその発信を通して、自己のみならず対話の相手、他者との関係性が生まれるという点である。自己を表現するには相手が必要であり、ただ一方的に発信するだけでは円滑なコミュニケーションは成り立たない。したがって、自己表現には必然的に相手や他者への配慮や理解が必要になる。人は誰でも自分について語りたいものであるが、そこで終わってしまっては本当の意味での自己表現とはいえない。そこからさらに発展し、相手への思いやりや配慮、相手に対する関心や興味という要素を伴ってこそ、本当の自己表現である。また、このように自分を表現することをきっかけにして、他者との会話のキャッチボールを含んだプロセス全体が自己表現の正確な定義であると考えられる。

1.2 自己表現の必要性と重要性

1999 年代以降、2000 年を境にして、後期近代社会を生きるために必要な能力として、多くの経済先進国において「新しい能力[9]」「21 世紀型スキル「と称されるものが相次いで提唱されるようになった。欧米では OECD による PISA(Programme for International Student Assessment)リテラシー、「DeSeCo キー・コンピテンシー」、そして日本国内においても「ジェネリック・スキル」「生きる力」「社会人基礎力」などが挙げられる。これらの動きの背景には、21 世紀に特徴的な時代の潮流がある。今、世界全体は加速するグローバル化とともに、大きな時代の変革期にある。これまで当たり前であったことがそうでなくなる、そういう時代である。政治や文化、社会のあり方も多様な変動にさらされている。このような激しい変化の時代を生き抜くための力として、「新しい能力」が注目されているのである。すなわち、自らが積極的に働きかける主体性や、相手のことを考える協調性や社会性をも

[9] 松下佳代（2014）「PISA リテラシーを飼いならす―グローバルな機能的リテラシーとナショナルな教育内容―」『教育学研究 81 巻 2 号』pp. 150-164

って生きる力を育成することが重要となってきたのである。

このような時代においては、従来のような「何を知っているか」だけでは立ち向かうことができない。教育においては、一方的に知識を教授される旧来の授業では、主体性が育成されない。そこからさらに一歩進み、「知識を実際に活用できるか」「何が実践できるか」が求められるのである。つまり、「知っている」から「できる」への、「知識」から「能力」への転換が重要なのである。もちろん、この流れは、外国語教育や語学の授業にも影響を与えており、EU による「CEFR ヨーロッパ参照基準枠」や、21 世紀型スキルをもとに新たに作成された中国語・韓国語教育の『めやす 2012』などがある。

特に『めやす 2012』では、英語以外の数ある外国語の中で、隣人・隣国の言語である中国語と韓国語に焦点をあて、これからの時代に適した学びを定めている点が注目される。これは、従来の日本では見られなかった動きである。その教育理念や教育目標には次のようにある。

(1)教育理念：「他者の発見・自己の発見・つながりの実現」[10]

ここでの「他者の発見」とは「他言語」、「他文化」、「生身の他者」を指すが、「生身の他者」は、中国語や朝鮮語の母語話者だけでなく、隣国の言語である中国語や朝鮮語を通してコミュニケーションを図ろうとするすべての他者のことである。また、「自己の発見」の自己とは、自言語、自文化、自己そのものを指している[11]が、上記の「他者」との言語によるコミュニケーションを通して、新たな自己を再確認、そして発見することができるとする。

(2)教育目標：学習者の人間的成長を促し、21 世紀に生きる力を育てる[12]

『めやす 2012』の教育目標は、学習者の人間的成長を促し、21 世紀に生きる力を育てるというものであり、21 世紀になり、社会はますます著しく変化をしてきているが、21 世紀のグローバル社会に生きるひとりとして、言語を学ぶことを通し、人間的な成長や人格の

[10]植村麻紀子(2012)「21 世紀型スキルの養成と中国語教育―「つながる」をキーワードに」『中国語教育学会』第 10 号 pp. 105-112
[11]植村麻紀子(2012) 前掲注
[12]植村麻紀子(2012) 前掲注

形成を図るというものである。

このように見てくると、21 世紀という情報化、グローバル化時代に求まれるニーズのあり方とは、もはや教えられた知識や教養をただ知っているというだけではだめなのである。外国語学習に関していえば、自らが積極的に働きかけ、言語を通して実践的に他者に自己表現を行うことで、他者とつながりが生まれる。そして、そこから相互理解が生まれ、人間としての成長や形成を図ることが重視されるようになっているのである。グローバル化により、これから異なる文化や社会を背景にもつ多様な人々と否応なく関わり、ますます協調することが求められる。その意味では、より積極的で実践的な言語能力が問われることになるのである。

1.3　自己表現活動の利点

上記では、様々な教育概念を通し、変化が激しい現在の社会で求められている 21 世紀型教育のニーズのあり方をみた。ここでは実際に外国語学習を行うにあたり、従来の教育手法と比べ、自己表現活動が具体的にどのような点で優れているか、3 つの視点から考察を行いたい。

(1)学習への動機づけ

自己表現活動は、すでに定義したように「自分の気持ちや考えを伝えたり、自分の意志を示したりするという自己を表現する能力」である。しかし、実際に行われている授業では、本来学習者自身がそれぞれ有している興味や関心、さらには自己表現したいという欲求が顧みられることは少ない。

例えば、外国語の授業において一般的なペア活動を考えてみる。「君は何が好き？」という質問に対し、答える側は「紅茶、コーヒー、オレンジジュース」という選択肢から答えるという練習があるとする。この場合、例えば「コーヒー」と答えたとする。この練習の問題点は、選択肢（＝情報）が既に限定されている点にある。そのため、答える側は自分自身で考えた新しい情報のやりとりを行うことができない。また、本当に好きな飲み物が選択肢になかった場合、相手の表現の形でしか自分の考えを伝えることができなくなる。

しかし、もしこのように選択肢を設けずに練習させた場合、学習者は自分が思った通りに好きな飲み物を、自分の頭で悩みながらもよく考えて、より直接的に「自分の好み＝自分に関する情報」を相手に伝えることができるのである。

また、現在外国語学習の多くの場でロールプレイを用いた表現学習が行われている。しかし、ロールプレイを通して練習すれば、自然と自己表現が身につくわけではない。山本(2005)は、ロールプレイの評価の照準をモデル会話の正確な再生に合わせている場合、学習者は学んだ表現を「実感とともにいかに自分の中に取り組んでいくか」という点より、クラスの披露の場において「いかに間違えないよう発話するか」という点に注意が向いてしまうことが多いと述べている。すなわち、学習者の学習動機に沿っていない機械的な役割を学習者に与えた方法でロールプレイをしていても、自分の意志、自分の気持ち、あるいは考えを、外国語を通して伝えておらず、思ってもないことを機械的にアウトプットさせられているだけであるため、学んでいても授業が楽しくならないのである。

すでに述べた通り、人は誰でも自分のことを伝えたい、自分を知ってもらいたい、理解してもらいたいと思うものである。教科書の中で決められたか選択肢、つまり「どこの誰でもない人の好み」「会ったこともない人同士の借り物の会話」ではなく、本当に自分に関する情報を発信することで、学習に対する関わり方が大きく変化すると思われる。今行っている練習が、他人事ではなく自分を知ってもらうための練習であれば、それだけ興味や関心も高まり、学習に向かう姿勢もよくなるのではないだろうか。つまり、自分のことだからこそ興味・関心が高まる、表現することも容易となり、学習への動機づけが強くなると考えられる。この点において、自己表現を核とした授業運営や練習は大きな意味をもつ。

(2)積極性と主体性、達成感

中国語だけなく、他の多くの外国語教育の現場でよく耳にするのは、学習者として日本人のあり方である。すなわち、日本人は語学学習において非常に消極的であるということである。クラスで発音をさせてみても思うように声が出ない、教科書に目を向けたまま前を向いて元気に発音しない等の問題がある。元来、国民性からいって非常に積極的である

中国語のネイティブ教員にとって、日本の教室において誰もが直面する問題ではないだろうか。

その原因は日本人の国民性にあるとも考えられるが、それでは問題の解決にはならないのではないか。どのようにして、学習者の積極性や主体性を引き出せばよいのだろうか。日本の語学教育、特に英語教育では、これまで文法を中心とした形式面が重視される傾向が非常に強かったと思われる。そのため、規則に沿って正確に発信することばかりに気を取られ、発信することそのものが苦手となっているとも考えられる。

自己表現活動を取り入れた授業では、この点を少しでも解消するができるのではないだろうか。まず、教科書の中の架空の会話ややり取りは横に置いて、自分自身に関する内容で発信をさせる。自分が考えていることや自分の好み、自分の気持ちを率直に、ダイレクトに表現させることで、積極性や主体性が高まるのではないだろうか。その際、文法の間違いや発音の間違いはある程度、許容することが必要である。自分自身に関わらない内容で会話練習をしても、言葉を使って何かを伝える喜びは得られないのではないだろうか。あくまでも自分についての情報を外国語を使って、相手に伝え、相手に伝わったときの喜びは大きいものである。

授業の中で、自分にかかわる情報をより多く扱うことで、学生はより主体的に活動に取り組むことが期待できる。もちろん、自己表現をする過程の中で、どのように自分のことを伝えればいいのか、迷うこともあるかもしれないが、最終的に、自分自身のことを外国語で話せるようになるのは楽しいだけでなく、一度話せるようになれば、もっと話せるようになりたいという気持ちが湧いてくるものである。こうして、自己表現活動に取り組むことで、日本人の学習者であっても徐々に主体的に学習活動へと向かうことが考えられる。

これまでの日本人学習者に足りないのは、まさにこの点である。つまり、伝えることの感動である。従来、日本の語学教育においては、文法や規則を重視するあまり、この素直な感動をおろそかにしてきたようにも感じられる。間違ってもいいから、外国語を用いた自己表現を通し、自分の思いや考えが相手に伝わったとき、相手の伝えたい内容が分かったときの充実感や達成感は非常に大きいものになる。また、徐々に自分のことを表現して

いくということに対して自信がつき、「自己表現」を通して自己の存在を再確認する機会をもつことができる。そして、その体験が学習へと向かうさらに大きな動機づけとなる。

(3)実用性と定着性

これまでの語学学習では、すべてが教室の中だけで終わっていたのではないだろうか。宿題や小テストの準備など、教室外の活動もあるが、授業で学んだ会話や表現について教室を出た後でも繰り返して口にすることがあっただろうか。語学教育の理想は、学んだことをすぐに、教室を出た後でも使える点にある。それができていないのは、学習した内容が自分とは関係のない、架空の場面設定でのやり取りであるからではないか。自分ではない誰かのやり取りであるから、教室の内と外との間で知識が遮断されるのである。

逆に、例えば自己紹介など、自己自身に関する学習をさせた後は、授業の外でも学生がつい口にして練習している姿をよく見かけることがある。「私は日本人で、大阪出身です」といった、こんな簡単で基礎的な表現でも、それを中国語でいえること自体が大きな喜びであり、つい何度も口にしてみたくなるのである。それは、場面の設定が日常ではあり得ない架空のものではなく、まさに自分自身にあるからである。自己自身が表現の軸であれば、どこに行っても、何をしていても、自分がそこにいる限り、常に練習することが可能となるのではないだろうか。

この自己表現をもとにした学習によれば、学習内容、知識の定着度も飛躍的に高まることが期待される。人は自分に関わることであれば、習得するのも早い。それは自分の一部となり、記憶にもより深く残るものと思われる。特に、近年のグローバル化やボーダレス化により、日本にも多くの外国人が訪れるようになった。外国人、特に中国を始めとしたアジアの人々との交流や繋がりはどこに行ったとしても欠かすことのできないものになっている。学生についていえば、授業が終わった後のアルバイト先で、中国語話者との接触の機会が増えており、そのような場面で学習した内容を活用することが普通となっている。そのような場面においても、自己表現をもとにした教育は、授業の内と外とを繋ぐ手段として、重要な役割を果たすものだと捉えることができる。

以上の考察をふまえ、自己表現力を高めるには、学習者にとって必然性のある学習内容や場面を設定することが非常に重要である。自己表現活動に関する教育を行う際、次の点に関連する内容を取り入れることにより効果があがると考えられる。まず第一に、これまで教材に関する学習内容やトピックなどは、学生自身の生活に馴染みのないものや、中国留学など学習者の生活環境と直接縁のない所を設定場面にすると、学習者の自己表現における向上が遅いことが分かっている。学習者にとっての言語活動を学習者の日常生活とリンクさせることにより、そこから学習に向かう態度も高まり、大きな自己表現の教育効果を得ることができると考えられる。

1.4　未来に向けた自己表現の教育効果

これまで見てきたように、自己表現活動を外国語教育に取り入れることによって、(1)動機づけ、(2)積極性と達成感、(3)実用性と定着性の利点を得ることができる。21世紀になるにつれ、学習者自身が自ら自己表現することを通し、これらの利点を得ることで他者との繋がりを強くし、多くの学びを得ることができる。

すでに述べたように、人間は本来、自己表現を通し、自分を伝えたい、分かってもらいたいと思う。そこからさらに、相手のこともっと知りたい、もっと理解したいと考えるようになるのである。自己表現活動を進めることは、本来、自己を一方的に発信するのではなく、自己を表現するやり取りの中で他者に対する思いやりや尊重の心をも育むものであるべきである。自己と他者のスムーズで信頼にもとづいた関係性を育成すること、これこそが自己表現活動を通して、外国語を学ぶ最大の利点である。また、それこそが人間のコミュニケーションという活動の基盤ではないだろうか。

これから、ますます社会のあり方が激動し、多くの異なる文化をもつ人々と協調しなければならない時代がやってくる。そのような環境の中で、自己表現活動は単に会話力やコミュニケーション力を高めるだけのものであってはならないと考える。最も重要なことは、グローバル社会の中で必要となる、他者理解、相互理解、多文化共生の芽となる資質を学習者において育成することである。

1.5　自己表現型指導法の実践事例

日本の外国語教育において最も研究が進んでいるのは日本における外国語教育の中心的な言語である英語教育と様々な研究者による研究の成果を誇る日本語教育であり、中国語教育に関しては、両言語に見られるような研究の隆盛には至っていない状況である。このような状況を踏まえ、中国語教育法を検討するにあたって、英語教育と日本語教育に関する研究成果のレビューは重要となる。近年では、荒木(2008)などにより、日本語母語話者を対象とした、学生参加型、情報発信型、自己発見型の授業が行われている。この授業は口語表現法を中心とした授業で、少人数制の実習形式の形態を取っている。学生は与えられたトピックに沿って、ひとり約 3 分のスピーチをし、他の学生は発表者のスピーチを聞きながら、コメント用紙に評価を書くという形式で進められる。口語表現法の授業の大きな特徴は、学生主体の「学生参加型」の形態ということ、そして、学生自身が積極的な情報の発信者であり、授業の主役ということである。この授業は、学生にとって、従来の知識集積型教育から情報発信型の人間を目指す実践的な方法である。また、長い間、「話す」教育の場がなかった日本で、個人の意見を明確にする訓練や、異なる意見でも堂々と述べ、自分の意見には責任を持つ態度の養成を図ることもできるとしている。

学習者が日常生活において既習事項を活用しながら良好なコミュニケーションを成立させ、友人や知人との肯定的な人間関係を結べるようになることが口頭教育における大きな学習モデルとし、中級から上級レベルの日本語学習者を中心に、ロールプレイを用いた表現学習の意義と役割が日本語教育において多く行われるようになった(山本 2006)。しかし、教室で学んだ表現形式を現実場面で適切に運用することは、上級レベルの学習者にとってもまだそれほど容易でない場合が多い。また教室活動へのロールプレイの安易な導入、特にロールプレイの評価の照準をモデル会話の正確な再生に合わせている場合、学習者は学んだ表現を「実感と共にいかに自分の中に取り組んでいくか」という点よりも、クラスでの披露の場において「いかに間違えないように発話するか」という点に向いてしまうことが多い。すなわち、学習者が実際の場面

において、それらの表現方法を自由に使いこなすことになるとは考えにくいとしている。

しかし、田中ほか（2012）は、第二言語の習得の場においては、異なる文化背景をもった他者とのコミュニケーションが必然的に想定されるが、異文化の摂取だけでなく、自分の文化を他者に理解してもらうための自己表現という動機づけが異文化理解を促進すると分析している。

また、大学 1 年生を対象としたリスニング・スピーキングの授業に、教材から選んだトピックに関して、学生たち自身でリサーチしたことを英語で発表し、ディスカッションを展開してコミュニケーション能力の向上を行う「リサーチに基づいた自己表現アプローチ法」という指導法がある。笠巻（2012）が述べているようにこのような「自己表現法」を導入した結果、アウトプットの増加と同時に、コミュニケーションの阻害因子が減少していると報告がされている。

上記で述べたこれら、3 つの言語活動には共通点がある、すなわち、ロールプレイを用いた表現学習、異なる文化背景を持った他者とのコミュニケーション、そしてリサーチにもとづいた自己表現アプローチ法である。それは、言語活動を学習者の日常生活とリンクさせることにより、言語学習の動機づけを重要視していることである。そこから、学習に向かう態度も高まり、大きな教育効果を得ている。

言語はコミュニケーションのためのツールである。そのため、言語の学習が教科書の中だけにとどまるものであると、学習に向かう動機づけも弱まってしまう。学んだ言語でさっそく何ができるのか、その点を明確にすることこそが、学びの向上には不可欠であると考えられる。

国外における自己表現育成を取り入れた教育はどうであろうか。羽井佐(2008)は、『国際社会で通用する自己表現力の育成に向けて ―英国における自己表現育成を参考に』というタイトルのもと、世界で通用する自己表現力の育成に向け、2005 年～2007 年の 3 年間、英国における初等・中等・高等教育の自己表現力の育成が学校教育においてどのように奨励され、実際の授業の中で実践されてきたのかについて実態調査を

行った。

詳しくは、英国の教育において自己表現力とされている「対話力」、「説明力」、「主張力」、「論証力」、「人間関係維持力」といった点が、学校の教育課程の中で、どのように取り入れられているのか、また、カリキュラム作成者と現場の教員に対するインタビューと実際の授業観察を通し、探求を行った。最終的には、日本における国語、英語教育を中心に応用し、日本の言語教育におけるシステムの開発を目標とした。

この研究の特色と意義については、英国の教育を「自己表現の育成」という観点から捉え、それを日本の言語教育に応用できるかという点に注目したことである。世界のグローバル化が進む中で、国際社会に通用する自己表現力で自分の立場を主張し、相手に考えを理解してもらう能力を養うことは、日本の子どもたちが 21 世紀を生き抜くために非常に重要なことである。そのためには、国語教育と英語教育という 2 つの分野を言語教育という枠組みで包括的に捉え、具体的な施策を考案し、カリキュラムデザインとして構築する必要がある。この研究は、当初は言語教育に焦点を絞っているが、結果として得られた知見は、日本の教育全般に示唆を与えることができるとも考えられる。また、この研究は、英国の初等教育と中等教育における自己表現力育成をテーマとしているが、大学における自己表現力育成にも大きな示唆を与えることができるという点からみても、英国における教育体制や言語技能育成の実態を日本の言語教育へ応用するという考察は大きな意義をもつのである。

表 1

英国のナショナルカリキュラム	日本の教育制度
第 1 ステージ(5-7 歳)	幼稚園～小学校 1 年生
第 2 ステージ(7-11 歳)	小学校 1 年生～小学 5 年生
第 3 ステージ(11-14 歳)	小学校 5 年生～中学校 2 年生
第 4 ステージ(14-15 歳)	中学校 2 年生～高校 1 年生

羽井佐昭彦(2008)

表 2

英国のナショナルカリキュラム 第 1 ステージ（5～7 歳）	日本の学習指導要領（国語） 小学校第 1～2 学年(7～8 歳)
「様々な人に対して明確に、流暢に、自信を持って話す」ための指導項目(6 項目) (1) 明確な発声と適切なイントネーション (2) 適語の使用 (3) 発話の構成 (4) 要点の意識化 (5) 関連事項の記述 (6) 相手の興味に対する配慮	目標と内容（「話すこと」）に関して (1) 相手に応じ（コンテクスト） (2) 経験したことなどについて（内容） (3) 事柄の順序を考えながら（ディスコース） (4) 相手に分かるように、（明確さ） (5) 話し、話し合おうとする態度を育てる

羽井佐昭彦(2008)

英国において、自己表現育成力を育成するための教育は、非常に多くおこなわれており、1988 年に制定されたナショナル・カリキュラムと同じように、英国のナショナル・カリキュラムも「話すこと」、そして「聞くこと」が主要に取り上げられている。英国のナショナル・カリキュラムにおける第 1 ステージ（5～7 歳）は、日本では小学校第１～第 2 学年に相当すると考えられる。英国のナショナル・カリキュラムの第 1 ステージより（表１、表 2 参照)、(1) 発音、(2) 適語の使用、(3) 発話の構成、(4) 要点の意識化、(5) 関連事項の記述、(6) 相手の興味に対する配慮、が提示されている。特に、第 1 ステージの対象年齢が 5 歳～7 歳で、すでに(3)発話の構成、(4) 要点の意識化、(5) 関連事項の記述、(6) 相手の興味に対する配慮が行われているということは、英国では、学習者の年齢が比較的低い頃から、人前で話す教育やスキルの指導が行われているのである。一方で日本の学習指導要領でも小学 1～2 年を対象に、(1)～(5)の項目が挙げられており、コンテクスト、ディスコース、発話やコミュニケーション力に意識した内容になっている。しかし、英国の方が人前で自分の意見や考えを述べることに幼い頃から慣れさせるような専門的な内容となっており、目標がより具

体的に記述されている。

羽井佐(2008)は、以上の研究とは別に、1990 年 9 月から 1996 年 7 月までの 6 年間を英国の小学校で過ごした学習者へインタビューを行い、2006 年 3 月、11 月の 2 回にわたる授業視察から英国の自己表現教育の実態も明らかにしている。実際に英国で教育を受けた人の経験談や英国の授業視察を通し、英国では、個々への対応の比重が高いこと、また、母語としての英語がすべての基本という考えが強く、科目に関わらず、地理や歴史の授業に関しても、言葉を使うタスクや創作を取り入れたものが非常に多くみられることを報告している（例えば、小学 6 年の歴史の授業では、ビクトリア朝時代の煙突掃除の少年について学習した後、自分がその少年だったらという想定で、その子の生活や気持ちを書くという課題など)。また、単にリーディングやライティングを中心としたインプットを行うのではなく、5 歳から 7 歳という極めて早い時期から、スピーチ、ディスカッション、そしてインターラクティブ・ホワイトボードを使ったスペリングの授業[13]、与えられた課題に対しグループで話し合う授業、そして外国語による演劇などの発話活動を通し、伝達のためのコミュニケーション・スキルや情報収集や分析などのスタディースキルを学ぶことができる。

すなわち、英国では学習者の自己表現力が高めることができる機会が多く与えられており、これが生徒の自己表現に対する意識を高くしているといえる。近年、教師の在り方について変化がみられるようになってきたとはいえ、日本では、必然的に授業は教師が中心となって教え、生徒が受動的に授業を受けるという形がまだまだ多いといえる。それに対し英国では、教師は生徒に発話活動ができる環境や機会を与え、自発的な意見や応答を引き出す役割を伴っているため、教員と生徒、そして生徒同士のインタラクションの数が多いといえる。そして、教師からの質問は単に正解を求めて

[13]2 年(6～7 歳)の英語(phonics)の授業。インターラクティブホワイトボードを使ったスペリングの授業。例えば、「au」という発音を含む単語の絵、house ,warehouse, lighthouse , round pond, ground, cow などの絵がインターラクティブホワイトボードに写し出され、生徒が手を上げ、当てられた生徒は自分の選んだ絵の発音をし、スペリングを言うもの。羽井佐昭彦(2008)『国際社会で通用する自己表現の育成に向けて―英国における自己表現育成を参考に―』p. 54 平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費成果報告書

いるのではなく、正解がなくてもそれぞれの生徒が、いかにして自分の考えや意見を発表するかを重視し、そのように生徒や学習者を教育する。また、少人数の授業であるということも関係しており、授業は教員が生徒に対しタスクを与え、作業をさせることが多い。日本には、日本の言語観や文化、また教育事情や教育体制により、英国の自己表現育成の教育を取り入れることが困難であると考えられる部分もあるが、国際社会の中で、これまで日本に不足していたものを補う上で、生徒の自発性・能動性をより重視する方向へシフトすることも今後重要であると考えられる。

第 2 章

外国語教授法の変遷について

2.1 外国語教授法のはじまり

外国語教授法の始まりは、17 世紀から 18 世紀までのヨーロッパにおいて、ラテン語教育やギリシャ教育が中心に行われていた頃まで遡る。当初、まだ学問においてはラテン語が使われており、ラテン語を理解し、読み解くことが、研究において必要不可欠な時代とされていた。16 世紀には、グラマースクールがあり、そこでは、文学作品や、聖書の翻訳、修辞学をベースとした文章作成、朗読、暗記を中心とした研究や、文学作品の一節を適格に織り込んだ説得的な弁護術を身につけるための訓練もおこなわれていた。

2.2 文法訳読法

18 世紀以降、ヨーロッパで使われるようになった言語は、ラテン語からドイツ語、フランス語、そして英語へと変化した。コミュニケーションの手段としてラテン語が使われることが減少するに伴い、ラテン語教育は、文章作成や弁論術としての役割よりも文学作品における理解や鑑賞のための知識、教養としての言語的、教育的な側面が重要視されるようになった。

17 世紀のラテン教育を基盤とした文法翻訳を中心とした学習法は、18 世紀になり共通言語が変化していく中でも、依然として根強く生き残り、外国語教育においては最も古くから伝わる外国語教授法となった。文法翻訳法は、17 世紀からのラテン語教育の型式が最も強く残っている外国語教授法であるため、伝統的教授法ともよばれている。また、言語の様々な形式を学習することによって徐々に言語知識を蓄えていく形式をとった外国語教授法であるため、「形式重視のアプローチ」と呼ばれている（和泉 2009）。

しかし、教師による文法の解説と文章の正確な訳読を中心とする教授法であるため、

多くの場合、文法規則と語彙について学ぶため、外国語の「聞く」「話す」の能力を高めるための直接な指導はほとんど行わないことが多く、そのため外国語によるコミュニケーション能力は育成しにくいといわれている。なお、文法翻訳法では以下のことが学習の前提とされている。(和泉 2009)

(1)文学作品などの文字言語は音声言語よりも優れている。

(2)目標言語のすべての単語には、1 対 1 で対応する母語の翻訳語がある。

(3)翻訳ができるようになることが外国語学習の成功を表す。

(4)外国語学習は知的訓練に役立つ(母語に対する理解を深め、知的成長にも寄与する)。

2.3 文法訳読法に代わる教授法のはじまり

外国語教育は、言葉という性質上、時代背景や通信手段の発達状況、世界の国際化やグローバル化の進展状況に関する認識と大きく関わるといわれている。1760 年代の産業革命により通信手段の発達において発展が生まれた 19 世紀のヨーロッパ諸国では、人々が交流を行うことがより容易となった。そのため、文学作品を読むことや、外国語の構造を学ぶ以外に、実際に会ってコミュニケーションをとるための実用的な外国語教育が求められるようになった。このような時代の変化の中で、はじめて文法翻訳法に代わる教授法として提唱されたのが、ナチュラル・メソッドとフォネティック・メソッドである。

2.3.1 ナチュラル・メソッド

ナチュラル・メソッド（自然主義教授法）とは、外国語の学習や習得における方法を幼児が母語を学ぶ過程に重ねるものである。グアンが提唱したグアン式教授法、ベルリッツが提唱したベルリッツ・メソッドが代表的なナチュラル・メソッドとされる。

2.3.2 直接法

この教授法の先駆者であるグアンは、幼児が母語を習得していく過程からこの教授

法を発見した。翻訳の学習を通じて母語を習得した幼児はいないとし、母語習得の過程に則した言語学習の過程が重要である。直接教授法では、母語の使用を排除する。文法訳読法のように、文法や意味が学習者の母語に訳されるわけではなく、直接目標言語で授業が行われる。「聞く→話す→読む→書く」という母語学習の自然な順序で外国語学習を行う。語彙や表現の意味は、場面の中で関連する実物や絵、写真、動作などを示しながら指導を行う。

2.3.3　グアン式教授法

グアン式教授法は、ナチュラル・メソッドの中でも特に幼児の心理的発達に注目した教授法であり、すべての出来事は小さな出来事の連鎖として記述できるとし、外国語学習の際に動詞に着目し、一連の動作を順に追って言い表すことが最も記憶に残りやすいと考えた。グアンの書いた教材には、例として「ドアを開ける」、「卵と牛乳でケーキを作る」といった、ひとまとまりの行為が記述されている。また、翻訳によって母語を習得した者はいないということを着目し、幼児が母語を覚えることと同様に、聞く、理解する、話す、読む、書くという順番で、できるだけ自然な状況で目標言語に触れるようにした。

2.3.4　ベルリッツ・メソッド

グアンと同様に、ベルリッツも母語習得の過程に注目した。しかし、グアンと違った点は、ベルリッツが母語を教室活動から徹底的に排除したことである。教室の中で、母語による文法説明は行われず、教師は絵や身振りを通し、文や語の意味を理解させようとした。また、発音も教師を真似るだけで、発音の方法や修正などの指導は行われなかった。

2.3.5　オーラル・メソッド

20 世紀に入り、パーマが提唱したのはオーラル・メソッドである。言語のもつ体系

と運用の 2 つの側面のうち、パーマは運用力に注目した。また運用に使われる技能を、第一次技能である（話す、聞く）と第二次技能である（読む、書く）に分類し、第一次技能の習得が必要不可欠とした。

さらに、外国語習得に幼児の母語習得を再現するため、①耳による観察、②（①の模範としての）口まね、③口ならし、④意味づけ、⑤類推による作文という 5 つの習性を見出した。そして、この習性を養成する練習として、①音を聞き分ける練習、②発音練習、③反復練習、④再生練習、⑤置き換え練習、⑥命令練習、⑦定型会話という 7 つの方法を提唱した。

2.4　構造言語学に基づいた教授法

これまでみてきた外国語教授法は、ヨーロッパを中心に開発されてきたものであった。20 世紀半ば、米国で構造言語学に論理的基礎をおく教授法が開発された。すなわち、ASTP(Army Specialized Training Program)、陸軍特別訓練プログラムである。

2.4.1 ASTP(アーミー・メソッド)

第二次世界大戦中の米国では、駐留地での情報収集や通話活動を行う外国語要員を短時間で養成しなければならず、アメリカン・インディアンのフィールド・ワークの調査を行っていた言語学者ブルームフィールドが理論的基盤を提供し、陸軍で実施されたのが ASTP「陸軍特別訓練プログラム」、別名アーミー・メソッドと呼ばれる教授法であった。ASTP は、①90 日間の短期授業、②少人数クラス（10 人程度）、③文学作品の購読ではなく実用的構文の口頭練習、④教師の分業、⑤徹底した口頭練習を特徴としている。

この口頭練習は、模倣(mimicry)をすること、そして記憶(memorization)することを通した練習を主要としているため、ミムメム練習（mime-mem-method）と呼ばれている。この練習法の主眼は自然な音声モデルを提供することにあるため、学習者が間違えても、正しいモデルを繰り返すだけで、学習者に文法的な説明や指導はしない。

アーミーメゾットの効果は絶大であった。ASTP による外国語コースが実施されたのは、1943 年 4 月から 12 月にかけてのわずか 9 ヵ月であったが、日本語以外にも 27 ヵ国語の集中コースが組まれ、学習者の人数は延べ 1 万 5 千人にのぼった。教育効果も顕著で、日本語コースではドナルド・キーン、サイデンステッカーといった著名な日本研究者を輩出した。

2.4.2　オーディオ・リンガルメソッド

第二次世界大戦後、ASTP を受け継いだ形で、ミシガン大学のフリーズによって確立されたのが、オーディオ・リンガルメソッド(audiolingual method、以下 AL 法）と呼ばれる教授法である。この教授法は 1940 年代から 1950 年代において言語構造を重んじる構造主義言語学（structural linguistics）と、言語習得を習慣形成と捉える行動主義心理学(behaviorist psychology）をその理論的背景とした教授法である。指導法の特徴としては、習慣を形成する習慣形成論(Habit Formation Theory)に基づき、教師の指示（＝外界からの刺激）に対して即座に答えられる、自然に反応できるようになるまで、練習を繰り返して行うことを基本としている。AL 法の、最も特徴的な指導方法として、習慣を形成する習慣形成論を特徴としたパターン・プラクティスを中心としたものが挙げられる。教師が出したキュー（刺激、指示）に素早く、即座に反応して答えられるようにする指導法を中心とする。極めて機械的で単調な練習が繰り返されるが、外国語学習における「正確さ」を養うことを目的に、今日においても様々な言語教育でよく用いられている。文法訳読法が書き言葉を重視するのに対し、オーディオ・リンガル法は話し言葉を重視し、口頭での繰り返し練習や文型練習などのドリル練習を主な教授法としている。

2.5　心理学、認知理論に基づいた教授法

AL 法が構造言語学と行動主義心理学を背景とするように、当時の心理学、認知学習理論などに理論的基礎をおく外国語教授法も開発された。

2.5.1　サイレント・ウェイ

サイレント・ウェイ（Silent Way）は、アメリカの数学者であり心理学者であるガテーニョによって考案された教授法である。この教授法の基盤は、ガテーニョの幼児心理学である。幼児が言語習得をする過程で、幼児の話す言語が不完全であっても、周囲の大人はそれを善意と寛大な精神で温かく迎え入れてやる。そうすることで、幼児は何の不安もなく、言語を知り、操り、やがて試行錯誤を経て、徐々に母語を自分のものとしていく。ガテーニョは、言語学習は教師に頼る方法（モデルの模範や暗記、パターン・プラクティスによる習慣形成）ではなく、学習者自らの気づきで学んでいく能力に教師が働きかけることによって行われるべきだと主張した（小林 2010）。したがって、この教授法は他の教授法と違い、教師は道具を使って学習者に指示を与え、学習者はその指示によって発話練習を行う。

サイレント・ウェイの指導法としては、発音の際に用いられるカラーチャート、様々なものを表すのに使われる長さの違うロッド、発音とスペリングの関係を示すフォニック・チャート、単語を示す色分けされたワード・チャートなどがある。発音に関しての指導は、教師が色分けされた綴り字を書いたチャート（同じ音は同じ色で書かれている）を示す。その綴り字のモデルを発音し、学習者たちに復唱させる。教師は必要最小限の発音にとどめ、できるだけ学習者に発話させることを特徴とする。この発音と綴り字を結びつける練習では、教師が数回発音をし、学習者にまねさせることもある。サイレント・ウェイの中心は学習者であり、教師は学習者の自立を助ける観察者、補助者である。

2.5.2　トータル・フィジカル・レスポンス

聴解力を重視し、聞いたことに全身で反応する方法を用いる教授法として、トータル・フィジカル・レスポンス（Total Physical Response 全身反応教授法）がある。心理学者であるアッシャーによって提唱された教授法で、幼児は話し始める前に目標言語による命令に身体で反応しており、それを評価されることによって言語（音声）と動

作（意味）が結びつけられるという考え方は、グアン式教授法にも見出すことができる。ただ、TPR は母語による翻訳を介入させない。また、「話す準備（readiness to talk）」ができるまで、学習者は話すことを強制されない、という点が特徴として挙げられる。

2.5.3　CL/CLL (Counseling Learning Community Language Learning)

カウンセリング・ラーニング（CL）は、シカゴのロヨラ大学の神学者で、心理学者カランによって 1970 年代に開発された教授法であり、心理学のカウンセリングの治療法を応用したことから、それが教授法の名となっている。クラスを一種の共同社会とみなし、教師であるカウンセラーと学習者であるクライアントが協力して問題を解決する。その過程を通して言語を学んでいくところから、コミュニティ・ランゲージ・ラーニング（Community Language Learning)とも呼ばれている。創立者カランの神父としての経験や心理学の理論などから、人間性を尊重する言語教育を作り上げたのであるが、その根底には、次のような考えがある。「学習」とは全人格的なものであって、知性や感情なども含めた人間全体の行動である。学習者、特に成人の学習者は新しいことを学ぶ場合、不安や恐怖に襲われ、自衛本能から防衛的学習に陥りやすいが、それでは効果的な学習は期待できない。したがって、教師はまず学習者の心理を理解し、不安や緊張を取り除く必要があると考えるのである。

2.5.4　サジェスト・ペディア

精神科医であったロザノフが、暗示学（suggestology）の理論を外国語学習に応用させた教授法である。学習者の心理的障壁（anti-suggestive barriers）を取り除き、潜在能力を引き出すことによって、驚くほどの速さで言語習得を進めると主張した。そのためには、学習者が緊張から解放されてリラックスした心理状態になる、潜在能力にはたらきかけて活用する、とういうことを原則とした。

学習への不安やストレスを取り除き、できるだけくつろげる環境をつくるために、教室からはいわゆる「教室的要素」が排除される。例えば、絨毯を敷いて床に自由な

恰好で座れるようにしたり、明るさを落とした照明にしたり、音楽をかけたりする。また、心理的障壁を取り除く手段として、ロールプレイが取り入れられる。

2.6　コミュニカティブ・アプローチ

1970 年代に現れたのがコミュニカティブ・アプローチ（communicative approach）である。コミュニカティブ・アプローチでは、学習過程の内容や指導の原理・原則に研究の目的が置かれ、体系的な教授法としての形があるわけではない。この名称は、コミュニケーション能力の獲得を目的とする教授法の総称で、特定の指導法や教室を指すものではなく、「教授法」というよりむしろ「考え方」である。この教授法の成立の背景には、1960 年代の語学教育者や応用言語学者の言語教育に対する不満がある。

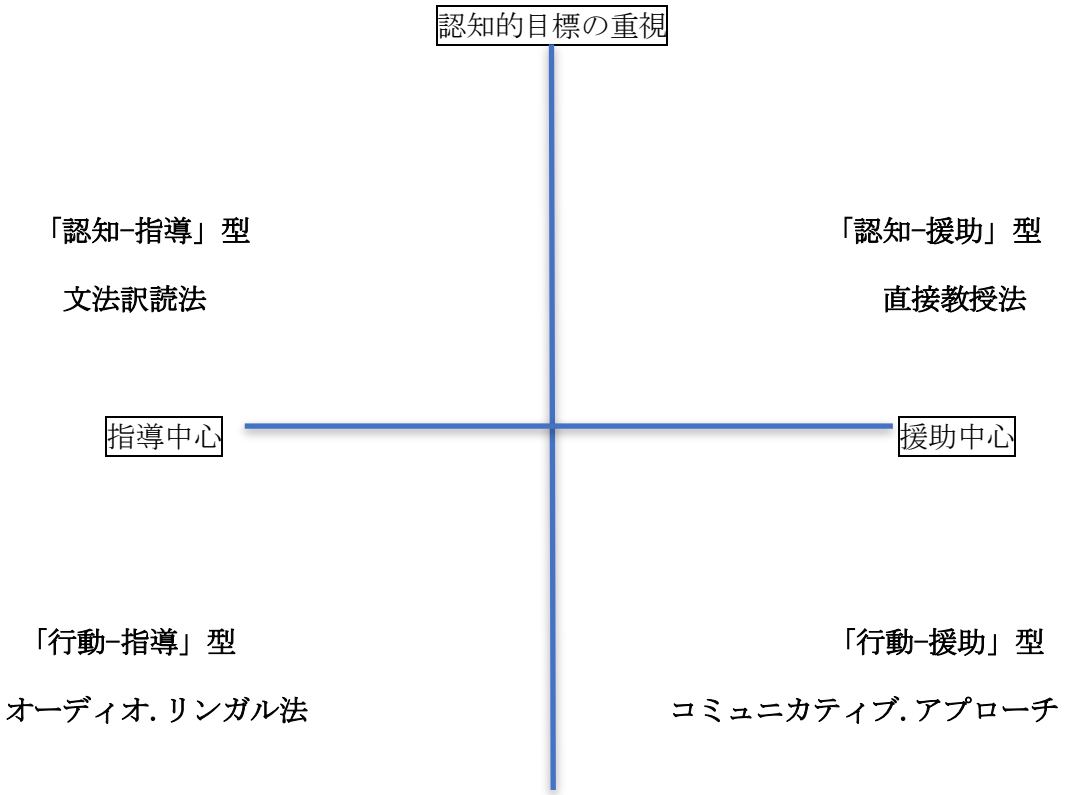
すなわち、外国語の構造を理解し文を構成する能力を持った学習者でも、基礎的で初歩的な意思伝達さえできないことが多く報告されたことにあった。このような学習状況から、文の構成能力、そして言語を構造的に正確に操作する能力は、外国語学習の一部にすぎず、実際にコミュニケーションを通した意思伝達ができるようになるためには、場面に応じた適切な表現が使えるようになる能力も含まれなければならないとした。外国語教育の分野で、形式偏重の伝統的教授法が学習者の外国語運用能力を伸ばすことができなかったことに対する反省から生まれたものである。

和泉（2009）によると、コミュニカティブ・アプローチの教授法には様々なバリエーションが存在するが、次のような言語習得観と教育観に基づいていると考えられる。オーディオ・リンガル法は「メソッド（技法）」であり、決まった技術による指導法があるが、コミュニカティブ・アプローチは「考え方」であり、概念であるため、自分でその概念をもとに、独特の指導法を編み出していく必要がある。また、コミュニカティブ・アプローチは下記の図１にあるように、「行動–援助型」の特徴を持った教授法であり、実際の教室活動でもできるだけ現実の場面に近づけ、どのような場面で、どのような言い方をして、どのようにコミュニケーションの目的を達成するかに重点が置かれる。したがって、コミュニカティブ・アプローチはコミュニケーション能力

育成に適切な教授法であると言える（胡 2009）。

「行動–指導」型であるオーディオ･リンガル法と比較されることが多いが、オーディオ・リンガル法は自然なコミュニケーション能力育成にならず、機械的な反復法練習の繰り返しとされ、60 年代から批判されるようになっていた。ただ、石黒（2013）も述べるように、外国語教育において暗記や反復法はアウトプットを定着させ、コミュニケーション力や伝達能力を定着させる上で重要な役割を果たしているため、外国語教育においては、現在においても様々な練習に使用される教授法のひとつであるとされる。

図 1（胡玉華、2008 による）



第 3 章

中国語教育の変遷と第二外中国語教育が直面する問題

3.1　1940 年代～1950 年代「中国語授業の黎明期」

本章では、日本の大学で中国語が正式に大学の授業として認められ、どのような授業が行われるようになってきたのか、1940 年から現代に至るまでの変遷をみたい。その流れを確認することで、中国語教育の現状と問題点を明らかにし、自己表現型教育法の必要性について考察したい。

戦後、京都大学では 1946 年、東京外国語大学では 1949 年、外国語学部「中国学科」として大学で専科として中国語教育が行われるようになった。1960 年代以前のこの頃の授業形式は、言語構造の研究や文法構造、その言語知識の伝達を中心とした中国語教育であった。日本の中国語教育においてオーラル・メソッドが採用され始めるのは、60 年代頃からとなる。しかし、オーラル・メソッドそのものが日本に伝わったのは 1922 年のことであり、英語教授法の成果を高めるためにイギリスのパーマが、東京帝国大学において 10 回にわたって英語教授法の講演を行った。続いて各地で講演会をも行い、口頭作業を重視するオーラル・アプローチを提唱したことで広まった。

3.2　1960 年代「オーラル・アプローチ」

常々から、文法訳読教授法、直接法教授法に疑問を持っていた長谷川良一（1995）が、言語学者であるパーマや C.C フリーズらの研究から影響を受け、外国語教育には、「何を（教材）」と「いかに（教授技術）」教えるかという 2 つの問題があると考え、1960 年代から中国語教育におけるオーラル・アプローチの研究を始める。

長谷川良一の中国語研究は、日本で初の中国語教育におけるオーラル・アプローチ教育法として注目され、30 年間に渡る中国語教育研究内容をまとめた著書『中国語教授法』が 1995 年に出版されている。

だがその一方で、文型などの口頭練習によって言語能力の育成はできるが、言語の

実際の運用能力、すなわち、伝達能力の育成は無視されるのではないかという批判がなされるようになる。60 年代中頃から、構造言語学や行動主義心理学の影響を強く受け、構文中心の会話の暗記や反復練習による「話す能力」「聞く能力」の育成を中心としたオーラル・アプローチやオーディオ・リンガル教授法に対し批判が投げかけられるようになる。しかし、依然として外国語学習においては有用な教授法のひとつとみる傾向も強く、現在に至るまで言語の種類に関わらず幅広く使われている教授法のひとつとして留まっている。また、1967 年、NHK 京都でラジオ中国語講座が始まる。多くの一般人がラジオで中国語を学ぶようになった時代であった。

3.3　1970 年代「第二外国語科目としての中国語」

1972 年の日中国交正常化後、中国語が外国語教育として、国立だけでなく多くの私立大学でも大学入試の選択入試科目として取りいれられるようになった。また、日本の大学において正式に第二外国語課程として認められるようになり、大学だけでなく、高校においても中国語教育の熱が高まりをみせることとなった。また、同年、明治維新以来、英語に続き、初めて学習者の割合が第二外国語であるドイツ語やフランス語などのヨーロッパ言語と同等に並ぶことになる。

70 年代半ば頃から、学習者のニーズ分析から必要とされる概念、機能を選定し、それを中心にシラバスを構成し、授業で実現するという Notional-function-Approach 型（機能型シラバス）の教材が増え始める。それまで発音や文法の知識伝授を中心としてきた授業のあり方から、文法説明の後、ドリルを行い、コミュニカティブな活動の順で行われる授業の形が注目されるようになる（胡 2009）。

3.4 1980 年代～1990 年代「中国語教育における第二次成長期」

日本における中国語教育は 1980 年代初め頃から大きな成長を迎え、多くの大学で中国語を専攻とする学部が増える。第二外国語として中国語を選択する学生が増えただけでなく、この時期に中国語学習を始めた学生は新入生の総数の 50％近くまで達した。

1994 年から 1997 年は日本の中国語学習者の数がバブル的に増えた時期であるといわれている。1996 年、内山書店の中国語編集部が、無造作に選出した関東地方の 10 箇所の大学を対象にアンケート調査を実施したところ、学習者の数が 1993 年に独、仏、中の順位であったのが、1994 年には中国語がフランス語を抜く。さらに、1995 年、1996 年はドイツ語も抜いて中・独・仏の順となり、中国語が英語に次ぐ位置を占めた（方 2000）。中国語を履修する学生が急増したため、教員配置などの理由でやむを得ず中国語履修者数を制限することになる大学も現れた。

3.5 2000 年以降「第二外中国語教育の新たな発展性」

1990 年代の、爆発的に中国語の学習者数が増加した時期に比べ、2000 年以降は落ち着きを見せるようになる。しかし、郭（2008）、清原(2014)が述べるように、第二中国語の授業は、制度上の問題で授業数が限られているにもかかわらず履修者数が多いという点、また、ニーズの多くが会話を中心とした授業にあるという点、そして、グローバル時代ということから、第二中国語教育の教育目標は 1 年間楽しく勉強ができ、中国語と中国文化に興味を持たせることにあるという考え方が主流となる。

その一方で、日本国内の外国語教育において絶対的な位置づけにある英語教育は、教師が一方的に学習者に知識や技能を注入することを中心とした授業形式から、学習者のニーズ、学習スタイルに合わせた指導法、学習者中心授業法(learner centered instruction)へとシフトし、高校から大学において実践されるようになる。

中国語教育もその影響を受け、文法知識の伝授を重視した学習法からコミュニケーション能力の育成が重要な目標として掲げられ、伝達能力（communicate competence）の育成も大きく注目されるようになってきた。言語知識を理解する力だけでなく、既習の言語知識を実際の場面で応用するためのタスクを用いた中国語授業(胡・馬 2014)、「どんな場面にどう表現するか」というキーワードをもとに考えられた「場面付き学習」(胡 2008)、そして、レアリアを Web やアプリからみることで楽しく中国語を学べる授業（中西 2014)、デジタルのゲームや単語カードを使うことで授業を工夫する試

みも行われている（清原 2014)。だが、実際にこれらの指導法を取り入れている授業はいまだ少数である。その原因としては、①コミュニカティブ・アプローチに関する教師の関心や理解が浅い、②コミュニカティブ・アプローチを行うだけの語彙力や文法力に限りがある、③コミュニカティブ・アプローチに適した教材の不足などの問題が考えられる（郭、2008)。これらの指導法は、日本における英語教育や日本語教育と比べれば、それほど新鮮なものではないにしろ、中国語教育の日本における発達を表すものであるといえる。

3.6 第二外中国語教育が直面する課題

グローバル化や多文化共生社会に適応するためのコミュニケーションツールとして、中国語の教育目標も再考されるべき社会状況になっているにもかかわらず、第二外中国語の現状はそのような時代の潮流とはかけ離れている。大学における中国語履修者が年々増え、第二外国語履修生全体に占める中国語履修者の割合は平均 37%に達している[14]。履修者数としては一定の水準に達する一方、内容的には以下の 5 つの問題を抱えている。

(1)学習目的の不明確性

外国語を学習することの意義には大きく「実用的」な側面と「教養的」な側面の 2 つがあると考えられる。その中でも[15]「英語」は、近年グローバル・ビジネスに最低必要な言語と位置付けられており、「実用的」な目的を意識した教育と学習が行われるようになっている。その一方で、中国語など英語以外の「第二外国語[16]」ついては，その

[14] 町田茂（2004)「中国語教育と教材開発の課題」『教育実践学研究 ： 山梨大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要』p. 9, pp. 47-52

[15] 竹田宗継(2014)「経済のグローバル化と第二外国語習得の意義について」『同志社商学』65(5)、pp. 533-547

[16] 竹田（2014）前掲注によると、昭和 31 年（1956 年）の大学設置基準において、「外国語は科目として独立」、「原則として 2 外国語以上、1 外国語でもよい」、「卒業要件は 1 外国語 8 単位以上」、「2 外国語以上の場合には、専門教育科目の単位に含めることができる」と規定されてきたが、1991 年の大学設置基準大綱化によって、外国語教育における「1 外国語 8 単位以上」という法的枠組みが撤廃された。その結果、第二外国語の授業時間の削減や必修から選択科目への切り替えが増え、第二外国語全体が減少傾向を見せている。大学数を言語別に見ると、中国語が一番多く、次いでフランス語 536 校、ドイツ語、韓国・朝鮮語の順になっている。

大半が一般教養課程で履修される「教養的」な目的で学習される言語として扱われている。履修に関しては、実践的なコミュニケーションができる人材を育成することを目指すのではなく、外国語の学習を通して新たな世界観、価値観、文化に触れるという「教養的」な側面に重点が置かれることが多い[17]。

(2)第二外中国語に適した教授法の不在

確かに、「教養的」という目的設定は、第二外中国語にとってもはや時代遅れであるという認識が次第に広がり、実用的な中国語を目指す動きも現れている。だが、第二外中国語に適用される教授法、あるいは教育法はいまだ開発されたとは言い難い。

今日の中国語教育は構造的、根本的な問題を抱えているとされる。具体的には、学習範囲の不統一性、初級・中級の概念規定もきわめて曖昧であり、初級と中級の差異についても教師個人による理解の差が大きい。さらに、教授法に関しては、規則重視か場面重視かという点をめぐり、統一したスタンスが見られない。実践的会話力を高めることを目的に、初級段階において場面重視へと転換する動きもあるが、導入した生粋の日常表現は、学習者には理解が難しいという問題に直面している[18]。

(3)学習意欲と学習効果の問題

上述の(1)学習目的の不明確性、(2)教授法の不在の問題については、解決に向けての努力がなされているが、第二外中国語における学習者の学習意欲と学習効果については依然として問題点がみられる。例として、第一外国語としての英語学習と第二外国語としての中国語・スペイン語・フランス語の学習状況を比較研究したところ、英語学習に比べ、第二外国語学習では学習方法の認知度が低く、学習の負担感が強いことがわかった。また、学習意欲に関しては、英語の場合、4 分の 3 の学生は社会人になった後も勉強を続けたいと考えているのに対し、第二外国語においてはその割合は

[17] 竹田（2014）前掲注
[18] 町田茂（2004）「中国語教育と教材開発の課題」『教育実践学研究 ： 山梨大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要』p. 9, pp. 47-52

30%程度に留まっている。

(4)大学で使用されている中国語の教材の傾向

年々、世に出る中国語の教材は百花瞭乱の状態であるが、初級向けの会話教材が多数を占め、初級から中級まで段階を追って学べる教材は少ない。結局、「初級」や「会話」という用語が、教材のタイトルに含まれているかどうかが選定の基準となっていることが多い。「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」の 4 技能の訓練を目指す「総合中国語」や「中国語コミュニケーション」という科目名を第二外中国語で使う大学が多いが、その科目名に相応しい教育成果を得ることができていないのが実態である[19]。

(5)多文化共生社会の展開

21 世紀に入って以来、中国の経済発展と日中貿易関係の緊密化に伴い、日本国内において、中国語が使用される場面は、ますます増加の一方である。2017 年 1 月～11 月の訪日外国人数は 2,600 万人を超えたが、そのうち中国語圏（中国大陸、台湾、香港）からは 1300 万人で 50%を占めている。韓国の 646 万人（25%）、英語圏（英国、米国、カナダ、豪州）の 226 万人（9%）を大きく上回っている[20]。また、2017 年 5 月 1 日現在の留学生数は 26.7 万人に達しているが、そのうち、中国(台湾を含む）からの留学生数が、11 万 6 千人で 43.6%を占めている[21]。

訪日外国人と外国人登録者などの急増により、第二外国語として中国語を選択した学生が、学習期間中に日常生活において中国語母語話者と接する機会は、ますます増加してきている。

---

[19] 大西博子 (2008)「これからの第二外国語教育の方向性―中国語統一テキスト開発の取り組み」『語学教育部ジャーナル』(4)pp. 13-24

[20] 日本政府観光局「統計データ（訪日外国人・出国日本人）」
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html

[21] 独立行政法人日本学生支援機構
www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2017/index.html

これに対し総務省は、多文化共生について、国籍や民族などの異なる人々が、お互いにその差異を認め、対等な関係を築きつつ、社会の構成員として共に生きることを重要視している。多文化共生社会に生きる一員として、今後、中国語学習者だけでなく、多くの日本語母語話者が中国語母語話者と交流することができるコミュニケーションの手段として、中国語を学ぶニーズが強まっていくことが予想されている。

第 4 章

初級中国語学習者における文法と発音の誤用に関する考察

4.1　自由な発話を目指して

現在、日本の第二外中国語教育において、学習者を中心としたコミュニケーションや会話能力の育成を目指した授業を行うべきであるという意見を中国語教育に携わる様々な場で耳にするようになった（筆者が 2016 年から 2017 年に関西地区と北陸地域の中国語学習者を対象とした調査でも、学習者の 7 割以上が会話を中心とした中国語を学びたいという結果が出ている）。

しかし、日本の大学における第二外中国語教育は、実質的には週 2 回、1 年間を通してわずか 90 時間しかない（大学や学年によっては週 1 回しかないところもある）。このような限られた授業時間の中で、文法や発音の規則に沿って会話を中心にした授業を行ったとしても、ほとんどの学習者にとって、中国語を通してコミュニケーションをすることなど不可能に近いものがある。その結果、1 年間、中国語を勉強したとしても、規則的な文法や発音どころか、簡単な会話でさえもできない学習者が多く存在することになってしまうというのが現状である。

実際、限られた第二外中国語の授業時間の中で、学習者は情報を詰め込むかのように新しい文法や語彙をインプットし、これまで学んできたことをアウトプットすることを強いられる。その結果、中国語の学習に対し、興味が湧かないまま 1 年～2 年という学習期間が過ぎ去り、挫折することも多くみられた。もちろん、語学を学ぶ過程の中で、規則的な文法の学習や発音を学ぶことを避けて通ることはできない。しかし、現在の第二外中国教育の現状を変えるには、外国語を通して自分のことを伝えることに楽しみを見出すこと、すなわち規則的な文法や発音に捉われるのではなく、「誤用することを恐れず、自分のことを積極的に発信する」という点に、授業の目標をシフトすることが必要ではないだろうか。

これまでも、様々な角度から日本語母語話者が中国語を学ぶ際に苦手としている文法や発音に関する研究がなされ、教師も学習者の誤用に対し多くの注意や指摘を行ってきた。しかし、実際に学習者が苦手としている文法や発音の誤用に対し、中国語母語話者はどのように捉えているのか、これまで調査や研究が行われることはなかった。そこで、本論では大学の中国語 I、中国語 II の授業で得た日本語母語話者の文法および発音における誤用をデータとして収集し、それを中国語母語話者に提示した上でそれらの誤りに対し、コミュニケーションに支障があるか否か、考察を行った。今回の調査の結果を通し、今後の第二外中国語教育に関し、次の 3 点を実現できるきっかけとしたい。

(1) これまでの第二外中国語教育で見られてきたように、限られた授業環境や授業時間のもとで、規則的な文法や発音を第一としてきた教育、あるいは指導の方向性を見直す。

(2) 第二外中国語学習者の文法や発音に関する学習の苦手意識や恐怖心をできるだけなくす、または克服させる。

(3) 規則的な文法や発音規則に縛られず、または必要以上に意識せず、積極的に学習者に自己表現のためのアウトプットをさせていく環境づくりを大事にする。

4.2　文法における誤用

本調査で使用するデータは、実際に初級中国語の授業で得た 72 名の学習者によるもので、それぞれ「了」、「把」、「会」と「能」、そして「个（量詞）」に関する誤用表現である。これらは、筆者が担当する第二外中国語でもよく誤用のみられる文法事項であるため、今回の調査は、この 5 つの文法誤用に特化したものを選んだ。また、今回、調査で使われる日本語母語話者の誤用表現のある文はすべて「文法に誤用があるもの、または、表現的に不自然さが感じられるもの」である。これらの誤用表現を項目ごとに分け、中国に在住している中国語母語話者 180 名にみせた。日本ではなく、

中国に在住している中国語母語話者を対象とした理由は、一般的に彼らは日本語を学んでいない。したがって、文法誤用のある中国語の文が理解できるものであるかを判断する際、日本語の文法構造で認識しないため、意味が通じるかどうかという基準がより明確で正確なものとなるのではないかと考えた。そして、文法上に誤用がみられる「了」、「 把」、「会」、「能」、「个（量詞）」が、次の項目の A～C のどの項目に当てはまるか回答してもらい、初級学習者が書いたこれらの誤用表現を理解できるかどうか、また通じるかどうかを考察した（なお、質問の回答に答えてくれた中国語母語話者には、調査で扱った日本の初級学習者による誤用表現は、文法上の誤用があるものであることは伝えていない）。

A 表現的に理解でき、かつ文法的にも正しい。

B 表現的には不自然ではあるが、文法規則に沿っているか否かに関係なく意味は通じる。

C 表現的にも不自然さがあり、文法的にも誤用がみられ、かつ意味も通じない。

今回の調査の目的は、この 180 名の中国語母語話者の回答により、日本の第二外中国語教育において、文法の規則に則った外国語教育は必須であるという考え方を今一度見直すためである。文法上に誤用があっても、実際には中国語母語話者には意味が通じ、自然にコミュニケーションを行う上で支障はないと考えられる観点を強く位置づける根拠としたい。

4.2.1 「了」における誤用について

まず、初級で習う「了」についての誤用表現である。以下は実際に授業で得られた誤用例であり、72 名の中国語学習者の調査に基づくデータである。

誤用例	A	B	C
(1)*听他的话，母亲感动地流泪了。	40%	73%	10%
(2)*才换衬衣又脏了。	40%	56%	4%
(3)*吃这个汉堡我们再继续讨论吧。	11.90%	80.50%	7.60%
(4)*我听见了有人说了话。	18.60%	75.40%	5.90%
(5)*在车站我看见了有乘客插了队。	32.20%	66.90%	0.80%
(6)*去年冬天为了预防感冒，我每天喝了姜汤。	12.70%	85.60%	1.70%
(7)*小学的时候我天天听了英文广播。	7.60%	90.70%	1.70%
(8)*小时候他的体质不好，所以经常感冒了。	20.30%	77.10%	2.50%
(9)*10 年前这个公园在日本很有名，因为一到春天，常常能看到了樱花。	9.30%	79.70%	11%
(10)*一年前我去北京留学的时候，经常吃了北京烤鸭。	6.80%	87.30%	5.90%

4.2.2 「了」における誤用についての分析

「了」の誤用表現に関して、まず(1)から(3)は、前の動作が完了したのち、後の動作が起こる形である。(1)「*听他的话，母亲感动地流泪了」を例にとると、最初の動詞の動作である、「听他的话」の「听」が実現・完了してから、初めて第二の動詞の動作である「母亲感动地流泪了」の「流泪了」が発生するのである。すなわち、「听他的话」（彼の話を聞いてから）、「母亲感动地流泪了」（母は感動して涙を流した）となるのだ。(3)の場合、「*吃这个汉堡我们再继续讨论吧」（このハンバーグを食べ終えた後、私たちは引き続き討論しましょうという意味になる）だが、最初の動作にあたる「吃」の後に動作完了の「了」が入っていない。

次に、(4)「*我<u>听见了</u>有人说<u>了</u>话」と(5)「*在车站我<u>看见了</u>有乘客插了队」は、「说了话」と「插了队」のような「動詞＋了＋目的語」の並びの形の後には文が、途切れ

ず、引き続き文がつづく形となるのが一般的である。しかし、ここでは(4)は「*我听见了有人说了话」あるいは、(5)「*在车站我看见了有乘客插了队」のように文が途切れているため、誤用となる。

(6)「*去年冬天为了预防感冒，我每天喝了姜汤」から、(10)「*一年前我去北京留学的时候，经常吃了北京烤鸭」については、「了」がいらないという点に関しては、先の(4)(5)と共通している。しかし、特徴としてあげられるのは、「毎天」、「经常」のような、「経常的」、あるいは、「日常的」な行為・動作を表す語がある場合、「了」は用いられないのが一般的とされる。

このように、「了」における誤用表現は調査結果から見ると、(2)の B.56%を除き、すべての誤用例において B「表現的には不自然であるが、文法規則に沿っているか否かに関係なく意味は通じる」と考える中国語母語話者の割合がほぼ 70%以上であることが分かる。さらに(7)「*小学的时候我天天听了英文广播」に関しては 90%以上、すなわち、回答した 180 人中、ほぼすべての中国語母語話者が B「表現的には不自然であるが、文法規則に沿っているか否かに関係なく意味は通じる」と感じている。

4.2.3「把」における誤用について

「把」は、授業の際に多くの誤用がみられる。「把」をつけることによって状況や結果状態を表すため、通常は「好」、「完」、「成」、「到」、「在」などの実質的な結果補語をつけることが一般的である。

誤用例	A	B	C
(1)*我的父亲是大夫。他把我的病治了。	35.60%	57.50%	6.80%
(2)*你离开这儿的时候把门关。	9.60%	82.70%	8.20%
(3)*哥哥把刚买的新衣服穿了。	39.70%	53.40%	6.80%
(4)*来客人了，所以妈妈把茶倒了。	12.30%	56.20%	31.50%

(5)*我把今天刚上映的电影看了。	49.30%	47.90%	2.70%
(6)*老师把大豆做豆腐了。	28.80%	64.40%	6.80%
(7)*我把房间应该收拾收拾。	12.30%	82.20%	5.50%
(8)*你把手套要放在哪儿吗?	15.10%	53.40%	31.50%
(9)*我想把这束玫瑰花送爱人。	23.30%	71.20%	5.50%
(10)*台风把伞没刮坏。	12.30%	76.70%	11%
(11)*今天我把花儿想送我奶奶家。	24.70%	72.60%	2.70%

4.2.4「把」における誤用についての分析

「把」の誤用表現を考察すると、4つの誤用パターンに分けることができる。

(1)から(6)までにみられる誤用パターン①はすべて、本来、結果補語を補わなければいけない表現であるため、(1)「治好了」（治療が完治した、治した）、(2)「关好」（しっかりと閉める）、(3)「穿上了」（着た）などのようになる。

誤用パターン②は(7)から(8)である。通常、助動詞は述語動詞の前ではなく把の前に置かなければならない。したがって(7)と(8)を例に出すと、「*我把房间应该收拾收拾」ではなく、本来は「我应该把房间收拾收拾」、(8)も「*你把手套要放在哪儿吗？」ではなく、「你要把手套放在哪儿吗？」となる。

パターン③の誤用は(9)「*我想把这束玫瑰花送爱人」に見られる形である。動詞の「送」は三項動詞であるため、ここでは、「送给」という複合動詞を使用しなければならない。

パターン④の誤用は(10)の「*台风把伞没刮坏」は、否定形の文に関する誤用であるが、否定を表す副詞「没」も「把」の前に置く必要がある。

以上の４つの誤用パターンは、ひとつの誤用文の中に表れることがある。その例として表れているのが（11）である。「*今天我把花儿想送我奶奶家」は、助動詞の「想」と、（結果）補語の「送到」の両方が抜け落ちているという両方の問題が見られる。

以上のように、文中の「把」における結果補語が抜けていたり「把」に対する助動詞の位置に問題がみられても、(1)から(11)のすべての誤用例を通して、B「表現的には不自然ではあるが、文法規則に沿っているか否かに関係なく意味は通じる」と答えた中国語母語話者の割合が一番高く、実際には、コミュニケーションや意味を伝達する上で、影響が少ないということが分かる。

しかし、(4)「*来客人了，所以妈妈把茶倒了」だけは、本来、「満」という結果補語を入れることで、「お客様が来たので、お母さんはお茶を一杯いれた」という意味となるはずである。しかし「満」という結果補語を入れていないため、「茶倒了」（お茶を捨てた）という意味になってしまった。それによりに、前文の「来客人了」と後文の「所以妈妈把茶倒了」の意味が「お客様が来たため、お母さんはお茶を捨てた」という意味になり、結果的に前文と後文において意味的なつながりが分かりにくいものとなった。その結果、C「表現的にも不自然さがあり、文法的にも誤用がみられ、かつ意味も通じない」とする割合が 31.5%と他の誤用例と比べ高いものとなった。

4.2.5「会」と「能」における誤用について

この 2 つの語彙は、共に初級中国語でよく使われる語彙であり、両方とも可能であることを表す助動詞で日本語に訳した際、どちらも「できる」という意味に訳すため、初級中国語学習者はどちらを使うのか比較的難しいと感じることが多い表現である。通常、「会」の方は、目に見えてできることが表現できるときに使われることが多く、練習や勉強の末に獲得し、できるようになったということを表すのに対し、「能」は身体や環境条件に備わっている能力であることを表すことが多い。

誤用例	A	B	C
(1)*你在大海会游四百米吗？	8.20%	64.40%	27.10%
(2)*他会跑 100 公里。	18.60%	47.50%	33.90%
(3)*我用汉语会聊一个多小时。	18.60%	61%	20.30%

(4)*你酒量大，会喝就多喝一点儿。	55.90%	39%	5.10%
(5)*你好好休息吧我能每天去看你。	27.10%	55.90%	16.90%
(6)*不洗手不**会**吃甜点。	16.90%	52.50%	30.50%

4.2.6「会」と「能」における誤用についての分析

(1)「*你在大海会游四百米吗？」(2)「*他会跑 100 公里」は、練習や訓練を得て、泳げるようになった、あるいは走れるようになったという技術を習得したことを表したいため、ここでは、どちらも会が使われている。しかし、基本的技能を習得したことに対し、習得度をさらに表現したいときは、会ではなく、能を使うことが一般的となる。したがって、(1)は「你在大海能游四百米吗？」、(2)「他能跑 100 公里」ということになる。

(3)「*我用汉语**会**聊一个多小时。」(4)「 *你酒量大，**会**喝就多喝一点儿」（あなたはお酒が飲めるから、飲めるだけもっと飲みなさい）はどちらも、話せる時間が長いこと、飲むことができる量が多いという能力的なことを表しているため、「会」を使う代わりに「能」を使う必要がある。

この中でも特徴的なのは(4)「*你酒量大，**会**喝就多喝一点儿」であり、誤用のある表現にもかかわらず、A55.9% という最も高い割合で、全体の半分以上の中国語母語話者が「表現的に理解でき、文法的にも正しい」と考えている。

本来、「お酒を飲む」という中国語は、「能喝酒」（お酒が飲める）という能力的なことを指す言い方と「会喝酒」（お酒の量にかかわらず、お酒をどれほど飲んでも味わって楽しみながら、飲めること）を指すため、単に「お酒を飲む」という短い文であれば、「能」と「会」どちらとも正解となる。この文では、前文で「*你酒量大」と量のことを述べているため、「会」ではなく、能力そのものを表す「能」が正解となる。

(5)「*你好好休息吧我能每天去看你」の「能」はできるということを表す他に、将来の予測を表すが、第三者から見たような客観的な予測を表すのに使うことが多い。

例えば、「刮这么大的风她能来吗？」（こんなに風が強いのに、彼女は来るのだろうか）のような使い方ができ、それに対し「会」は実現の可能性をより主観的に表し、肯定する場合に使われることが多い。そのため(3)は「你好好休息吧我每天**会**去看你」（ゆっくり休んで下さい。私は毎日あなたを見舞いに行きます）となる。

(6)「*不洗手不会吃甜点」に関して、ここでは「不会」が使われているが、文の内容としては、「手を洗わなければ、デザートを食べてはいけない」という「禁止」や、絶対してはいけないという意味を表すため、「不能」ではなく、「不会」を使う必要がある。

4.2.7　量詞における誤用について

中国語母語話者にとって日常生活の中において、使用する頻度が高いと考えられる品詞のひとつが量詞「个」である。

誤用例	A	B	C
(1) *我有一个眼镜。	57.60%	40.70%	1.70%
(2) *日本有好几个森林。	55.90%	35.50%	13.60%
(3) *我家有一个可爱的猫。	57.20%	37.20%	5.60%
(4) *你有几个汉语字典?	50.40%	39.10%	10.50%
(5) *你有几个笔？	58.10%	34.90%	7%
(6) *我刚才打了一回哈欠。	21.90%	64.40%	13.70%
(7) *我给你打一回电话方便吗?	4.10%	53.40%	42.50%

4.2.8　量詞における誤用分析について

これまでの誤用表現と比べ、明らかに異なる点がみられる。(1)から(5)までのすべての量詞の誤用表現に対し、半数以上の中国語母語話者が A「表現的に理解でき、文法的にも正しい」と捉えている。日常生活の中において、使用する頻度が高いと考え

られる量詞は「个」である。例として、一人、二人と人を数える時も（一个人,两个人）、ひとつのコップ、二つのコップなどの物に対する量詞も（一个杯子，两个杯子）「个」である。

特徴的な例は(6)「*我给你打一回电话方便吗? 」である。これは、中国語母語話者が B「表現的には不自然ではあるが、文法規則に沿っているか否かに関係なく意味は通じる」が 53.4% と比較的高い割合で選択している。

日本語では「一度お電話をさしあげてもよろしいでしょうか」という電話を掛け直す際の決まり文句がある。中国語で「一度お電話してよろしいでしょうか」という文をみると、直感的に「一度」の量詞が日本語では「一回」という中国語に訳せると認識してしまうため、(6)の誤用が生じると考えられる。「回」は動量詞である。動量詞とは、動作や変化の回数を表す量詞であるため、電話をかける時、動量詞の「回」より、名量詞の「个」を使うのが一般的である。例として、「打一个电话」ということができる。動作の回数を強調したい場合は、動量詞を使用することが多い。例として、「他给我打了好几回电话了」ということができる。

また、中国語では一般的に文中の数詞「一」は省略することが多い。そのため、「*我给你打一回电话方便吗?」という文は、数詞の「一」が省略された後、量詞が「个」に変わるため、「我给你打个电话方便吗」という文になる。しかし、誤用のままの「*我给你打一回电话方便吗?」という文でも、量詞に違和感はあるが、意味は通じるため、B「表現的には不自然ではあるが、文法規則に沿っているか否かに関係なく意味は通じる」の比率が高かったといえる。

4.2.9 文法誤用に関するまとめ

本章の文法編では、「文法的に正しいか」ということではなく、文法に関わらず「相手に伝わるのか、通じるのか」ということに焦点をあて、その結果を考察したことにより、いくつか新しい発見を得ることができた。

まず、「了」、「把」、「会」、「能」、「个（量詞）」、そして、様々な数量を表す語句の誤用表現のすべてに関して、文法的な間違いがあったとしても、中国語母語話者は全体的に、B「表現的に不自然であるが、文法規則に沿っているか否かに関係なく意味は通じる」を選択する傾向が強くみられた。これは、第二外中国語学習者がコミュニケーションの際、規則的な文法に沿っていない中国語であったとしてもコミュニケーションを行う上で支障はなく、意思伝達ができており、意味が通じているということを示しているということである。

次に、誤用がある表現でも意味的に通じるものであれば、中国語母語話者は、C「表現的にも不自然さがあり、文法的にも誤用がみられ、かつ意味も通じない」より、むしろ A「表現的に理解でき、かつ文法的にも正しい」を選択していることが多い。また、誤用表現によっては、中国語母話者であっても文法的にも間違いではないと考える例もあった。多くの中国語学習者が、日本語母語話者の誤用をみても表現的には理解でき、コミュニケーションを行う上では問題がないと感じていることが読み取れる。本章の文法編の調査により、文法上の規則に誤用があっても、実際には中国語でアウトプットをすること、中国語母語話者とコミュニケーションする際でも、大きな支障となることはないという筆者の観点を裏付けるものではないだろうか。

実際、わたしたちが第二言語教育の指導や習得に携わっていく過程の中で、目標言語に対し不足感を抱く学習者を多くみる。陸(2006）は、日本語教育の授業の際、学習者は文法や発音に関する規則、あるいは「形式のこだわり」意識を強く持っており、話すとき、書くときに常に自分の話している日本語が文法に合っているかどうかに捉われて、自由に言いたいことをいえない状態になってしまうことがあると指摘している。ここでいう「形式のこだわり」意識とは、ある言語を第二言語として学習する際、文法的に正しいかどうかに、または発音の規則に拘泥する意識を指すものである。

自己表現や意思伝達を行う際の文法構造の正確性については、筆者は「形式のこだわり」に意識を向けさせるがあまり、それが原因となり自己表現のためのアウトプットに影響を与えることはよくないと考えている。歴史的な教授法変遷の中で、文法翻

訳法やオーディオ・リンガル法から、コミュニカティブ・アプローチが開発されたように、どれほど文法や文型など知識の量をストックしても自己表現の向上には簡単には結びつかないのである。

わたしたちは、言語構造や発音の規則だけを通して意思伝達をしているわけではなく、言葉の前後の文脈や表情、雰囲気や環境など様々な要素の中で、コミュニケーションを行っている。したがって形式の多少の間違いは、自己表現を行う上で大きな問題にはならない。これからの第二中国語教育においては、「形式へのこだわり」の意識から学習者を解放させ、自己表現させる指導や環境づくりがますます重要となる。だが、これは、学習者に文法上の誤用を起こしても、指導をしてはいけないという観点を支持するものではない。週 2 回、1 年を通し 90 時間しか授業時間のない学習者に対し、行き過ぎた文法指導はアウトプットさせる上でメリットがない。何よりも、学習者のアウトプットを積極的に進めることに重点を置くことこそが重要ではないだろうか。

4.3 発音における誤用

前節により、文法上の誤用があっても実際に中国語でアウトプットしたり、コミュニケーションを行う上で、大きな弊害はみられないという点を確認できた。それでは、発音に関してはどうであろうか。朱川(1997)の日本人留学生を対象とした研究では、日本人留学生の静態的な声調には、例として次のような特徴がみられるという。

(1) 第一声に関する誤用数は非常に少ない。先行研究では、第一単音節による第一声の誤用は少ないが、多音節になると、初級者に関しては誤用も増えてくる傾向が見られる。

(2)誤用数がいちばん多いのは二声と三声であり、第二声を平らな声調や上がりがあまりない声調に発音してしまう傾向が強い。また第二声を第三声に近い声調に発音してしまう傾向がみられる。

(3)第四声の誤用は二声や三声より少ないが、第四声を平らな声調に発音してしまう傾向がある。

(4)双音節における単字音と単字音の間に一定のポーズをいれる傾向がある。

このように、日本語母語話者がどの声調を苦手としているのかという現状を知ることは非常に重要である。しかし、前述の通り、日本の第二外中国語学習者は、共通科目であるために授業時間が少なく、声調の誤用を修正するための時間が多くなると学習者の中国語に対するモチベーションを下げる原因となる。

そこで、筆者は、発音に誤用のある単語を例文に入れ、第二外中国語学習者が読んだものを中国語母語話者に聴かせた。どこまで聞き取れるか、会話によるアウトプットをする際、コミュニケーション上、支障があるかどうか調査を行った。この調査の結果により、発音に多少誤用があったとしても、意味が理解でき、意思伝達をすることができるという、筆者の観点を支持することができるのではないかと考える。また、調査の結果により、第二外中国語学習者の発音に関する指導法にも改善が期待できるのではないだろうか。

4.3.1　発音の誤用における調査

筆者が現在担当している、第二外中国語の授業の中でランダムに、中国語の発音に関する調査を行った。

まず、学習者の誤用が多く見られる単語を選び、それを誤用のある声調のままで、例文にあてはめたものを日本語母語話者に読ませた。それを録音して中国語母語話者58 名に聴かせた。回答の選択肢は、A「意味が通じる」、B「意味が通じない」の 2 種類とした。

使用した単語は、現在筆者が授業で使用している教材『STAND COURSE―中国語の世界標準テキスト―入門レベル』、『STAND COURSE―中国語の世界標準テキスト初級レベル』（北京語言大学出版社）から抜粋した。

また、誤用のあった単語をそのままではなく、例文の中に組み込み、中国語母語話者に聴かせた理由は、1 つの文章として伝えた方が、コミュニケーションの際、会話文として成り立つのではないかと考えたためである。学習者による誤用のある発音の声調とピンインは、下記の表１の通りである。

表１：学習者による誤用のある発音（ピンインと声調を含む）

本来の発音	学習者による誤用のある発音	例文
旅游 lǚ yóu	① liǔ yǒu ② lǘ yóu ③ yǚ yóu	我明天去北海道旅游。
房间 fáng jiān	① fán chiān ② fán qiān ③ fǎn jiān	我的房间号是 301。
非常 fēi cháng	① fēi chǎng ② fěi cháng ③ fèi chǎng	我非常喜欢日本。
经常 jīng cháng	① jìn chán ② jīn chán ③ jīn chǎn	他经常去美国。

红色 hóng sè	① hǒng sè ② hóng sù ③ hóng sì	我最喜欢的颜色是红色。
中国 zhōng guó	① zhōng guǒ ② chóng guō ③ zhōng guō	我在中国生活已经 10 年了。
医院 yī yuàn	① yǐ yuàn ② yī yuèn ③ yī yuan	我昨天感冒了，所以今天去医院了。
这些 zhè xiē	① zhě xiē ② zhēi xiē ③ zhè xiè	这些都是我爸爸给我买的东西。
跑步 pǎo bù	① páo bù ② pāo bù ③ pǎo bū	每个星期天早上我喜欢去跑步。
明天 míng tiān	① míng tián ② mín tién ③ mǐng tiān	我明天去学校考试。

同学 tóng xué	① tóng xuè ② tōng xué ③ tōng xué	我同学的妈妈很漂亮。
没有 méi yǒu	① měi yǒu ② měi yōu ③ méi yóu	我没有她好看。
不好 bù hǎo	① pù hǎo ② bù háo ③ bú hǎo	今天的天气不好。
飞机 fēi jī	① fēi zi ② bēi jī ③ fé ijī	飞机 8 点四十分才起飞。
再见 zài jiàn	① zài qiàn ② zhài zèn ③ zai jian	再见我的朋友。

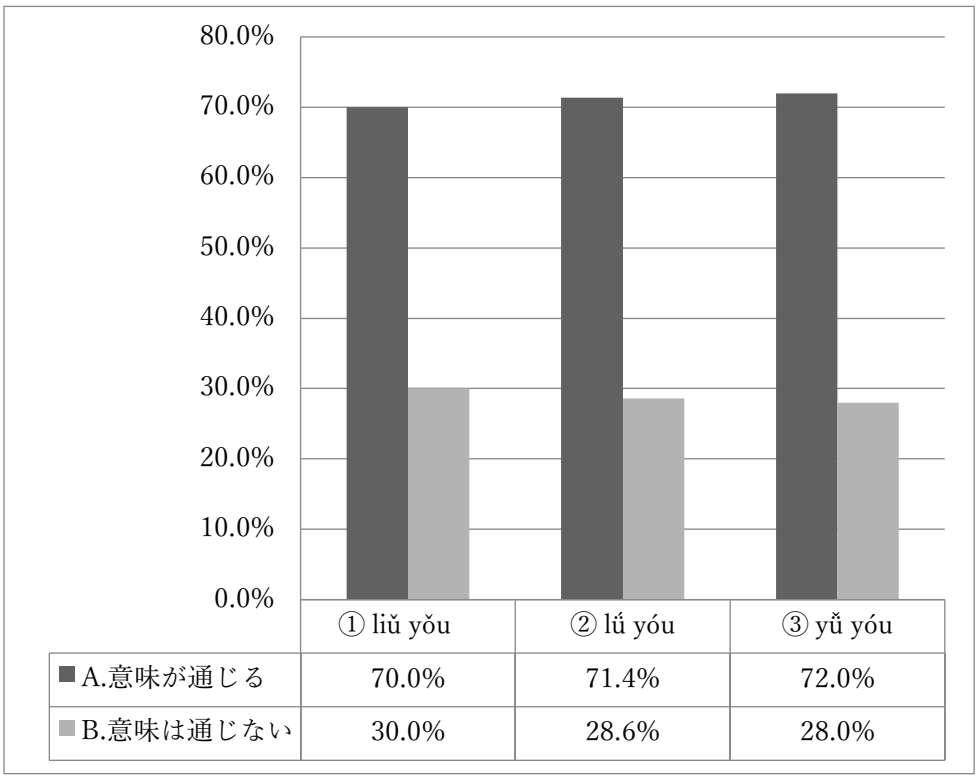
まず、筆者が調査した結果、初級中国語学習者が苦手な一音節は次の声母が最も多いことが分かった。それを二音節でテストを行った結果、次の(1)～(15)の項目の中で、学習者が誤用しがちな発音をデータとして採取したのが表 1 である。また、その声調を中国語母語話者に実際に聞かせ、誤用のある発音が通じるのか調査を行った。

4.3.2　発音において誤用のある表現の分析結果

以下は中国語母語話者に直接誤用を聴かせた調査の結果となる。

(1) **旅游 lǚ yóu**　我明天去北海道旅游。

私は明日、北海道へ旅行に行く。



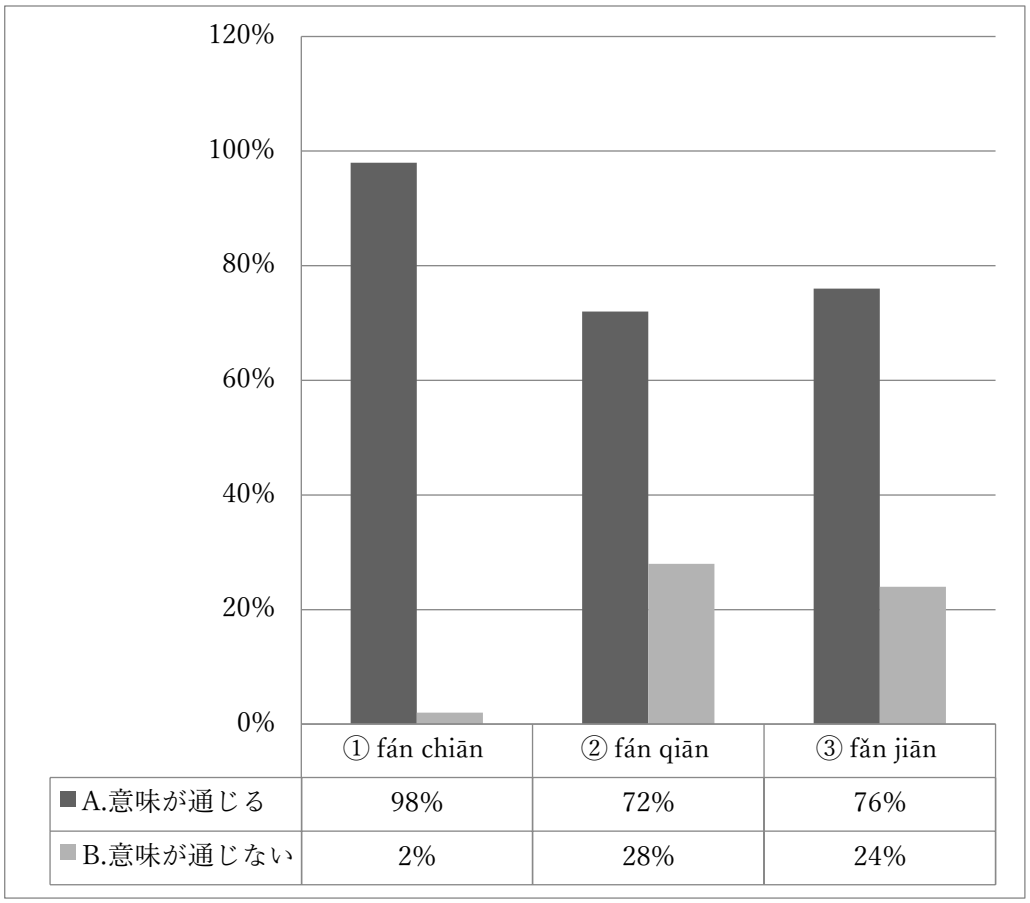
	① liǔ yǒu	② lǘ yóu	③ yǚ yóu
■A.意味が通じる	70.0%	71.4%	72.0%
■B.意味は通じない	30.0%	28.6%	28.0%

旅游 lǚ yóu でみられる誤用の発音は、次の①liǔ yǒu②lǘ yóu③yǚ yóu となるが、すべての発音の誤用に関して、70%以上の中国語母語話者がこれに対し、理解できると答えている。①の liǔ yǒu と③yǚ yóu に関しては、声調は三声であっているがピンインに誤用がみられる。しかし、それでも文章として読んだとき、70%と 72%と高い割合で意味を理解し、通じている学習者が占めているといえる。誤用している音でも、全文を読んでいるため、それを聞いた中国語母語話者が意味は通じると答えている。また、1つの語彙としてピンインを誤用しても書けるが、それぞれの単語を別々にすると、声母を書くことができない学習者が多くみられる。すなわち第二外中国語学習者は、声母や韻母を覚えていない。授業時間数が少ないため、発音、語彙、文法も会話もバラ

ンスよく学ぶことが難しいと考える学習者もいるため、やはり何らかの形で授業の現状を考える必要がある。

(2) **房间 fáng jiān**　　我的房间号是 301。

私の部屋の番号は 301 です。

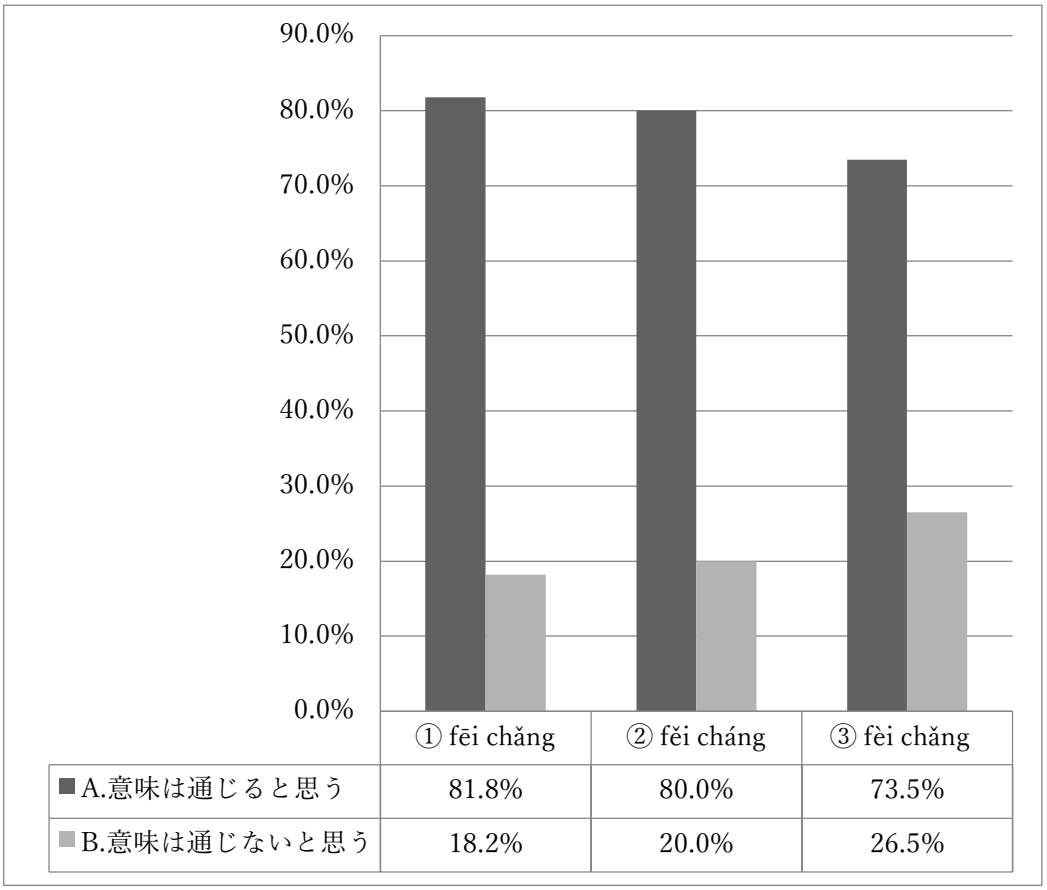


	① fán chiān	② fán qiān	③ fǎn jiān
■A.意味が通じる	98%	72%	76%
■B.意味が通じない	2%	28%	24%

①に関しては、98%とほぼ 100%で、第一音節の声母とその声調が正解である場合、第二音節のピンインに(この場合は chiān）に誤用があっても高い確率で意味が通じるとみられる。③も①と同様に、第一音声のピンインが正解であるため、第二音節の声調（qiān）や（jiān）に誤用があっても高い割合で中国語母語話者が意味を理解できると答えている。

(3) **非常 fēi cháng**　我非常喜欢日本。

私は非常に日本の生活が好きだ。



	① fēi chǎng	② fěi cháng	③ fèi chǎng
■A.意味は通じると思う	81.8%	80.0%	73.5%
■B.意味は通じないと思う	18.2%	20.0%	26.5%

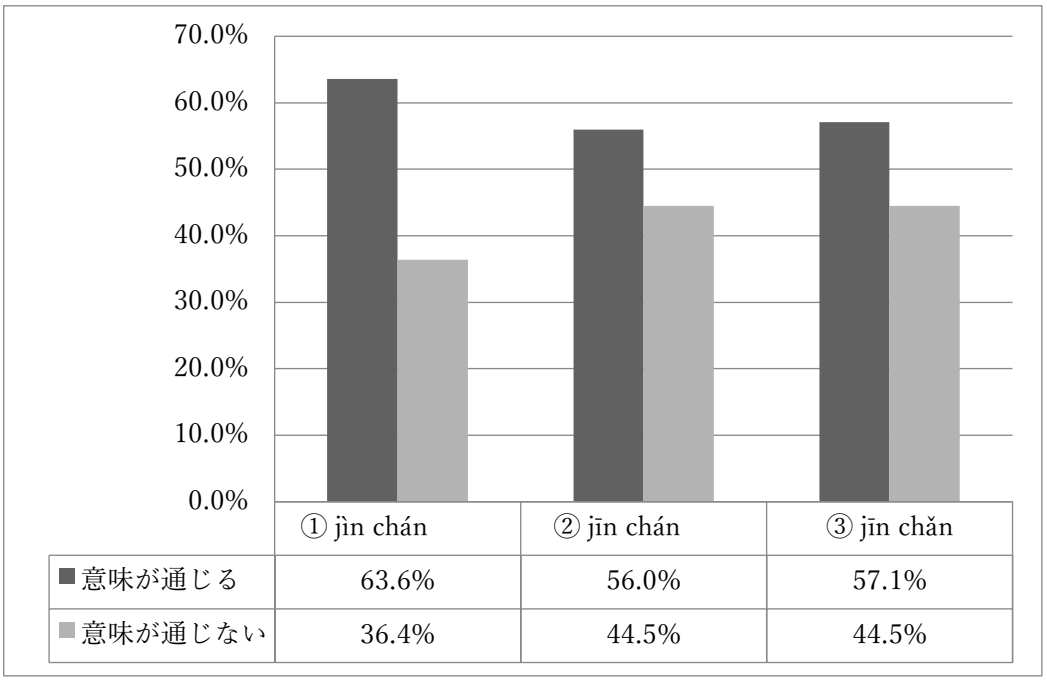
これまでの先行研究によると、中国語母語話者は、第二声と第三声を誤用してしまう傾向がよくあることがみられる。筆者の今回の調査でもその点に関しては共通してみられ、①「非常」でも同じようなことがいえる。すなわち、第二音節の漢字が、本来は二声（cháng）であるが、ここでは三声(chǎng)の誤用になっているといえる。しかし、それでも 82%という高い割合で、中国語母語話者が意味を理解している。

②「非常」の声調誤用に関しても、興味深い特徴をいくつか発見することができる。これまでの先行研究では、日本語母語話者は第一声の声調に関する誤用は、非常に少ない声調であるといわれている。しかし、ここでは、第一音節の声母の声調（fěi）を第一声から第三声に誤用していることが分かる。しかし、意味が通じる割合が 80%以上と非常に高い。③「非常」の声調誤用に関しても、日本語母語話者が、本来、第一

音節の声母を第四声に、また、本来第二声の第二音節を三声に誤用している。しかし、この誤用に関しても、中国語母語話者は 74%が意味を理解している。また、「非常」の誤用においても①～③の声調誤用を通して言えることは、第一音節と第二音節において、それぞれ誤用はみられるが、それでも、第一音節の声母において、誤用がみられないこと、そして声調に誤用があっても①から③にかけてピンインはすべて正解であるため、意味が伝わる確率が高いといえる。

(4) **经常 jīng cháng**　他<u>经常</u>去美国。

彼はよくアメリカに行く。



	① jìn chán	② jīn chán	③ jīn chǎn
■意味が通じる	63.6%	56.0%	57.1%
■意味が通じない	36.4%	44.5%	44.5%

经常 jīng chǎng に関する学習者の誤用の結果をみていきたい。まず、声調に関してである。第二音節が本来であれば、chǎng と第三声であるはずが、①と②で同様に、chán と第二声となっている。この傾向から、学習者は第三声を第二声に誤用してしまうことがみられる。

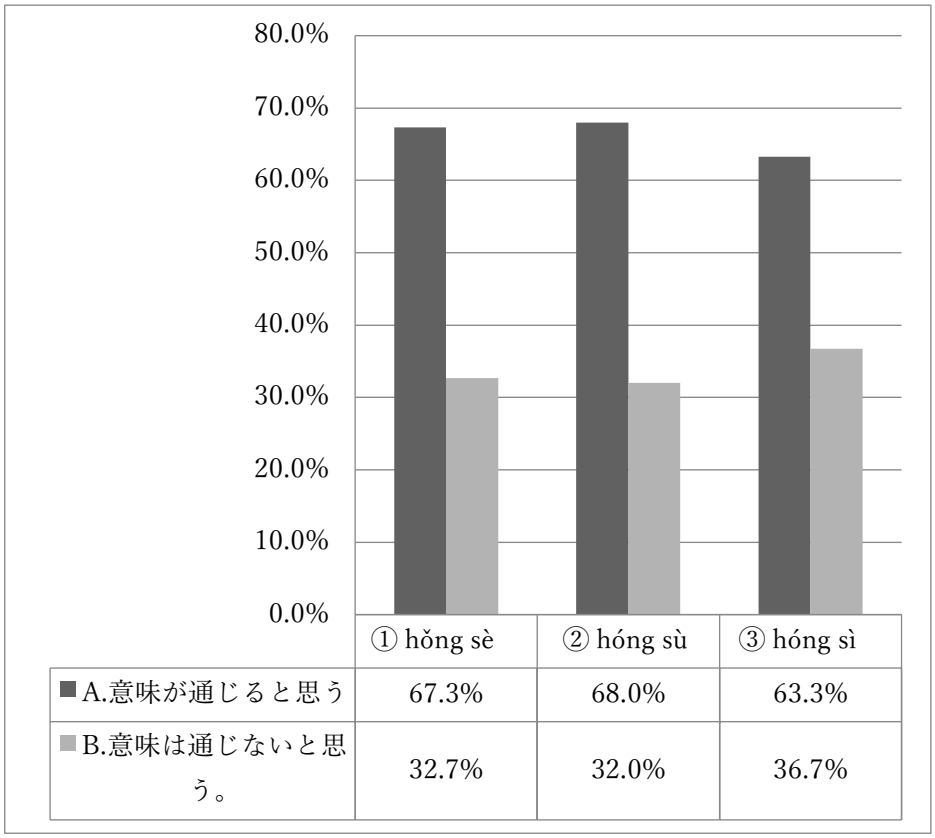
ピンインに関しては、本来であれば、回答としては、第一音節の後の jīng 、そして、第二音節の chǎng のどちらにおいても鼻音の g が必要となる。学習者は、①～③まで

の全てが第一音節と第二音節の両方に関して鼻音の g を書き取れず、①jìn chán ②jīn chán③jīn chǎn と誤った形になっている。

しかし、これらの声調とピンインの間違いに関しも、①では、全体の半分以上の割合、すなわち、63.60%と高い割合で意味が通じると中国語母語話者が答えている。

(5) **红色 hóng sè**　　我最喜欢的颜色是红色。

私が好きな色は赤です。



红色 hóng sè の学習者の声調とピンインの間違いに関し、次のような特徴が見られる。声調に関して、本来、红色 hóng sè は、第一音節が二声、第二音節が四声にも関わらず、①の場合、第一音節が、三声 hǒng となっている。

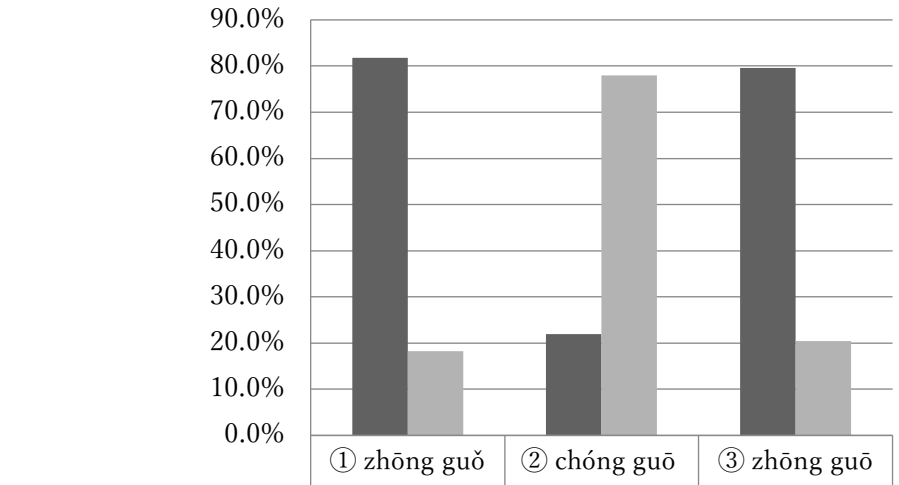
また、ピンインに関しては、本来、第二音節のピンインは sè となるが、②の第二音節では sù と間違いが見られた。同様に、③の第二音節のピンインにも sì と書きとりの誤用が見られた。しかし、全体的な割合を見ていくと、これらのピンインの間違い

に対しても、全体的に 67.3%以上、②に関しては、70%近くの中国語母語話者が意味を理解していることが分かる。

ここで興味深い特徴が見られる。前頁の(4)经常 jīng chǎng のデータでは、学習者は、①から③の全ての第一音節、第二音節共に、鼻音の g を書き取れずにいたが、(5) 红色 hóng sè に関しては、第一音節で①から③まで、鼻音の g をすべて書き取っていることが分かる。このように学習者は、すべての単語における鼻音が分からないのではなく、単語によって、分かるものと分からないものがあることが分かる。

(6) **中国 zhōng guó**　我在中国生活已经 10 年了。

私の中国での生活は全部で 10 年になる。



	① zhōng guǒ	② chóng guō	③ zhōng guō
■意味が通じると思う	81.8%	22.0%	79.6%
■意味が通じないと思う	18.2%	78.0%	20.4%

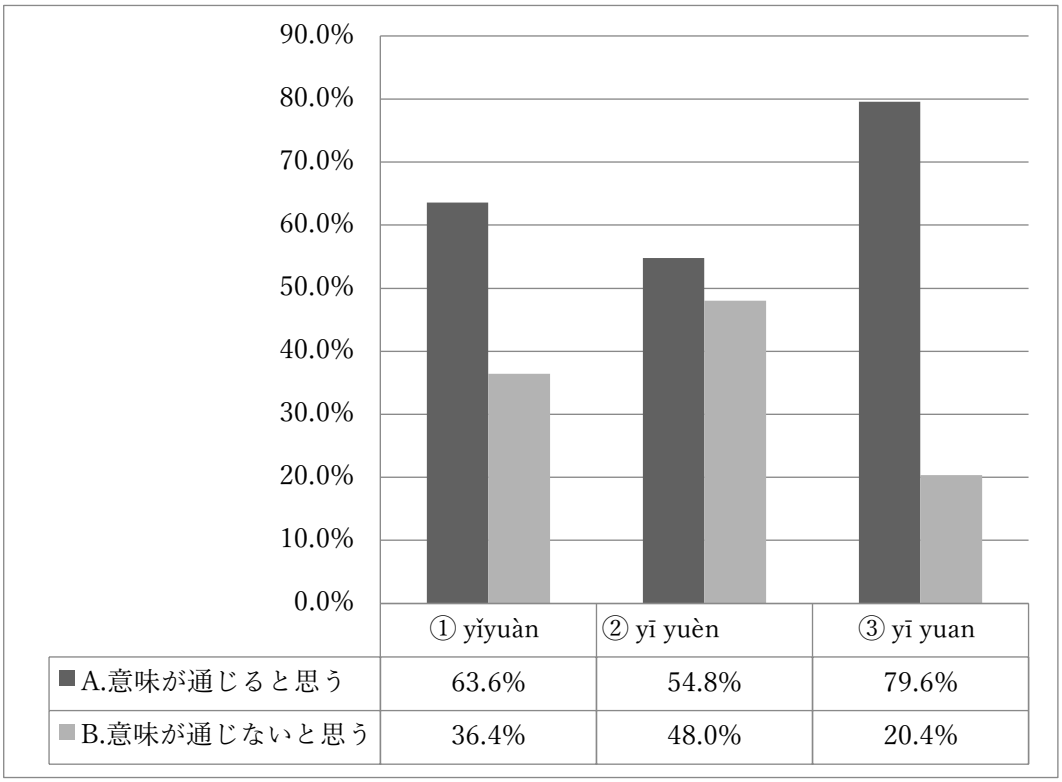
中国 zhōng guó の声調やピンインに関し、次のような誤用が見られる。

まず、中国語母語話者の全体的な割合の中で、78.0%の学習者が意味が通じないと思うと答えた②である。これは、第一音節のピンインが zhōng が chóng と大きなずれがあるからだけでなく、声調も第一音節、第二音節ともに、誤用がみられるためである。

また、①と③は第一音節、第二音節ともにピンインに間違いは見られないが、第二音節の声調に関して、本来は第二声の声調が、①では第三声、そして、③では第１声となっている。しかし、この誤用が意味を伝達する上で、妨げにはなっておらず、80%近くの中国語母語話者が、意味が通じると考えている。総合的な割合を見ていくと、双方とも、第一音節においてピンインと声調の両方が合っているため、第二音節の声調とピンインに誤用が見られても、非常に高い割合で意味が通じていると考えられる。

(7) **医院 yī yuàn**　　我昨天感冒了，所以今天去医院了。

私は昨日風邪をひいたので、今日病院に行きました。



	① yǐyuàn	② yī yuèn	③ yī yuan
A.意味が通じると思う	63.6%	54.8%	79.6%
B.意味が通じないと思う	36.4%	48.0%	20.4%

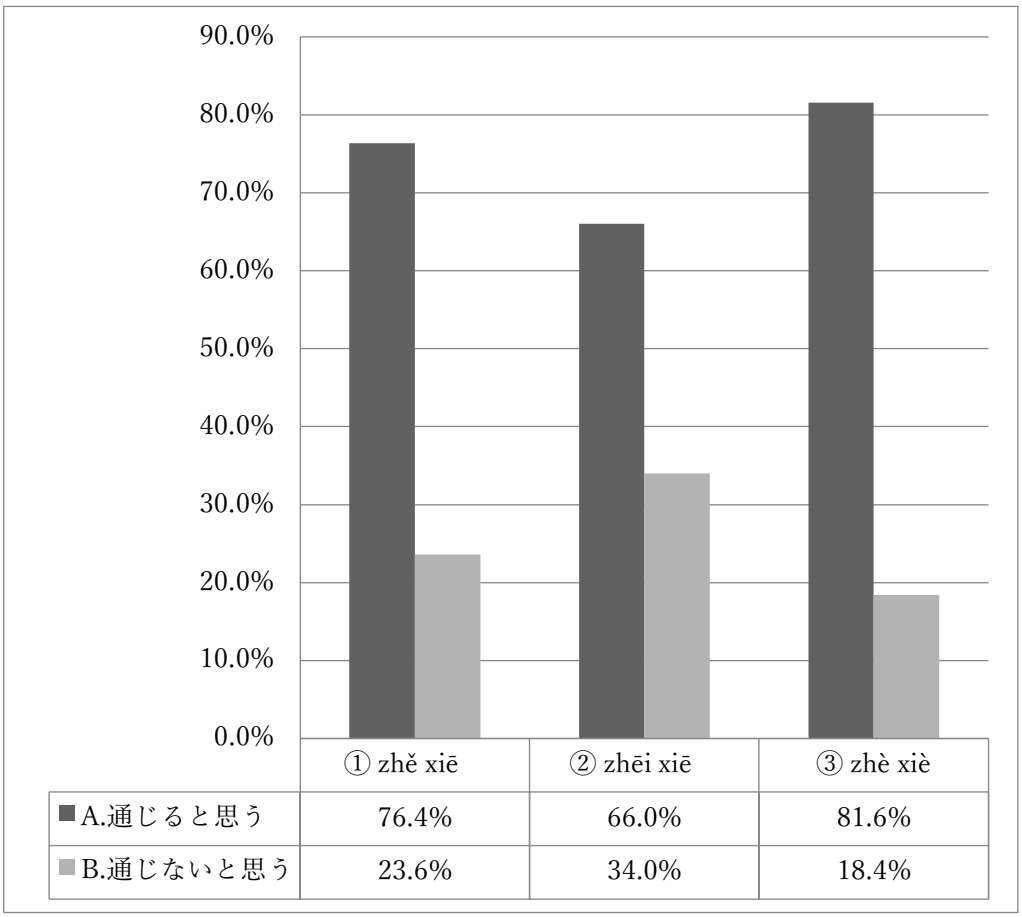
医院“yī yuàn”に関して、①の第一音節と第二音節のピンイン“yi yuan”が正解であり、且つ①の第二音節が第四声で正解であるため、半分以上、63.6%以上の中国語母語話者は、意味が通じると考えている。

また③では、ピンインが正確に書かれている他に、第一音節の最初の声調が正解であるため、第二音節が軽声であっても、79.6%という高い割合で意味が通じている。

②に関しては、第二音節のピンインが全く違うため、意味を伝達する際、わかり難いものがみられ、①、②と比べ、A 意味が通じると思うに関する割合が多少低いものとなった。

(8) **这些** zhè xiē　这些都是我爸爸给我买的东西

これらのプレゼントすべては父が私に買ってきてくれたものです。



	① zhě xiē	② zhēi xiē	③ zhè xiè
A.通じると思う	76.4%	66.0%	81.6%
B.通じないと思う	23.6%	34.0%	18.4%

zhe は、多くの先行研究が述べているように、日本語母語話者が苦手としている発音である。①は、第二音節の声調、③は第一音節の声調が正確であり、双方とも、

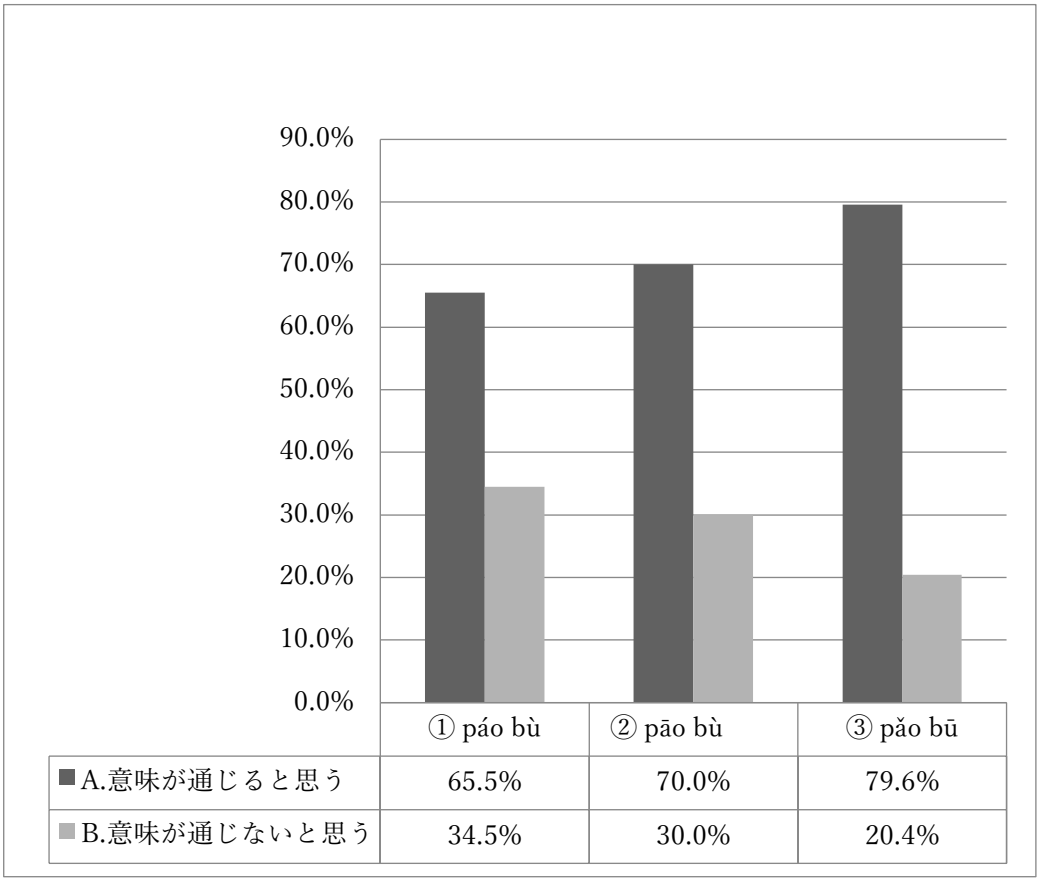
ピンインも正しいため、中国語母語話者は、それぞれ高い割合で(8)の文に対し、A意味が通じると思うという意見が多く見られた。

一般的に、二声を三声に誤用する例は多いが、ここでは、①のように、第一音節のように、第四声を第三声に誤用するケースも見られた。

また、他に興味深い誤用としては、本来は、zhě xiē というピンインであるはずが、②のように、zhēi xiē の後に無意識のうちに i をつける学習者がみられるということである。

(9) **跑步 pǎo bù**　　每个星期天早上我喜欢去跑步。

毎週日曜日、ジョギングをしに行くことが好きだ。



	① páo bù	② pāo bù	③ pǎo bū
A.意味が通じると思う	65.5%	70.0%	79.6%
B.意味が通じないと思う	34.5%	30.0%	20.4%

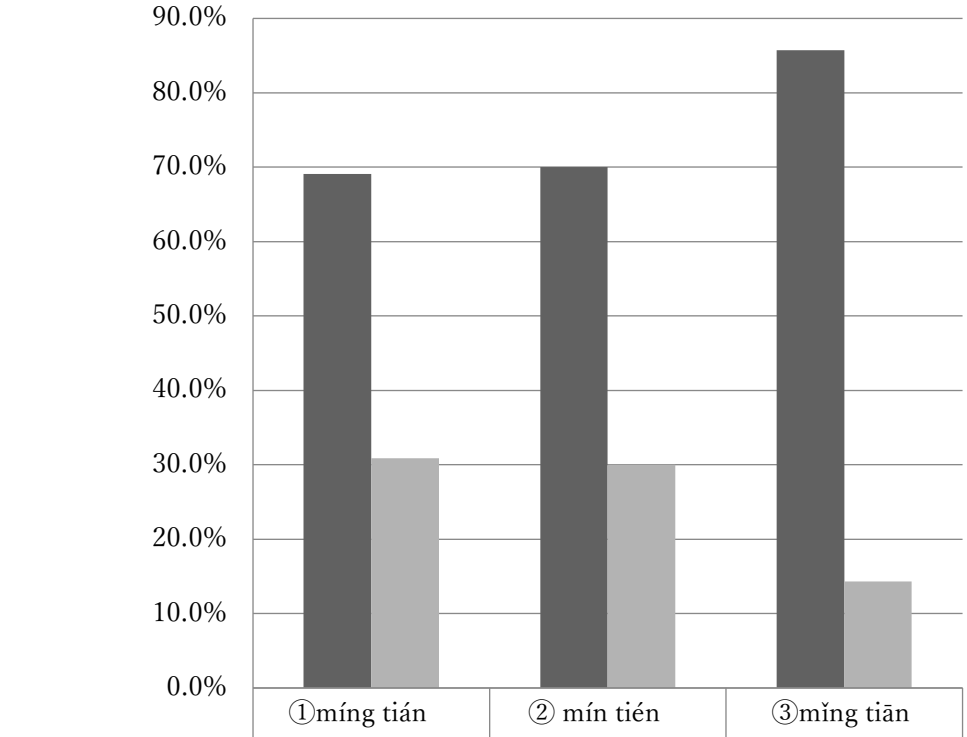
本来の声調は、pǎo bù、三声と四声とで構成されるが、①の第一音節では二声、②では一声の声調の間違いがみられた。そして、③は、第二音節に見られた跑步 pǎo bù

に関しては、①から③まで、ピンインがすべて正解であった。このように見ていくと、ピンインが第一音節、第二音節と両方で正しい場合、第一音節と第二音節の声調でどちらかに誤用があっても、半分以上の中国語母語話者、③に関しては、79.6%と非常に高い割合で意味が通じると考えていることが分かる。

また、三声の声調は、二声だけでなく、一声として誤用してしまうケースも見られた。このことから、学習者は三声が分からなくなると、二声だけでなく、他にも多くの声調に誤用してしまう可能性がみられる。

(10) **明天 míng tiān**　我明天去学校考试。

私は明日学校に試験に受けにいく。



	①míng tián	② mín tién	③mǐng tiān
A.意味が通じる	69.1%	70.0%	85.7%
B意味が通じない	30.9%	30.0%	14.3%

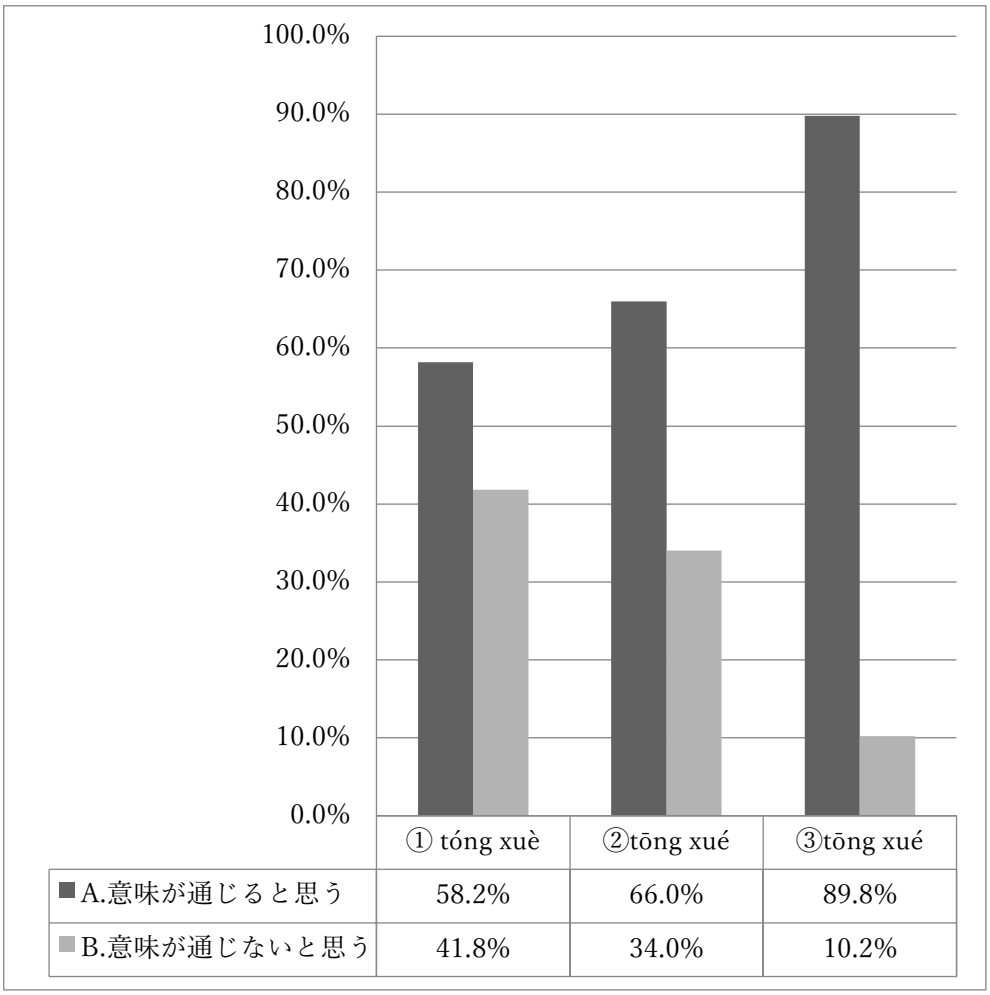
多くの初級中国語学習者が中国語を学び始めている段階で、発音時に二声と三声の区別ができないと答えている。しかし、③の mǐng tiān をみると分かるように、第一音

節が三声で誤用の声調であるにもかかわらず、85.7%の中国語母語話者が「意味が通じる」と答えており、「意味が通じない」と答えたのはわずか 14.7%である。

① や②においても共通して、第二音節の声調の誤用や、第一、第二音節のピンインの誤用が見られるが、同様に、高い割合で多くの中国語母語話者が A. 意味が通じると感じている。

(11) **同学 tóng xué**　　我同学的妈妈很漂亮。

私の同級生のお母さんは綺麗です。



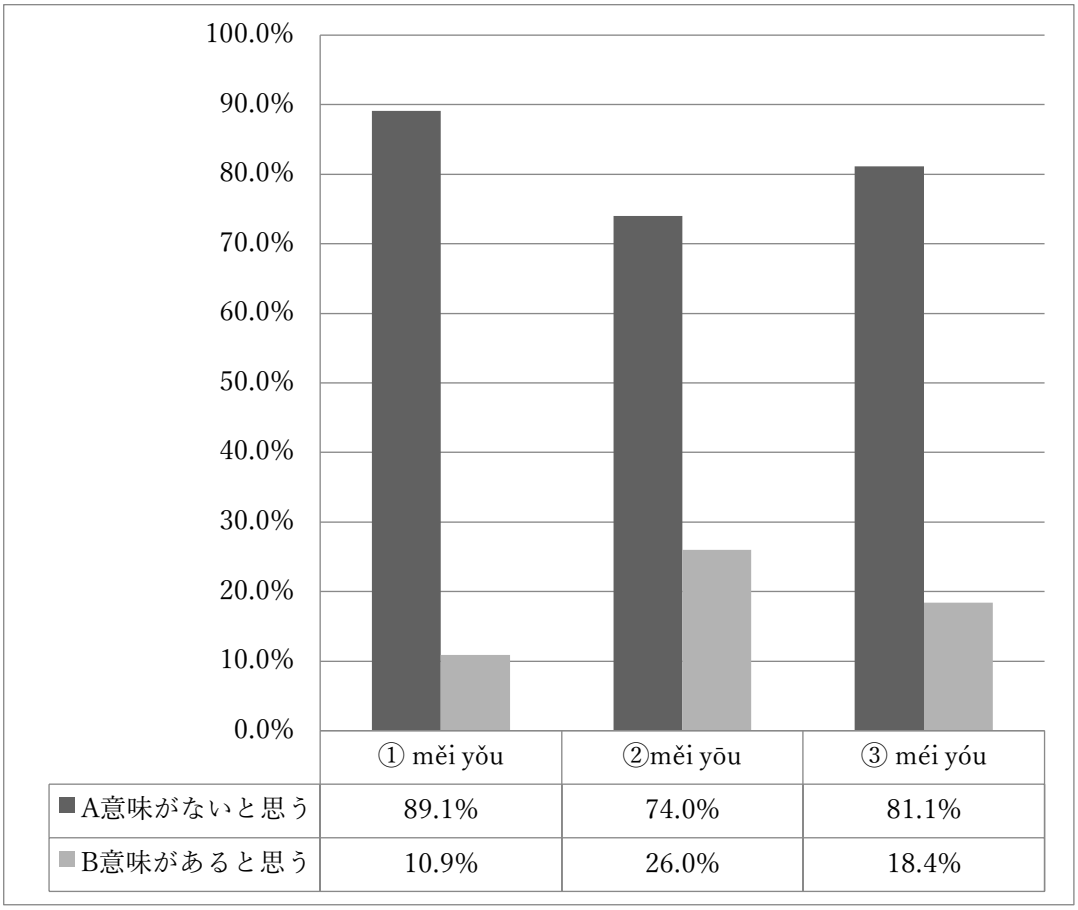
	① tóng xuè	②tōng xué	③tōng xué
A.意味が通じると思う	58.2%	66.0%	89.8%
B.意味が通じないと思う	41.8%	34.0%	10.2%

同学 **t**óng xué を見ていくと、A.「意味が通じると思う」と答えた人は、②では、66%、さらに③では 89.8%と非常に高い割合で、意味が通じていると答えている。ピンイン

は正しいが、声調に誤用があっても一声である場合は、多くの場合、中国語母語話者は意味を理解することができると考えられる。①も意味が通じていると考えている学習者は多いが、第一音節の声調が正しいにもかかわらず、②と③の方が意味が通じると答えた中国語母語話者の数が多いことは特徴的な間違いであるが、意味が通じると考えている。

(12) **没有 méi yǒu**　　我没有她好看。

私は彼女ほどきれいではない。



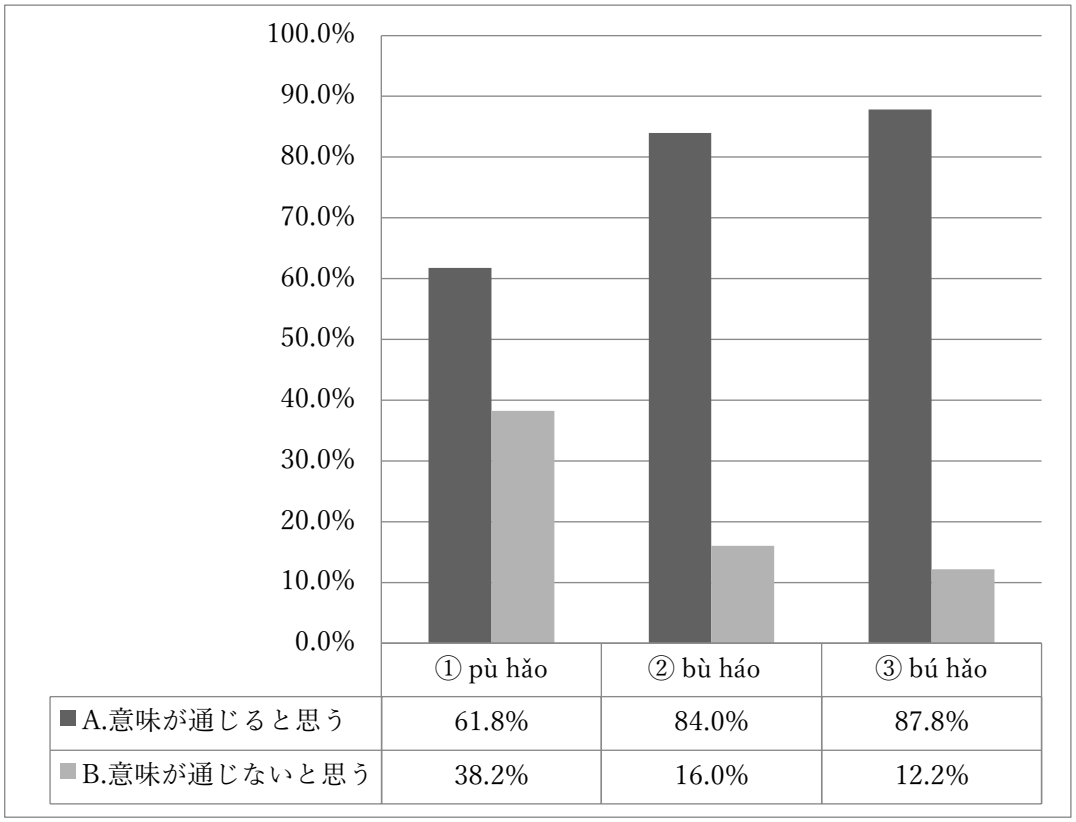
	① měi yǒu	②měi yōu	③ méi yóu
A意味がないと思う	89.1%	74.0%	81.1%
B意味があると思う	10.9%	26.0%	18.4%

「没有」méi yǒu に関していえることは、本来の第一音節は没 méi で、第二声であるが、①と②は共通して、両方の第一音節の声調に誤用がある状態である。しかし、こ

れも同様に、中国語母語話者が 89. 1%と 74%の高い割合で正解できていると答えている。③の第二音節は本来 yǒu と三声であるにも関わらず、ここでは誤用で二声となっている。しかしこれもまたAが81. 1%と非常に高い割合で中国語母語話者が理解している。一般的に第二声と第三声は、日本語母語話者が中国語を学ぶ中でよく間違うものとして知られている。しかし実際には、日本語母語話者が考えているよりも、中国語母語話者には通じている傾向が強い。したがって、授業において声調について必要以上の指摘を行うことはメリットにはならないのではないかと考えられる。

(13)**不好 bù hǎo**　今天的天气不好。

今日の天気はあまりよくない。



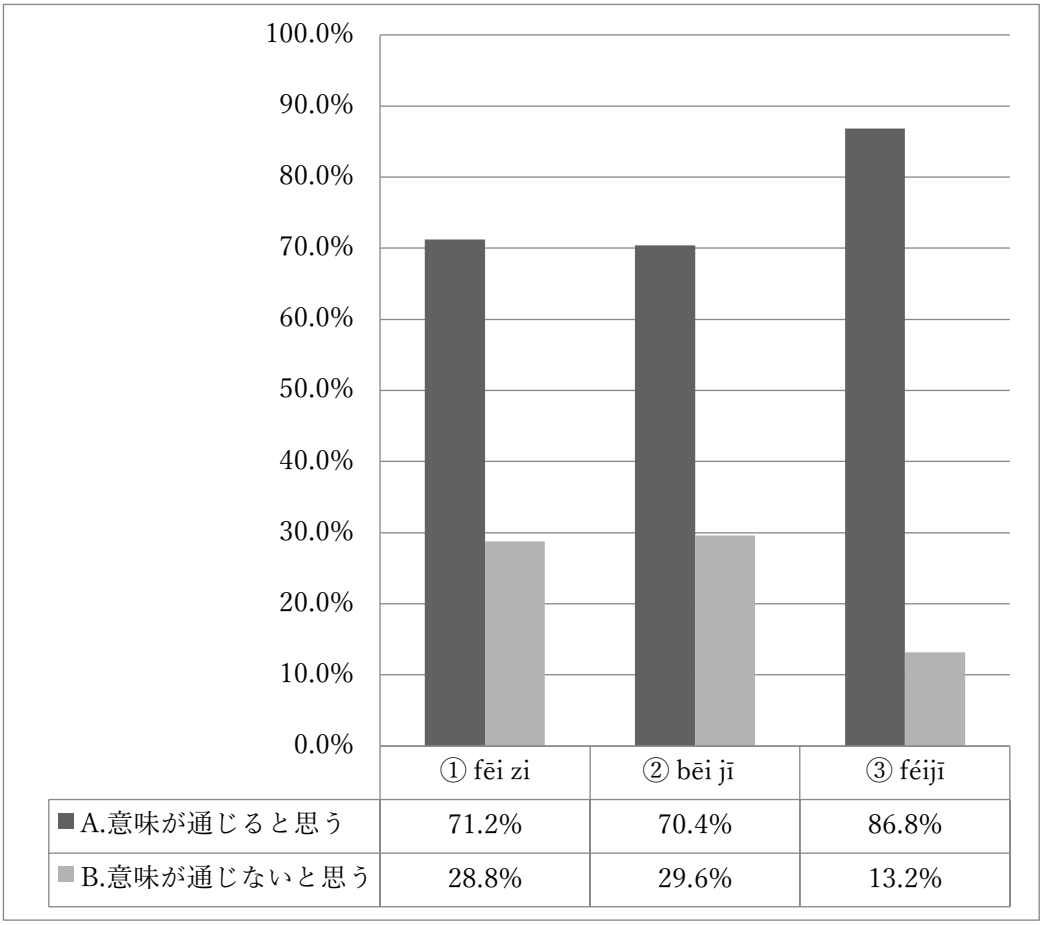
	① pù hǎo	② bù háo	③ bú hǎo
■A.意味が通じると思う	61.8%	84.0%	87.8%
■B.意味が通じないと思う	38.2%	16.0%	12.2%

①に関しては、第一音節の最初の漢字のピンインが、本来は無気音の b(o)であるはずが、有気音の p(o)になっている。筆者の経験として、これらの声調は教材を見た時

に違いはわかる。しかし、リスニングで聞いたとき、特に初級学習者にとってその区別は聞き取れないこともある。それにも関わらず、実際には 61.8%で意味が通じている。②に関しては、第一音節は声調が正解であるが、第二音節に関しては、本来第三声であるが、ここでは第二声の誤用が見られる。しかし、84%の中国語母語話者は意味が通じると答えている。

(14) **飞机 fēi jī**　飞机 8 点四十分起飞

飛行機は 8 時 40 分に離陸する。



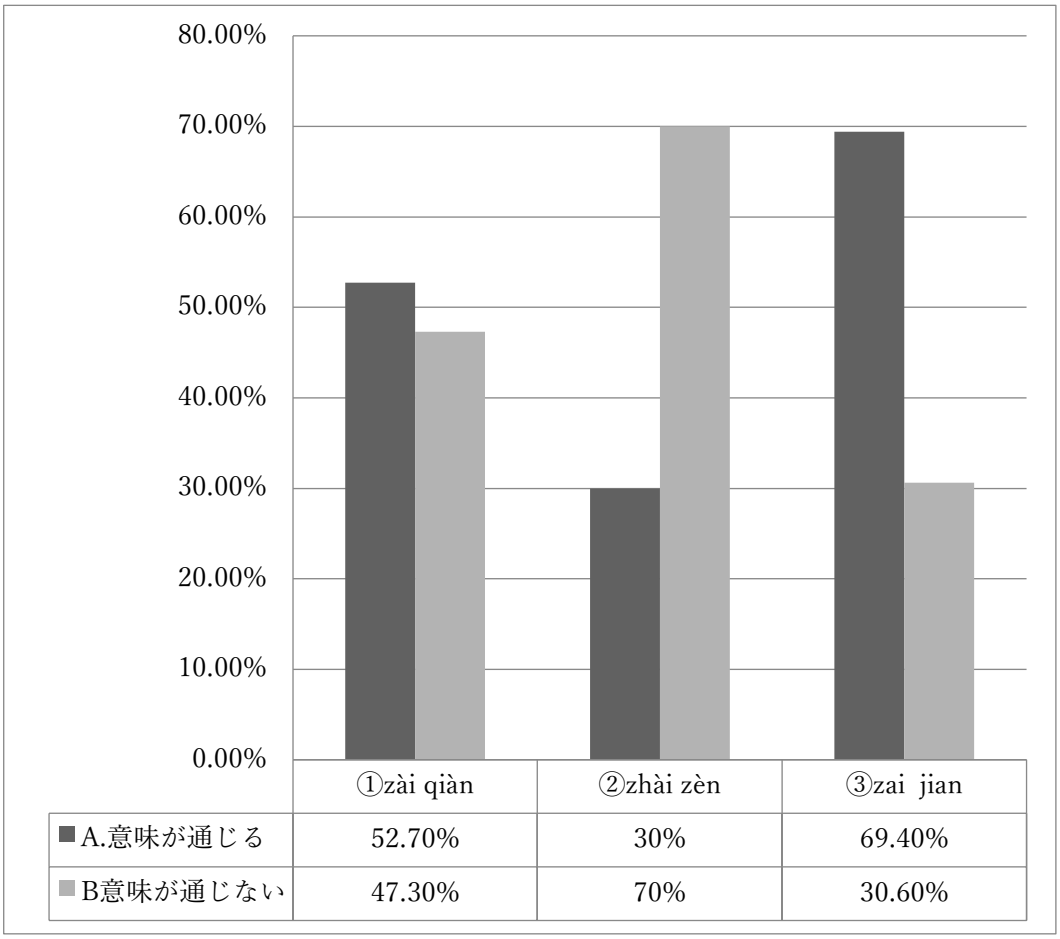
	① fēi zi	② bēi jī	③ féijī
■A.意味が通じると思う	71.2%	70.4%	86.8%
■B.意味が通じないと思う	28.8%	29.6%	13.2%

語彙そのものの声調よりも、むしろ全体的な文の流れが大切で、全文が大体わかっていれば、語彙の意味は大抵理解できるのはないかと考えられる。その証拠に①の第二音節の第二の zi というピンインが違うが、文を理解している中国語母語話者が大勢

いることが分かる。単語 1 個 1 個を完全に理解していなくても、実際、中国語母語話者が意味を理解している割合が高いといえる。

(15) **再见 zài jiàn**　　出门的时候弟弟对妈妈说再见了。

家を出る時、弟は母に「さようなら」と言った。



	①zài qiàn	②zhài zèn	③zai jian
■A.意味が通じる	52.70%	30%	69.40%
■B意味が通じない	47.30%	70%	30.60%

(15) の zài jiàn に関する声調の誤用については、(8) で述べた这些 zhè xiē の声調誤用の項目と共通して、日本語母語話者が苦手としているピンインの z が使われている。声調誤用の①に関しては、第一音声の zài は正解しているため、問題となるのは、第二音節の qiàn という音である。声調に誤用がみられないこと、そして、jiàn という正

しい声調と qiàn という音は日本語のカタカナにしたときに似たような音であるため、誤用ではあるがこの声調で書く学習者がみられた。

②は、第一音節のピンインに誤用はあるものの、それより、第二音節の zèn というピンインは、本来の正解である jiàn とまったく違う声調とピンインであるため、B の「意味が通じない」と感じる中国語母語話者が多くみられた。

4.3.3　発音の誤用に関するまとめ

この調査は、日本語母語の学習者に対し、何ら事前準備もなく抜き打ちで行ったものであるため、学習者のありのままの現状を把握できる結果となっている。そして、全体的な結果として、ピンインや声調に関して誤用がみられても、中国語母語話者の多くは意味が通じると感じる傾向が強いことが明らかとなった。また、声調の誤用において、次のような特徴が挙げられる。

(1)全体的に声調の誤用があっても高い正解率がみられたが、zhōng guó の第一音節において chóng がピンインと声調のどちらにおいても大きな誤用があるとき、また、再见　(zài jiàn)の第二音節の jiàn が zèn に誤用されてしまうと、完全に違うピンインになる。したがって、中国語母語話者がリスニングをした際、前の文と後ろの文で意味を推測することができる可能性はあるが、正解率が下がる傾向がみられる。

(2)不好 bù hǎo の誤用として、bú hǎo や pù hǎo のように第一音節に誤用があった場合でも、bù と Pù の第一音節の音である ù、また、第二音節の hǎo のピンインと声調が正確であれば、中国語母語話者による「意味を聞き取れている」割合が比較的高いことがみられた。

(3)学習者はわからない語彙のピンインあるいは声調を書くとき、自分が知っている語彙のピンインと似ていると主観的に考えたものを、無理やりあてはめようとする傾向がみられた。例として飞机 fēi jī から beiji、再见 zài jiàn から zhài zen あるいは Zei jian.

などがあげられる。これは、授業数が少なく、普段、中国語の音に接する機会が少ないため、復習をしていないことの他に、リスニングをしても、瞬時に声調とピンインが結びつかないからということも考えられる。

(4) 红色 hóng sè に関する声調の誤用のように、第一音節のピンインが正確で、第二音節の最初のピンインである s において多少誤用があっても、前文から意味伝達はできており、意味は通じている傾向が高いことがわかる。

(5) リスニング時のピンインの書き間違いや誤用からも、わからない声調やピンインに回答しなければならない場合、ローマ字やピンインを補おうと考える傾向が多くみられた。しかし、多くの場合、誤用のあるピンインや声調につながる傾向が強く、初級学習者を教えるとき、ピンインはローマ字やアルファベットとは別物であることを伝えることが大切であると考えられる。すなわち、学習者はわからない単語があったとき、自分の既存知識を使用する傾向が強いことがみられた。

(6) これまでの先行研究でも多く取り上げられてきたことであり、本章でもみられた結果であるが、学習者では二声から三声の誤用、あるいは、一声から二声の誤用が多くみられる。しかし、実際に二声と三声の誤用に関しては、これらのデータを中国語母語話者に聞かせた場合、結果的に誤用があっても、中国語母語話者が意味を理解している割合が高いことが分かる。

(7) その他の傾向として、学習者は文字にして声調やピンインを書くときは、正解でも、実際に口に出してアウトプットする際、声調を誤用してしまうことが多くみられる。本来、アウトプットするということに対し、自信のない傾向が強い日本語母語話者が多いため、授業時間も制限されている中、結局は文字に頼ってしまう傾向が強い。結

果として聞くこと、話すことを苦手とする学習者が増加することになり、ニーズの需要に適した会話を中心とした授業ができなくなることが多い。

先行研究においては、日本語母語話者が苦手としている声調に関するものは多く存在するが、日本語母語話者の誤用のある音声を中国語母語話者に聴かせ、その結果を第二外中国語教育に活かそうという調査や研究はこれまでなかった。それは、孤立語である中国語の教育において、四声や声調は他の言語にはない特殊なものであるため、誤用があっては絶対いけないという考えが強かったからではないだろうか。しかし、第二外中国語学習者の視点からみると、週 2 回という限られた時間の中で、中国語の声調を完璧にマスターすることは、学習意欲に負の影響を与えかねない可能性がある。すなわち、短い学習時間の中で学ばなければならないことが多くなり過ぎて、結果としてそれが負担となる。そして、多くの学習者は誤用することを恐れ、会話によるアウトプットができないということにも結びつくこともある。しかし、インプットした後、自分の口に出してアウトプットをしなければ、自分の発音に誤用があることに気づけず、修正することもできず、進歩することは望めないのではないだろうか。

今回、この第二外中国語学習者の発音に関する調査を通し、中国語母語話者 58 名のうち半数以上が、誤用のある声調でも意味を理解することができるという結果につながった。したがって、学習者の発音の誤用に関して、多くを指摘したり、無理に修正させようとするのではなく、むしろ完璧な声調で発音をすることが困難な状況においても、学習者が積極的にアウトプットをすることができる環境作りこそが重要である。発音に関してそのような環境を作ることで、会話によるアウトプットを通し、自らの発音についてより深い気づきが生まれ、その気づきによって自己表現に対する興味や、楽しみを増大させていくことにつながるのではないだろうか。

第 5 章

日本の大学における中国語教材の現状

5.1　CSL と CFL の環境下で学ぶ中国語教育

本章では、日本の第二外中国語教育で使われる教材の考察を行うにあたり、中国語教育の現状に関連した先行研究を確認する。そして、問題点を明らかにすることで、日本の大学で第二外中国語学習者がアウトプットのための自己表現を行っていく上で、どのような教材が適しているのか、日本で開発された中国語教材をベースに考察したい。

中国語教育は、まず中国本土で中国語を専門とする学生を対象とした中国語教育 CSL（Chinese as a second language）、そして学生が目標言語が話されていない環境下で中国語を共通教育として学ぶ CFL (Chinese as a Foreign language)の 2 種類に分けることができる。日本で主に行われている中国語教育は CFL である。したがって、本論で扱う中国語教育と中国語の教材についても、主として CFL の学習者を対象としたものが中心である。

中国学術情報データベース（CNKI:China Naitonal Knowledge Infrastructure)によると、中国本土で中国語を専門とする学生を対象とした中国語教育（CSL）に関する論文は、1985 年当初では 2 本しかなかったが、2018 年には 129 本となっており、CSL は目覚ましい発展を遂げ、関連の中国語教育に関する研究は、この 35 年間もの間において 6711 本もの研究がみられるようになった。

一方で、目標言語が話されていない環境下で中国語を共通教育（CFL）として学ぶ研究に関しては、1989 年から 2018 年までの 9 年間で CSL より大幅に少なく、その中でも教材に関する研究はわずか 10 本しかなかった。また、同様に日本の CiNii においても 1995 年から 2018 年の 23 年間で教材に関する研究はわずか 20 本のみであった。このことから、CFL の環境下における第二外中国語教育に関しては、CSL と比べ関心度が低いことがわかる。

5.2　第二外中国語教育（CFL）の先行研究で教材研究が占める割合

この節では、2000 年から 2018 年に発表された CFL の中国語教育に関する先行研究を考察したい。主に次の点に着目したい。

① この 18 年間で、日本で出版された中国語教材に関する研究の重点は何であったか？

② 日本で出版された中国語の教材研究は内容と重点においてどのような変化がみられるようになったか？

③ 今後、中国語教育に関する研究は、主にどのような面で向上を目指していくべきであるのか？

まず、知网 (CNKI:China Naitonal Knowledge Infrastructure)による、中国以外の国で行われている中国語教育に関してこれまでなされてきた研究内容を表 1 にまとめた。この中で見られる研究論文の多くは中国本土で出された CFL に関する論文である。その多くが中国文化の重要性と中国語教育の変化に関した研究であり、教材そのものに関するものは多いとはいえない。

表 1

発表の類別	具体内容
期刊	1《浅谈中国文化教育在外汉语教学中的重要性》 《教育与教学研究》（2010） 2《浅谈中文信息处理技术在外汉语教学中的应用》 《北方文学（下半月）》（2011） 3《关于日本大学二外汉语教学中跨文化教育的研究——通过对初级汉语教材的调查分析》选自《海外华文教育》（2018）

	4《汉外汉语教学漫议之七(三篇)》选自《汉语学习》（1991）
集刊	1《日本大学二外汉语教学的现状及对策—兼论女子大学的教学特色》 选自《海外华文教育》（2018） 2《利用北外优势,推动对外汉语教学事业》 选自《汉语学习》（1991）
国際会議	1《汉语的全球化和在外汉语教学的国际化》 选自《世界华文期刊》（2017） 2《面向外汉语教学和教材编写的词汇义位赋值因素研究》 选自《世界华文教学》（2005）

これに対し、CiNii によれば、これまでの中国語教育関連の論文は 27 本あり、その大半が日本で出版されたものである。内容は教材に関するもので、語彙、文法、発音に特化したものが中心であった。事実上、日本では、1995 年から 2018 年の 23 年間、中国語教育に関する研究の中心が徐々に教材へと移り変わってきているが、それは「語彙」「文法」「発音」の研究に特化したものが中心である。

しかし、第二外中国語教育そのものに関した研究、すなわち第二外中国語教育の授業内容あるいは第二外中国語学習者に適した語学教材に関するものについてはまだまだ不足しているのが現状である。2017 年以降、日本の外国語教育はますます大きく英語教育の影響を受けるようになっている。そのため、日本の大学で行われている第二外中国語教育においても、学習者に適した授業内容や教材の研究が今後ますます活発になってくると考えられる。

5.3 日本で出版されている中国語教材の現状について

教材は日々の授業において重要な地位を占めている。どんな授業でも、よい教材を準備し、授業計画を立案して、授業に取り組むことが重要であると長谷川(1995)は述べているが、日本における中国語の教材に関する研究は、文法や発音といった研究と比べ、まだまだ不足しているのが現状である。

しかし、時代の変遷の中で日本における中国語教育の発展に伴い、近年、日本で出版されるようになった中国語教材は、初級の教材を中心に大量に制作、出版されるようになった。『日本中国語学会』の「学会展望（語学）」に基づいた集計によると、90 年代（主に 1994 年から、1997 年までの 4 年間）で、新刊の中国語教材は 146 種類であった。当時、初級教材は 125 種類で、圧倒的に他の級よりも多く出版されていた（増刊、再版の教材は含まれていない）。また、ここ数年で日本国内の大学で使用された教材は 200～300 種類にのぼり、その数字は年々増加しているといえる（方経民 2000）。

ここ数年間出版されている中国語教材からは、次のような動きが窺われる。

(1)日本で開発されている中国語の教材は入門・初級の教材が主流であり、日本の中国語学習者の大半は入門から初級の学習者であることが分かる。

(2)本文の内容、あるいはコラムで中国文化を導入する教材の増加がみられる。

(3)教材のカラー版が増え、写真や絵を取り込むなどして親しみやすい教材が多くつくられるようになってきている。

(4)CD、MD 付き教材、ビデオ教材、CD－ROM 中国語学習ソフトが教材に付属するパターンが一般的となった(音を重視した中国語教育が多く見られるようになってきた)。

(5)中国語の教材を扱う出版社は既に 30 社を超え、新規参入の出版社も少なくない。

しかし、その一方で、日本の大学で使われている教材に関し、方経民（2000）、町田（2004）らは、日本で出版されている教材に関し、かなりのものがいい加減であるとする。すなわち、文法の説明や練習が不足している、目標が定まらず実践的でない、

科学的でもないという。この点からすると、今後開発される中国語教材にとって必要な条件は以下のようなものだと考えられる。

(1) 学習項目が明確で、項目の配列が論理的であること。

(2) 文法規則の体系的学習を目指すのか、場面ごとの表現の仕方も習得することを目指すのかという 2 つの流れの中で位置づけが明確である。

(3) 複雑で習得に時間のかかる項目については、反復練習を通して徐々に学習を深められるように工夫されていること。

(4) 日本語を母語とする学習者にとって必要な情報が含まれ、特に日本語を母語とする学習者の弱点を補うような構成になっている（方経民 2007）。

張(2012)によれば、日本の大学における中国語学習者の多くが、中国語の発音の習得に難しさを感じていながらも、中国語学習者の半数以上が、中国語の会話を身につけたいと考えているという。つまり、現在では、大学での中国語を学ぶ半数以上の学生が中国語の発音に戸惑いながらも、外国語によるコミュニケーションのツールとして、中国語の日常会話を学びたいということである。

5.4　教材の設定場面について

本来、円滑な言語運用を行うためには、コミュニケーションの文脈や言語の背景にある社会システムなどを理解しなければならない。その点では、コミュニケーション能力を伸ばすためには、設定場面やトピックも大事にしていかなければならない。設定場面やトピックは、教材においては文化的要素を提供するものに他ならないからである。藤井ほか(2007)、など、これまでの先行研究でもみてきたように、近年、中国語教育に関する研究の中で、教材に関する内容のものは近年ますます増加してきているといってよいが、機能面やコミュニケーションに特化したものとはいえ、実際、本編の内容をみると、大多数を占めるのが、語彙や文法構造、そして発音に関するものが中心であるといえる。だが、学習者の自己表現育成のためには、文法や発音のみでなく、教材における場面設定やトピック（題材）も同様に重要となる。これらは学習

者の意欲や興味を向上させる上でも大事な要素であるが、この分野に着目した調査や研究は依然として非常に少ない。

自己表現育成のための中国語教育を構想するにあたり、現在日本で使われている中国語教材における設定場面やトピック（題材）の考察を行うことは非常に重要である。なぜなら、教材内容は中国語学習に対する興味や関心だけでなく、会話の表現力の幅も、文化に対する理解の程度にも大きな影響を与えるからである。

このような理由により、日本の大学で実際に使われている初級教材、どのような設定場面、そして、どのようなトピック（題材）を用いているのか、その内容と傾向について考察を行った。日本の関西地区の大学で実際に使われている初級の中国語教材を 23 冊取り上げ、設定場面とトピックと（題材）について、内容分析法（Content analysis）を通し分析を行った。

図 1

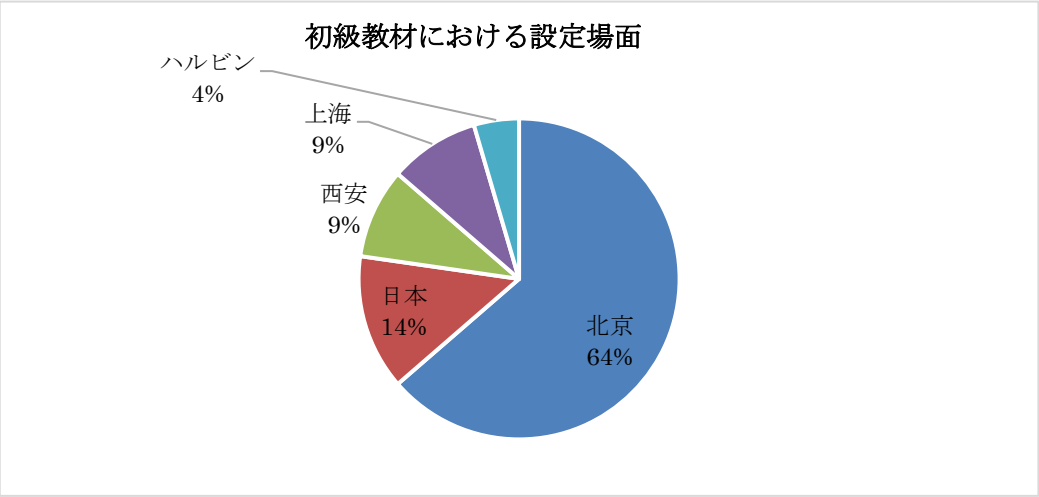


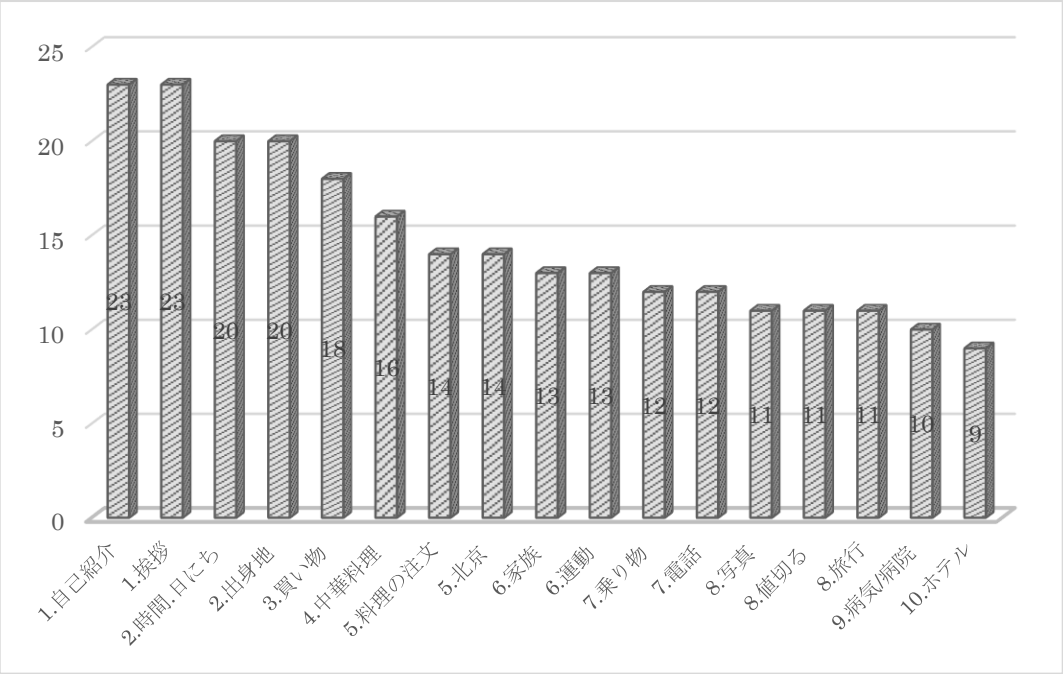
図 1 で上げられている設定場面のうち、初級 23 冊は半数以上で北京を設定場面、あるいは北京をトピックの背景としている。その後を、西安、上海が 9%, ハルビンを 4% と続く。逆に、日本を設定場面とする、あるいは日本に関することをトピックとするものは、今回調査した、初級中国語教材の全体の中でわずか 14%であった。このように、日本で開発された中国語学習教材ではあるが、会話がなされる場面や状況につい

ては、中国国内を想定したものが多いことがわかる。もちろん学習者は言葉だけではなく、中国について学ぶことも文化の要素として非常に大事ではある。しかし、第二外中国語学習者の多くは、実際に中国を訪れたことも見たこともないため、場面やトピックを中国国内に特化してしまうと日本の実生活に関連しない内容が多くなり、教材内容と現実の生活の間で、リアリティが感じられなくなることも増える。そこで、場面設定には中国に関するものだけでなく、日本の様々な場所や、学習者の日本の日常生活に則した場面設定を増やすべきではないだろうか。そうすることにより、中国語に接することが少ない学習者も中国語を実際に使う場面をイメージしやすくなり、言語学習が定着しやすくなるのではないかと考えられる。すなわち、ニーズを知り、日本語母語話者、第二外中国語学習者に適した形で、教材を「現地化」する必要がある。そのためにも、できるだけ現地である日本の情報を教材に取り入れることも良いのではないだろうか。

5.5 教材のトピック（題材）について

中国語教材のトピックに関しても、同様に内容分析法（Content analysis）を通し、初級教材 23 冊を対象に調査を行った。分析に際しては、10 回以上登場する題材を「高確率で表れるトピック」、3 回以上 10 回未満を「一般的な確率で表れるトピック」、2 回以下しか登場しない題材を「珍しいトピック」とした。

図 2 初級トピック（上位 10 位まで）



初級トピック(図 2)において多いのは、「自己紹介」「挨拶」「時間・日」「買い物」「北京」である。初級の教材において、「自己紹介」や「挨拶」をはじめ、これらのトピック（題材）を扱うことは一般的なことである。しかし、ただ単に教材に書いてあるこれらの内容を見て読んで暗記するだけでは、機械的な作業が中心となり、最終的に、学習者が自ら考え、自己表現し、自分だけの答えにつなげることが難しいと考えられる。

例として、初級であるため「自己紹介」や「挨拶」というトピックが多く扱われているが、ただ単に「自己紹介」や「挨拶」を学ぶのではなく、「初めて会う大学の部活の友人との自己紹介や挨拶」や「北海道を家族旅行した時に電車で隣になった中国人旅行客との挨拶」など、トピックの機能性を変えることで、同じ自己紹介や挨拶でも、学習者が中国語を学ぶ上で、より表現力を広げることができると考えられる。

また、中国人旅行客と偶然に出会ったことによる中国語の挨拶や会話を通し、時代の流れに適した内容のもとで文化領域のことも学ぶことができる。そして、実際に学習者に自分ならどうするのか考えさせながら、表現し、学ばせることができる。様々

な角度から物事を考え、発信していくことが重要視されるようになってきている時代であるからこそ、このようなトピックを通して、自己表現を学ぶこともとても大事である。例えば、20 年前であれば、このようなトピックは考えられなかったであろう。

また、このようなトピックの学びにより、最終的に中国語で「みんなの前で自分の家族について紹介する」、「自分の趣味について話す」などの活動も授業の一部とすることも考えられる。そのような活動を設けることにより、知識面や文化面だけでなく、実際に学んだことを発信させる場につなげることができ、中国語による自己表現の貴重な訓練となる。これは、自分の意見を発信することを苦手としている多くの日本人学生にとって、学んだことを発信、そして定着させ、自信につなげるいい機会となる。

このように、トピックの内容をひとつ変更したり、工夫をするだけで、学生が中国語の授業で学べる内容をより広げることができる。また、学習者がアウトプットする際、つまり自己表現という視点からすると、日本に関連したトピックを増やした方が、学習者にとっては日常生活に基づいているため定着しやすくなる。最終的には、日本を訪れる中国語母語話者に日本のことを中国語で伝えるためのいい訓練となる。

5.6　教材の練習問題について

今回、実際に日本で開発され、第二外中国語教育の会話授業で使われている 10 冊の教材を対象に、どのような練習問題を通し会話による自己表現を目標としているのか、その点についても考察を行った。これまで、中国語教材の練習問題に焦点を当て、どのような活動によりアウトプットを効果的に行っているのか分析を行うことは、初めての試みである。

筆者は、関西、北陸、北海道地区の第二外中国語教育の会話授業で使われている教材 9 冊の練習問題を対象に、内容分析法を通して、練習問題の内容と種類に関する量的統計を行った。この統計により、どのような練習問題を通して、会話によるアウト

プットを目指しているのか考察を行う。以下、各テキストについての調査結果を記述する。

1. 『今始めようアクティブ・ランニーング』朝日出版社

表 1

練習問題の種類	練習問題の数
①日本語から中国語へ訳す	24 箇所
②リスニングしてから四声や簡体字を書き取る＋中国語から日本語へ訳す	21 箇所
③ピンインまたは声調を書く＋正確な簡体字を書く	21 箇所
④適切な漢字で空欄を埋める	21 箇所
⑤対話する	21 箇所
⑥リスニングの後、四声や簡体字を書き取る	7 箇所
⑦ピンイン、簡体字を見て、四声を的確に発音する	7 箇所
⑧文を読んで暗唱する	1 箇所

文法訳読法とコミュニカティブ・アプローチで構成された練習問題がほぼ同じ量で構成されている。この教材の練習問題の構成としては、③の「ピンインまたは声調を書く＋正確な簡体字を書く」と、②の「リスニングしてから四声や簡体を書き取る＋中国語から日本語へ訳す」の組み合わせの練習問題の後に、⑤の練習問題が入ってくるため、文法訳読法の後に、リスニング、書き取りを行い、最後に訳を行ってから対話をするという構成である。確かに形式的な練習問題の構成であり、文法訳読法である①の「日本語から中国語へ訳す」が 24 箇所と最も多い。だが、この教材のメリット

としては、コミュニカティブ・アプローチである⑤の「対話する」も 21 箇所とほとんど同じ割合で出題されている点である。書くためのアウトプット練習が多くみられる中で、会話のためのアウトプット練習も充実している。

2. 『すぐ話せる中国語』朝日出版社

表 2

練習問題の種類	練習問題の数
①ピンインまたは、簡体字を見て四声を的確に発音する	18 箇所
②中国語の質問を書き取って、中国語で答えを書く、あるいは答えを選択する	10 箇所
③中国語から日本語へ訳す	10 箇所
④日本語から中国語へ訳す	10 箇所
⑤文章を読む＋質問に答える	10 箇所
⑥単語を入れ替えて口頭で練習する	10 箇所
⑦中国語から日本語に訳す＋文を読む	6 箇所

この教材においては、③④⑦にみられる通り、訳に関する練習問題だけでも 10 箇所ずつ 3 種類に分わかれている。毎課の学習の中で中国語を日本語に訳すこと、日本語を中国語に訳せるようになることが学習上、非常に重要な要素と捉えられている。別の特質としては、練習問題が②～⑥まですべて 10 箇所ずつ同じ量で出題されているが、②から⑤までに文法訳読法の要素が入っており、⑥に関しては単語を入れ替えて練習するオーディオ・リンガル法である。①の「ピンイン、または簡体字を見て、四声を的確に発音する」という練習問題は 18 箇所もあるが、的確に声調を発音するまでの練

習であり、全体的に学んだものを自由に口に出してアウトプットするための練習が少ない傾向がみられる。

3. 「入門ビジュアル中国語」朝日出版社

表 3

練習問題の種類	練習問題の数
①単語を入れ替えて口頭で練習する	24 箇所
②日本語から中国語へ訳す	16 箇所
③ピンインを見て正確な簡体文字を書く＋中国語から日本語へ訳す	16 箇所
④ピンインまたは簡体字を見て、四声を的確に発音する	14 箇所
⑤文の並び替え	10 箇所
⑥中国語から日本語へ訳す	10 箇所
⑦ピンインまたは声調を書く	8 箇所
⑧適切な文法の形に修正する	8 箇所

オーディオ・リンガル法である①の「単語を入れ替えて口頭で練習する」については、工夫次第では、学習者がお互いに単語を入れ替えて対話する練習することも可能である。だが、単体の練習であっても、他の練習と組み合わせた形にするにしても、自分で考え、会話としてアウトプットさせるような練習問題が①～⑧のどこにも入っていない。②の「日本語から中国語へ訳す」や「ピンインを見て正確な簡体文字を書く」、中国語から日本語への訳、④の「文の並び換え」など、文法訳読法を中心とした練習問題を主要としている傾向が強いといえる。さらに、③の「ピンイン、または

簡体文字をみて四声を的確に発音する」など、文法訳読法とともにいかにして正確で形式的な発音を完璧に発音するかということに重みが置かれている。

4. 『できる中国語』朝日出版社

表 4

練習問題の種類	練習問題の数
①対話する	16 箇所
②中国語から日本語へ訳す	10 箇所
③文の並び換え	10 箇所
④ピンインまたは簡体字を見て、四声を的確に発音する	5 箇所
⑤日本語から中国語へ訳す	4 箇所
⑥中国語の質問(書く)に対して、中国語で答える	4 箇所
⑦適切な漢字で空欄を埋める	4 箇所
⑧中国語の質問を聞き取って、中国語で答えを書く	2 箇所
⑨適切な漢字で空欄を埋める＋中国語から日本語へ訳す	2 箇所

②の「中国語から日本語へ訳」、③「文の並び替え」の文法訳読法をはじめ、④「ピンインまたは簡体字を見て四声を的確に発音する」など、全体的に文法訳読法と四声の発音を重視した構成であることがわかる。しかし、①の「対話をする」という練習問題も 16 箇所あり、比較的バランスの取れた教材であると考えられる。

5. 『初級中国語 オリンピックへようこそ会話編』朝日出版社

表 5

練習問題の種類	練習問題の数
①リスニングを聞いてから四声や簡体字を書き取る	12 箇所
②日本語から中国語へ訳す	12 箇所
③適切な漢字で空欄を埋める＋日本語に訳す	8 箇所
④文の並び替え	7 箇所
⑤ピンインを見て正確な簡体文字を書く＋日本語から中国語へ訳す	3 箇所
⑥ピンインを見て正確な簡体文字を書く	3 箇所
⑦適切な漢字で空欄を埋める	1 箇所

①にあるように（「リスニングを聞いてから四声や簡体字を書き取る」）、インプットした後に文字やピンインを読み書きするための練習問題が中心に構成されている。②や③も同様に、まず「日本語から中国語へ訳す」、そして適切な漢字で空欄を埋めてから日本語に訳す練習問題であり、④の「文の並び替え」も含め、全体的に文法訳読法を中心とした練習問題であることがわかる。

6. 「中国語　キャンパスライフ」　朝日出版社

表 6

練習問題の種類	練習問題の数
①リスニングをしてから、ピンイン、または声調を書き取る	21 箇所
②日本語から中国語へ訳す	15 箇所
③ピンインを見て正確な簡体文字を書く＋中国語から日本語へ訳す	14 箇所
④ピンイン、声調を書く（リスニングなしで）＋中国語から日本語へ訳す	6 箇所
⑤適切な漢字で空欄を埋める	6 箇所
⑥文の並び替え	3 箇所

全体的な練習問題の流れとしては、リスニングの後に簡体文字や声調を書き取り、そして中国語から日本語へ訳すというものである。⑥と⑦も 6 箇所で適切な漢字で空欄を埋める練習問題、また、3 箇所で「文の並び替えを行う」など、全体的に文法訳読法を中心とした練習問題である。聞き取りを通して、正確なピンインや声調、簡体文字が書けるようになり、中国語から日本語に訳すことを中心としている。しかし、他の多くの教材と同じように、声調やピンインを的確に書けるようになっても、実際に会話によるアウトプットの練習を行わなければ、これまでの中国語教育のように、思うようには会話による自己表現が上達しないと考えられる。

7. 『初級会話テキスト 表現する中国語』白帝社

表 7

練習問題の種類	練習問題の数
①リスニングをしてから四声や簡体字を書き取る	24 箇所
②日本語から中国語へ訳す	16 箇所
③単語を入れ替えて口頭で練習する	16 箇所
④リスニングをしてから四声や簡体字を書き取る＋中国語から日本語へ訳す	15 箇所
⑤中国語から日本語へ訳す	9 箇所
⑥文の並び替え	5 箇所
⑦ピンインまたは簡体字を見て、四声を的確に発音する。	4 箇所
⑧文を作る	1 箇所

②の「日本語から中国語への訳」、④の「リスニングしてから四声や簡単字を書き取とった後、中国語から日本語に訳す」、そして⑤の「中国語から日本語に訳す」など、総合的にみて「訳すこと」を重要視していることがわかる。また、①では、「リスニングをしてから声調や簡体字を書き取ること」とあるが、聞き取ってから正しく声調や漢字を書けることを練習の最終的な到着点としているため、全体的に会話によるアウトプットの要素がほとんどみられない。

8. 『初級中国語 自分のことばで話す中国語』金星堂

表 8

練習問題の種類	練習問題の数
①ピンインまたは簡体字を見て、四声を的確に発音する	13 箇所
②日本語から中国語へ訳す	11 箇所
③ピンインをみて、正確な簡体文字を書く＋中国語から日本語へ訳す	10 箇所
④ピンインをみて、正確な簡体文字を書く＋日本語から中国語へ訳す	10 箇所
⑤漢字の並び替え＋日本語から中国語へ訳す	8 箇所
⑥適切な漢字で空欄を埋める＋日本語から中国語へ訳す	8 箇所
⑦対話	5 箇所
⑧口語表現	2 箇所

②「中国語から日本語に訳す」、あるいは「日本語から中国語に訳す」、そして⑥など、それぞれ組み合わせに違いは見られるが、最終的にはすべて「訳す」ことを主題とした練習問題である。文や意味を訳すことが重要視されていることがわかる。また、①の「ピンインまたは簡体字を見て、四声を的確に発音する」は 13 箇所あるが、それは実際に自分が思ったこと発信する前段階の練習であり、どちらかといえば四声を完璧に近づけるための機械的な練習であるといえる。教材のタイトルが、「初級中国語・自分のことばで話す中国語」とあるが、最終的には学んだことを会話として相

手に伝達する練習問題が少ないため、実際にはその前段階までの練習を中心とした教材といえる。

9. 『たのしくできる We can 初級中国語』朝日出版社

表 9

練習問題の種類	練習問題の数
①適切な漢字で空欄を埋める	27 箇所
②中国語の質問を聞き取って、中国語で答えを書く、または選択する	25 箇所
③単語を入れ替えて口頭で練習する	24 箇所
④日本語から中国語へ訳す	22 箇所
⑤中国語の質問(書く)に対して、中国語で答える。または、読解	15 箇所
⑥ピンインを見て正確な簡体文字を書く＋中国語から日本語へ訳す	6 箇所
⑦漢字の並び替え	2 箇所

①「適切な漢字で空欄を埋める」が 27 箇所ある。④「日本語から中国語へ訳す」、⑥「ピンインを見て正確な簡体字を書く＋中国語から日本語へ訳す」など訳の問題が 2 パターンに分かれており、文法訳読法を中心とした練習問題である。②はリスニングをした上で、その内容にふさわしいものを選択させる問題である。リスニングの訓練になり、同時にそこには対話やインタラクションへの可能性がみられるが、現在の構成ではそれ以上の展開は望めない。③の練習問題は、オーディオ・リンガル法を通した機械的な練習にはなるが、それだけで終わっている。ここから対話へと発展させていく練習があればさらによいのではないだろうか。

今回の考察を通し、バランスよく、読むことと聴くこと、そして書くことの要素を取り入れた練習問題が多く見られるが、会話によるアウトプットの練習問題が全体的に少ないことが明らかとなった。文法訳読法の練習問題があるということ自体が問題ではない。それぞれ教材のタイトルにあるように、本来、会話によるアウトプットを主要な目的とする教材であるのに、そのための練習問題が極端に少ないという傾向がみられる。

また、練習問題を構成する内容に関しても、文法的に規則的に書くこと、簡体字の単語１字１字にピンインの声調を正しく振ること、発音時に四声が的確に発音できることといった要素で構成されている。すなわち、このような練習問題は、学習者の視点からではなく教師側の視点から作成されており、教材の練習問題に関しては、大きな工夫がみられない。第二外中国語という限られた授業の時間の中で、文法規則に従って文章を書くこと、正確な声調による中国語を発音することといった、ネガティブで規律重視の印象を学習者に与えるだけの恐れもあると考えられる。

もちろん、語学学習の教材である以上、こういった要素は必要不可欠である。教材とは正しい文法や発音を学ぶためのものである。だが、週 1～2 回という限られた授業時間の中でこれらをすべてマスターすることは厳しい。したがって、学習者が文法や発音の規則に縛られずに、より自由に自身の思いや考えを表現できる場を、教材というツールを通して取り入れることが重要である。この点を改善することにより、学習者が負担やプレッシャーから解放され、より積極的・精力的に学んでいくことが可能になるのではないだろうか。以上、教材における練習問題の考察から明らかになったのは、学習者の視点に立った授業のあり方が必要であるという点である。

第 6 章

日本の大学における中国語学習者の学習意識調査

6.1 研究目的

本章では、日本の大学における中国語学習者の現状、および中国語の教師を対象にアンケート調査をおこなった。調査した期間は、2016 年 9 月から 2017 年 1 月にかけ、関西地区、北陸地区、北海道地区の 7 大学で共通科目として中国語を第二言語学習として学んでいる中国語学習者 513 名、中国語文学と中国語学を専攻する初級中国語学習者 74 名、計 587 名、そして大学で中国語を教えている中国語教員 200 名を対象として実施した量的アンケートの分析による研究である。

1950 年代、Gardner Lambert（1959）は言語学習適正や知能だけの知的な要因だけが言語習得の成果に影響するのではなく、なぜその言語を学んでいるのかという学習動機や、目標言語を話す態度などの上位的要因も同じように学習成果の要因であることを明らかにした。

日本の大学の中国語学習における先行研究としては、王松、古川、砂岡等（2016）による全国の学生 5000 人を対象とした 6 言語調査がある。この量的分析により日本語を母語とする中国語学習者における内発的価値（学習における期待）は、英語学習より高く、中国語学習は楽しいと感じる傾向が高いことが明らかとなった。しかし、同様に大学で中国語学習を行っていても、共通科目として中国語を学んでいる第二外中国語学習者と、中国語文学・中国語学を専攻している初級中国語学習者において、学習におけるニーズの違いがみられるはずであるが、まだこの点に着目した研究は行われていない。よって、本章の目的は以下の内容を含むものとする。

(1) 本章のアンケート調査は、日本の関西地区と北陸地区、北海道地区の大学の初級中国語学習者を対象とした学習意識を中心としたアンケートである。

(2) この考察を通し、共通科目（週 1 回、そして週 2 回）として中国語を学んでいる初級学習者はどのようなニーズを持ち、どのような問題点を抱えているのか明らかにし、

今後の日本の第二外中国語教育に活かしたい。

(3)実際の第二外中国語学習者の現状を把握する。限られた学習時間の中で、彼らが本当に学びたいと思うことを知り、そして的を絞って効率よく、楽しく、中国語の学習ができるようになるためのきっかけとし、今後の日本における中国語教育の発展に貢献をしたい。

6.2　調査の対象者数

表 1 と表 2 は、今回の調査が対象とした総数を集計したものである。中国語第二外学習者 513 名、中国語文学・中国語学専攻の初級学習者は 74 名となる。

表 1　第二外中国語初級学習者数

第二外中国語初級学習者	人文科学系（中国文学以外）	154	外国語系（中国語以外）	159	513
	自然科学	47	教育・教育養成系	36	
	医学・歯学系	5	社会科学系	87	
	一般教養系	10	芸術系	5	
	経営系	10	家政学・生活科学系	10	

表 2　中国語文学および中国語学専攻の初級学習者数

中国語文学、言語学専攻初級学習者	人文科学系（中国語文学）	34	外国語系（中国語学）	40	74

6.2.1　中国語学習者の授業数

外国語の学習は、学習時間が重要であると言われており、学習時間が多ければ多いほど、言語の上達において大きな影響があると考えられる。本節では、実際に第二外中国語学習者と中国語文学・中国語学専攻初級学習の 1 週間あたりの授業数を統計し、それぞれ表 3 と表 4 にして、グラフにした。このデーターにより分析を行いたい。

表 3　週当たりの中国語授業コマ数（第二外中国語学習者）

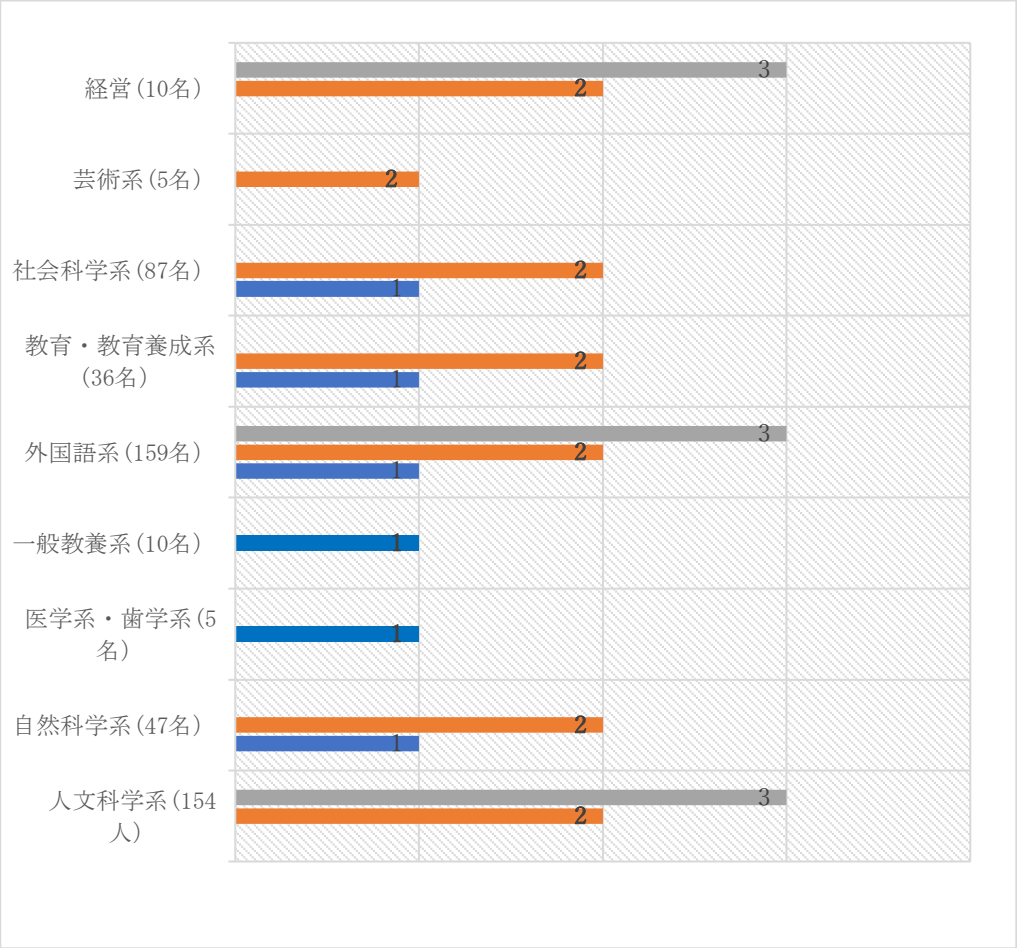


表 3 は日本の大学における第二外中国語学習者の 1 週間におけるコマ数である。縦軸が第二外中国語教育で共通科目として中国語を学んでいる学科名、横軸がそれぞれの学科で、1 週間に何コマ中国語の授業があるかを表している。横軸の青線が 1 コマ、オレンジ色が 2 コマ、灰色が 3 コマの授業があることを表している。表 3 をみていくと、ほとんどの第二外中国語教育の学習時間は 1 コマ、2 コマであることがわかる。

表 4　週当たりの中国語授業コマ数（中国文学・中国語言学専攻学習者）

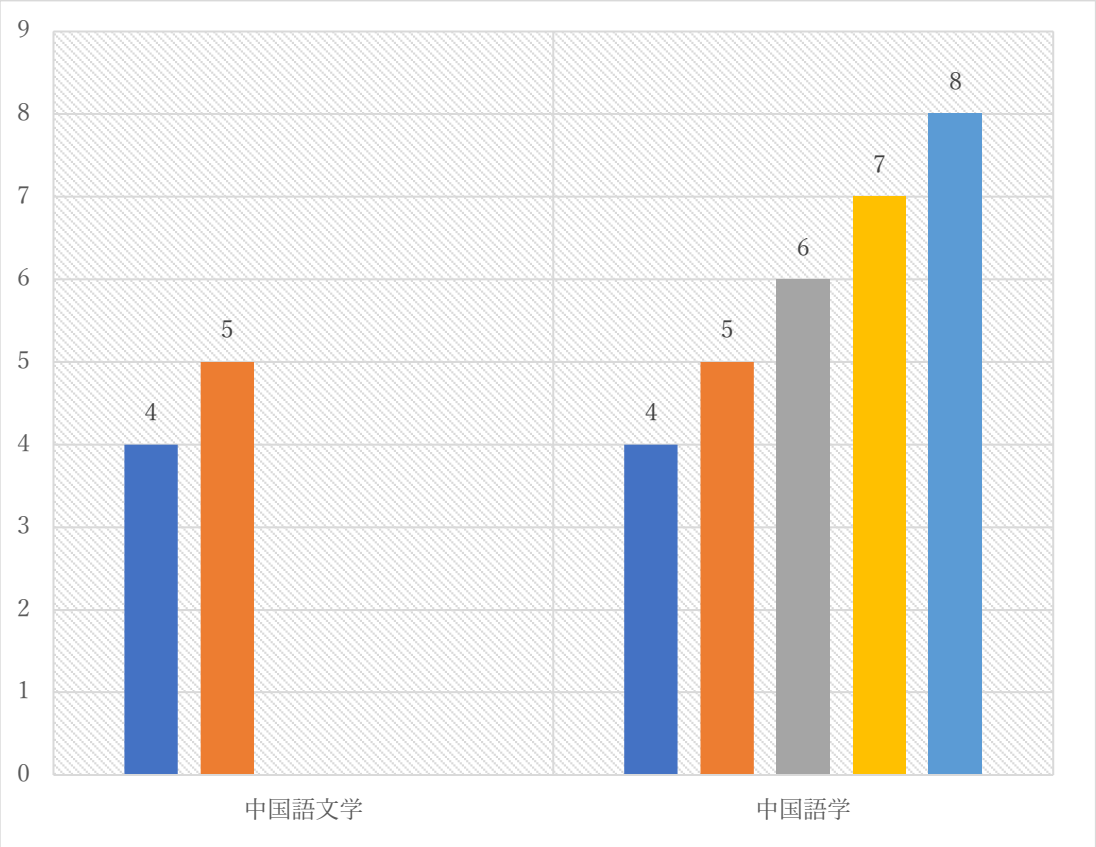


表 4 は、中国文学・中国語学専攻学習者の 1 週間の授業数を表したものである。中国語文学専攻に関しては 5 コマが一番多く、中国語学専攻に関しては 8 コマが最も多い。

6.2.2　中国語学習者の授業数に関する考察

表 3 の第二外中国語学習を共通科目として学んでいる学習者をみると、第二外中国語学習者においては、最も多い回答は 1 ～2 コマの授業数である。ただ、経営系、外国語系、人文科学系の学習者については、1 コマや 2 コマという回答のみならず、3 コマの授業を受講していることがわかる。一方で、中国語を専攻としている学習者に関しては、1 週間で最も多いコマ数は 5～6 コマであることがわかる。

この授業におけるコマ数からみても、1 週間に 1～2 コマしか授業数がない第二外中国語学習者と、専門課程の学習者とでは、中国語の学習に関して自然とインプットで

きる量に違いが表れてくる。そのため、結果としてアウトプットの量も同様に差が表れてくる。したがって、第二外中国語学習者の授業に関しては、彼らのニーズは何であるのか、学びたいことは何なのかという点を十分に把握し、1 から 2 コマという限られた授業時間の中で、学びたい内容に特化した教育を行うことが大事であると考えられる。

6.3 中国語学習者が希望する授業形態

本節では、中国語学習者が実際に望ましいと考えている授業形態についての調査結果について考える。学習者には、以下表 5 にある通り、A～I の 9 種類の選択肢を用意し回答してもらった。

表 5

A　文法、訳読中心の授業
B　会話を中心とした授業
C　中国語のネイティブスピーカーによる授業
D　読み書き、リスニング、会話を総合的に学ぶ授業
E　聞き取り重視の授業
F　日本人・ネイティブ教員に関わらず中国語のみで行う授業
G　実際に中国で使われている本やチラシなど、生の教材を扱った授業
H　中国語や中国語圏の文化ついて考える授業
I　その他

下記の表 6 は第二外中国語学習者が学科ごとに A～I のどの選択肢を選んだのかを表した表である。

表６　第二外中国語学習者が望ましいと思う授業形態

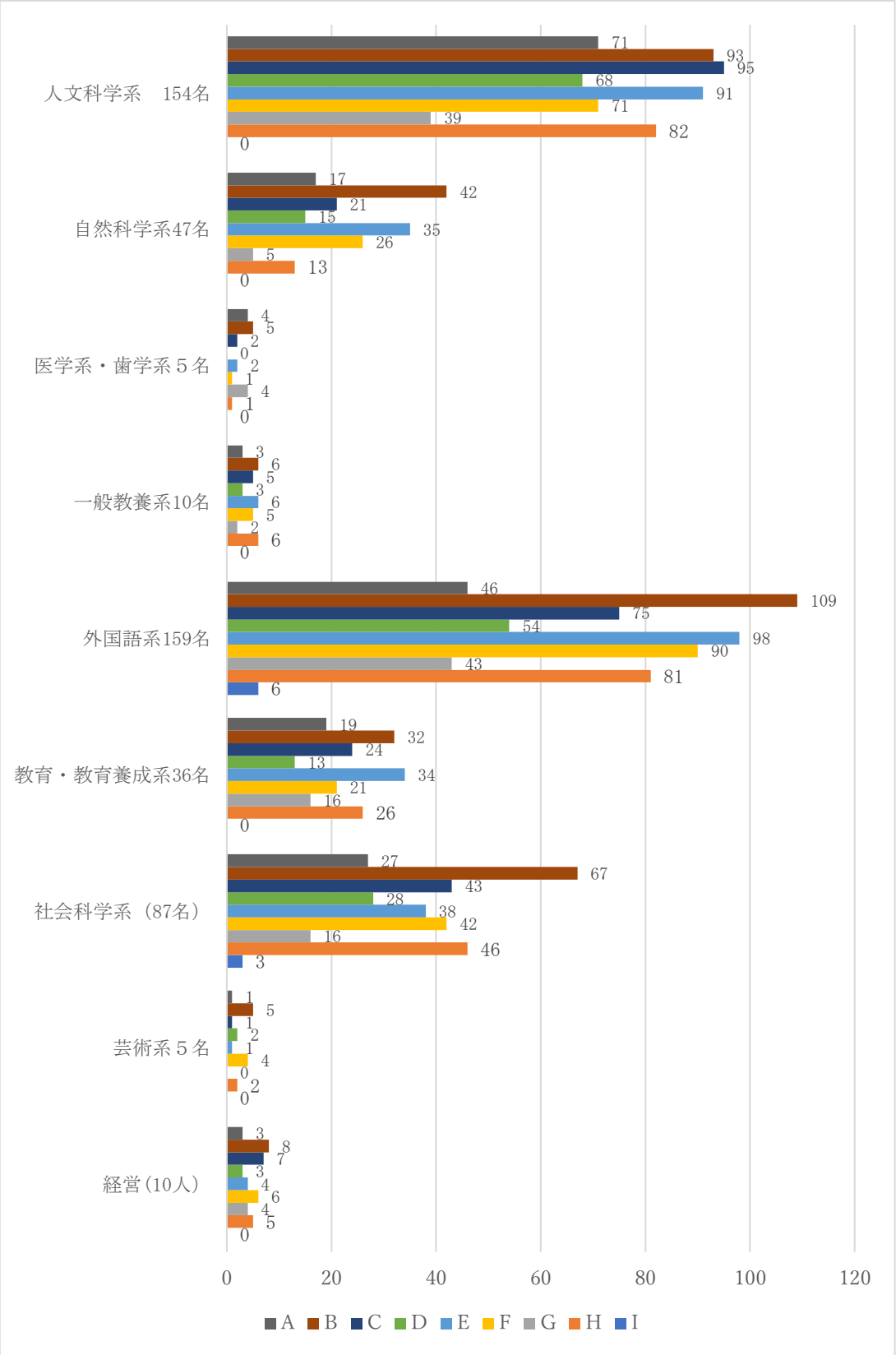
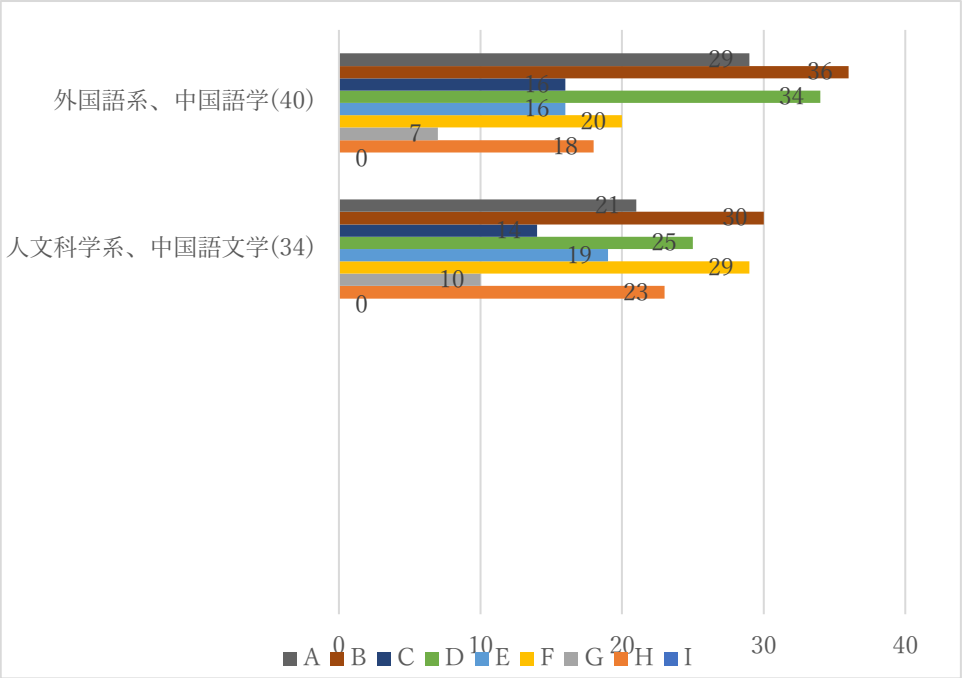


表７　中国語文学・中国語学専攻学習者が望ましいと思う授業形態



6.3.1 希望する授業形態に関する考察

中国語学習者が希望する授業形態について調査をおこなった結果、第二外中国語学習者と中国語文学および中国語学を専攻している学習者とで、希望する授業の形態において大きな違いがみられることがわかった。

表 6 でみられるすべての第二外中国語学習者のうち、人文科学系（154 名）から経営系（10 名）まで、中国語を第二外中国語の共通科目として学んでいる学習者は、総合的に B の「会話を中心とした授業」を希望している。特に、外国語系の学習者は、全体の 159 名中、109 名が「会話を中心とした授業」を希望している。

その他にも、自然科学系（全 47 名中）42 名、教育・教育養成系（全 36 名中）32 名、経営系（全 10 名中）8 名が、A の「文法．訳読中心の授業」よりも、やはり B の「会話を中心に学ぶ」ことを希望している。

また、基本的に授業は、一週間 1 コマ、あるいは 2 コマが最も多いにも関わらず、B の「会話を中心とした授業」を選択した学習者は、E の「聞きとり重視の授業」、そして、F の「日本人・ネイティブ教員に関わらず中国語のみで行う授業」を同時に

選ぶことが多く、これは、第二外中国語学習者の多くのが、90 分間文法に特化した授業よりも中国語による会話によるコミュニケーションを重視し、実践的な中国語会話の授業が望ましいと考えていることがわかる。

一方、中国語文学・中国語学専攻学習者が希望している授業形態と、第二外中国語学習者が希望している授業形態に関して、何点か相違点がみられる。表 7 は、中国語文学・中国語学専攻学習者が希望している授業形態についての調査結果である。専攻で中国語を学んでいるため、授業時間に関しては、週 5〜6 回、最低でも 4 回ほど授業がある。外国語系中国語学（全 40）、人文科学系中国語文学（36）における調査結果をみていくと、第二外中国語教育の学習者は、B の「会話を中心とした授業」を希望する者が多く、A の「文法や訳読中心の授業」を希望している数が比較的少ない。これに対し、専攻で初級中国語を学んでいる学習者は、A と B の両方が高い数字をしめしていることがわかる。それを証明するかのように、外国語中国語学では全 40 名中 36 名が、人文科学系中国語文学全 34 名中 25 名が、D の「読み書き、リスニング、会話を総合的に学ぶ授業」を望ましいと思う授業形態としてみている。このように、授業コマ数によって、自然と学習者が求める授業のニーズに相違が表れてくるのである。

6.4 中国語学習に楽しさを感じているのか

本調査では、「中国語の授業は楽しいと感じるか」という質問も行った。表 8 の A〜E は質問に対する回答の選択肢である。結果については下記の表 9、表 10 の通りである。

表 8

A　とても楽しい
B　わりと楽しい
C　普通
D　あまり楽しくない
E　まったく楽しくない

表 9　中国語の授業は楽しいか？（第二外中国語学習者）

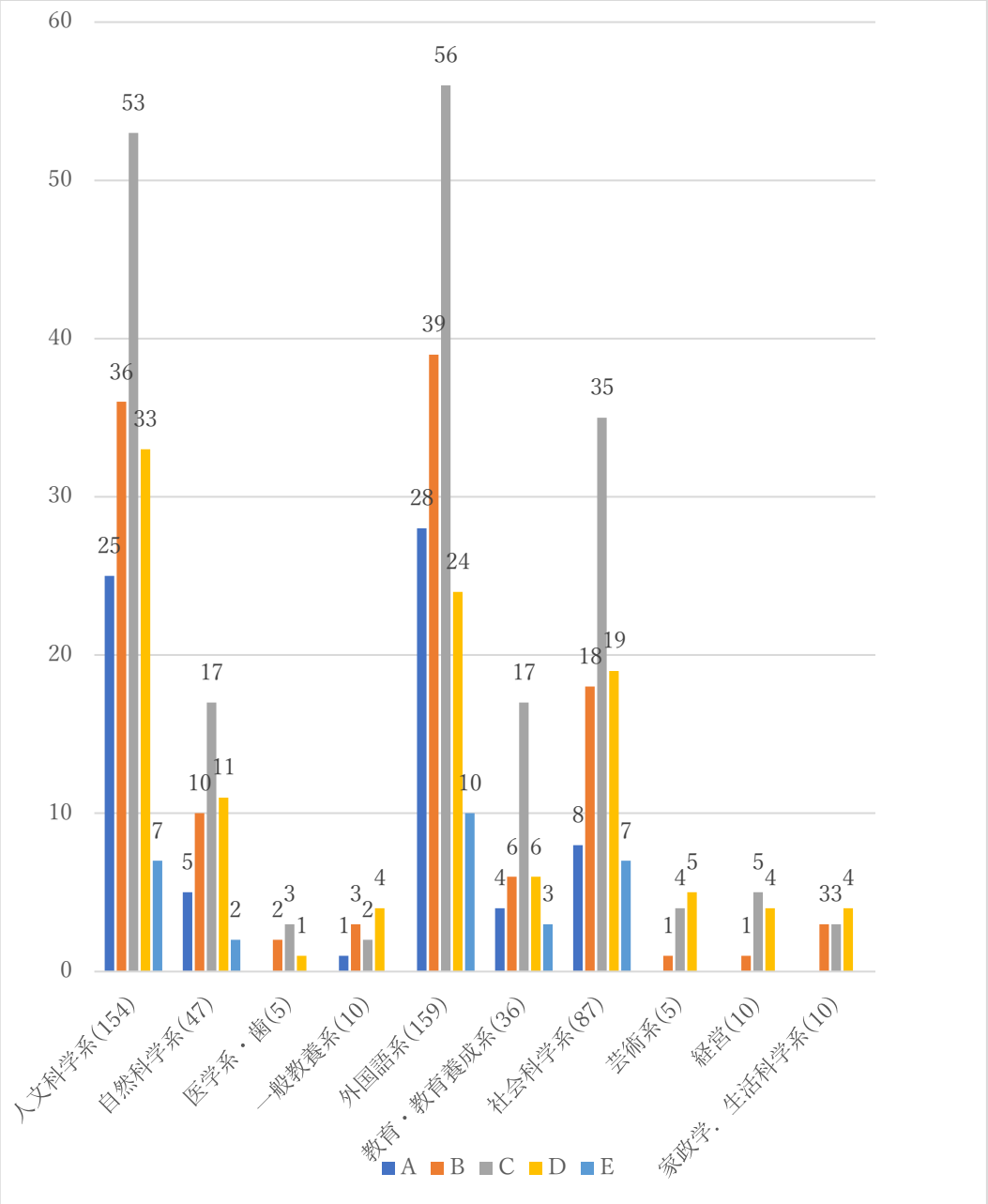
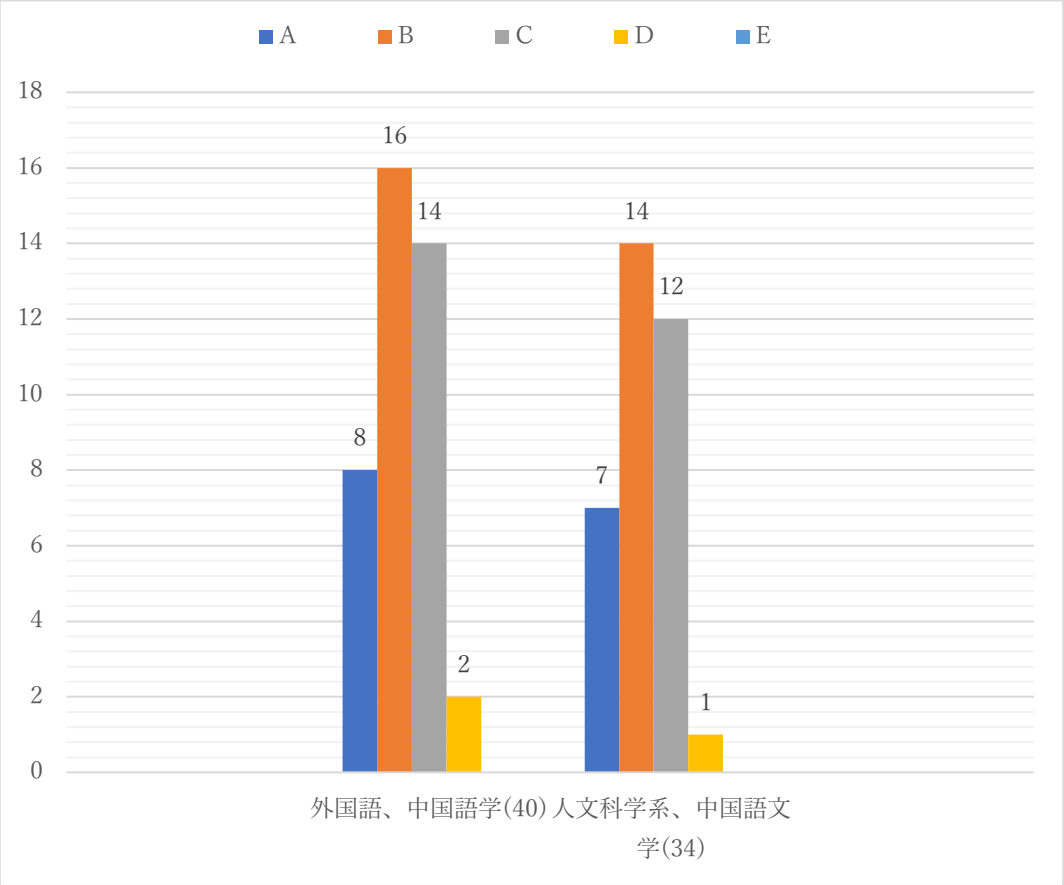


表 10　中国語の授業は楽しいか？（中国語文学および中国語学専攻学習者）



6.4.1　中国語学習の楽しさに関する考察

全体を総合的にみると、「中国語の学習は楽しいか」という問いに対し、平均して見られる特徴としては、C の「普通」と回答する学習者が全体的に最も多いことがわかる。これを肯定的な視点からみれば、平均的に楽しい授業ができているということを示しているということができる。だが、視点を変えれば、第二外中国語の学習者は現在の授業が「特別に楽しい」とも感じていないということにもなる。特に人文科学系の学習者、外国語系の学習者、社会科学系の学習者に関しては「普通」と回答する者が特に多い。

次に表 10 でみられる中国語文学・中国語学専攻学習者に関してはどうであろうか。外国語、中国語学、人文科学系中国語文学の考察結果を見ていくと、第二外中国語学習者と比較すると、B の「割と楽しい」と答えた学習者は、C の「普通」と答えた学

習者を若干上回っていることがわかる。また、D の「授業が楽しくない」と答えた学習者は 1 名から 2 名で、E の「全然楽しくない」と答えた学習者はいない。

第二外中国語学習者と、中国語言語学および中国文学専攻の学習者とでは、後者の方が充実して楽しい授業を受講できている傾向にあるといってよい。

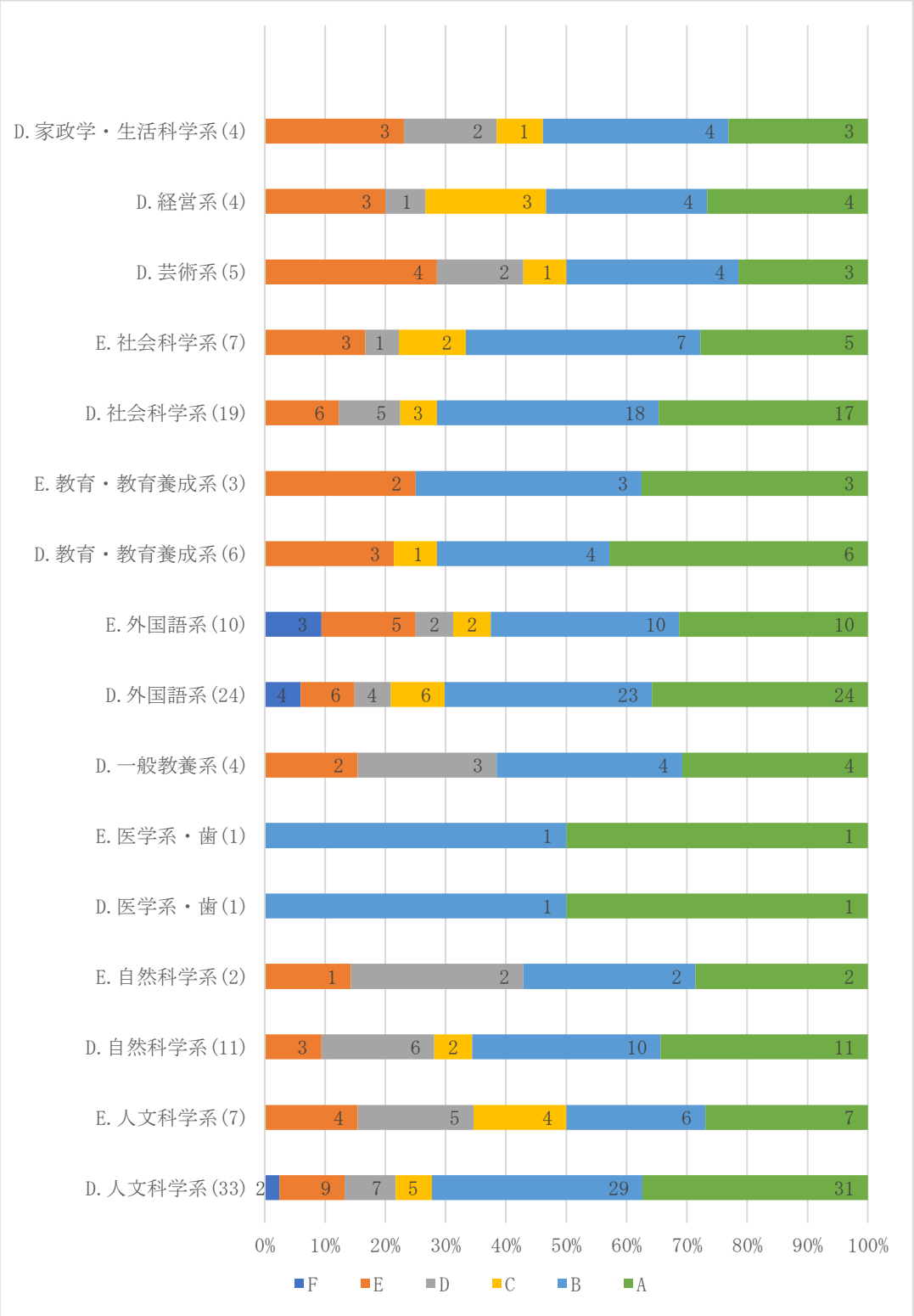
6.5 第二外中国語学習者が授業を楽しくないと考える理由

第二外中国語学習者については、D の「楽しくない」、E の「全然楽しくない」と答えた学習者に特化してさらに質問を行った。それは第二外中国語学習者が現在の中国語学習が楽しくないと感じる理由を明らかにするためである。そしてその結果を、第 7 章で提示する「自己表現育成のための教育案」構築のヒントとしたい。回答の選択肢は表 11 の通りである（「楽しくない」とする理由を 3 つまで回答可能）。調査結果は表 12 の通りである。

表 11

A. 発音が難しい
B 文法が難しい
C 使っている教材の枚葉が興味深くない
D.授業の内容がおもしろくない
E 授業の内容が分かり難い
F その他

表 12 第二外中国語学習者が中国語の授業を楽しくないと考える理由（7.4 で D と E と選択した学習者のみ）



6.5.1 中国語が楽しくない理由、その考察

表 12 を考察すると、中国語を楽しくないと感じる理由に関しては、1 つの共通点がある。すべての大学の学科で、ほぼすべての学習者が「楽しくない」とする理由は、 A「発音が難しい」、あるいは B「文法が難しい」と感じることが最も大きな原因であると考えられる。例として、D.人文科学系では、中国語の授業が楽しくないと答えた 33 名のうち 31 名が A の「発音が難しい」、そして 29 名が B の「文法が難しい」を選んでいる。そして 9 名が E の「授業の内容がわかり難い」と答えている。この授業の内容が分かり難いというのも、教師による指導法の他に、発音、そして文法に対する不安が影響しているということも考えられる

この対策として次のようなことが考えられる。「発音が難しい」ことが理由で中国語に苦手意識をもつ学習者に対しては、中国語の教材において発音に関する部分を工夫することも可能である。例えば、通常は教材の冒頭 7 ～8 ページ分は発音に関するものが大半である。ピンイン、四声、様々な発音に関する口の開き方など、専門的な学習がある点から工夫する必要がある。教材の冒頭は、言語を学び始めるスタートの部分であるため、まずは発音に関するページ数を換えたり、学ぶ順序を変えたり、さらにはページ数を減らしたりするだけでも、大きな違いが見えてくることが期待できる。これらの試みは、ただでさえ学習時間の短い第二外中国語学習者の苦手意識を克服するためには、非常に意義があると考えられる。すなわち、発音に関する教材のあり方も敢えて変えることが必要であると言える。

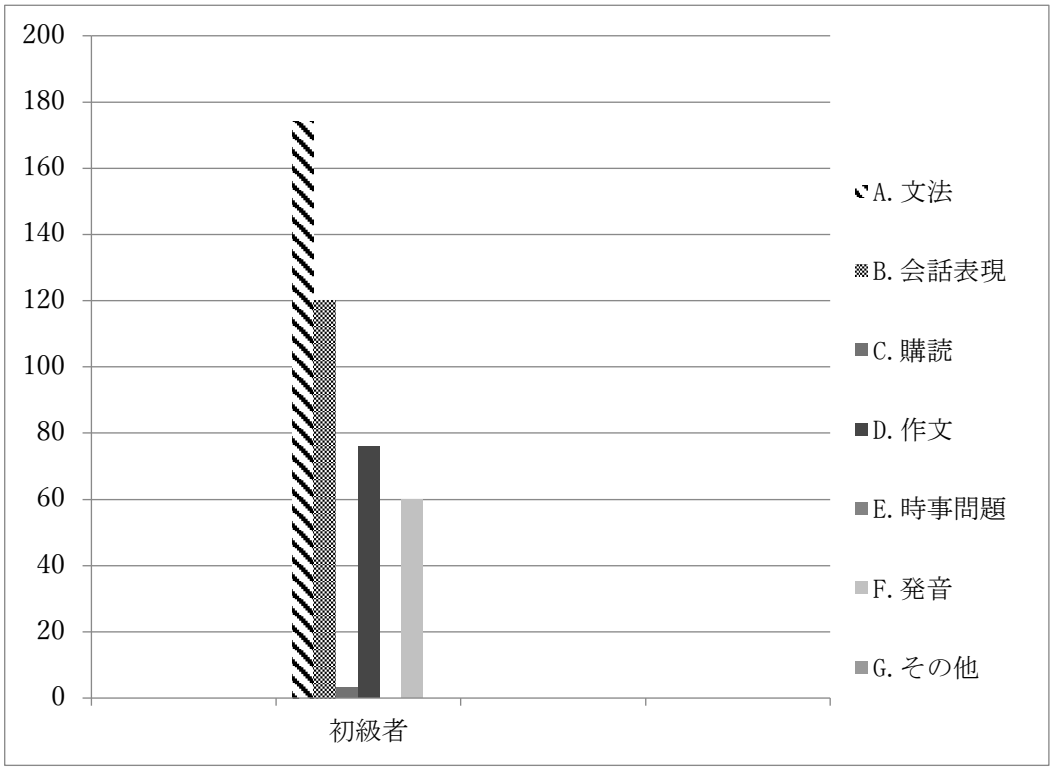
B の「文法が難しいこと」が理由で、中国語の授業が楽しくないと回答した学習者も同様である。すなわち、中国語の教材から工夫をすることである。本論第 5 章で、初級中国語教材に関する練習問題の調査を行ったが、会話やコミュニケーションなど自己表現を目標とした教材でありながらも、練習問題では文法訳読や文法構造を中心とするものがあった。現在の第二外中国語の学習者に対して行われている文法においては、授業時間数が限られているにもかかわらず、詰め込み方式で一気に学ばせようとする傾向が強いのではないだろうか。ただでさえ授業時間数が少なく、会話を中心

とした授業を行ってほしいという声も多くあるため、機能を重視しながら、むしろ機能を通してこそ文法への橋渡しとするような手法、文法を無理なく楽しく学ばせる工夫をする必要があるのではないだろうか。

6.6　中国語教師の指導内容と学習者が求めている学習内容に関する比較分析

本調査においては、関西地区、北陸地区、北海道地区における大学の非常勤、常勤講師を含む中国語教員 200 名を対象としたアンケートも実施した。初級中国語学習者に対し、どのような指導法をもとに授業をおこなっているのか調査した。表 13 は、学習級別に教師がどのような内容を中心として授業を行っているのかを示したものである。

表 13



グラフは縦軸が教員の数と指導内容を表している。この結果と、前出の「中国語学習者が望ましいと思う授業形態」を比較すれば、第二外中国語教育に関して教員と学生の間にあるニーズギャップを明らかにすることができる。

この表 13 によると、中国語教員が最も多く行っている授業の内容は、A の「文法が占める割合が高い授業」である。それに対し、第二外中国語学習者が最も望んでいる授業形態は会話表現を中心とした授業であり、学習者のニーズと実際に行なわれている授業の現状の間に大きなギャップが見られることがわかる。

一方、中国語文学・中国語学専攻学習者が望む授業形態（表 7）と比較すると、文法訳読中心の授業を希望している学習者も多くいるため、表 13 の示す現状の授業のあり方は、週 4～6 コマ以上ある学習者には適しているのかもしれない。だが、週 1～2 コマの授業を主要としている第二外中国語学習者については、どのような授業を行うのが適当であろうか。既述の通り、中国語学習は「発音が難しい」「文法が難しい」と感じている。発音と文法の学習が難しいと感じながらも、実際には中国語の自己表現をはじめとする会話を向上させたいという思いは強い。やはり、教員・学生間のギャップをよく見返り、学生のニーズを十分に踏まえながら、発音や声調、文法に縛られない指導法、会話表現を向上させる指導法がますます必要となってくると考えられる。

6.7 中国語の学習動機

調査では、中国語の学習動機についても質問をしている（表 15・16）。選択肢は以下の A～G、学生にはそのうち 3 つを選ばせた。

表 14

A　中国語に関心があったため
B　中国語を使って、実際に話しをしてみたいと思ったため
C　中国人の日常生活や食、娯楽などの中国の文化に興味があったため
D　将来仕事を探す上で、必要になると思ったため
E　以前、中国や高校で学んだことがあるため
F　単位をとるため
G　その他

表 15　第二外中国語学習者が中国語を学びたいと思った理由

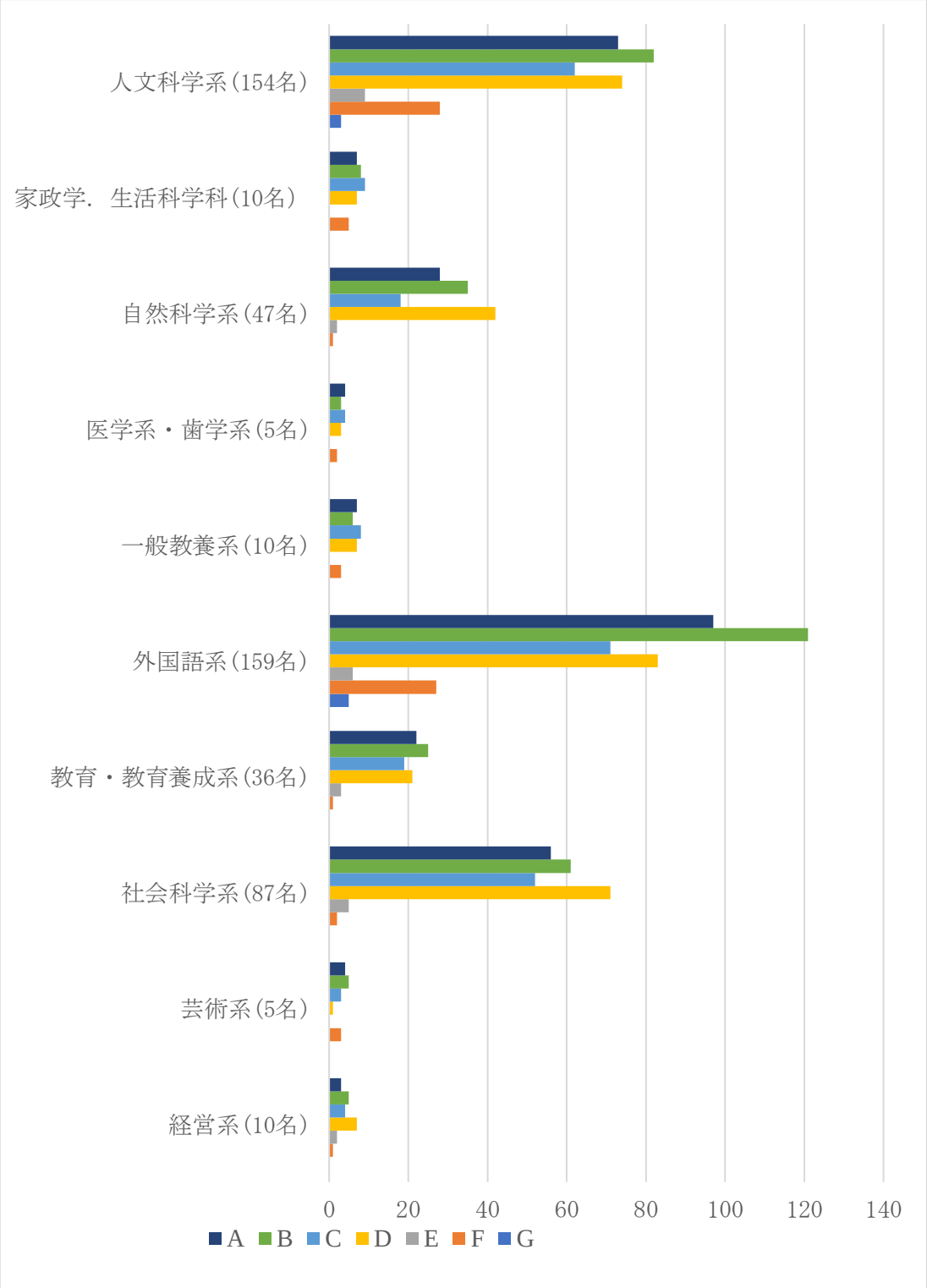
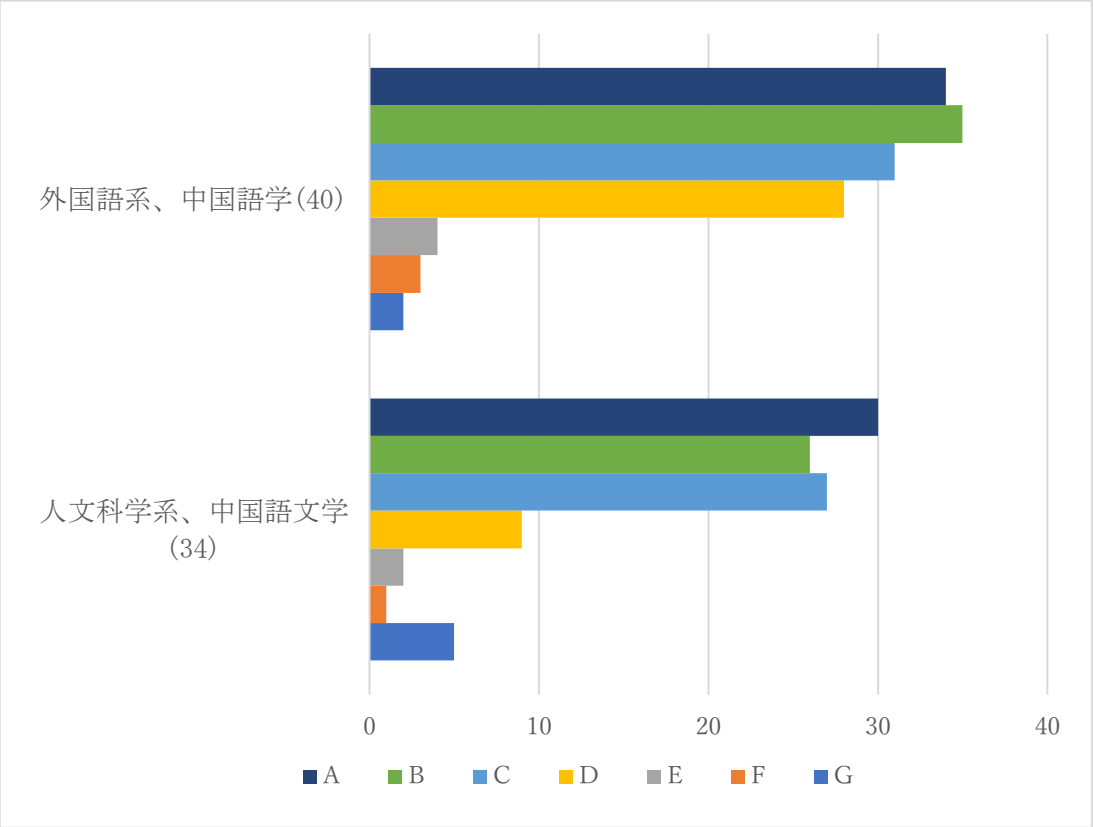


表 16　中国語文学・中国語学専攻学習者が中国語を学びたいと思った理由



6.8　中国語の学習動機に関する考察

学習動機については、第二外中国語学習者と中国語文学・中国語学専攻学習者の間に明らかな相違点が見られる。第二外中国語学習者においては、全体的に B の「中国語を使って実際に話しをしたいと思った」、D の「将来仕事を探す上で必要だと思った」が高いことがわかる。すなわち、第二外中国語学習を通し、より実践的な能力を身に着けようとしている傾向が強いといえる。A の「中国語に関心があったため」も比較的高い割合を示しているが、全体的に D の「将来仕事を探す上で必要だと思った」がより高いという点を考慮すると、A はむしろ D を補完するものとも考えられる。つまり、「将来仕事を探す上で必要となる」ために、「中国語に関心」がある。あるいは、「将来仕事で多少話せるようになりたい」と考えているために、「中国語を使って、実際に話しをしてみたい」と解釈することも可能である。

一方、表 16 の中国語文学・国語学専攻学習者については、第二外中国語学習者と異なる結果となっている。週に 6 コマ以上、あるいは 8 コマも中国語を学んでいるにも関わらず、「単位さえ取得できればよい」と答えた学習者もみられた。しかし、全体的には、中国語を学ぼうと思った理由は肯定的なものが多い。特徴としては、「中国語に関心があったため」「中国語を使って、実際に話しをしてみたいと思ったため」が多い。同時に、「将来仕事を探す上で必要になると思った」とする割合が、第二外中国語学習者よりも少ないことがわかる。また、人文科学系・中国語文学の学習者の中には、G の「その他」において、中国の歴史や漢詩が好きで、中国文学を学ぼうと思ったという声もあった。すなわち、外国語学・中国語言語学と、人文科学系・中国語文学で中国語を学んでいる学習者は、第二外中国語学習者よりも直接的に中国語そのものに関心があるため、使えるようになりたいというモチベーションがより高いことがわかる。ここでも、学習者のニーズに従って、教師が適した学習内容に気を配ることは非常に大事であると考えられる。

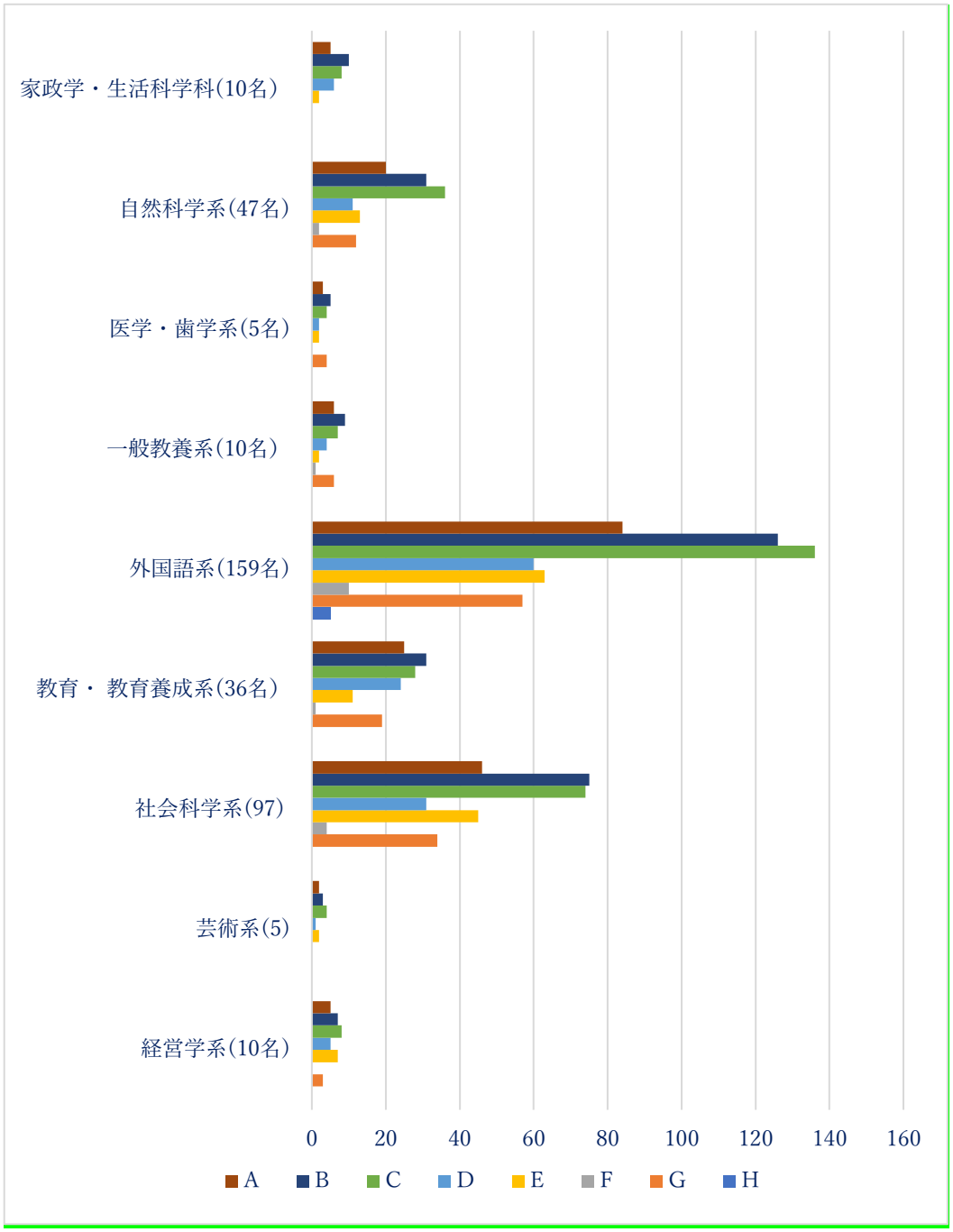
6.9　教材内容について

第二外中国語学習者に対して、関心のある中国語教材に関する質問も行った。選択肢は表 17 の通りである（3 つまで複数回答可）。

表 17

A 初歩的な文法を理解し、文章が読めるようになることに特化した教材
B 旅行に役立つ会話が多い教材
C 自分のことを伝えたり、表現したりするのに使える身近な表現の教材
D 中国の同世代の若い人たちの日常がわかる教材
E 専門分野に関連する教材
F 詩や小説などの文学作品にふれられる教材
G 中国や台湾、香港などの社会や文化がわかる教材
H その他

表 18 第二外中国語学習者が興味のある教材の内容



6.9.1 教材内容に関する考察

第二外中国語学習者が関心を持っている教材については、B の「旅行に役立つ会話が多い教材」、**C** の「自分のことを伝えたり、表現したりするのに使える身近な表現の教材」が最も多い。特に、外国語系の学科では 159 名中 126 名が B の「旅行に役立つ

会話が多い教材」を、136 名が C の「自分のことを伝えたり、表現したりするのに使える身近な表現の教材」を選んでいる。また、外国語系の次いで学習者の多い社会科学系でも、B については 97 名中 75 名、C は 74 名とほぼ全員に近い人数が選択していることがわかる。意外な点としては、G の「中国や台湾、香港などの社会や文化がわかる教材」が大きな伸びをみせていないということである。外国語系の学科では、G を選択した者は 159 名中わずか 57 名しかおらず、また D「中国の同世代の若い人たちの日常がわかる教材」についても 63 名とあまり多いとはいえない。これらの考察からわかることは、第二外中国語教育の学習者にとって中国の社会や文化などの教養的な要素は、教材においてはあまり求められていないということである。

以上のことから、学習者の多くの関心は、「旅行に役立つ教材」「自分を語るための身近で覚えやすい教材」であると考えられる。いいかえれば、第二外中国語学習者においては、より実践的な内容を学ぼうとする割合が高いといえる。

6.9.2 初級中国語学習者に対するインタビュー結果

第二外中国語学習者に対しては、中国語学習についてインタビューを行っている。結果は以下の通りとなる。

・もっと授業で習ったことを使って会話練習がしたい。

・中国語を学びたい学習者にとって現状の授業は少なすぎる。もっと学びたいという考えがあるのであれば、自分で学ぶしかない。

・中学や高校から中国語を学べることができるようになれば本当にいいと思う。

・中国語は大学生になって初めて習ったので、文法や単語が 1 からしかわからなかったので、基礎を重点的に学びたい。

・日本の日常生活でも使えるような中国語の日常会話が学びたい

・ピンインを暗記する意味はあるのですか？

・アルバイト先に中国人の人がいるので、大学で学んだ中国語が通じた時、とてもうれしい。

・中国語はこれから社会に出ていく上で絶対に必要になってくるので、英語と同じよ

うに中国語ももっと重要視されればいいなと思っている。

・初級：中国語の発音や会話ができるような授業がいいと思う。

・私は留学できないのですが、それでも話せるようになるような授業をしてほしい。今の授業はゆっくりだし 1 年生の時の復習でしかないからもっと実践的にしていきたい。

・私は発音が苦手で、そのせいで中国語に苦手意識があり、楽しいと思えません。だからもっとたくさん中国語で会話する授業だったらいいなあと思います。文化や歴史にもとても興味があるから知りたい。

・的 得 地などすべてのピンインが de なので、たまに混乱します。

・もっと中国語を話す機会がほしい。

・もっと中国人留学生を授業に呼んで沢山話したりしたいです。もっと上手く話せるようになりたいです。

・実際に中国語で会話する機会を増やした方がいいと思う。

・留学（カナダ）に行った時に中国人の友達に発音がうまいと褒められた。

・中国語が理解できた時のうれしさはリスニングで聞き取れたこと。

・日常会話において中国人の方と一緒に会話をしたり、教え合いができる環境がほしい。

・中国語で日常会話ができるようになりたい。

・旅行などに役立つ日常会話が多い本、簡単な日常会話が話せるようになりたい。

・授業では、インプットが多いので、アウトプットの授業を増やしてほしい。

・もっと授業の数を増やして会話ができるようなリスニングを重視した授業をおこなってほしい。

・中国語の文法と発音がとても難しい。

・一年生の内は、まだ初心者なので、日本語中心の授業の進め方でいいと思うが、２年以上、もしくは、留学経験者であれば中国語中心で進めてほしい。

・中国語に触れる機会を増やしたい。会話に関する内容が多いため、中国語に触れる機会＝会話を話すことができる機会を増やしたいということ。

・発音の授業がもっとたくさんあればいいと思う。

・日常会話を増やして話せるようになりたいです。（ある程度）

以上の調査・インタビューから明らかになったことは、学習者のニーズが「使える中国語」、「仕事で活用できる中国語」にあるという点である。他方、中国の文化や社会といった教養的な興味・関心から中国語を履修している割合が多くないという点、そして、教員がその状況に気づいていないという点（学習者と教師の意識ギャップ）である。このような状況の背景にあるのは時代の変化ではないだろうか。グローバル化の進展と同時に、経済面では日本と中国の関係がますます強くなっている。近年のアジアよりの観光客の増加により、日本の街中でも普通に中国の人々と出会うようになっている。このような変化の中で、学生の中国語学習に対する動機もより実用的、実践的なものに変化しつつあると考えられる。

以上の考察からすると、自己表現を中心としたアウトプット型の中国語教育は、時代のニーズからすると非常に重要であるとともに当然のことであり、今後ますますそのニーズが高まるのではないかと考えられる。中国語教育に携わる教員は、教養から実用への転換にしっかり意識を向け、時代の潮流に応える教育を行う必要がある。

第 7 章
自己表現育成のためのカリキュラム・デザイン案

7.1 自己表現育成のためのカリキュラム・デザインを作成するに至った理由

第 6 章での調査により、第二外中国語学習者の特徴として以下の点が明らかとなった。まず、第二外中国語学習者のコマ数のほとんどが週に 2 コマ、あるいは 1 コマが中心であるにも関わらず、多くの学習者は構造を中心とした授業や総合的な中国語の能力よりも、日常的に使える中国語、将来的に仕事の場面でも使えるような実践的な中国語会話能力を目指している。だが、現状では、教育の視点においても、学習の視点においても読み書きに偏った授業が多くみられる。したがって、これまでとは異なる思い切った角度から、学習者のニーズに適した実践的で会話に特化した教育を実現する方法を検討する必要がある。

次に、中国語の授業が楽しくないと答えた学習者の多くが苦手意識をもっている。それは授業時間が週 1～2 コマという限られた中で、規則的な文法や声調ができなくてはいけないというプレッシャーにその原因がある。この点を踏まえ、学習者が発音や文法の誤用を過剰に意識せずに、自由に自己表現ができるような授業手法を考える必要がある。

第二外中国語学習者にとって興味ある教材の内容としては、自分のことを伝えたり表現したりするのに使える身近な教材、旅行に役立つ会話の多い教材の割合が比較的高い傾向にある。しかし、実際に授業で使われている教材をみると、学習者の日常生活には馴染みの少ないトピックや設定場面が多い。

実際、学習者が学んだことをもとに自己表現を行うためには、その課のトピック（テーマ）に従って、教材中の登場人物を自分自身に置き換えるステップが必要である。自分であればどのように相手に伝え、自己表現をするのか、その点こそが重要である。また、レベルに応じて、自分がテーマに沿って話したいことを考え、それまでに学んだどのような表現を、どのような文法事項や発音で表現すればできるか考える作業が必要である。そして、それを実際に口に出して発信することで、うまく発信できたことと発信できなかったことに気づき、中国語の表現能力を段階的に習得してゆくのである。

7.2　従来の第二外中国語授業の一般的な流れ

これまで中国語教育では、日中・中日翻訳練習、簡体字の並び替え練習、声調を正しく漢字の上に振る練習、空欄に正しい漢字を入れて埋めるといった練習問題をこなし、

それに答えることができれば、1課分の授業が理解できたと考えられることが多かった。しかし実際には、学習内容をしっかりアウトプットできているか学習者にも判断できず、学んだことを通して自己自身について簡単な中国語で表現できているかでさえ分からないということもしばしば見受けられてきた。

また、学習者が中国語を学んだ結果、それぞれができるようになったことを発揮する機会や場、すなわち、努力した結果の成果物となるものもほとんど存在しなかった。学習者一人ひとりが努力の結果をクラス全体で共有し、表現するための機会や場を設けることで、学習者中心の授業となり、学習者自身のモチベーションを高めることにもつながるだろう。それはまた、一人ひとりの自信にもつながると考えられる。

本章では、これまで行われてきた第二外中国語学習の弱点を見直し、学習者が単なる機械的な練習だけで授業を終わらさず、そのもう一歩先につながる手法として、「自己表現プロジェクト」と名づけるものを中国語の授業に導入したい。これは、学習者の会話表現の活動を活性化させ、またクラス全体でシェアすることにより、自己表現能力を育成するためのプロジェクトである。

7.3「自己表現プロジェクト」のための教材について

(1)語学学習を行うにしても、授業を行うにしても、また復習をするにしても、教材は中国語学習の大事な要素のひとつである。それぞれの課で学んだトピックごとの語彙や表現を無駄にしないように、また、それらの語彙や表現をしっかりと定着させるため、トピック（テーマ）は1課ごとに立てるのではなく、4課ごとに相互に関連性をもたせて立てるものとする。

(2)第6章の調査で示したように、設定場面とトピックは学習者が自分のことに置き換えたときにイメージしやすいように、日本の大学での日常生活や日本の行事を中心に取り入れる。また、調査では旅行や将来の仕事に少しでも中国語を使いたいという希望もみられたため、単なる旅行ではなく、インターンシップ生として中国で働くというストーリーを取り入れる。

(3)本教材で使用する単語と文法事項については、中国語教育学会が1年90時間対象の第二外中国語学習者向けに提案しているものを中心に使用しているが、課によって、学習者がより気持ちを様々な視点から表現豊かに表現できるように、中国語教育学会の提案する範囲に入っていない語彙や文法点も使用している場合も多少ある。

7.3.1「自己表現プロジェクト」のための教材内容について

本論文が提案する自己表現育成のための「第二外中国語自己表現プロジェクト」は、次のような内容で構成される。教材に登場するのは、主人公の大学1年生の「田中光」、そして学習者自身を表す「あなた」である。この2人の会話内やストーリーを通し、内容を自分に置き換えて「自己表現プロジェクト」を行うことにより、最終的には初歩的な中国語で自分自身を紹介し、自己表現できるようになることを目指す。なお、このプロジェクトについては、全課で6回ほど（「自己表現プロジェクト①～⑥」）設けることとする。

(1)第1課から第3課は発音に関する内容である。

第1課から第3課にて基本的な中国語の発音の基礎を身につける。

(2)「自己表現プロジェクト①」のための教材内容―第4課から第7課まで

第4課から第7課までを「大学生活編 part1」と題し、これまでの中国語の教材のように、学習者が自分自身に置き換えにくい内容ではなく、設定場面とトピックは日本の大学における日常生活とした。教材の中で出てくる会話内容やストーリーにより、初歩的な中国語で自分紹介、家族のこと、好きなこと等に関し、自己表現できるようになることを目指す。表現した内容は録画し、簡体字による字幕もつけさせることで、会話のみならず文字によるアウトプットの力も習得させる。

(3)「自己表現プロジェクト②」のための教材内容―第8課から第11課まで

第8課から第11課までを「大学生活編 part2」と題し、第4課から第7課と同様に場面を日本の大学に設定し、それと関連するトピックを取り上げた。しかし、内容に関しては、単に自己紹介や好きなこと、家族のことだけではない。自分のスケジュールや天気や時間のことなど、さらに表現の内容の幅を広げ、最終的にはパワーポイントを活用して、大学生活の月曜日から金曜日までのスケジュールの中で好きな時間を語ることができるようにする。

(4)「自己表現プロジェクト③」のための教材内容―第12課から第15課まで

第12課から第15課までは「日本を巡る編 part1」と題した。これまでの中国語教材は、中国国内の文化や生活を伝えることにページを割くものが多くみられた。しかし、近年各国から日本を訪れる中国語母語話者も日々増えてきている。そのため、日本という国の特色や、注目されているものを通して、中国語で自己表現できることも非常に大事であると考えられる。また、日本のことを相手に伝えるためには、情報を調べること

も欠かすことができない。したがって、調べたことを中国語でまとめる作業や、中国語母語話者にインタビューを行い、その内容を自分たちの考えと比較しながらまとめて発表することも行う。これらは、3〜4 人のグループで行うプロジェクトとする。

(5)「自己表現プロジェクト④」のための教材内容―第 16 課から第 19 課まで

第 16 課から第 19 課までは「日本を巡る編 part2」と題した。日本の新幹線、日本の朝食、日本のアニメーション、日本のスポーツなど、世界の中でも注目される日本の事象について学んでいく。最終的には、第 12 課から第 19 課までの内容も含め、初めて日本を訪れる中国語母語話者を想定して、日本について紹介する。そのためにはどのような風物や場所を紹介すべきか、3〜4 人のグループで考え、ポスター作りを通して自己表現することを目指す。

(6)「自己表現プロジェクト⑤」のための教材内容―第 20 課から第 23 課まで

第 20 課から第 23 課までは、「異文化理解編 part1」と題した。普段の日常生活の中で中国語、中国の人々、そして中国の文化に接することが日々ますます増加している。しかし、そのような環境にいながらも、中国に対する印象やイメージに関しては、実際の中国とは違う点も多くみられる。そこで、第 20 課から第 23 課は、教材中のストーリーに、実際に日本にある中華料理、支払方法の変化、日本にいる中国留学生のアルバイト事情などのトピックを取り入れた。設定場面は日本であるが、トピック内容は中国に関連するものにすることで、私たちが、普段の日本の生活の中で抱いている中国のイメージをより実像に近づける課とした。第 20 課から第 23 課までの「自己表現プロジェクト異文化理解編 part2」として、学習者に中国人観光客が日本を訪れた際の旅行スケジュールを考えてもらう。それを文章化した上で自己表現をさせる。さらには、組み立てたスケジュール案を Web 上にアップロードし、クラス全体で閲覧できるようにする。スケジュール案の中で、最も優れた旅行プランを立てたグループを全員で選出する。

中国人旅行者にお薦めの観光スポットはどこにするのか、旅行中の 1 日をどのように過ごすのか、どのような食事が好ましいのか。これらのプランを立てる中で、どうすればより日本を楽しんでもらえるのかということを考えることになる。また、相手の視点から物事を考える異文化理解の一歩となる。さらには、日本のメリットを自分なりに考えて表現することも貴重な学びである。

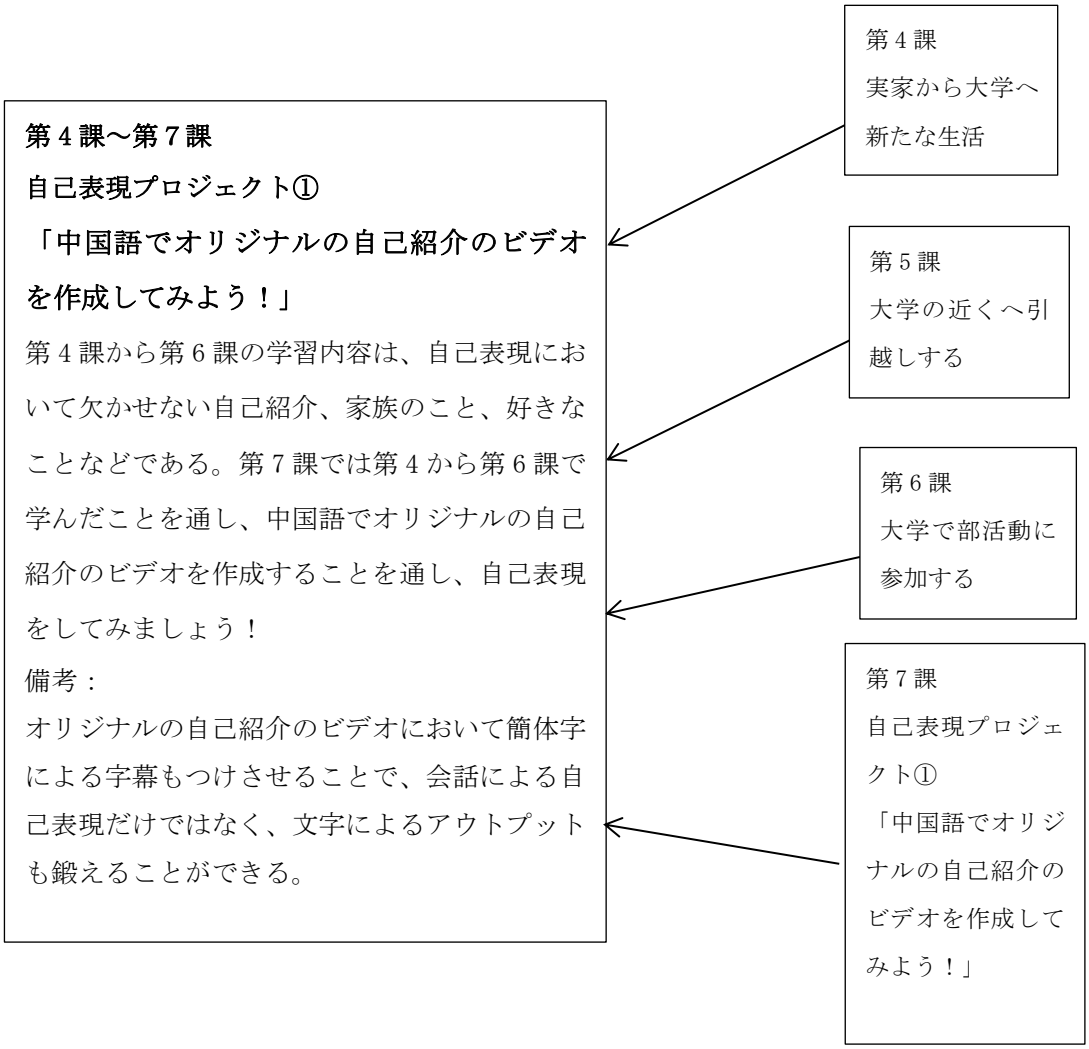
(7)「自己表現プロジェクト⑥」のための教材内容第―第 24 課から第 27 課まで

多くの第二外中国語学習者は、将来的に多かれ少なかれ中国語が役立つのではないかと考え、授業を履修している。だが、現在多く見られる中国語の教材では、仕事で使う

中国語は難しいため、初級学習者には適さないと考える傾向が強い。そこで、第 24 課から第 27 課を「異文化理解編 part2」と題し、初級学習者の多くが大学生であることも考慮に入れ、教材のテーマを中国におけるインターンシップとした。中国にある日系企業で主人公がインターンシップを行うことを通し、また、中国での様々な経験を通し、自分がどのような気持ちや感情を抱いたか表現させる。第二外中国語学習の 1 年間の総仕上げとして、自分が中国語を学んで変わった、または成長したと感じる点をスピーチにまとめて発表し、自己表現育成の締めくくりとする。

7.3.2「自己表現プロジェクト」の学習イメージ

第二外中国語教育のための「自己表現プロジェクト①」―大学生活編 part 1―



第二外中国語教育のための「自己表現プロジェクト②」―大学生活編 **part 2**―

第 8 課～第 11 課
自己表現プロジェクト②
「パワーポイントを使って、中国語で自分のスケジュールについて発表してみよう！」

第 8 課で 1 年の季節や気候が中国語で言えるようになる。第 9 課と第 10 課で曜日や授業、そして試験のことを学ぶ。第 10 課より、比較の表現を学んでいくことができる。

第 11 課では、第 8 課から第 10 課まで学んだことを通し、学習者は大学生活の中の 1 週間のスケジュールの中で、自分が好きな曜日のスケジュールをパワーポイントで作成し、紹介する。また、パワーポイントの内容は簡体文字で書くため、話すためのアウトプットだけでなく、書くためのアウトプットも鍛えることができる。最終的には、自分のスケジュールに関して自己表現ができるようになることを目標とする。

第 8 課
大学の窓から
みえる四季

第 9 課
図書館で偶然
友達に会う

第 10 課
勉強の時間

第 11 課
自己表現プロジェクト②
「パワーポイントを使って、中国語で自分のスケジュールについて発表してみよう！」

第二外中国語教育のための「自己表現プロジェクト③」―日本を巡る編 **part 1**―

第 12 課～第 15 課
自己表現プロジェクト③
「中国語母語話者に直接インタビューしてみよう！」

第 12 課では、関西について、第 13 課では清水寺、第 14 課では奈良など、日本の歴史ある場所などを設定場面とした会話を通し、日本の良さを中国語で自己表現することを学んでいく。

第 15 課の「自己表現プロジェクト③」は、自分の大学にいる中国語母語話者の学生に日本で好きなもの、または好きな場所についてインタビューをしてみよう！」というものである。インタビューした内容を自分のことと比較したり、自分の感想も取り入れながら、インタビューしたことを好きな形式でまとめ、自己表現してみよう。

備考：

この自己表現プロジェクトは、3～4 人でグループとなって発表するものである。中国語母語話者に直接インタビューして情報を収集するということは、中国語でどのように質問すれば、相手から聞きたい情報を得ることができるのか考えることにつながる。また、グループを通した共同作業の中で、発信することだけでなく、相手に通じるように、文の構成や発音にも注意することを学ぶこともできる。

第 12 課
関西圏は広い

第 13 課
清水寺へ行こう

第 14 課
奈良公園に行く

第 15 課
自己表現プロジェクト③
「中国語母語話者に直接インタビューしてみよう！」

第二外中国語教育のための「自己表現プロジェクト④」―日本を巡る編 part 2―

第 16 課～第 19 課
自己表現プロジェクト④
「紹介したい日本が誇れることに関するオリジナルポスターを作成しょう！」

第 16 課では新幹線、第 17 課では日本を代表するアニメーター宮崎駿の作品展示会、18 課では 2018 年、ワールドカップの日本選手など、日本で人気のある乗り物、アニメ、スポーツを中国語で学び、それに対する自分の気持ちを自己表現することを学んでいく。

第 19 課の「自己表現プロジェクト④」では、中国語母語話者に日本が誇れるものを紹介するのであれば、どのようなものを紹介したいのか考え、ポスターを作成し、中国語で自己表現する。知識や情報も必要であるため、ポスターを仕上げる過程の中でリサーチする力も習得できる。

備考：
このプロジェクトは 3～4 人で行うことを考えている。学習者同士が実践的な共同作業を通して、会話によるアウトプット力をより鍛えることができる。

第 16 課
新幹線に乗って実家へ帰郷

第 17 課
宮崎駿アニメ作品展示会

第 18 課
20118 年、ワールドカップの日本選手

第 19 課
自己表現プロジェクト④
「日本が誇れることに関するオリジナルポスターを作成しょう！」

第二外中国語教育のための「自己表現プロジェクト⑤」―異文化理解編 part 1―

第 20 課～第 23 課

自己表現プロジェクト⑤

「日本を訪れる中国人旅行者に旅行のスケジュールプランを立てよう！」

第 20 課の、中華街の中華料理店（上）、第 21 課の、中華料理店(下)、第 23 課、ドラッグストアで通訳のアルバイトをトピックとしたストーリーを通し、実際に日本にある、日本人向けの中華料理や、日本にいる中国留学生のアルバイト事情などのトピックを取り入れた内容でちょっとした日常生活の異文化理解を学んでいく。

第 23 課、「自己表現プロジェクト⑤」は、近年増えてきている中国人旅行者に 1 日のスケジュールプランを立てることで自己表現を行う。

お勧めの日本の観光地はどこになるのか、旅行の 1 日をどう過ごすのか。どのような食事にするのか、どのようなお勧めの場所に向かうのかなど、それぞれが良いと思うプランを考える。

備考：

発表後、プランを Web 上にアップし、クラス全体で観る。その中で、最も優れた中国人旅行者向けのプランを立てた学習者を選ぶ。

第 20 課
中華街の中華料理（上）

第 21 課
中華街の中華料理(下)

第 22 課
ドラッグストアで通訳のアルバイト

第 23 課
自己表現プロジェクト⑤
「日本を訪れる中国人旅行者に旅行のスケジュールプランを立てよう！」

第二外中国語教育のための「自己表現プロジェクト⑥」―異文化理解編 part2―

イメージ図

第 24～第 27 課
自己表現プロジェクト⑥「1 年間の中国語学習を振り返って、中国語でスピーチをしてみよう！」

第 24 課～第 26 課は「異文化理解編 part2」と題し、初級学習者の多くが大学生であることも考慮に入れ、これまでの設定場面を日常生活の中の日本から中国に切り替えた。主人公は、第 24 課で初めて中国行きの飛行機に乗る。第 26 課では中国でインターンシップをする際、職場で自己紹介したり、お客様にお勧めの場所を提案したりする。自分が初めて経験したことに関し、どのような気持ちや考えを抱いたのか、自己表現することを学ぶ。
第 27 課では、第二外中国語学習の 1 年の最後の総仕上げとして、自分が中国語を学んで変わったと感じる点を、スピーチで発表し、自己表現できるようになることを目指す。

第 24 課
中国航空に乗る

第 25 課
新しい職場での自己紹介

第 26 課
旅行会社ではじめてのインターンシップ

第 27 課
自己表現プロジェクト⑥
「1 年間の中国語学習を振り返って、中国語でスピーチをしてみよう！」

7.3.3 実施要件について

目的

本授業は、第二外中国語学習者を対象とした中国語会話授業である。その中でいかにして、学習者の自己表現育成を向上させていくかを目的とする。

対象者

それぞれの課で「自己表現プロジェクト」の発表もあるため、第二外中国語教育学習者、約 25 人前後のクラスを対象としたもの。

学習時間と授業形態

週 2 コマ、1 年 60 コマ、90 時間の第二外中国語学習者を対象とした中国語会話授業。

注意事項

オリエンテーション時に必ず学習者に話しをする。また、各課の自己表現プロジェクトに至るまでの授業内容も並行して説明する。また、各課の自己表現プロジェクトの内容に合わせて、学生には、それぞれのプロジェクトをこなすための宿題を随時課す。基本的には、それぞれの課の到達目標にある内容を録音し、教師に添付ファイルとして毎回送付する。

それぞれの課における「自己表現プロジェクト」に関する評価基準：

自己表現プロジェクトには、1 人で行うものと 3～4 人のグループで行うものがある。発表者が発表を通し表現したことに関し、A～G の 7 つの評価項目について、下記の 1～5 点で評価する。但し、A～G の評価基準はあくまでも参考であり、クラス全体では自己表現プロジェクトによって評価基準を足したり減らしたりする可能性がある。それぞれ、発表者が表現したことに関し、次の A～G の項目に関し、1 から 5 の点数をつける（1. 大変良い 2. 良い　3. 普通　4. あまり良くない 5. 悪い）。

A. 興味深い発表内容であったか

B. 大きな声をだして話せていたか

C. メモを見ずに話せていたか

D. 発音がきれいか

E. スピーチをする際、気持ちを込めて話せていたか

F. 動画がある場合、動画の内容がよいか

G. 発表内容の構成がよいか

7.4「自己表現プロジェクト」の目次について

「学んで、実践して、自己表現できることを体現する実践的な中国語教材」

目次

第 1 課　発音①……138

第 2 課　発音②……139

第 3 課　発音③……142

大学生活編 part 1
基本的な自己紹介や挨拶を通して自分自身を表現する
設定場面：日本

第 4 課　実家から大学へ新たな生活……145
到達目標：自己紹介ができる。挨拶ができる。

第 5 課　大学の近くへ引越し……150
到達目標：家族の人数や年齢についていえる。

第 6 課　大学で部活動に参加する……159
到達目標：自分が好きなことや趣味が中国語で話せる

第 7 課　自己表現プロジェクト①……166

自己表現プロジェクト①
「中国語でオリジナルの自己紹介のビデオを作成してみよう！」
第 4 課から第 6 課の学習内容は、自己表現において欠かせない自己紹介、家族のこと、好きなことなどである。第 7 課で、中国語でオリジナルの自己紹介のビデオを制作することを通し、自分で初めての中国語による自己表現をやってみよう。

大学生活編 part2

設定場面：日本

第 8 課　大学の窓からみえる四季 ……169

到達目標：今の季節、今日の天気について話すことができる。

第 9 課　図書館で偶然友達と会う……175

到達目標：理由を説明できるようになる

第 10 課　勉強の時間……181

到達目標：困った時に協力をお願いすることが表現できる

第 11 課　自己表現プロジェクト②……186

自己表現プロジェクト②

「パワーポイントを使って、中国語で自分のスケジュールを発表してみよう！」

第 8 課で 1 年の季節や気候が中国語で言えるようになる。第 9 課と第 10 課で曜日や授業、そして試験など大学での自分の時間割やスケジュールについて表現する方法を学ぶ。第 10 課より、比較の表現を学んでいくことができる。これらの学習を通し、第 11 課では、大学生活の中の一週間のスケジュールの中で、自分が好きな曜日のスケジュールをパワーポイントで作成し、紹介する。また、パワーポイントの内容は簡体文字で書くため、話すためのアウトプットだけでなく、書くためのアウトプットも鍛えることができる。最終的には、自分のスケジュールに関して自己表現ができるようになることを目標とする。

日本を巡る編 part1

設定場面：日本

第 12 課　関西圏は広い……188

到達目標：中国語で関西地区はどんな場所があるか話すことができる

第 13 課　清水寺へ行こう……193

到達目標：清水寺はどんなところか簡単に紹介できる

第 14 課　奈良公園へ行く……196

到達目標：奈良公園はどんなところか簡単に紹介できる

第 15 課　自己表現プロジェクト③……200

自己表現プロジェクト③

「中国語母語話者に直接インタビューしてみよう！」

第 12 課から第 14 課では、関西圏の良さや、清水寺、奈良など日本の歴史ある場所を設定場面とした会話を通し、どのように紹介するのか学んでいく。第 15 課では、学習した表現を通し、大学にいるに中国人留学生に、日本の好きなもの、好きな場所についてインタビューをしてみよう。そして、その内容をまとめグループで発表をする。

備考：このプロジェクトは 3～4 人で行うことを考えている。学習者同士が中国人留学生にインタビューするという、実践的な共同作業を行っていく中で、それをどのように、発表時に他者に伝えるか、考えることで、自己表現を学ぶことができる。また、質問力、会話によるアウトプット、書くことのアウトプットを鍛えることができるだけでなく、仲間同士で、共同で物事をやり遂げること大切さも学ぶことができる。

日本を巡る編 part2

設定場面：日本

第 16 課　新幹線に乗って実家へ帰郷……202
到達目標：交通上の利便性を話すことができる。

第 17 課　宮崎駿アニメ展示作品……205
到達目標：宮崎駿の作品の中で何が好きか、その理由を簡単に伝えられるようなる。

第 18 課　2018 年ワールドカップで活躍する日本選手……211
到達目標：人気のあるスポーツを通して、自分はどのように感じるのか伝えることができる

第 19 課　自己表現プロジェクト④……215

自己表現プロジェクト④

「紹介したい日本のことに関するオリジナルポスターを作成しょう！」

第 16 課から第 18 課まで、日本の乗り物、アニメ、スポーツに関して、その特徴を表現することを学んでいく。

第 19 課の自己表現プロジェクト④では、日本を訪れる中国人旅行者に何を、どのようなことに紹介したいのか、なぜそれを紹介しょうと思ったのか、ポスター作りを通して自己表現を行う。そして、自分が紹介したいことに関して、知識や情報も必要であるため、ポスターを仕上げる過程の中でリサーチする力も習得できる。

備考：このプロジェクトは 3～4 人で行うことを考えている。学習者同士が実践的な共同作業を通して、ポスター作り通した自己表現を行うことで、会話によるアウトプットを鍛えることができるだけでなく、共同で物事をやり遂げることも学ぶことができる。また、頭の整理ができ、書くことのアウトプット力を鍛えることもできる。どうして自分たちはそれを紹介したいのか、そのメリットも述べる必要があるため、自分たちで十分にリサーチをすることも必要となる。

異文化理解編 part1

設定場面：日本

第 20 課　中華街の中華料理（上）… …… …… 217

到達目標：「様々な」という表現を使って会話ができる

第 21 課　中華街の中華料理（下）……222

到達目標：特徴を表現できるようになる

第 22 課　ドラッグストアで通訳のアルバイト……226

到達目標：時間が経った結果のことを表現できるようになる。

第 23 課　自己表現プロジェクト⑤……229

自己表現プロジェクト⑤

「日本を訪れる中国人旅行者に旅行のスケジュールプランを立てよう！」

自己表現プロジェクト⑤は「日本を訪れる中国人旅行者のために旅行プランを立てよう！」というものである。第 20 課から第 22 課までで学んだことを通し、日本を訪れる中国人旅行者のために、あなたがいいと考える一日のスケジュールプランを立て、それを発表することで自己表現を行う。発表後、学習者が考えたスケジュールプランは、インターネットによってクラス全体が閲覧できるようにする。そして、最終的に最も優れたプランを立てた学生を選出する。

異文化理解編 part2

設定場面：中国

第 24 課　中国航空に乗る……231

到達目標：初めてのことを経験する気持ちを表現できる

第 25 課　新しい職場での自己紹介……236

到達目標：自己紹介を含めた自己アピールを中国語で表現することができる

第 26 課　旅行会社ではじめてのインターンシップ……242

到達目標：相手に提案することを学ぶ

第 27 課　自己表現プロジェクト⑥……248

自己表現プロジェクト⑥

「1 年間の中国語学習を振り返って、中国語でスピーチをしてみよう！」

第 24 課から第 26 課は「異文化理解編 part2」と題し、設定場面が日常生活の中の日本から中国に切り替えた。主人公は、初めて中国行きの飛行機に乗り、中国でインターンシップを行う。職場で自己紹介をしたり、仕事としてお客様に何かを提案する体験を通し、自分が初めて経験したことに関し、どのような気持ちや考えを抱いたのか、自己表現することを学ぶ。第 27 課では、第二外中国語学習の 1 年の最後の総仕上げとして、自分が中国語を学んで変わったと感じる点をスピーチで発表し、自己表現できるようになることを目指す。

7.5 「自己表現プロジェクト」のための序説

本編の「自己表現プロジェクト」の教材は、これまでの日本で出版された中国語の教材には見られなかった形のものであり、学習者の自己表現育成を画期的な方法で提案した。これまでのように、学習者は受動的に授業を受講し、中国語による自己表現を実際に行ったことがないままであることが多い。理屈では、中国語母語話者と多くコミュニケーションと取ること、よく話すことで上達していくことは誰でも分かっているが、どのようにして話かけたらいいのか分からない。話しかけるのが恥ずかしい、何を話したら良いか分からないなど、様々な考えが頭の中に浮かび、結局のところ躊躇してしまうということが多いのである。

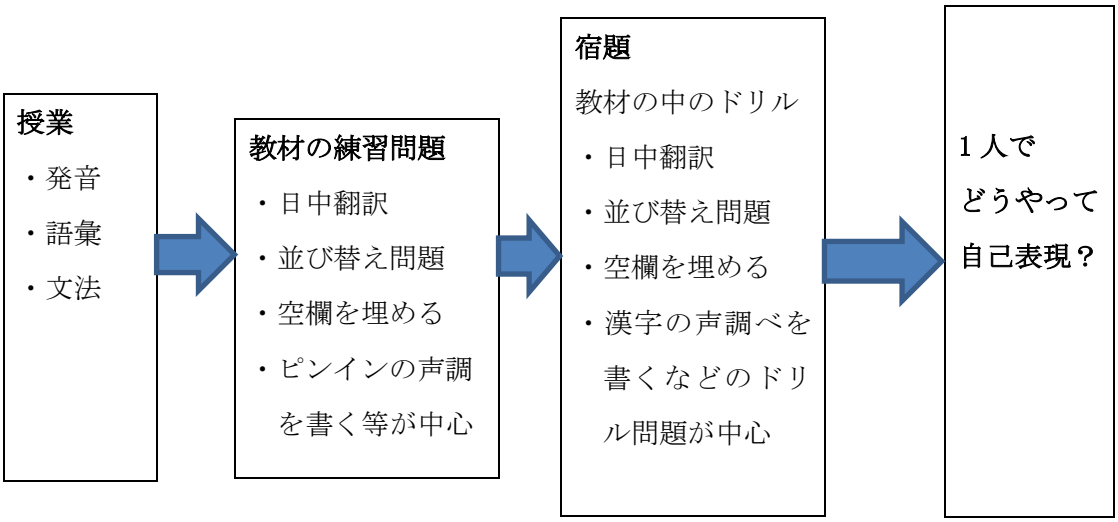
このようにみると、日本の大学における中国語教育の問題点は、教材と授業の両方において、学んだことを通して実際に表現する場がない点、さらには、そのような現状があまり論じられずにきたという点である。

従来、授業・教材の練習問題・宿題という各要素が、体系的に中国語の学習目標に向かって構成されておらず、それぞれが単独で成り立っていたことも否定できない。したがって、教材を作成するにあたって、次の観点を本プロジェクトに取り入れた。

(1)学習者は、実際に自己表現と繋がりがある授業が必要である。
(2)授業において、自己表現を練習する、そして実現させる場が必要。
(3)授業中だけでなく、宿題にも自己表現の要素を取り入れたものに取り組ませる。自分ができることとできないことに気づきができ、中国語で表現することを習慣化することにつながる。
(4)授業から宿題、そして自己表現へと、学習活動全体に一貫性を持たせることで、着実に自己表現育成の準備ができ、順序にこなしていくことで、学習者自身の自信につながる。
(5)プレッシャーやストレスを感じないよう、クラス全体で活動する。「自己表現プロジェクト」の評価基準は、教師だけでなく、クラスの全員が参加する。こうすることでゲーム感覚が生まれ、学習者が楽しく参加できる気持ちになれる。

本編は、「自己表現プロジェクト」を取り入れた教材が、クラス全体のひとりひとりが楽しく参加でき、中国語による自己表現の力や機会を実現できるように考えられた新しい形の中国語教材である。

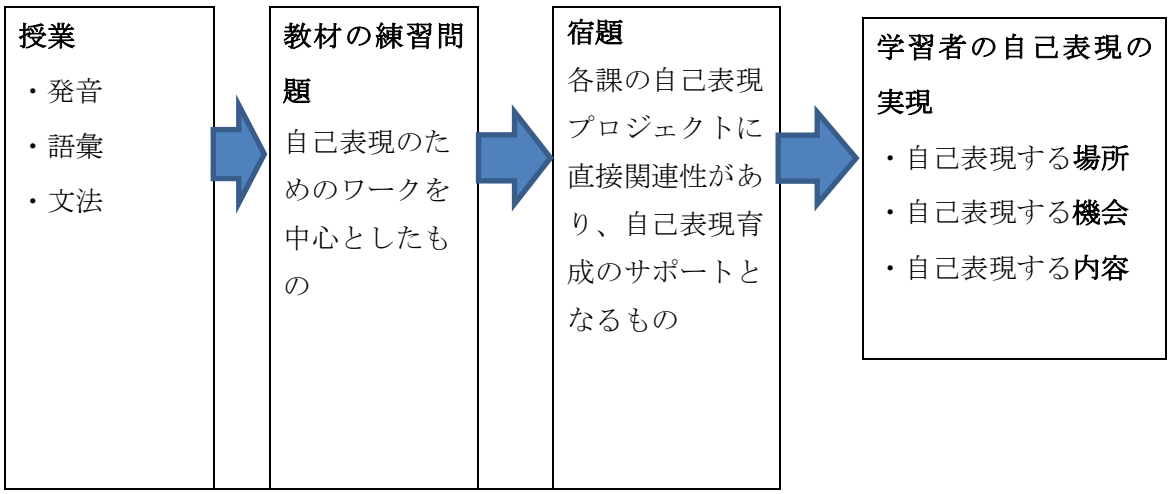
1．従来の学習プロセス



これまでの授業では、教材の練習問題と宿題が同じようなものであることが多い。このような流れでは、授業と宿題の往復のみで、教師側も学習者側も満足しているが、実際に学習者に自己表現させようとしても、学習者がどうしたらいいのか分からないため、結局、自己表現が実現せずに終わることがパターン化してしまう。

2．本論文が提案する「自己表現育成」のための学習プロセス

「授業」「練習問題」「宿題」はすべて、学生が自己表現を行うために一貫した連関性をもたせ、自己表現育成を実現させる。



7.6 自己表現プロジェクトのための教材本編

第１課　　発音（1）　母音と声調

1. 単母音

a　日本語の「ア」より広く口を開けて発音する。

o　日本語の「オ」より口を丸くして発音する。

e　唇の形は日本語の「エ」のまま「オ」を発音する。

i　日本語の「イ」より口を左右に強くひいて発音する。

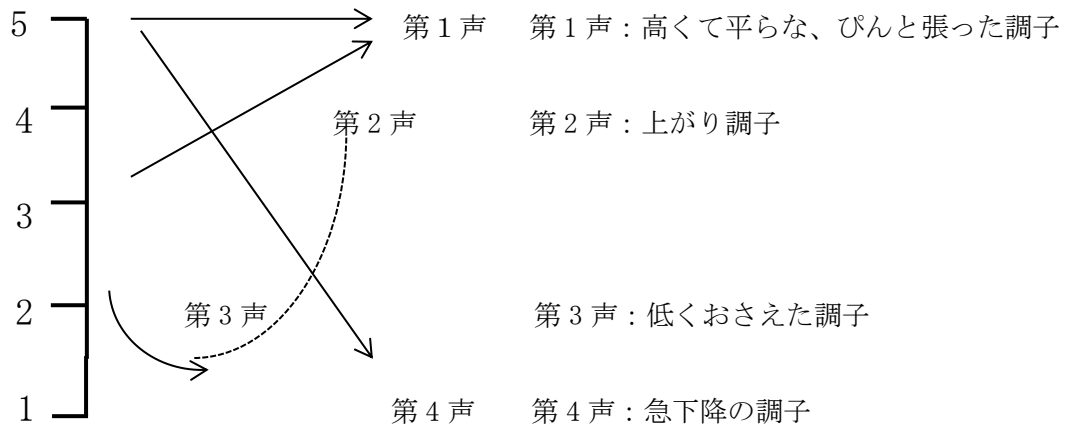
u　日本語の「ウ」より唇をまるくつきだして発音する。

ü　唇をすぼめ口笛を吹く形にし「イ」を発音。

ちょっと練習！

単母音 **a**、**o**、**e**、**i**、**u**、**ü** を次の①～⑤の母音の四声について大きな声でゆっくり声に出して発音してみましょう。

2. 声調



中国語は、音と声調との組み合わせによって語の意味を区別します。声調とは、音に意味を与える大切な動きをするものです。同じ ma でも声調によって次の 4 つの音に分けることができる。

mā	má	mǎ	mà
お母さん	麻	馬	叱る

①**a** ā á ǎ à　②**o** ō ó ǒ ò　③**e** ē é ě è

④**i(yi)** ī í ǐ ì　⑤**u(wu)** ū ú ǔ ù　⑥**ü(yu)** ǖ ǘ ǚ ǜ

i、u、ü の母音ではじまる音節はそれぞれ i は y、 u は w、ü は yu となる。例えば、単母音だけで、音節を表すときは、i は yi、u は wu、ü は yu となる。
また、他の母音に関しても、母音だけで音節が構成される場合は、それぞれ上記の④から⑥の(　　)の中の発音となる。

ちょっと練習！

声を出して四声を練習しましょう。練習した後、隣の人にあなたの発音を聞いてもらい、きちんと発音した声調がアウトプットできているか、確認をしましょう。

宿題

授業で学んだ発音が身についているのか、声調の四声(mā　má　mǎ　mà)と、上記の練習の①～⑥を練習した、それを録音し、教師に添付資料で送るようにして下さい。

第 2 課　　発音（2）子音と複合母音

1. 子音

子音には無気音と有気音という区別がある。
それば b-p　d-t　g-k　j-q　zh-ch　z-c の 6 組である。
無気音とは、格別息の出ない子音、有気音とは強い息の出る子音を言う。

	無気音	有気音	
唇音	b (o)	p (o)	m (o)　f (o)
舌尖音	d (e)	t (e)	n (e)　l (e)
舌根音	g (e)	k (e)	h (e)
舌面音	j (i)	q (i)	x (i)
巻舌音	zh (i)	ch (i)	sh (i)　r (i)
舌歯音	z (i)	c (i)	s (i)

上記の表の中の子音を何回も練習して覚えてしまいましょう。

cā　gé　mō　qí　kǔ　lǘ
ché　fǒ　shá　dí　xǔ　nǚ

2. 複合母音

ai　ei　ao　ou
ia　ie　ua　uo　üe
iao　iou　uai　uei

ちょっと練習！

wāi　wēi　yāo　hōu
yā　yē　kuā　guō　lüè
xiāo　yōu　wāi　wēi

上記の複合母音を隣の人と交代して読み、音の違いについて確認してみましょう。

3. 鼻母音

an　en　ian　in　uan　uen (un)　üan
ang　eng　iang　ing　uang　ueng　ong　iong

ちょっと練習！

ān ---āng　　yān---yāng　　yīn---yīng　　wān---wāng　　wēn---wēng

ang の音に気をつけて声を出して練習し、an との違いを何度も声をだして確認し、頭にいれましょう。

宿題

上記の an から ian 鼻母音を何度も練習し、いえるようになったら、録音し、録音をしたものを教師に添付資料として送って下さい。また、子音表の子音を暗記して下さい。（次の朝にアウトプットできるようになっているか、小テストをします。

声調の組み合わせ

	第 1 声	第 2 声	第 3 声	第 4 声
第 1 声	Jīn tiān 今天	Zhōng guó 中国	Qiān bǐ 铅笔	Gōng zuò 工作
第 2 声	Shí jiān 时间	Hóng chá 红茶	Cídiǎn 词典	Xué xiào 学校
第 3 声	Lǎo shī 老师	Wǎng qiú 网球	Shǒu biǎo 手表	Wǔ fàn 午饭
第 4 声	Qì chē 汽车	Dà xué 大学	Diàn nǎo 电脑	Jiào shì 教室

ちょっと練習！

声調の組み合わせとして出ている上記の第 1 声から第 4 声の単語を何度も発音し、録音し、それを添付資料で送って下さい。また、自分で辞書からいくつか漢字をみつけ、それが中国語でどのように書かれているのか 3 個書き、それを録音し,添付ファイルで送って下さい。

第 3 課　　発音（3）　軽声と声調の変化

1. 軽声

前の音節につけて軽く短く発音されるものを軽音という。軽声には声調符号をつけない。

Mā ma	**Yé ye**	**Nǎi nai**	**Bà ba**
妈妈	爷爷	奶奶	爸爸

2. 声調の変化

1 ）第 3 声＋第 3 声　⇨　第 2 声＋第 3 声

Nǐ hǎo	**Shǒu biǎo**	**Shuǐ guǒ**
你好	手　表	水　果

2 ）不　**bù**

“不”はもともと“bù”と第四声だが、後ろに第四声が続く場合は“bú”と第二声に変化する。

bù ＋ 第 4 声　⇨　**bú** ＋ 第 4 声

bù　qù	**bú　qù**	不去
bù　pà	**bú　pà**	不怕

3 ）一　**yī**

序数の場合は“yī”と本来の第一声で発音するが、後ろに第一声、第二声、第三声が続く場合は“yì”、第四声調が続く場合は“yí”に変化する。

yī ＋	第 1 声	⇨ 第 1 声	**yì xiē**	一些
	第 2 声	第 2 声	**yì qí**	一齐
	第 3 声	第 3 声	**yì qǐ**	一起

yī	＋	第 4 声	⇨	**yí**	＋	第 4 声	**yì yàng**	一样
							yì xià	一下

宿題

声調の変化に気をつけて、上記に書かれてある、第 3 声から第 3 声、不 bù に関する声調の変化を何度も声に出して練習し、練習したものを録音し、それを教師に送るようにして下さい。

7.6　「自己表現プロジェクト」のための教材本編

プロローグ

主人公は田中光、日本人の学生である。実家の福井県から大学で学ぶため、大阪にやって来た。そして、大学で第二外国語として中国語を選択したことにより、教室で「你」（あなた）と出会い、中国語を学びながら成長していくストーリーとなっている。

通常の中国語教材の場合、その多くが A と B の会話という形を取っているが、本編の対話で出てくる「你」（あなた）とは、この教材の学習者自身のことである。この教材の登場人物にはほかに、田舎に住んでいる父親と母親がいる。

このように本編をデザインしたのは、教材を使って対話をしていく中で、学習者がストーリーの中に自分自身を置き換えやすい形にするためである。また、練習問題の内容に関しても、従来多く使われてきた並び替えや、翻訳の問題ではなく、学生ができる限り自由に自分自身について表現できる問題を多く配置し、最終的には、各課の自己表現プロジェクトに繋がるデザインとした。本文、構文、練習問題や宿題等、各課の全体構成についても、すべて自己表現育成を目的として一貫性のある形になるように工夫を試みた。

第４課　実家から大学へ新たな新生活

到達目標：　中国語で自己紹介と挨拶ができる

Nǐ hǎo　Wǒ jiào Tián zhōng Guāng
田中:你　好！我　叫　田　中　光　。

Wǒ shì　　dàxué de xuéshēng
我　是　＿＿＿＿＿大 学　的　学　生　。（自分の大学名を入れてみましょう）

Wǒ shì Rìběnrén　Nǐne
我　是　日 本　人 。你 呢？

Wǒ jiào　　Wǒ yě shì Rìběn rén
你:我　叫　＿＿＿＿＿。（自分の名を入れてみましょう）我　也　是　日 本　人 。

Rènshi nǐ hěn gāoxìng
认　识　你　很　高　兴　。

Míngtiān shì dàxué dìyītiān shàng kè
田中:　明　天　是　大 学　第一　天　上　课！

zánmen yìqǐ qù ba
咱　们　一起　去　吧！

第４課　目標にたどり着くための構文表現

1.名前の尋ね方・言い方

Nǐ hǎo　Wǒ　jiào Tián zhōng Guāng
你　好！我　叫　田　中　光　。

Wǒ shì　　dàxué de xuéshēng
我　是＿＿＿＿　大 学　的　学　生　。

※中国語の一人称は日本語のように「僕」や「私」のように分けず全て“我（wǒ）”と言います。

人称代詞

	第一人称	第二人称	第三人称
単数	wǒ 我	nǐ　nín 你　您	tā　tā 他　她
複数	wǒmen　zánmen 我 们　咱　们	nǐmen 你 们	tāmen tāmen 他 们　她 们

zánmen
※(咱　们)は特に相手を含めて言う時に使う表現。

jiào
主語＋ **叫** ＋氏名

尋ね方　　答え方

Nǐ jiào shénme míng zì　　Wǒ jiào Tián zhōng Guāng
你　叫　什 么　名　字?　　我　叫　田　中　光　。

ちょっとレベルアップ！

中国では、苗字から聞く時もある。

尋ね方　　答え方

Nín guì xìng　　Wǒ xìng Tiánzhōng jiào Guāng
您 **贵　姓** ?　　我　姓　田　中 ，叫　光　。

ちょっと練習！

自分の名前に置き換えて、今日習ったことで会話をつづけてみて下さい。

Nǐ hǎo Wǒ jiào wǒ shì dàxué de xuéshēng
你　好！我　叫 ○○，我　是 ○○ 大 学　的　学　生　。

Nǐ hǎo Nǐjiào shénme míngzì
学生 A:你　好！你　叫　什 么　名　字？

Nǐ hǎo wǒ jiào
学生 B:你　好 ，我　叫 _____。

Nín guìxìng Wǒ xìng jiào
学生 A: 您　贵　姓 ？我　姓 _____ ，叫 _____。

shì
2.判断を表す表現　是　動詞で、「～である」という意味である。

Wǒ shì Rìběn rén
我　是　日 本　人 。

主語	述語	
	（不）是	名詞／名詞句
田中	是 shì	学生 xué shēng
我	是 shì	日本人 Rì běn rén
我	不是 bú shì	中国人 Zhōng guó rén

bù
◎否定形　不 をつける。

Wǒ búshì Rìběnrén Wǒ shì Zhōngguórén
我 不 是 日 本 人，我 是 中 国 人。
私は日本人ではありません、中国人です。

主語	述語		
	動詞	名詞／名詞句	疑問
田中	是	日本人 Rì běn rén	吗?
你	是	中国人 Zhōng guó rén	吗?
他	是	美国人 Měi guó rén	吗?

◎疑問形

Nǐ shì Rì běn rén ma　Shì wǒ shì Rìběnrén
1)你 是 日 本 人 吗？ 是，我 是 日 本 人。
あなたは日本人ですか？ はい、そうです。

Nǐ shì dàxuéshēng ma　Bù wǒ búshì dàxuéshēng
2)你 是 大 学 生 吗？ 不，我 不 是 大 学 生 。
あなたは大学生ですか？ いいえ、私は大学生ではありません。

yě
◎副詞　也

Wǒ yě shì Rìběnrén
1)我 也 是 日 本 人。 私も日本人です。

Wǒ yě shì Zhōngguórén
2)我 也 是 中 国 人。 私も中国人です。

ne　ba
3. 語気助詞　呢 と 吧（「～は？」と「～しょう！」）

◎名詞＋呢 ～は？

Wǒ shì Rìběnrén nǐ ne
我 是 日 本 人，你 呢？ 私は日本人です、あなたは？

◎文＋吧 ～しょう！

Zánmen yìqǐ qù ba
咱 们 一 起 去 吧！ 一緒に行きましょう！

ちょっと練習！

学んだ名前の言い方に続けて、自分のことに置き換えて会話を続けてみましょう。

Nǐhǎo wǒjiào WángLín wǒ shì Zhōngguórén Nǐne
你 好 ， 我 叫 王 林 ， 我 是 中 国 人 。 你 呢 ？

Nínhǎo lǎoshī wǒjiào wǒ shì Rì běn rén nǐne
学生 A: 您 好 ， 老 师 ， 我 叫 _____， 我 是 日 本 人 。 你 呢 ？

Nǐhǎo wǒjiào wǒ yě shì rén Nǐne
学生 B: 你 好 ， 我 叫 _____ ， 我 也 是 _____ 人 。 你 呢 ？

Nǐhǎo Wǒjiào wǒ bú shì rén wǒshì rén
学生 C: 你 好 ， 我 叫 _____， 我 不 是 _____ 人 ， 我 是 _____ 人 。

míngtiān dìyītiān shàngkè
学生 D:_____，（学生 A の名前） 明 天 第 一 天 上 课！

Wǒmen yìqǐ
我 们 一 起_____！

学生 A:_____！（「回答参考例」好的！没问题。）

第 4 課　目標到達のための練習問題

1. リスニングを聞いて、それに対して最も自然な答えを選びなさい。

Nǐhǎo nǐjiào shénme míngzì
1) 你 好 ， 你 叫 什 么 名 字？

Nǐhǎo wǒ jiào TiánzhōngGuāng
a. 你 好 ， 我 叫 田 中 光 。

Wǒ yě shì Rìběnrén
b. 我 也 是 日 本 人 。

Wǒ shì dàxuéshēng
c. 我 是 大 学 生 。

Nǐ shì dàxuéshēng ma
2) 你 是 大 学 生 吗？

Nǐhǎo
a. 你 好 。

Shìde wǒ shì dà xué shēng
b. 是 的 ， 我 是 大 学 生 。

Wǒ jiào TiánzhōngGuāng
c. 我　叫　　田　　中　　光　。

Nǐ yě shì dàxuéshēngma
3) 你　也　是　大 学　　生　吗？

Wǒ shì Rìběnrén
a. 我　是　日 本　人 。

Shìde
b. 是　的。

Shìde　wǒ yě shì Rì běn rén
c. 是　的，我　也　是　日　本　　人 。

全員が練習問題を終わり次第、答え合わせをする。

2. 上記の１の練習問題の質問をもう一度リスニングで聞き、質問文と回答を暗記して、隣の人ではなく、前後の席の人と交代で対話してみて下さい。

第４課の宿題について

第４課では、主に自分自身に関する簡単な自己紹介を学びました。何度もアウトプットや暗記を繰り返し、宿題では、あなた自身の自己紹介を中国語で録音してみましょう。そして、録音したものを添付ファイルで先生に送りましょう。

内容：

①挨拶

②あなた自身の名前と出身国。

③第４課で学んだ、「明日一緒に学校に行きましょう」という中国語。

xièxie
④“ 谢　谢 ”で最後を締めくくる。

備考：第４～6 課の学習が終わった後、第７課の自己表現プロジェクト①で自分自身のことについて録画する活動がある（録画した自己紹介の下に中国語で字幕をつける）。そのため、この宿題は、その準備として非常に大事である。

第５課　大学の近くへ引っ越す

到達目標：家族の人数や年齢についていえる

Zǎo a
你: 早　啊!

Zǎo
田中:　早 ！

Zhège xíngli wǒ fàng zài nǎr hǎo
你: 这 个　行 李 我　放　在　哪儿　好 ？

Fàng zài nàr　Xièxie
田中:　放　在　那儿!　谢　谢 ！

（突然、田中君の写真と家族の写真をみつける）

Zhè shì shén me　Zhè shì nǐde zhàopiàn ma
你: 这　是　什　么？这　是　你的　照　片　吗？

Shìde
田中: 是 的。

Zhēn hǎokàn
你:　真　好　看 。

Nǐkàn　zuǒbian zhège xiǎo nǚháir shì wǒ mèimei
田中:你 看 ， 左　边　这 个　小　女孩儿　是　我　妹　妹 。

Nǐ mèimei jīnnián duōdà le
你:你　妹　妹　今　年　多 大 了？

Tā jīnnián shíwǔ suìle
田中:她　今　年　十 五　岁 了。

Yòubian　nàge rén shì nǐ gēge ma
你: 右　边　那 个　人　是　你　哥 哥　吗？

Búshì　shìwǒ bàba　Wǒ háiyǒu yīge jiějie hé liǎngge dìdi
田中:不 是 ， 是 我　爸 爸。我　还　有　一个　姐　姐　和　两　个　弟 弟，

Suǒyǐ wǒjiā yígòng yǒu liùkǒurén
所 以　我 家（一　共 ）有　六　口　人 。

Wǒjiā yǒu　　kǒurén
你:我 家　有　（　　）口　人 。

（自分の家族の人数を入れてみましょう）

第５課　目標にたどり着くための構文表現

1. 指示代名詞　　これは何か言いたいときの表現

Zhè shì zhàopiàn
1) 这　是　照　片 。　　これは写真です。

Zhè shì wǒ bàba
2) 这　是　我 爸 爸。　　こちらは父です。

Nà shì nǐ māma ma
3) 那　是　你 妈 妈 吗？　　あちらがあなたのお母さんですか？

Nà bú shì wǒ dìdi
否定形 4) 那 不　是　我 弟 弟。　　あちらは私の弟ではありません。

Zhè ge xíngli fàng zài nǎr hǎo
5) 这　个　行 李　放　在 哪儿 好 ？
この荷物はどこに置いたらよろしいでしょうか？

	これ	それ/あれ	どれ
単数	zhè　zhège 这　这 个	nà　nàge 那　那 个	nǎ　nǎge 哪　哪 个
複数	zhè xiē 这　些	nà xiē 那　些	nǎ xiē 哪　些

「これ、それ、あれ、どれ」が目的語になる時は “zhège 这 个” “nàge 那 个”を使う

ちょっと練習！

shū
A. 书

kā fēi
B. 咖　啡

diàn nǎo
C. 电　脑

図の A～C をみて「これは○○です」、「あれは○○です」と答えて下さい。

Zhè shì shū
学生 A: 这　是　书 。

Nà shì kāfēi
学生B: 那　是　咖 啡 。

Nà shì diànnǎo
学生C: 那　是　　电　脑　。

shén me
2.疑問代詞　　什　么

疑問を表し、疑問文の中で用いてそのまま目的語になり、また後ろに続く名詞的な成分とともに目的語になる。

什么＋名詞

疑問詞 “什么”（何） 谁 （誰）などの位置に答えが入る。

Zhè shì shénme
1) 这　是　　什　么？　これはなんですか？

Nǐ jiào shénme míngzì
2) 你　叫　　什　么　　名　字？ お名前はなんですか？

Zhè shì shénme cídiǎn
3) 这　是　　什　么　　词　典　？これは何の辞書ですか？

Nǐ shénme shíhou lái
4) 你　什　么　时　候　　来 ？ あなたはいつ来ますか？

Nǐ shì shuí
5) 你　是　　谁　？ どなたですか？

ちょっと練習！

上記1)～4)について対話をしましょう。

Zhè shì shénme
学生A: 这　是　　什　么？（何かを学生Bに見せる）

Zhè shì
学生B：这　是 _____。

Zhè shì shénme cídiǎn
学生A: 这　是　　什　么　词　典　？

Zhè shì rìhàn cídiǎn
学生B：这　是　日 汉　词　典　。

de
3. 名詞を修飾する助詞　的～　「～の」

wǒ de jiā
我 的 家　　私の家

wǒ de qiánbāo
我 的 钱 包　　私の財布

Zhèshì wǒ de jiā
这 是 我 的 家 。　これは私の家です。

Nàshì wǒ zhào de zhàopiàn
那 是 我 照 的 照 片 。 あれは私が撮った写真です。

Zhèshì nǐ de qiánbāo ma
这 是 你 的 钱 包 吗？　これはあなたの財布ですか？

Shìde zhèshì wǒ de qiánbāo
是 的， 这 是 我 的 钱 包 。 そうです。これが私の財布です。

ちょっと練習！

Zhèshì shuíde shū
教師：本を持って学生に 这 是 谁 的 书 ？（これは誰の本ですか？）

学生：(答えられない)

Zhèshì shuíde shū
教師：(もう一度ゆっくり尋ねる) 这 是 谁 的 书 ？

Wǒ de
学生：我 的。

Hǎode
教師： 好 的！

zhèshì wǒ de shū
備考：全文を覚えさせるかのように、 这 是 我 的 书 を 5 回繰り返し言わせる。

それを 5 回ほど繰り返し、アウトプットさせ覚えさせる。

de
◎ 次の場合は、“的”を省略するのが普通である。

人称代名詞＋身近な者を指す名詞（家族や先生、友人など）

wǒ māma
1) 我 ~~的~~ 妈妈　　私の母

wǒmen lǎoshī
2) 我 们 ~~的~~ 老 师　　私たちの先生

Zhège xiǎonǚháir shìwǒ mèimei
3) 这 个 小 女 孩 儿 是 我的 妹 妹 。 左側のこの女の子は私の姉です。

4. 数詞

一 二（两） 三 四 五……十一… 十二… 二十二… 四十二

èr liǎng
◎“二”と“ 两 ”の使いわけ

èr
“二”を使う場合

shíèr èr fēn zhī yī
① 整数、年号、分数など：十 二（12） 二 分 之 一（1/2）

yìdiǎnèr èr líng yī èr nián
一 点 二（1.2） 二 零 一 二 年（2012年）

dì èr tiān dì èr míng
② 序数をいう：第 二 天 第 二 名

liǎng
“ 两 ”を使う場合

liǎng ge rén liǎng ge xiǎo shí
① ものや時間など数を数える： 两 个 人 两 个 小 时

liǎng gè xīngqī
两 个 星 期

liǎngqiān liǎngwàn liǎngyì
②「千」以上で桁の頭にする： 两 千 两 万 两 亿

èrbǎi liǎngbǎi
※「百」の場合は、“二 百 ”でも“ 两 百 ”どちらでも可。

ちょっと練習！

数字を１～１０ まで教師がゆっくりと読むので、学生はそれに続いて読んで下さい。また、1～10 までの数は暗記しましょう。

yǒu
5. 動詞　有　「ある」と表現することができる

Nǐ jiā yǒu jǐkǒurén
1) 你　家　有　几　口　人？　あなたは何人家族ですか？

Wǒjiā　yígòng　yǒu sìkǒurén
2) 我　家　（一　共　）　有　四　口　人。私は四人家族です。

◎“有”を使って次のような表現をすることができる

	主語	副詞	動詞	目的語	文末助詞
①	我 wǒ		有 yǒu	一个姐姐 yī ge jiějie	
②	你 nǐ		有 yǒu	两个哥哥 liǎng ge gēge	吗？ ma
③	这儿 zhèr	没 méi	有 yǒu	洗手间 xǐ shǒu jiān	
④	那儿 nàr	没 méi	有 yǒu	山 shān	
⑤	他 tā	没 méi	有 yǒu	女朋友 nǚ péng yǒu	
⑥	马莉 Mǎlì		有 yǒu	钥匙　yàoshi	

ちょっと練習！

上記の表の①～⑥に対し、自分と、自分の周りの友達のことに関して、“有”(yǒu)あるいは“没有”(méiyǒu)を使って表現してみましょう。

jǐ
6. 疑問代詞　几　数量を尋ねる時に使い、一般的に 10 以下の数字を尋ねる時に使う。

Nǐ jiā yǒu jǐ kǒu rén
1) 你　家　有　几　口　人　。　あなたは何人家族ですか？

Nǐ yǒu jǐge gēge
2) 你　有　几 个　哥 哥？　あなたは何人兄がいますか?

ちょっと発展！

10 以上の数の時の場合はどのように尋ねるのか？

duō
多 ＋大は文中で疑問を表し、年齢を問う時に使う。

Nǐ duō dà le
——你　多　大　了？　あなたの年齢は？

Wǒ jīnnián èrshíyī suì le
——我 今 年 二 十 一 岁 了。 今年で21歳になりました。

※変化を表す“了”は文末に用いて変化や新たな状況が生じたことを表す。

7.量詞 中国語では、数を表現する時、量詞は次のように表現します。

gè
◎“个” 問題、人間、果物など(通常は軽声になる) ～個

yígerén liǎng ge wèntí sān ge píngguǒ
一个 人 两 个 问 题 三 个 苹 果

běn
◎“本” 問題、人間、果物など ～冊

yì běn shū liǎng běn zázhì sān běn shǒucè
一 本 书 两 本 杂 志 三 本 手 册

bǎ
◎“把” 問題、人間、果物など ～つ、～本

yìbǎsǎn liǎng bǎ yǐzi sānbǎdāo
一把 伞 两 把 椅 子 三 把 刀

◎“张” 問題、人間、果物など ～枚、～つ

yìzhāngzhǐ liǎng zhāng piào sān zhāng zhàopiàn
一 张 纸 两 张 票 三 张 照 片

wèi
◎“位” 敬意を持って人(職業) ～名

yíwèi lǎoshī liǎng wèi yīshēng sān wèi kèren
一 位 老 师 两 位 医 生 三 位 客 人

bēi
◎“杯” 飲み物などカップで数える ～つ

yì bēi kāfēi liǎng bēi shuǐ sān bēi jiǔ
一 杯 咖 啡 两 杯 水 三 杯 酒

zài
8. 在 「～で」

肯定文：ヒト＋モノ＋在＋場所

否定文：ヒト＋モノ＋不＋在＋場所

Wǒ zài xuéxiào
1)我 在 学 校 。 私は大学にいる。

Tā bù zàijiā
2)他 不 在 家 。 彼は家にいない。

Fàng zài nàr
3) 放 在 那儿。 そこに置いて。

ちょっと練習！

発表練習

第4課で自己紹介や出身地について学びました。それをもとに、5人の学生でグループになり、自己紹介や出身地、今年何歳になったのか、前に出て中国語で発表して下さい。

第5課 目標達成のための練習問題

1. 次のリスニングを聞いて、聞き取れた内容を書きなさい。書き終わったら、その単語を使って自分のことについて答えなさい。

Nǐjiā zài nǎr
1) 你 家 在 哪儿？

Wǒjiā zài Dàbǎn
「回答参考例」我 家 在 大 阪 。

Jǐ kǒu rén
2) 几 口 人？

Wǒ jiā yǒu sānkǒurén bàba māma hé wǒ
「回答参考例」我 家 有 三 口 人，爸 爸 、妈 妈 和 我。

bàba
3) 爸 爸

Wǒ bàba jīnnián suì
「回答参考例」我 爸 爸 今 年 54 岁 。

nǐ duōdà le
4) 你 多 大 了？

Wǒ jīnnián suì
「回答参考例」我 今 年 18 岁 。

nǐ jiào shénme míngzì
5) 你 叫 什 么 名 字？

Wǒjiào
「回答参考例」我 叫 ○○。

2. 次の1)～3)の指示にしたがって、会話を完成させ、ペアになって会話を続けて下さい。

1)何か手に持ちながら

これはなに？ これは＿＿＿＿＿＿です。

Zhè shì shénme
这 是 什 么？

zhèshì
这 是 ＿＿＿＿＿＿。

2)家族の写真を一枚持って

あれは誰ですか？ あれは＿＿＿＿＿＿です。

Nàshì shuí
那 是 谁 ？

nàshì
那 是 _____。

3)本を持って相手に聞く

これはあなたの本ですか？

Zhèshì nǐ de shūma
这 是 你 的 书 吗？

違います。これは、あなたの本です。

_____

4)あなた何歳ですか？

Nǐ duō dà le
你 多 大 了？

_____

3. 次の文を朗読した後、下線部を自分に置き換えて書き、そして自分が書いたものを声に出して読みなさい。

Wǒ jiào Tián zhōng Guāng wǒ jiā yǒu sìkǒurén bàba māmā háiyǒu
我 叫 田 中 光，我 家 有 四 口 人，爸 爸、妈 妈、还 有

yīge jiějie Wǒ jīnnián suìle
一 个 姐 姐 。我 今 年 18 岁 了。

第 5 課の宿題について

1. 下記の 3 つの質問に答えて下さい。

Nǐ jiā yǒu jǐkǒurén
・你 家 有 几 口 人 ？　あなたは何人家族ですか？

Yǒu shuí hé shuí
・有 谁 和 谁 ？　誰と誰がいますか？

Nǐ jīnnián duōdàle
・你 今 年 多 大 了？　あなたは今年で何歳ですか？

2. 中国語で、一から二十まで数えて下さい。

これらの内容を練習した後、録音して添付ファイルとして教師に送ってください。「自己表現プロジェクト①」の発表時のための練習となります。

第 6 課　大学で部活動に参加する

到達目標：自分が好きなことや趣味が、自分で話せる

Tiánzhōng nǐ zhīdào dàxuélǐ yǒu nǎxiē yùndòng shètuán ma
你：田　中，你 知 道 大 学 里 有 哪 些 运 动 社 团 吗？

Dāngrán zhīdào Yǒu wǎngqiúduì lánqiúduì wǔshùduì háiyǒu
田中：当 然 知 道。有 网 球 队、篮 球 队、武 术 队 还 有

yóuyǒngduì Wǒ xiǎng cānjiā wǎngqiúduì hé wǔshùduì
游 泳 队。我 想 参 加 网 球 队 和 武 术 队。

Hǎolìhài Nǐ gèng xǐhuan nǎyígè
你：好 厉 害！你 更 喜 欢 哪 一 个？

Wǒ dōu xǐhuan Wǒ cóngxiǎo jiù xǐhuan kàn wǔshùbǐsài
田中：我 都 喜 欢！我 从 小 就 喜 欢 看 武 术 比 赛。

Wǒ cóng liùsuì jiù kāishǐ dǎwǎngqiú le
我 从 六 岁 就 开 始 打 网 球 了。

Nǐne nǐ huì dǎwǎngqiú ma
你呢，你 会 打 网 球 吗？

Wǒ cónglái méi dǎ guò wǎngqiú dànshì wǒ xǐhuan kàn
你：我 从 来 没 打 过 网 球，但 是 我 喜 欢 看

wǎngqiú bǐsài Yàobu nǐ jiāo wǒ dǎ ba
网 球 比 赛。要 不，你 教 我 打 吧。

Méi wèntí Nà wǒmen jiù cóng xiàzhōu kāishǐ ba
田中：没 问 题！那 我 们 就 从 下 周 开 始 吧。

第 6 課 目標にたどり着くための構文表現

1. 助動詞　想（xiǎng）　「～したい」

主語＋助動詞＋動詞句

Wǒ xiǎng xué hànyǔ
1）我 想 学 汉 语。　私は中国語を勉強したい。

Wǒ xiǎng chī Zhōngguócài
2）我 想 吃 中 国 菜。　私は中国料理が食べたい。

yào
2. 要　「～したい/～しなければならない」

Nǐ yào chī nǎgecài ne
1) 你 要 吃 哪个 菜 呢？　どの料理を食べたい？

Wǒ yào xuǎn dièr wàiyǔ
2) 我 要 选 第二 外 语。 私は第二外語を選ばなければならない。

「否定」は前に“不”をつける

bùxiǎng
想 →　不 想

bú yào
要 →　不 要

Wǒ bùxiǎng xué Déyǔ
1) 我 不 想 学 德 语。

私はドイツ語を学びたくない。

Wǒ bùxiǎng kàn diànyǐng wǒ xiǎng qù pǎobù
2) 我 不 想 看 电 影，我 想 去 跑 步

私は映画は見たくないが、ジョギングがしたい。

ちょっと練習！

下記のような例をもとに学生同士で同じようにトピックを決め、会話を続けてみましょう。

Nǐ xiǎng qù Zhōngguó ma
教師: 学生 A に質問　你 想 去 中 国 吗？

Wǒ xiǎng qù Zhōngguó
学生 A: 我 想 去 中 国 。

Nǐ xiǎng qù Zhōngguó ma
（学生 A が学生 B に続けて聞く） 你 想 去 中 国 吗？

Wǒ yě xiǎng qù Zhōngguó
学生 B: 我 也 想 去 中 国 。

（想を使って学生 B が、他の学生に質問し会話を続ける。）

Nǐ qù Zhōngguó xiǎng xué shénme ne
学生 B: 你 去 中 国 想 学 什 么 呢？

Wǒ xiǎng xué Hànyǔ Nǐne
学生 C: 我 想 学 汉 语。你 呢？（学生 D）

Wǒ xiǎng xué tàijíquán
学生D: 我　想　学　太 极 拳 。

dōu
3.副詞　都　(みんな)＋動詞(／形容詞)

Nǐ gèng xiǎng chī nǎyígè　Wǒ dōu xiǎng chī
1) 你　更　想　吃 哪一个？ 我　都　想　吃 。

どちらの方がより食べたいですか？全部食べたいです。

Píjiǔ hé hóngjiǔ wǒ dōu xiǎnghē
2) 啤 酒　和　红　酒　我　都　想　喝。私はビールとワインのどちらも飲みたい。

Wǒ yě dōu xiǎnghē
3) 我 也　都　想　喝。　私もどちらも飲みたい。

(“也”と“都”を一緒に使うこともできる)

xǐhuan
4. 動詞　喜　欢　「好き」

Wǒ xǐhuan tīng yīnyuè
1) 我 喜　欢　听　音　乐 。　私は音楽を聴くのが好きです。

(動詞の前に副詞を置くことで～も好きという意味になる。)

Wǒ xǐhuan hējiǔ　wǒ bàba yě xǐhuan hējiǔ
2) 我 喜　欢　喝 酒，我 爸 爸 也 喜　欢　喝 酒 。

私はお酒が好きです。お父さんもお酒が好きです。

ちょっと練習！

164ページの趣味リストの表の中で、好きなものについて会話を続けてみましょう。

Nǐ xǐhuan dǎ lánqiú ma
学生A: 你 喜　欢　打　篮　球　吗？

Wǒ bù xǐhuan dǎ lánqiú　nǐne
学生B:　我 不 喜　欢　打　篮　球，你 呢？

Wǒ xǐhuan dǎ lánqiú　yě xǐhuan kàndiànyǐng
学生C:　我 喜　欢　打　篮　球，也 喜　欢　看　电　影 。

Wǒ yě xǐhuan kàn diànyǐng　nǐ māma yǒu shénme àihào
学生D:　我 也 喜　欢　看　电　影，你 妈妈　有　什　么 爱 好 ？

Wǒ māma ma　wǒ māma xǐhuan yóuyǒng
学生B:　我 妈妈 吗？我 妈妈 喜　欢　游　泳 。

cóng
5. 介詞 从 ～ 時間的・空間的な距離・起点を表す表現

主語＋**从**＋起点＋動詞＋（目的語）

Nǐmen cóng nǎli chūfā
1) 你 们 从 哪 里 出 发?

あなたたちはどこから出発しますか？

Nǐcóng shénme shíhou kāishǐshàngkè
2) 你 从 什 么 时 候 开 始 上 课？

あなたは何時から授業を始めますか？

Tā cóng xuéxiào huílái le
3) 他 从 学 校 回 来 了。

彼は学校から帰って来ました。

ちょっと練習！

下記の 1)～3)の質問に対し、答えを書き、対話を完成してみましょう。

Míngtiān shídiǎn zài gōngyuán de guǎngchǎng jíhé
1) 明 天 十 点 在 公 园 的 广 场 集合。

Nǐmen cóng nǎli chūfā qù gōngyuán
你 们 从 哪 里 出 发 去 公 园 ?

Shǔjià wánle Nǐcóng shénme shíhou kāishǐ shàngkè ne
2) 暑 假 完 了。你 从 什 么 时 候 开 始 上 课 呢？

Cóng jǐdiǎn kāishǐ shàng Yīngyǔ kè ne
3) 从 几 点 开 始 上 英 语 课 呢？

jiù
6. 副詞　就　「就＋動詞で」前の文を受けて結論を出す

Nà wǒmen jiù cóng xiàzhōu kāishǐ ba
1) 那 我 们　就　从　下　周　开 始 吧。

来週から始めましょう。

Tīngshuō lǎoshī jiāode hěnhǎo Wǒmen jiù xuǎn Hànyǔ ba
2) 听　说　老 师　教 得 很 好。我 们　就　选　汉 语 吧！

先生が教えるのが上手だと聞きましたので、中国語を選びましょう。

ちょっと練習！

次の(1)と(2)についてあなたなら、どう答えますか？

jiù
“就”を使って答えてみましょう。

1) コーラーを買ったが、友達があまり飲みたそうにしてなかった時

Nǐ bù xiǎng hē kělè jiù hēchéngzhī ba
「回答参考例」你 不　想　喝 可乐 就 喝 橙　汁 吧！

もしコーラーを飲むのが嫌なら、オレンジジュースを飲んだらいいよ。

2) 山登りが趣味と彼女に言われた時

Tiānqì hǎo de huà wǒmen jiù yìqǐ qù ba
「回答参考例」 天 气 好 的 话 我 们　就 一起 去 吧！

天気がよかったらみんなで行きましょう！

(1)と(2)の答えに関しては、必ず参考の答えの通りでなくてもいい。
学生自らがいいたいことが伝わっていれば回答として正解とする。

趣味リストの表：

bàngqiú 1. 棒 球 野球	tīngyīnyuè 17. 听 音 乐 音楽を聴く
lánqiú 2. 篮 球 バスケットボール	tángāngqín 18. 弹 钢 琴 ピアノを弾く
yǔmáoqiú 3. 羽 毛 球 バドミントン	tánjítā 19. 弹 吉 他 ギターを弾く
gāoěrfūqiú 4. 高 尔 夫 球 ゴルフ	xuéwàiyǔ 20. 学 外 语 外国語を学ぶ
quánjī 5. 拳 击 ボクシング	kàn diànyǐng 21. 看 电 影 映画を見る
wǔshù 6. 武 术 武術	chāhuā 22. 插 花 生け花をする
yóuyǒng 7. 游 泳 水泳	zuòdàngāo 23. 做 蛋 糕 ケーキ作りをする
bǎolíngqiú 8. 保 龄 球 ボウリング	lǚyóu 24. 旅 游 旅行
pīngpāngqiú 9. 乒 乓 球 卓球	kànxiǎoshuō 25. 看 小 说 小説を読む
huábīng 10. 滑 冰 スケート	pānyán 26. 攀 岩 ロッククライミング
huáxuě 11. 滑 雪 スキー	páshān 27. 爬 山 山を登る
mǎlāsōng 12. 马 拉 松 マラソン	zhòngcài 28. 种 菜 野菜を植える
jiàndào 13. 剑 道 剣道	diàoyú 29. 钓 鱼 魚釣りをする

第 6 課　目標達成のための練習問題

1. 1)～3)の人物に自分を置き換え、会話文を自由に完成させて会話を続けましょう。

1) サッカーはできますか？

Nǐ huì tī zúqiú ma
你　会　踢　足　球　吗？

我 _____。

2) 中国料理を作ったことがありますか？

Nǐ zuò guò Zhōngguócài ma
你　做　过　中　国　菜　吗？

我 _____。

3) 中国のオペラを聴いたことがありますか？

Nǐ tīngguò Zhōngguó xìqǔ ma
你　听　过　中　国　戏曲　吗？

はい、1～2 回聴いたことがあります（“次”「～回」を表す）。

我 _____。

2. 表現のための作文練習

自分がこれまで、習ったり、興味をもったことに関して作文を書いてみよう！

_____

_____

_____

3. 上記の 2 で書いたことに関して、書いたことを見ずに、声に出して発表してみましょう。

第 6 課の宿題について

この課の達成目標である自分が好きなことや趣味に関して（何歳から何々を学んでいた）録音し、教師に添付ファイルで送りなさい。必ず使ってほしい単語は次の 2 点です。“喜欢”、“从～开始学～”（好きなことや趣味の単語が分からない場合は、p. 150 の趣味リストを参考にしてもよい）。

第７課　自己表現育成のためのプロジェクト①
「中国語でオリジナルの自己紹介ビデオを作成してみよう！」

前提

「自己表現プロジェクト」教材の第４課から第６課まで学んだことを通し、プロジェクトを完成する。練習問題で出された内容や宿題で出された内容を思い出してみよう。

目標

中国語で、自分なりのオリジナル自己紹介のビデオを作成すること。

注意点

各自、オリジナリティを出すために、撮影器具と撮影場所は自由（家でも学校でも可)。自己紹介の内容に関しても自由（家族の写真を持ってきて紹介するのもあり、そして、家族と一緒に撮るのも可)。

その他

内容としては少なくとも以下の三点を含むこと。

1)自分の名前

2)家族のこと（何人家族ですか、家族がそれぞれ好きなことは何ですか？）

3)自分の好きなことや趣味について：

最後に、ビデオで話した中国に簡体文字の字幕をつけましょう。

なお、ビデオ撮影する時は、最終的にみんなの録画したものを流してもらい。録画する際、必ず、最初に你好といって始まり、最後に谢谢を入れて下さい。

例)

1)大家好 我叫……　　（中国語で簡体字の字幕をつける）

（ご家族が目の前にいる）我家有〇〇口人　这是我爸爸和妈妈。
“在我妈妈旁边的是我哥哥和弟弟”など家族について、彼らの趣味など
（中国語で簡体文字の字幕をつける）

2）我喜欢打篮球　　（中国語で簡体文字をつける）

3）我喜欢看电影など　（中国語で簡体文字をつける）

谢谢

学生に対するフォローについて

1)学生が発表したいことに関して、中国語でどう話したり書いたりするか分からない場合の対応。学生が書きたいことが未習得の表現である場合、どのように書いたらよいのか分からないと質問があった場合、次のようにフォローすることができる。この自己表現プロジェクト①「中国語でオリジナルの自己紹介のビデオを作成してみよう！」は発表ではなく、あらかじめ自分たちが録画してきたものを流し、クラス全体で観て、評価する。したがって、学生は、自分自身が話したい内容を中国語でどのように表現するのか、教師から学び、またはどのように書くのか教師に聞いてもよい。最終的に自分の言葉にして、自己表現プロジェクト①のオリジナルビデオにすること。また、教師側が、学生が発表したいと考えている内容に関し、自己表現プロジェクト①の範囲内であれば（自分や家族のことについての紹介）制限をかけないこと。

2）学生からオリジナルビデオ作成の際、歌やダンスなどの要素をビデオに入れたいという質問があった場合、家族に関係がある中国語の歌や、中国の民族ダンスなど、中国語や中国文化に関連のあるものについては可とする。

評価

クラス内の全体で評価基準を決めて、オリジナル自己紹介ビデオを撮ってから、全員でビデオの内容を評価する。評価基準は、次の A～G とする。 本来設定されている下記の評価基準の他に足したい評価基準の内容があれば、下記の A～G の他にクラス全体で基準評価にどのようなものを付け加えるのか相談してもよい。

評価基準

それぞれ、発表者が表現したことに関し、次の A～G の 7 つの項目に関して、1～5 の点数を与える（1. 大変良い 2. 良い　3. 普通　4. あまり良くない 5. 悪い)。

A. 興味深い発表内容であった

B. 大きな声をだして話せていたか

C. メモを見ずに話せていたか

D. 発音がきれい

E. ビデオの画質がきれい

F. 発表の簡体文字で書いた字幕がよい

G. 発表内容の構成がよい

自己表現プロジェクトの際、教師が準備するもの

(1) 自己表現プロジェクト①のためのサンプルビデオを作る。発表の方法がどうしても分からない学生はサンプルを見て、自分紹介の参考とする。

(2) オリジナル自己発表の際、紹介する家族が出たり、学生が写真を指しながら家族の人や趣味を紹介してもいいことを伝える。

第８課　大学の窓から見える四季

到達目標：今の季節、今日の天気について話すことができる

Nǐ kàn shíjiān guò de duō kuài a shìbúshì
你:你 看 时 间 过 得 多 快 啊, 是 不 是？

Yèzi dōu hóng le
叶子 都 红 了。

Shìā yǐjīng shì qiūtiān le Nǐ zuì xǐhuan nǎ gè jìjié
田中: 是啊, 已 经 是 秋 天 了。你 最 喜 欢 哪 个 季 节？

Wǒ zuì xǐhuan chūntiān chūntiān de yīnghuā tèbié měi
你: 我 最 喜 欢 春 天 ， 春 天 的 樱 花 特 别 美 。

Wǒ zuì xǐhuan xiàtiān Gānghǎo wǒ de shēngrì yě zài
田中:我 最 喜 欢 夏 天 。 刚 好 我 的 生 日 也 在

xiàtiān Zhè ge xiàtiān wǒ dǎsuàn hé péngyou yìqǐ
夏 天 。 这 个 夏 天 我 打 算 和 朋 友 一起

guòshēngrì
过 生 日 。

Wǒ yě xiǎng cānjiā nǐ de shēngrì jùhuì hái kěyǐ jiào
你:我 也 想 参 加 你 的 生 日 聚 会 ， 还 可 以 叫

shàng qítā de zhōngguó liúxuéshēng yìqǐ hǎohǎor rènao
上 其他 的 中 国 留 学 生 ，一起 好 好 儿 热 闹

yíxià
一 下 。

Tài hǎo le xièxie nǐ
田中: 太 好 了！ 谢 谢 你。

第８課 目標にたどり着くための構文表現

1. 得 de　動作がどのような状態に達しているかを表す表現（様態補語）

Shíjiān guòde duōkuàia
1) 时 间 过 得 多 快 啊。 時間が過ぎるのはなんて早いのだろう。

Tā zǒu de hěn kuài
2) 他 走 得 很 快 。 彼は歩くのが早い。

Tā cài zuò de bù hǎo
3) 他 菜 做 得 不 好 。 彼は料理が得意ではない。

shìbúshì
2. 反復疑問文 是 不 是

もし質問者がある事実や状況に対して比較的確信がある時、一歩進んだ確認を得るため、このような表現を用いることができる。

Shíjiān guò de duō kuài a shì bú shì
1) 时 间 过 得 多 快 啊，是 不 是 ？
時間が過ぎるのは早いですね（そう思いませんか）？

Nǐ gēge míngtiān qù Dàbǎn shìbúshì
2) 你 哥哥 明 天 去 大 阪 ， 是 不 是 ？
あなたのお兄さんは明日大阪に行くんですよね？

3. 疑問代詞 “多”をつけると表現が豊かになる。

一般的には、形容詞の前において程度を問い、答える時は必ず数量をいう。

主語	多	形容詞	感嘆詞
nǐ 你	duō 多	gāo 高 高い	a 啊
tián zhōng 田 中	duō 多	shòu 瘦 細い	a 啊
tā 他	duō 多	pàng 胖 太い	a 啊

Shíjiān guò de duōkuài a
1) 时 间 过 得 多 快 啊! 時間が過ぎるのはなんて早いのでしょう。

Tā pǎo de duōkuài a
2) 他 跑 得 多 快 啊! 彼は走るのがなんて早いんでしょう。

yǐjīng
4. 已 经 時間副詞、既に

動作が完了したこと、またはある程度に達したことを表す。

Lǐ lǎoshī yǐ jīng huíjiā le
1) 李 老 师 已 经 回 家 了。李先生は既に家に帰っていた。

Tā de shēntǐ yǐjīng hǎo le
2)他 的 身 体 已 经 好 了？

彼の体調は良くなりましたか？

Tā dǎbàngqiú yǐjīng dǎle shíniánle
3)他 打 棒 球 已 经 打了 十 年 了。

彼は野球をしてから既に 10 年経ちます。

Wǒxué hànyǔ yǐjīng xuéle wǔnián le
4)我 学 汉 语 已 经 学 了 五 年 了。

私は中国語を学んで既に五年経ちます。

xǐhuan
5. 喜 欢 ～が好きだ、～するのが好きだ

Nǐ xǐhuan nǎge jìjié
1)你 喜 欢 哪 个 季 节？ あなたが好きな季節はどの季節ですか？

Nǐ zuì xǐhuan nǎge jìjié
2)你 最 喜 欢 哪 个 季 节？ あなたが最も好きな季節はどの季節ですか？

Nǐ zuìxǐhuan de yùndòng shìshénme
3)你 最 喜 欢 的 运 动 是 什 么？

あなたが一番好きなスポーツはどのスポーツですか？

Wǒ zuì xǐhuan dōngtiān
4)我 最 喜 欢 冬 天 。 私は、冬が最も好きです。

dǎsuàn
6. 打 算 助動詞、予定を表す表現

肯定文：主語＋打算＋動詞＋目的語

否定文: 主語＋**不**＋打算＋動詞＋目的語（予定立っていない、よく使う）

主語＋打算＋**不**＋動詞＋目的語（しないつもりです）

Wǒ dǎsuàn míngnián qù liúxué
1) 我 打 算 明 年 去 留 学 。来年留学する予定です。

Wǒ bù dǎsuàn chī wǎnfànle
2) 我 不 打 算 吃 晚 饭 了。晚御飯は食べる予定はありません。

Wǒ dǎsuàn bù shàng kèle
3) 我 打 算 不 上 课 了。私は授業に行くつもりはありません。

ちょっと練習！

次の 1)～3)の質問に対し、あなたならどう反応し、答えますか？

ヒント“～打算”を使って下さい。

Nǐ dǎsuàn xuǎn nǎyígè dìèrwàiyǔ ne
1) 你 打 算 选 哪一个 第二 外 语 呢？

あなたはどの第二言語を選ぶ予定ですか？

我＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

Wǒ dǎsuàn xué yìdàliyǔ nǐne
2) 我 打 算 学 意大利语，你呢？

イタリア語を学ぶ予定ですが、あなたは？

我＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

Wǒ xiànzài zài Zhōngguó xué Hànyǔ wǒ bù dǎsuan xué Fǎyǔ le
3) 我 现 在 在 中 国 学 汉 语，我 不 打 算 学 法语 了。

今中国で中国語を学んでいます。もうフランス語を学ぶ予定はありません。

shìma nàwǒyě fǎyǔ le
是 吗，那我也＿＿＿＿＿＿＿＿法语 了。

yíxià
7. 一 下 動詞の後に用いて短い動作を表す

Yìqǐ hǎohaor rènao yíxià
一起 好 好儿 热 闹 一 下 。

みんなで賑わいながらちょっとお祝いでもしましょう。

（目的語は省略することができる。）

主語	動詞	一下	目的語
wǒ 我	kàn 看	yíxià 一 下	zhèběnshū 这 本 书
nǐ 你	qù 去	yíxià 一 下	shāngdiàn 商 店
wǒ 我	wèn 问	yíxià 一 下	nǎinai 奶 奶

第 8 課 目標達成のための練習問題

1. 疑問文“是不是？”を使って、図を見て隣りの人とペアワークで以下の質問をしてください。そして聞かれた人は自分の意見を言って下さい。

2. 次の動詞を使って：

觉得(思う)、不觉得(思わない)、可爱(可愛いい)、喜欢(好き)、不喜欢(好きではない)

xióng māo
熊 猫

māo
猫

gǒu
狗

Wǒ juéde xióngmāo zuì kěài shìbúshì
1) A. 我 觉 得 熊 猫 最 可 爱， 是 不 是 ？

Shìde wǒyě jiàode xióngmāo zuìkěài
B. 是 的， 我 也 觉 得 熊 猫 最 可 爱。

Wǒ zuì xǐhuangǒu wǒbù xǐhuan māo
2) A. 我 最 喜 欢 狗 ， 我 不 喜 欢 猫 。

Xiǎogǒu duō kěài a shìbúshì
小 狗 多 可 爱 啊， 是 不 是 ？

Shì a dànshì wǒ gèng xǐhuan māo
B. 是 啊， 但 是 我 更 喜 欢 猫 。

3. 一番好きな季節はどの季節か、教師が学習者に当てて聞きましょう。

chūn tiān
春 天

xià tiān
夏 天

qiū tiān
秋 天

dōng tiān
冬 天

Wǒ zuìxǐhuan wǒbùxǐhuan nǐyěxǐhuan shìbúshì
1) A.我 最 喜 欢 ____， 我 不 喜 欢 ____。 你 也 喜 欢 _____， 是 不 是 ？

Shìde dàn shì wǒ zuìxǐhuan de shì
2) B. 是 的， 但 是 我 最 喜 欢 的 是 _____。

de
4. 次の様態補語、得を使って表現しなさい（使う単語は、得，走 快 ，慢）

1)教師がゆっくり歩く。その姿を見てどのような状態か学生を指名して回答させる。

Lǎoshī zǒu de hěn màn
「回答参考例」 老 师 走 得 很 慢 。

2)教師が早く歩くその姿を見てどのような状態か学生に当ててきく

Lǎoshī zǒu de hěn kuài
「回答参考例」 老 师 走 得 很 快 。

第 8 課の宿題について

今日の授業の中で、自分が一番好きな季節、一番好きな動物を学び、またなぜ好きなのかということに関しても“我觉得～”という表現を学びました。自分で「一番好きなものは～である」というトピックを決め、そのトピックに関して、もう一人の誰かと会話したものを完成の上、録音し、添付ファイルにして送ってください。これまで学んできた課の中で使える表現をできるだけ多くとりいれ、より会話に内容が楽しいものにできたらいいですね。

第９課　図書館で偶然友達と会う

到達目標：理由を説明できるようになる

Nǐ búshì xiàwǔ méiyǒu kè le ma
你:你 不 是 下 午 没 有 课 了 吗？

Zěnme méi qù dǎwǎngqiú ne
怎 么 没 去 打 网 球 呢？

Wǒ kàn wǎngqiúduì de rén dōu xiàng qiúchǎng de fāngxiàng
我 看 网 球 队 的 人 都 向 球 场 的 方 向

zǒu ne
走 呢。

Wǒ jīntiān bù qù le Yīnwéi míngtiān dìsānjié kè yǒu
田中:我 今 天 不 去 了。因 为 明 天 第 三 节 课 有

kǎoshì suǒyǐ wǒ děi zài túshūguǎn fùxí
考 试，所 以 我 得 在 图 书 馆 复 习。

Jīntiān túshūguǎn dào bā diǎnbàn guānmén
今 天 图 书 馆 到 八 点 半 关 门 。

Nà wǒ yě hé nǐ yìqǐ fùxí ba Háiyǒu biéwàngle xiàge
你:那 我 也 和 你 一起 复习 吧。还 有，别 忘 了 下 个

xīngqīèr hànyǔ kè yě yǒu kǎoshì
星 期二（汉 语 课）也 有 考 试 。

Hǎode wǒmen yìqǐ jiāyóu ba
田中: 好 的，我 们 一起 加 油 吧！

第 9 課 目標にたどり着くための構文表現

1. 疑問代詞　“怎 么”＋動詞／形容詞　～なぜ～しなかったの？

まず理由の聞き方です。

Nǐ búshì xiàwǔ méiyǒu kè le ma Zěnme méi qù dǎwǎngqiú ne
1)你 不 是 下 午 没 有 课 了 吗？怎 么 没 去 打 网 球 呢？

「午後は授業がないのではなかったのですか？」と聞いた後、「なぜ」「どうして」にあたる“怎么”を入れていきます。なぜテニスに行かなかったの？となります。

主語	述語	
	zěnme 怎 么	動詞/形容詞
nǐ 你	zěnme 怎 么	méiqù shàngkè 没 去 上 课
jīntiān 今 天	zěnme 怎 么	zhème lěng 这 么 冷
tāmen 她 们	zěnme dōu 怎 么 都	bùchī wǎnfànne 不 吃 晚 饭 呢

次に、上記で述べた「なぜ～しなかったの？」に対し、「なぜなら～だからです」という表現ができるように学習します。

yīnwéi suǒyǐ
2. 関連詞 “因 为…所 以…”

二つの因果関係を表す節をつなげ、前の節は原因を表し、後ろの節が結果を表す。セットで使うこともできます。

yīnwèi 因 为 なぜなら	suǒyǐ 所 以 したがって
yīnwèi xiàtiān ① 因 为 夏 天 夏だから	suǒyǐ hěnrè 所 以 很 热 だからとても暑い
yīnwèi shēntǐ bùhǎo ② 因 为 身 体 不 好 体の調子が悪い	suǒyǐ méiqù shàngkè 所 以 没 去 上 课 だから授業に行かなかった
yīnwèi chūntiān ③ 因 为 春 天 春だから	suǒyǐ yīnghuā kāi le 所 以 樱 花 开 了 だから桜が咲いた
yīnwèi měitiānyóuyǒng ④ 因 为 每 天 游 泳 毎日泳いでいるから	suǒyǐ yǒu tǐlì 所 以 有 体 力 だから体力がある
yīnwèi māma kāixīn ⑤ 因 为 妈 妈 开 心 母が喜んでいるから	suǒyǐ wǒyě kāixīn 所 以 我 也 开 心 だから私もとても嬉しい

ちょっと練習！

まず前のページの“怎么”の表と、上記の表の関連詞“因为…所以…をみて対話を続けてみましょう。

Nǐ zěnme méiqù shàngkè
学生A: 你 怎么 没去 上 课？

Yīnwèi shēntǐ bùhǎo suǒyǐ méiqù shàngkè
学生B: 因为 身体不好，所以 没去 上 课。

（続けて……自分たちでも自由に対話を考えてみる。）

Tāmen zěnme dōu bùchī wǎnfàn ne
学生C: 她们 怎么 都 不吃 晚饭 呢？

Yīnwèi dǎsuàn jiǎnféi suǒyǐ tāmen dōu bùchī wǎnfàn
学生D: 因为 打算 减肥，所以 她们 都 不吃 晚饭。

3. 月・日や曜日、時刻、言い方

中国語の日にちの表し方は大から小の原則に従い、まず「月」、次に「日」、最後に「曜日」を言う。口語では、一般的に“号”を使う。例えば

Wǔ yuè yī hào xīngqīsān
1) 五 月 一 号 星 期 三

Liù yuè wǔ hào xīngqīsì
2) 六 月 五 号 星 期四

Bā yuè sānshí hào xīngqīèr
3) 八 月 三 十 号 星 期二

ちょっと練習！

教師が、下の月のピンインを読み上げるので、学生は聞こえた通りのピンインを下の月の下に書いて下さい。書いた後、アウトプットしてみて下さい

yīyuè	èryuè	sānyuè	sìyuè	wǔyuè	liùyuè	qīyuè
一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月
bāyuè	jiǔyuè	shíyuè	shíyīyuè	shíèryuè		
八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月		

ちょっと練習！

下記の質問に対し中国語で答えましょう。

1)周りの人は何月生まれが一番多いのか、中国語で聞いてみましょう。

2)図書館は何時に閉館致しますか？

Túshūguǎn liùdiǎnbàn guān mén
图 书 馆 六 点 半 关 门 。 図書館は六時半に閉館します。

3)下記の A～F の時刻に関して、教師がピンインを読むので、学生は自分が聞こえた声調とピンインを書きなさい。

yī diǎn liǎng diǎn sān diǎn liǎng diǎn bàn
A. 一 点 B. 两 点 C. 三 点 D. 两 点 半

sān diǎn shí wǔ fēn sān diǎn sān shí fēn bàn
E. 三 点 十 五 分 F. 三 点 三 十 分 / 半

・簡体字で書かれた時刻の下にピンインを打ちましょう。

wǔdiǎn wǔshífēn chà wǔfēn liùdiǎn
G. 五 点 五 十 分 H. 差 五 分 六 点

4)教師が、下の月のピンインを読み上げるので、学生は聞こえた通りのピンインと声調を下の曜日に関する単語の上に書いてください。そして、書いた後、アウトプットしてみて下さい。

ピンインと声調を書く。

xīngqīyī xīngqīèr xīngqīsān xīngqīsì xīngqīwǔ
星 期一 星 期二 星 期 三 星 期四 星 期五

xīngqīliù xīng qī rì xīng qī tiān
星 期 六 星 期 日/ 星 期 天

ちょっと練習！

次の質問に対し、何時に起きるのか、時間で答えて下さい。

Nǐ měitiān jǐdiǎn shàngkè
1)你　每　天　几　点　　上　课？

Nǐ měitiān jǐdiǎn qǐchuáng
2)你　每　天　几　点　　起　床？

Nǐ zuótiān jǐdiǎn shuìde
3)你　昨　天　几　点　　睡　的？

Nǐ jīntiān dǎsuàn jǐdiǎn huíjiā
4)你　今　天　打　算　几　点　　回　家？

これらの回答に対し、時間を述べた後、会話が続くように内容を膨らませてもよい。

第9課　目標達成のための練習問題

1. 月曜日から日曜日までの中国語の言い方を3分で覚えましょう。3分たった後、教師が学生を指名するので、教科書を閉じても字を見なくても答えられるようにしましょう。

2. もし次のような質問をされたら、あなたはどうしますか？次の質問に対し、声に出してから答えてみよう。

Nǐ zěnme zuótiān méilái xuéxiào ne
1) 你　怎么　昨　天　　没　来　学　校　呢？

昨日どうして学校に来れなかったのですか？

Yīnwèi　　suǒyǐ
因　为＿＿＿＿＿＿，所　以＿＿＿＿＿＿＿。

Nǐ wèishénme bù xǐhuan xiàtiān ne
2) 你　为　什　么　不　喜　欢　　夏　天　呢？

どうして夏が好きではないのですか？

Yīnwèi
因　为＿＿＿＿＿＿＿＿＿。

Nǐdàxuéjǐ niánjíle
3) 你大　学　几　　年　级了？

大学何年生ですか？

Wǒ　　dàxué sānniánjíle
我_____大 学　三　年 级了。

Nǐde shēngrì jǐyuè jǐhào
4) 你的　生　日 几月　几 号？ _____。

あなたのお誕生日は何月何日ですか？

Xiànzài jǐdiǎn jǐfēn
5)　现　在　几　点　几 分？ _____。

今は何時何分ですか？

3. 自由作文

次の 4 つの内容について自由に書いてください。

①朝は普通何時におきますか？

②大学は何時に始まりますか？

③あなたはだれと夜ご飯を一緒に食べますか？

④何時に寝ますか？

_____

_____

_____

_____

_____

第 9 課の宿題について

1. 自分の授業のスケジュールの中で、一週間の内、中国語の授業は、何曜日に、週間に何回ありますか？
2. 毎朝朝何時に起きて、何時に大学に来ますか？
3. 半年以上習っていることをひとつ考え、それを中国語で、「既に〇〇年間習っています」と表現して下さい。

この 3 つの内容を録音し添付ファイルで教師に送って下さい。また文章にして書いたものを、簡体字で書き、次の授業に教師に提出してください。こうすることで、書く方のアウトプットの練習になるだけでなく、自分が書けるもの、書けないものの気づきになり、学ばないといけない点に注意できるようになります。

第 10 課 勉強の時間

到達目標： 困った時に協力をお願いすることが表現できる

Nǐ xiànzài yǒu shíjiān ma
田中: 你 现 在 有 时 间 吗？

Wǒ xiǎng wèn nǐ yìdiǎnr xuéxí de wèntí
我 想 问 你 一 点 儿 学 习 的 问 题。

kěyǐ a nǐ shuō ba
你:可 以 啊，你 说 吧。

Shàngcì kǎoshì yǒudiǎnr nán wǒ kǎode bù tài hǎo
田中: 上 次 考 试 有 点 儿 难，我 考 得 不 太 好，

Zhèdàotí bù tài míngbái
这 道 题 不 太 明 白 。

Méiguānxi zánmen lái yìqǐ kànkan
你: 没 关 系， 咱 们 来 一起 看 看 。

（説明する）

Xiànzài wǒ míngbái le nǐ kěyǐ zài bāngwǒ kànyíxià zhèdào
田中: 现 在 我 明 白 了，你 可 以 再 帮 我 看 一 下 这 道

tíma
题 吗？

Dāngrán kěyǐ a Xiàcì wǒmen yìqǐ fùxí
你: 当 然 可 以 啊。 下 次 我 们 一起 复 习，

Nǐ búhuì de wèntí zài wènwǒ wǒmen hùxiāng bāngzhù
你 不 会 的 问 题 再 问 我，我 们 互 相 帮 助，

Xiàcì kǎoshì yídìng yào jiāyóua
下 次 考 试 一 定 要 加 油 啊!

Xièxienǐ Xiàcì yīnggāi méiwèntí
田中: 谢 谢 你！ 下 次 应 该 没 问 题！

第 10 課 目標にたどり着くための構文表現

yǒudiǎnr
1. 有 点 儿 ＋形容詞／動詞（程度副詞、話し手の消極的・不満な気持ちを表す）

Shàngcì kǎoshì yǒudiǎnr nán
1) 上 次 考 试 有 点 儿 难 。 前回の試験は少し難しかった。

Zhèběn shū yǒudiǎnr guì
2) 这 本 书 有 点 儿 贵 。 この本は少し高い。

ちょっと練習！

yǒudiǎnr
1. 上記内容を参考に、次の二つの単語に関し、“ 有 点 儿”を使って会話できる文にしましょう。

tiānqì yǒudiǎnr
1） 天 气(天気) 有 点 儿（少し）

Jīntiān tiānqì yǒudiǎnr lěng
今 天 天 气 有 点 儿 冷 。 今日の天気は少し寒かった。

yīfu yǒudiǎnr
2）衣服(服) 有 点 儿 （少し）

Zhè jiàn yīfu yǒudiǎnr dà
这 件 衣服 有 点 儿 大。 この服は少し大きい。

yìdiǎnr
◎一 点 儿

Wǒ xiǎng wèn nǐ yìdiǎnr xuéxí shàng de wèntí
1)我 想 问 你 一 点 儿 学 习 上 的 问 题。
あなたにちょっとお聞きしたいことがあります。

Zhè tiáo kùzi tàiguìle kěyǐ piányi yìdiǎnr ma
2) 这 条 裤子 太 贵 了！可 以 便 宜 一 点 儿 吗？
このズボンは高すぎで、少し安くしてもらいませんか？

ちょっと練習！

上記内容を参考に次の二つの単語に関し、「一点儿」を使って会話できる文にしましょう。

píngguǒ mǎi
苹 果 买

Wǒ mǎi le yìdiǎnr píng guǒ
我 买 了 一 点 儿 苹 果 。 私は少しリンゴを買った。

◎否定形を言いたい時

Xué yīngyǔ yìdiǎnr yě bùnán
学 英 语 一 点 儿 也 不 难 。 英語を学ぶのは少しも難しくない。

kěyǐ
2. 可 以＋動詞～

Zhèr kěyǐ chōuyān ma
1)这 儿 可 以 抽 烟 吗？ ここでたばこを吸うことができる？

Nǐ kěyǐ zài bāng wǒ kànyíxià ma
2)你 可 以 再 帮 我 看 一 下 吗？

もう一度みてもらってもよろしいでしょうか？

Zài túshūguǎn kěyǐ hēshuǐ ma
3) 在 图 书 馆 可 以 喝 水 吗？ 図書館で水を飲んでも構いませんか？

zhèng zài zhèngzài
3. 正 / 在 / 正 在 動作の進行に関わらず

zhèng ne
主語＋ 正 ＋動詞（＋目的語）＋（呢）～している

(正在)

Wǒ zài xuéxí ne
1) 我 在 学 习 呢。 今勉強中です。

Lǎoshī zhèngzài shàngkè
2) 老 师 正 在 上 课。 先生は授業中です。

◎疑問形

Tā zài xuéxí ma shìde tā zài xuéxí
她 在 学 习 吗？ -- 是 的，她 在 学 习。

彼女は今勉強していますか？--はい、そうです。

◎否定形

Tāméi yǒu zài xuéxí
她 没 （ 有 ） 在 学 习。彼女は今勉強していません。

yīnggāi
4. 助動詞　　应　该　＋動詞　「～すべきである」

Gǎnmàole　yīnggāi chīyào
1) 感　冒　了　，　应　该　吃　药　。　　風邪を引いたら、薬を飲むべきである。

Xuéshēng bù yīnggāi shàngkè chídào
2) 学　生　不　应　该　上　课　迟　到　。
学生は授業に遅刻すべきではありません。

第 10 課 目標達成のための練習問題

1)次の絵と言葉を見て、自分ならどう答えるのか与えられた単語を使って質問に答えなさい。

xuéhànyǔ　nán　　Xué hànyǔ yǒudiǎnr nán
① 学　汉　语　　难　　答え：「回答参考例」 学　汉　语　有　点　儿　难　。

kāfēi　kǔ　bù
②咖 啡　苦　不

Zhèbēi kāfēi yìdiǎnr yě bù kǔ
答え:「回答参考例」 这　杯　咖 啡　一　点　儿　也　不　苦。

② 言葉の意味を尋ねられたが、全然分からない時

Wǒ yìdiǎnr dōu kàn bùdǒng
答え：「回答参考例」 我　一　点　儿　都　看　不　懂

Zhège cí nǐ kàndedǒng ma
这 个 词 你 看 得 懂 吗？

Jīntiān yǒudiǎnr rè
④今日はちょっと暑いねと言いたい時　　答え：今　天　有　点　儿　热。

第 10 課の宿題について

上記①～⑤の文を発音し、有点儿と一点儿に関する文を作り、それを録音し、添付ファイルで教師に送ってください。また、新しく作った文を次の授業までに教師に提出する。

第 11 課　自己表現プロジェクト②
「パワーポイントを使って、中国語で自分のスケジュールについて発表してみよう！」

前提

教材の第 8 課から第 10 課までで学んだことを通し、自己表現プロジェクト②「パワーポイントを使って、中国語で自分のスケジュールについて発表しょう」に関して発表する。

目標

月曜日から、日曜日のスケジュールの中から、一番好きな曜日について朝から夜までのスケジュールを発表する。また、その中で自分が一番好きな時間をみんなに紹介する。

注意点

少なくとも、次の内容を必ず入れること。

① 時間の経過の表現

② 一日のスケジュール時間を必ず表現すること

③ 自己表現プロジェクト②「パワーポイントを使って、中国語で自分のスケジュールについて発表してみよう！」で使いたい表現はあるが、言い方が分からない場合は、教師に聞いてから、練習した後、発表してもよい。

学生に対するフォローについて

学生が発表したいことに関して、パワーポイントやプリント等を使ってどのように中国語で自分のことを紹介すればよいか分からない場合、次のようにフォローすることができる。

(1)パワーポイントにおいて、表現したい内容がまだ習ったことのない内容、あるいは、辞書でも見つかりにくい単語などの場合、教師がいくつか学生が使いたいと考えている表現を教え、最終的に学生はそれを自分の言葉にしてパワーポイントを作成する。

(2)発表に関し、中国語のアウトプットに関しどうしても自信がない学生は、休み時間を利用して、教師に発音の練習をしてもよいものとする。また、書いたものを教師に送り点検してもらってもよいものとする。

(3)発表内容に関連あるものであれば、動画や写真を自分のパワーポイントの中に入れてもいいものとする。使用してもよいか分からない動画や写真がある場合は、自分で勝手に判断せずに教師に聞くこと。

評価

下記の評価基準以外にも、付け足したい評価基準がある場合、クラス全体で相談し、新しく付け加える評価基準が必要なものであるかどうか決める。

評価基準

それぞれ、発表者が表現したことに関し、次の A～G の７つの項目に関し１～５の点数をつける（1. 大変良い 2. 良い　3. 普通　4. あまり良くない 5. 悪い）。

A. 興味深い発表内容であった

B. 大きな声をだして話せていたか

C. メモを見ずに話せていたかの

D. 発音がきれい

E. パワーポイントがきちんと準備されている

F. 発表時の際使っているパワーポイントの字が見やすいものかどうか

G. 発表内容の構成がよい

自己表現プロジェクトの際、教師が準備するもの

自己表現プロジェクト②のためのサンプルのパワーポイントを作る。発表の方法がどうしても分からない学生はサンプルを参考に、自分なりのパワーポイントを作ろう！

第 12 課　関西圏は広い

到達目標：中国語で関西地区はどんな場所があるか話すことができる

Shǔjià nǐ dǎsuàn zuòshénme
田中: 暑 假 你 打 算 做 什 么？

Wǒ fùmǔ lái Dàbǎn wǒ xiǎng dài tāmen guàngguang
你:我 父 母 来 大 阪，我 想 带 他 们 逛 逛

Dàbǎn Jīngdū Nàiliáng háiyǒu Shénhù
大 阪 、 京 都、奈 良 、还 有 神 户。

(　)の中に、自分の実家の名前を(　　)の中にいれる。

Guānxī hěndà yǒu hěnduō dìfāng dōu kěyǐ dài tāmen qù
田中: 关 西 很 大，有 很 多 地 方 都 可 以 带 他 们 去

kànkan wánwanr Tāmen yǒuméiyǒu tèbié xiǎngchīde dōngxī
看 看 、玩 玩 儿 。他 们 有 没 有 特 别 想 吃 的 东 西，

xiǎng qùde dìfāng
想 去 的 地 方？

Wǒ bàshuō tā xiǎng qùJīngdū háixiǎng chángchang Dàbǎn de
你:我 爸 说 他 想 去 京 都，还 想 尝 尝 大 阪 的

zhāngyú xiǎowánzi
章 鱼 小 丸 子。

Nàiliáng hé Jīngdū dōu lí Dàbǎn bùyuǎn zuò diànchē
田中: 奈 良 和 京 都 都 离 大 阪 不 远 ， 坐 电 车

dàgài yígè xiǎoshí zuǒyòu jiù dàole
大 概 一 个 小 时 左 右 就 到 了。

Wǒ zài gěi tāmen jièshào yíxià Nàiliáng hé Jīngdū de lì
你: 我 再 给 他 们 介 绍 一 下 奈 良 和 京 都 的 历

shǐ Wǒ bàba duì lìshǐ gǎnxìngqù
史 。我 爸 爸 对 历 史 感 兴 趣 。

Jìde dàishàng dìtú
田中:记 得 带 上 地 图。

Hǎode fàngxīn ba
你: 好 的， 放 心 吧。

第 12 課　目標にたどり着くための構文表現

gěi
1.　给　介詞「～に」

Wǒ zài gěi tāmen jièshào yíxià Nàiliáng hé Jīngdū de lìshǐ
我 再 给 他 们 介 绍 一 下 奈 良 和 京 都 的 历 史 。
私がもう一度、彼らに奈良と京都の歴史を教えましょう。

Wǒ gěi nǐ dǎ diànhuà
1)我 给 你 打 电 话 。　私があなたに電話をかける。

Wǒ xiǎng gěi nǐ sòngge lǐwù
2)我 想 给 你 送 个 礼 物 。　あなたに贈り物をした。

ちょっと練習！

次の 3)と 4)に関して、どのように介詞 “给” を使って表現するのか伝えてみてください。

3)自分が祖母に手紙を書きたいと思った時：

Wǒ xiǎng gěi nǎinai xiěxìn
[回答参考例] 我 想 给 奶 奶 写 信 。

4)もう一度彼らに奈良を紹介しょうと思った時：

Wǒ zài gěi tāmen jièshào yíxià nàiliáng
[回答参考例] 我 再 给 他 们 介 绍 一 下 奈 良 。

duì yǒu gǎn xìngqù
2.　对 ～ 有 / 感　兴 趣

Tā duìzhōngguó lìshǐ yǒu xìngqù
1) 他 对 中 国 历 史 有 兴 趣。
彼は中国の歴史に興味がある。

Wǒ duìdǎbàngqiú hé tīzúqiú gǎnxìngqù
2) 我 对 打 棒 球 和 踢 足 球 感 兴 趣。
私は、野球とサッカーに興味がある。

Nǐ duìshénme yùndòng gǎnxìngqù ma
3) 你 对 什 么 运 动 感 兴 趣 吗？
あなたはどんなスポーツに興味がありますか？

ちょっと練習！

次のような質問をしたい時、どのように表現しますか？

1)あなたは日本のどこに興味がありますかと表現したい時

Nǐ duì rìběn de shénme dìfāng gǎnxìngqù
[回答参考例] 你 对 日本 的 什 么 地 方 感 兴 趣？

2)彼らが何に興味があるのか分からない時

Wǒ bù zhīdào tāmen duì shénme yǒuxìngqù
[回答参考例] 我 不 知 道 他 们 对 什 么 有 兴 趣。

lí
3. 离　ある場所からの距離を示し、……（の場所）から距離がある

lí
肯定形　A 点＋离＋B 点＋形容詞

lí　bù
否定形　A 点＋离＋B 点＋不＋形容詞

Wǒ jiā lí xuéxiào hěn yuǎn
1) 我 家 离 学 校 很 远 。 私の家は学校からとても遠い。

Wǒ jiā lí xuéxiào bùyuǎn zuò gōnggòngqìchē èrshífēnzhōng jiù
2) 我 家 离 学 校 不 远 ，坐 公 共 汽 车 二 十 分 钟 就

dào le
到 了。

私の家は学校から遠くありません、バスに乗れば 20 分で着きます。

dài
4. 带　動詞　案内する・率いる

Wǒ xiǎngdài tāmen guàngguang Dàbǎn Jīngdū Nàiliáng háiyǒu
1) 我 想 带 他 们 逛 逛 大 阪 、 京 都、奈 良 还 有

Shénhù
神 户。 私は、彼らを連れて京都、奈良、そして神戸を回りたい。

Wǒ xiǎng dài yéye hé nǎinai qù gōngyuán sànbù
2) 我 想 带 爷爷 和 奶 奶 去 公 园 散 步。

私は祖父と祖母を連れて公園に散歩に行きたい。

◎動詞の“带”は連れていく、案内する他に、～を身に着ける、携帯する、持って行くという意味もある。

Wǒ dài le yìxiē píngguǒ hé xiāngjiāo
1) 我 带 了 一 些 苹 果 和 香 蕉 。

私は、りんごとバナナを持ってきた。

Hǎoxiàng kuài xiàyǔ le chūmén de shíhòu biéwàngle dàiyǔsǎn
2) 好 像 快 下 雨 了，出 门 的 时 候 别 忘 了 带 雨 伞 。
もうすぐで雨が降りそうです。出かける時、傘を忘れないで下さい。

ちょっと練習！

下記の表の、場所、手段、時間を使って、距離があまりないことを表現しましょう。

Rìběn lí Zhōngguó bùyuǎn zuòfēijī liǎnggexiǎoshí
「回答参考例」日 本 离 中 国 不 远 ， 坐 飞 机 两 个 小 时
jiùdàole
就 到 了。

場所	手段	時間
rìběn zhōngguó 日 本 ⇔ 中 国	zuòfēijī 坐 飞 机	liǎng ge xiǎoshí 两 个 小 时
jiā xuéxiào 家 ⇔ 学 校	qízìxíngchē 骑 自 行 车	shífēnzhōng 十 分 钟
jiā gōngsī 家 ⇔ 公 司	pǎobù 跑 步	wǔfēnzhōng 五 分 钟

第 12 課　目標達成のための練習問題

1. 1)～3)の人物に置き換え、“给”を使って、自分を質問文と会話文を自由に完成させ、会話を続けましょう。

1) 日本で有名なサッカー選手を友達に紹介したい時

_____

2) 中国料理を作ってあげたい時

_____

3) 「中国の音楽を聴いたことがありますか？」という質問に、「何曲か紹介しましょうか？」と言いた時

_____

2. 表現のための作文練習

gěi
“ 给 ”をつかってできるだけ多くの文を考え、先生に話して通じるか質問をして会話を続けてみましょう。

3. 上記 2 で書いたことに関して、書いたことを見ずに、声に出して発表してみましょう。

第 12 課の宿題について

自分が興味あることを３つ考え、考えた後、それを “对～有/感 兴趣”の文に当てはめて録音して下さい。例えば、音楽が好きであれば、録音する内容は「你对音乐有兴趣吗？」というように一つの文で考え、練習した後、録音する。そして、録音したものを添付ファイルで教師に送って下さい。

第 13 課　清水寺へ行こう

到達目標：清水寺はどんなところか簡単に説明できる

Guǒrán shì shǔjià chúle yǒu hěnduō Rìběnrén nǐ kàn nàbiān
母: 果 然 是 暑 假！除 了 有 很 多 日 本 人，你 看 那 边

háiyǒu hǎoduō ōuzhōurén
还 有 好 多 欧 洲 人。

Wǒ bà qù nǎr le
你:我 爸 去 哪儿 了？

Nǐ bà zài nàge cháwū mǎi mǒchá bīngqílín ne
母:你 爸 在 那个 茶 屋 买 抹 茶 冰 淇 淋 呢。

Nǐ kàn tā mǎiwánle zhèng zǒuguòlái ne
你 看 他 买 完 了 正 走 过 来 呢。

Nǐ yǐqián láiguò Qīngshuǐsì ma
父:你 以 前 来 过 清 水 寺 吗？

Wǒ shìyígeyuè qián gāng láiguò de Suīrán Jīngdū yǒu hǎoduō
你:我 是 一个 月 前 刚 来 过 的。虽 然 京 都 有 好 多

sìyuàn dànshì Qīngshuǐsì de lìshǐ shì zuìchángde Hái zài yī
寺 院，但 是 清 水 寺 的 历 史 是 最 长 的。还 在 一

jiǔjiǔsì nián bèi lièrù le shìjiè yíchǎn mínglù ne
九 九 四 年 被 列 入 了 世 界 遗 产 名 录 呢。

Wā Zhème lìhài
母:哇！这 么 厉 害！

Zhème yǒumíng suǒyǐ cái yǒu zhème duō yóukè ba
父: 这 么 有 名，所 以 才 有 这 么 多 游 客 吧。

Nà wǒmen kuài jìnqù kànkan ba
你:那 我 们 快 进 去 看 看 吧。

Děngděng Biépǎo biépǎo
父母: 等 等！别 跑 别 跑！

第 13 課　目標にたどり着くための構文表現

suīrán　dànshì
1.　虽　然 …… 但　是 ……　「～だけれど、しかし～」「～が、ですが～」

Nǐ qùguò Zhōngguó ma
1) 你 去 过　中　国 吗?

中国に行ったことがありますか？

Wǒ suīrán qùguò hǎojǐcì　dànshì háixiǎng zàiqù wánr
我 虽 然 去 过 好 几 次，但 是 还 想 再 去 玩 儿。

私は、既に何度も行ったこと。

Suīrán shì chūntiānle　dànshì yèli háishì yǒudiǎnr lěng
2) 虽 然 是 春 天 了，但 是 夜 里 还 是 有 点 儿 冷 。

今は春ですが、夜はまた少し寒い。

ちょっと練習！

次の二つの文を使ってどのように表現するのか、伝えてみましょう！

Tā gèzi bùgāo　Tā dǎlánqiú dǎ de hěn bàng
1) ①他 个 子 不 高 。②他 打 篮 球 打 得 很 棒 。

Suīrán tā gèzi bùgāo　dànshì dǎlánqiú dǎ de hěnbàng
[回答参考例] 虽 然 他 个 子 不 高 ， 但 是 打 篮 球 打 得 很 棒 。

彼の身長は高くないけれど、バスケットボールはとても上手です。

Míngtiān shì qíngtiān　Míngtiān hěnlěng
2) ① 明 天 是 晴 天 。② 明 天 很 冷 。

Suīrán míngtiān shì qíngtiān　dànshì hěn lěng
[回答参考例] 虽 然 明 天 是 晴 天 ， 但 是 很 冷 。

晴れですが、寒いようです。

suīrán
◎“ 虽　然 ”が省略されることもあります。

第 13 課　到達目標のための練習問題

もし次のような質問をされたら、你はどうしますか？ 次の質問に対し、声に出してから答えてみよう。

(1)痩せているけれど体力がありますか？

Suīrán wǒ shòu　dànshì wǒ hěn yǒu tǐlì
[回答参考例] 虽 然 我 瘦 ， 但 是 我 很 有 体 力。

(2)大学はいつ始まりますか？

(3)あなたは誰と夜ご飯を一緒に食べますか？

(4)何時に寝ますか？

第 13 課の宿題について

上記で書いた①～④を録音し、添付ファイルで教師に送ってください。

第 14 課 奈良公園へ行こう

到達目標：奈良公園はどんなところか簡単に紹介できる

Nàiliáng gōngyuán de rén zhēnduō Wǒmen yìbiān sànbù
爸爸: 奈 良 公 园 的 人 真 多！我 们 一 边 散 步

yìbiān kànkan fēngjǐng ba
一 边 看 看 风 景 吧！

Xiǎo lù guòlái le
（ 小 鹿 过 来 了）

Nǐkàn xiǎolù hái guòlái gěi wǒ xínglǐ ne
妈妈:你 看 小 鹿 还 过 来 给 我 行 礼 呢。

Wǒmen qù mǎi yìdiǎnr lù bǐnggān ba
我 们 去 买 一 点 儿 鹿 饼 干 吧。

Bàba nǐbǎ xīnmǎi de zhàoxiàngjī dàilái le ma
你:爸 爸，你 把 新 买 的 照 相 机 带 来 了 吗？

Wǒmen sāngerén lái pāigezhào ba
我 们 三 个 人 来 拍 个 照 吧！

Hǎode Yīèrsān qiézi
好 的！一 二 三， 茄 子！

Nàiliáng gōngyuán měige jìjié de fēngjǐng dōu bùyíyàng
你: 奈 良 公 园 每 个 季 节 的 风 景 都 不 一 样。

Chūntiān de shíhou yīnghuā hěnměi qiūtiān de shíhou
春 天 的 时 候 樱 花 很 美， 秋 天 的 时 候

hóngyè yě hěn měi
红 叶 也 很 美。

Děng chūntiān láile wǒmen hái lái Nàiliáng gōngyuán
爸爸: 等 春 天 来了，我 们 还 来 奈 良 公 园 ！

Dàoshíhou wǒmen sāngerén jiùzài yīnghuāshù xià yìqǐ
到 时 候 我 们 三 个 人 就 在 樱 花 树 下 一起

sànbù kàn fēngjǐng
散 步 看 风 景 。

Hǎode yìyánwéidìng
你: 好 的，一 言 为 定 。

第 14 課　目標にたどり着くための構文表現

bǎ

1. 把　構文 主語＋把＋目的語＋動詞＋補語などその他の成分(補語など)

（状態を変化させたり、移動させたりする）を加え、「～してしまう」という

ニュアンスを表す文

Wǒ bǎ zuòyè dōu zuò wán le

1) 我 把 作 业 都 做 完 了。

私は宿題を終えた。

Wǒ bǎ píjiǔ fàngzài bīngxiāng lǐmiàn le

2) 我 把 啤 酒 放 在 冰 箱 里 面 了。

私はビールを冷蔵庫の中にいれた。

bǐ

2. 比　比較の表現

bǐ

A ＋比＋B （A は B より～だ）

Jīnnián de fēngjǐng bǐ qùnián de fēngjǐng měi

1) 今 年 的 风 景 比 去 年 的 风 景 美 。

去年の風景より今年の風景は綺麗である。

Tā bǐ wǒ gāo

2) 他 比 我 高 。　彼は私より背が高い。

Bàba bǐ māma dà liǎngsuì

3) 爸 爸 比 妈 妈 大 两 岁 。 父は母より 2 歳年上だ。

Zhège biànlìdiàn de shíxīn bǐ nàge dàxuéfùjìn de diàn gènggāo

4) 这 个 便 利 店 的 时 薪 比 那 个 大 学 附 近 的 店 更 高 。

このコンビニはあの大学の近くの時給よりもっと高い。

gēn yíyàng

3. 跟 ～一 样　　比較して後、同じものを持っていること

Tā de zìxíngchē gēn wǒde yíyàng hé wǒde yíyàng

1) 他 的 自 行 车 跟 我 的 一 样 （和 我 的 一 样 ）。

彼の自転車は私の自転車と同じです。

Wǒ de shēngrì gēn wǒ bàba de yíyàng

2) 我 的 生 日 跟 我 爸 爸 的 一 样 。

私の誕生日は、父の誕生日と同じ日です。

yìbiān　yìbiān

4. 一　边　……一　边　……　　しながら…するという表現

Wǒmen yìbiān sànbù　yìbiān kànkan fēngjǐng ba

1) 我 们　一　边　散 步，一　边　看 看　风　景　吧！

私たちは、散歩をしながら風景をみましょう。

Wǒ měitiān zǎoshang yìbiān chī zǎofàn　yìbiān tīng guǎngbō

2) 我　每　天　早　上　一　边　吃　早 饭，一　边　听　广　播。

私は毎朝朝ごはんを食べながらラジオを聴いています。

◎边～边…(しながらする)…も、同様の意味を表す。

ちょっと練習！

次の単語を使って「～しながら～する」という文を作りなさい。

1) 吃饭 看电视 _____

2) 走　聊天 _____

3) 看电视 喝啤酒 _____

4) 打扫 打电话 _____

第 14 課　目標達成のための練習問題

1. 次の会話文を完成させて、会話を続けてみましょう（文法的に間違いがあっても会話が続いる場合は、良しとします)。

Wǒ zhǎobúdào wǒ de shǒujīle

1)A. 我　找　不 到　我 的　手　机 了。　携帯が見つからないです。

Nǐ bǎ shǒujī fàngzài nǎr le

[回答参考例] B. 你　把　手　机　放　在　哪儿 了？　携帯をどこに置きましたか？

Nǐ bàba de shǒubiǎo ne

2)A. 你　爸 爸　的　手　表　呢？　お父さんの腕時計はどこに置きましたか？

Wǒ bàba bǎ shǎubiǎo sònggěi gēgele

[回答参考例] B. 我　爸 爸　把　手　表　送　给　哥 哥 了。お兄さんにあげました。

2. 日本語をみて、奈良公園にいると想像して、様々な点で比較の練習をしてみましょう

Jīnnián de dōngtiān bǐ qùniánlěng

1) 今　年　的　冬　天　比 去 年　冷 。

今年は去年の冬より寒いです。

Nàiliáng delù bǐ Nánfēi de lù xiǎohěnduō
2) 奈 良 的鹿，比 南 非 的 鹿 小 很 多 。
奈良の鹿は、南アフリカの鹿よりもずっと小さい。

第 14 課の宿題について

上記の練習問題の 1)と 2)に関し、自分で考えた文を 3 つずつ書いて提出してください。また、書いた内容をアウトプットして録音し、添付ファイルで送ってください。

第 15 課 自己表現プロジェクト③
「中国語母語話者に直接インタビューしてみよう！」

前提

教材の第 12 課から第 14 課までで学んだことや宿題を通し、「自己表現プロジェクト③「中国語母語話者にインタビューしてみよう」を 3〜4 人グループで成し遂げよう。

目標

中国語母語話者の学生に日本で好きなもの、または好きな場所についてインタビューをしてみよう。第 12 課から第 14 課の内容、これまでに学習した表現を通し、インタビュー内容を自分のことと比較したり、自分の感想も取り入れながら、好きな形式でまとめて自己表現をしてみよう。

注意点

1. 発表時は、パワーポイント、プリントなど様々な方式で発表してもよいこととする。
2. 学生がもし発表の際に動画等を使用したい場合は、自己表現プロジェクト③「中国語母語話者に直接インタビューしてみよう！」に関連した内容に限定する。
3. 少なくとも次の内容は必ず入れること。

(1)インタビューした中国語母語話者が好きな日本の場所や物に関して述べた理由を発表時に必ず話す。

(2)比較の表現を必ずいれる

学生のフォローについて

1)発表に関し、中国語のアウトプットに関しどうしても自信がない学生は、休み時間を利用して、教師に発音の練習をしてもよいものとする。また、書いたものを教師に送り点検してもらってもよいものとする。

2) 表現したい内容がまだ習ったことのない内容、あるいは、辞書でも見つかりにくい単語などを使いたい場合、教師がいくつか学生が使いたいと考えている表現を教え、最終的に学生はそれを自分の言葉にして発表できるようにする。

3)発表に関し、中国語のアウトプットに関しどうしても自信がない学生は、休み時間を利用して、教師に発音の練習をしてもよいものとする。また、書いたものを教師に送り点検してもらってもよいものとする。

評価

本来設定されている下記の評価基準に足したい評価基準の内容があれば、下記の A～G の他にクラス内の全体で基準評価にどのようなものを付け加えるのか相談してもよい。

評価基準:

それぞれ、発表者が表現したことに関し、次の A～G の７つの項目に関し１～５の点数をつける（1. 大変良い 2. 良い　3. 普通　4. あまり良くない 5. 悪い)。

A. 興味深い発表内容であった

B. 大きな声をだして話せていたか

C.メモを見ずに話せていたかの

D. 発音がきれい

E. パワーポイントがきちんと準備されている

F. 発表時の際使っているパワーポイントの字が見やすいものかどうか

G. 発表内容の構成がよい

自己表現プロジェクトの際、教師が準備するもの

どのように中国語人留学生に話かけたらよいのか分からない学習者のために、参考となるサンプルを準備する。その他、中国語母語話者に慣れていない学習者のために、授業時にインタビューする時に使う言葉やインタビューの練習を適度に行ってもよい。また、学生が授業後に教師の研究室に来て練習してもよいものとする。

第 16 課　新幹線に乗って実家に帰る

到達目標：交通上の利便性を話すことができる

Tiánzhōng zhēnqiǎo nǐ yào qù nǎr
你: 田 中 ， 真 巧 。你 要 去 哪儿?

Wǒ qù Xīndàbǎn zhàn zuò Xīngànxiàn huí lǎojiā
田中:我 去 新 大 阪 站 ， 坐 新 干 线 回 老 家 。

Huí lǎojiā a Guàibude xíngli zhème duō
你: 回 老 家 啊! 怪 不 得 行 李 这 么 多 。

Shì a zhèxiē diǎnxīn hé lǐwù shì wǒ gěi fùmǔ mǎide
田中: 是 啊, 这 些 点 心 和 礼 物 是 我 给 父 母 买 的。

Duìle nǐ de lǎojiā zài nǎr
你: 对 了，你 的 老 家 在 哪儿?

Zuò Xīngànxiàn xūyào duōcháng shíjiān
坐 新 干 线 需 要 多 长 时 间 ?

Wǒ lǎojiā zài Héngbīn zuò Xīngànxiàn xūyào liǎnggeduō
田中:我 老 家 在 横 滨 ， 坐 新 干 线 需 要 两 个 多

xiǎoshí
小 时 。

Zhēn fāng biàn
你: 真 方 便 。

Yǐhòu yǒu shíjiān yídìng yào lái wǒjiā zuòkè
田中:以 后 有 时 间 一 定 要 来 我 家 做 客。

Hǎode xièxienǐ Yílùshùnfēng
你: 好 的， 谢 谢 你。一 路 顺 风 ！

Xièxie Wǒmen xiàxuéqī zàijiàn
田中: 谢 谢 ！我 们 下 学 期 再 见 。

第 16 課　目標にたどり着くための構文表現

zhēnqiǎo
1.　真　巧　　「都合がよい」「良い具合である」

Zhēn qiǎo Wǒ jīntiān mǎide zhèjiàn yīfu dǎzhé
1) 真 巧 。我 今 天 买 的 这 件 衣服 打 折 。

偶然ですね。今日買ったこの服は特売で買ったものです。

Zhēnqiǎo　Wǒ hé wǒ nǚpéngyǒu dōu xǐhuan yùndòng
2)　真　巧　。我 和 我 女 朋　友　都　喜　欢　　运　动　。

偶然ですね。私と彼女はどちらも運動が好きです。

shì　de

2.　是 …的　　過去の時間、場所、方法などの強調

Zhèxiē diǎnxīn hé lǐwù shì wǒgěi fùmǔ mǎide
1) 这　些　　点　心　和　礼 物　是　我 给　父 母　买 的。

両親のために、お菓子とプレゼントを買いました。

Wǒ shì dōngjīng dàxué bìyède
2) 我　是　　东　　京　　大 学　毕 业 的。

私は、東京大学卒業です。

ちょっと練習!

Zhè běn shū shì wǒ mǎi de
1) 这　本　书　是　我　买　的。

この本は私が買った本です。

Zhèxiē cài shì xuéshēngmen zuò de
2) 这　些　　菜　是　学　生　们　做　的。

これは学生たちが作った料理です。

Tā shì zuò xīngànxiàn huí lǎojiā de
3) 他　是　坐　新　干　线　　回　老　家　的。

彼は新幹線に乗って実家に帰りました。

guài bu de

3.　怪　不　得　　副詞　「するのも無理はない」「道理でそれもそのはず」

前節で原因となる事実を述べ，後節に‘怪不得’を用いてその結果を述べる。

Huílǎojiā a　Guàibude xíngli zhème duō
1) 回　老　家　啊　。　怪　不得　　行　李　这 么　多　。

名詞（当初・以前と比べて）以前と比べて通りで荷物が多いと思った、実家に帰るわけだ。

Rìběn xiànzài shì méiyǔ jìjié　guàibude zhème mēnrè
2)日 本　　现　在　是　梅 雨　季 节 ，　怪　不得　这 么　闷 热。

日本は今、梅雨の季節です。道理で、天気がこんなに蒸し暑いのも無理がないです。

xū yào
4. （需） 要　　かかる、費用や時間が必要である

wǒ zuò Xīngànxiàn huílǎojiā xū yào liǎnggeduō xiǎoshí
1) 我 坐 新 干 线 回 老 家 （需）要 两 个 多 小 时 。

私が新幹線に乗って、実家に戻るには、二時間以上かかります。

qù rìběn lǚyóu xū yào èrshíwànrìyuán
2) 去 日 本 旅 游（需）要 二 十 万 日 元 。

日本に旅行に行くには、日本円で二十万円必要となります。

xū
※通常の場合は、“需”は省略可。

第 16 課　到達目標のための練習問題

1. 1)～3)の内容に従って文を完成させ、隣りの人と対話を完成させましょう。

1) A:この中華料理は私が中国語で習ったものです。

Zhège Zhōngguócài shì wǒ zài
（这 个） 中 国 菜 是 我 在 _____ 。

wǒ juéde hǎochī
2) B:通りでおいしいと思ったわけだ！ _____ 我 觉 得 好 吃 。

3) A:大学まで歩きでどれぐらいかかりますか？

Bùxíng dào dàxué duōcháng shíjiān
步 行 到 大 学 _____ 多 长 时 间 ？

B:5 分ほどです。偶然に近いので一緒に行きましょう！

Bùxíng wǔfēn zhōng lí zhèr hěnjìn wǒ dàinǐqùba
步 行 五 分 钟 。_____ 离 这 儿 很 近，我 带 你 去 吧 。

第 16 課の宿題について

1. 自分の家から大学までどれくらい時間がかかるのか、発音して録音する。

2. 上記の 1)～3)と違った対話文を考え、二人で対話したものを録音し、教師に添付ファイルで送りなさい。

第 17 課　宮崎駿アニメ展示作品

到達目標：宮崎駿の作品の中で何が好きか、その理由を簡単に伝えられるようなる。

Zhège zhōumò nǐ dǎsuàn zuò shénme
你: 这 个　周 末 你 打 算　做　什 么？

Wǒ dǎsuàn qù kàn diànyǐng　Nǐ yǒu xìngqù ma
田中:我 打 算　去 看　电　影 。你 有　兴 趣 吗？

Shénme diànyǐng ne
你: 什 么　电　影　呢？

GōngqíJùn de diànyǐng　Nǐ zhīdào GōngqíJùn ma
田中: 宫 崎 骏 的　电　影 。你 知 道　宫 崎 骏 吗？

Dāngrán　Wǒ kàn guò hěnduō GōngqíJùn de diànyǐng ne
你: 当　然 。我 看　过　很 多　宫 崎 骏 的　电　影　呢。

Wǒ yě hěn xǐhuan　tèbié shì　Lóngmāo　jīhū suǒyǒu Rìběnrén
田中:我 也　很　喜 欢 ，特 别　是 《 龙　猫 》,几 乎　所 有　日 本　人

dōuzhīdào
都 知 道 。

Shì a　bùjǐn shì xiǎoháizi　lián dàren yě hěn xǐhuan tā de
你: 是 啊，不 仅　是　小　孩 子，　连　大 人　也　很　喜 欢　他 的

diànyǐng
电　影 。

Wǒ zhōumò yào qù kàn de diànyǐng shì　Qiānyǔqiānxún
田中:我　周 末　要　去　看　的　电　影　是 《 千　与　千　寻 》。

Wǒ yě xiǎng yìqǐ qù　Zhōurì jǐdiǎn
你:我 也　想　一起 去！ 周 日 几 点 ？

Hǎo a　zhōurì shàngwǔ jiǔdiǎn　bié chídào le
田中: 好 啊，　周 日　上　午　九　点 ，别　迟 到　了！

第 17 課 目標にたどり着くための構文表現

tè bié shì
1. 特 別 是 「特に、とりわけ」

Wǒ xǐhuan Zhōngguó lìshǐ tèbié shì Tángdài de lìshǐ
1) 我 喜 欢 中 国 历 史，特 别 是 唐 代 的 历 史。

私は歴史が好きです、特に唐時代の歴史が好きです。

Rìběn rén xǐhuan hēchá tèbié shì wūlóngchá
2) 日 本 人 喜 欢 喝 茶，特 别 是 乌 龙 茶。

日本人はお茶を飲むのが好きで、特にウーロン茶が好きです。

bùjǐn
2. 不 仅 副詞 「ただ…だけでない」

Bùjǐn shì xiǎoháizǐ lián dàren yě hěn xǐhuan tāde zuòpǐn
1) 不 仅 是 小 孩 子， 连 大 人 也 很 喜 欢 他 的 作 品。

子供だけでなく、大人もこの作品が大好きです。

Zhèběnshū bùjǐn yǒuqù hái néng xuédào hěnduō zhīshi
2) 这 本 书 不 仅 有 趣， 还 能 学 到 很 多 知 识。

この本は興味深いだけでなく、他にも多くのことを学ぶことができる。

ちょっと練習！

次の A～C の絵を見て、“不仅”を使って自由に文を作り、アウトプットしてみましょう。
絵に適した文をつくり、周囲の人とお互いにアウトプットしてみてください。

dàngāo
A. 蛋 糕

chànggē
B. 唱 歌

yāo　　tuǐ
C.　腰　　腿

Zhège dàngāo bùjǐn hàochī　háihěn piányi
1）A.「回答参考例」：这 个　蛋　糕　不 仅　好　吃，还　很　便　宜。

Tā bùjǐn chànggē hǎotīng　tiàowǔ yě hěn bàng
2）B.「回答参考例」：他　不 仅　唱　歌　好　听，跳　舞　也　很　棒。

Yéye shuō　tā bùjǐn yāo téng　tuǐ yě téng
3）C.「回答参考例」：爷 爷　说，他　不 仅　腰　疼，腿　也　疼。

jīhū
3. 几 乎　副詞　「ほとんど」「大体」

後に動詞・形容詞・名詞を伴い，言わんとすることがある種の状況にたいへん近いことを示す。

Zhèbù diànyǐng jīhū suǒyǒu Rìběnrén dōuzhīdào
1）这 部　电　影　几 乎　所　有　日 本　人　都　知　道。

この映画に関しては、ほぼ殆どの日本人が知っている。

Wǒmen jīhū yǒu sānnián méi jiànmiàn le
2）我 们　几 乎　有　三　年　没　见　面　了。

私たちは、殆どもう三年ほど会っていません。

ちょっと練習！

次の①～③の絵に関しての会話を“几乎”を使って、完成させなさい。

bīngqílín
① 冰 淇 淋

「回答参考例」

Xiàtiānle háizimen dōu àichī bīngqílín
A: 夏 天 了，孩 子 们 都 爱 吃 冰 淇 淋。

Shìde tiānqìrè wǒ nǚér jīhū měitiān dōuchī bīngqílín
B: 是 的， 天 气 热，我 女 儿 几 乎 每 天 都 吃 冰 淇 淋。

Chōngshéng
② 冲 绳

「回答参考例」

Jīnnián xiàtiān wǒ xiǎng qù Chōngshéng yóuyǒng qù
A: 今 年 夏 天 我 想 去 冲 绳 游 泳 去。

Wǒ jīhū měinián dōu qù Chōngshéng yóuyǒng
B: 我 几 乎 每 年 都 去 冲 绳 游 泳 ！

shídiǎn bāfēn
③ 十 点 八 分

「回答参考例」

Yǐjīng shídiǎn bāfēnle nǐ hái bú qù shàngkè
A:已 经 十 点 八 分 了，你 还 不 去 上 课？

Wǒ jīhū měitiān dōu jiǔdiǎn cái qù shàngkè
B:我 几乎 每 天 都 九 点 才 去 上 课。

第 17 課　目標達成のための練習問題

下の絵を見て、①と②の指示に従って、会話を完成させ、続けてみましょう。

bùjǐn
①“不 仅 ”を必ず使ってペアで会話を完成させましょう。

「回答参考例」

Nǐ měitiān zǎoshang chīshénme
A:你 每 天 早 上 吃 什 么?

Wǒ měitiān zǎoshang bùjǐn chī miànbāo érqiě yídìng yào hē
B:我 每 天 早 上 不仅 吃 面 包，而 且 一 定 要 喝

bēi niúnǎi nǐne
杯 牛 奶 。你呢？

Wǒ měitiān zǎoshang bùjǐn yào hē xiānzhà de chéngzhī érqiě
A:我 每 天 早 上 不仅 要 喝 鲜 榨 的 橙 汁，而 且

yídìng yào chī liǎngzhǒng shuǐguǒ
一 定 要 吃 两 种 水 果 。

jīhū
②几乎

「回答参考例」

Nǐ duōcháng shíjiān dǎsǎo yícì fángjiān
A: 你 多 长 时 间 打 扫 一 次 房 间 ？

Wǒ jīhū yígeyuè cái dǎsǎo yícì fángjiān
B: 我 几乎 一 个 月 才 打 扫 一 次 房 间 。

Nǐ ne
A: 你 呢？

第 17 課の宿題について

上記の、①不仅と②几乎をもとに、あなたと友人の中国語による自由な会話を録音し、添付ファイルで教師に送って下さい。内容には必ず、①朝食と②掃除に関連したものを含めて下さい。

第 18 課　2018 年　ワールドカップで活躍する日本選手

到達目標：人気のあるスポーツを通して、自分はどのように感じるのか伝えることができる

Zǎo shàng hǎo Tiánzhōng
你: 早　上　好，田　中　。

Zǎo Zuótiān wǎnshàng de shìjièbēi bǐsài nǐkàn le ma
田中: 早。昨　天　晚　上　的　世　界　杯　比　赛，你　看　了　吗？

Nǐshuō de shì Rìběn duì Bǐlìshí de bǐsài ba
你:你　说　的　是　日　本　对　比利时　的　比　赛　吧？

duì chàdiǎnr jiù yíng le tài kěxī le
队　差　点　儿　就　赢　了，太　可惜　了！

Wǒ zhēnshì wéi Rìběn duì gǎndào kěxī shàngbànchǎng bǐsài
田中:我　真　是　为　日　本　队　感　到　可惜。上　半　场　比　赛

de shíhou Rìběnduì lián jìn liǎngqiú hěnduō rén dōu
的　时　候，日　本　队　连　进　两　球，很　多　人　都

yǐwéi huì yíng zhèchǎng bǐsài
以　为　会　赢　这　场　比　赛。

Jiéguǒ háishì bèi Bǐlìshíduì fǎnbài wéi shèng le
你: 结　果　还　是　被　比利时　队　反　败　为　胜　了。

Wǒ cóng zuówǎn dào xiànzài dōu juéde hěn nánguò
田中:我　从　昨　晚　到　现　在　都　觉得　很　难　过。

Shìjièbēi duì qiúyuán láishuō tài zhòngyào le
你: 世　界　杯　对　球　员　来　说，太　重　要　了。

Búguò wǒ háishì jiàode Rìběnduì hěnbàng èrlíngèrèr nián
田中:不　过，我　还　是　觉　得　日　本　队　很　棒，二　零　二二　年

shìjièbēi yídìng huì qǔdé gènghǎode chéngjì
世　界　杯　一　定　会　取得　更　好　的　成　绩。

Bié nánguò le dào shíhou wǒmen zài gěi Rìběnduìjiāyóu
你: 别　难　过　了。到　时　候　我　们　再　给　日　本　队　加　油！

chàdiǎnr
1. 差　点 儿　「危うく～」「もう少しで～」

Rìběnduì chàdiǎnr jiù yíng le tài kěxī le
1) 日 本 队 差 点 儿 就 赢 了，太 可 惜 了！

日本チームはあと少しで勝てたのに、本当に惜しかったです！

Wǒ chàdiǎnr jiù dé dìyīmíng le
2) 我 差 点 儿 就 得 第 一 名 了。あと少しで第一位だったのに。

Wǒ chàdiǎnr jiù mǎidào le
3) 我 差 点 儿 就 买 到 了。あと少しで買えたのに。

ちょっと練習！

上記の練習問題を参考に、「あと少しで～するところだった」という文を中国語で言ってみましょう！

_____

_____

_____

bèi
2. 被

前置詞(〔主語（受動者）＋被＋名詞（動作主）＋述語動詞〕の形の受動文に用い、名詞（動作主）を導く。「～に～される」「～によって～される」を意味する。

（述語動詞の後に、了、着、过、などを伴う）

Jiéguǒ háishì bèi Bǐlìshíduì fǎnbài wéishèng le
1) 结 果 还 是 被 比 利 时 队 反 败 为 胜 了。

結果的にはベルギーに負けた。あるいはベルギーに打ち負かされた。

Zhèjù huà kěnéng bèirén wùjiě
2) 这 句 话 可 能 被 人 误 解 。

この言葉は人に誤解される可能性がある。

ちょっと練習！

Nàběn xiǎoshuō xiǎo Wáng jiè zǒu le
1) 那 本 小 说 _____ 小 王 借 走 了 。

あの小説は王君が借りて持って行った.

Bēizi háizi shuāihuài le
2) 杯 子_____ 孩 子 摔 坏 了 。

コップは子供に落とされて壊された.

chàdiǎnr jiù　　bèi
差　点　儿 就 、または、 被 を使って自由に作文を書き、できるだけ書いたものを覚えて、前に出て発表しましょう。

cóng　dào
3.　从 …… 到 ……　「(時間的、空間的に) ～から～まで」

“从”は、一区切りの時間・一区切りの道程・一つの物事の経過または順序の起点示し、後ろに “到”をつけてセットで使うことが多い。

Wǒ cóng zuówǎn dào xiànzài dōu juéde hěn nánguò
1) 我　从　昨 晚　到　现　在　都　觉 得　很　难 过 。
私は、昨日の夜からずっと悲しい思いがしている。

Cóng nánjīng dào běijīng　zuò fēijī xūyào liǎngge duōxiǎoshí
2) 从　南　京　到　北　京 ，坐　飞 机 需 要　两　个　多　小　时 。
南京から北京まで、飛行機に乗って、二時間以上必要です。

ちょっと練習！

上記で学んだ例文を参考に、次の A と B の会話を完成させましょう。

(子供が空港で電話をかけています。)

Bàba　wǒgāng　　rìběn　　běijīng　Nǐ xiànzài zài nǎr
A. 爸 爸 ，我　刚 _____ 日 本 _____ 北　京 。你　现　在　在　哪儿

ne　jǐdiǎnláijiēwǒ
呢？几　点　来　接 我？

Háizi　bàbagāng　　gōngsī chūlái　yīgèxiǎoshíhòu qù jīchǎng
B. 孩 子，爸 爸　刚 _____ 公　司　出　来，一 个　小　时　后　去 机　场

jiēnǐ
接 你。

hǎode bàba　yìhuìr zàijīchǎngjiàn
A. 好 的，爸 爸，一 会 儿　在 机　场　见 ！

4. 次の４つの単語を必ず使って、自由に文を作ってみて下さい。

cóng	dào	qí	zìxíngchē
从	到	骑	自 行 车

「回答参考例」

Wǒ cóng xuéxiào qízìxíngchē dào nǎinai jiā yào bànge xiǎoshí
我 从 学 校 骑自 行 车 到 奶 奶 家 要 半 个 小 时 。

私は学校から自転車で祖母の家に行くときは、30 分かかる。

duì láishuō
4. **对 …… 来 说** 「～について言えば」

Duì fùmǔ láishuō dōu xīwàng háizi jiànkāng chéng zhǎng
1) 对 父 母 来 说 ， 都 希 望 孩 子 健 康 成 长 。

子供が健康的に成長することは、全ての父と母にとっての希望です。

Duì bìngrén láishuō yúkuài de xīnqíng hěn zhòngyào
2) 对 病 人 来 说 ， 愉 快 的 心 情 很 重 要 。

病気の人にとって、愉快な気持ちはとても大事です。

第 18 課の宿題について

上記で書いたものを録音して、教師に添付資料で送りましょう。また、できるだけ友達と対話がつづく形式の内容にしてください（文法や声調に多少誤用があっても大丈夫です）。

第 19 課 自己表現プロジェクト④
「紹介したい日本のことに関するオリジナルポスターを作成しよう！」

前提

自己表現プロジェクト④は「紹介したい日本のことに関するオリジナルポスターを作成しよう！」というものである。第 16 課から第 18 課までで学んだことを通し、もし、中国語母語話者に日本が誇れるものを紹介するのであれば、何を紹介するか考えてみましょう。

目標

自己表現プロジェクト④「紹介したい日本のことに関するオリジナルポスターを作成しょう！」を通し、自分が紹介したい日本のものを考えるきっかけとなる。また、それをクラスの仲間と協力することで、ポスターを仕上げ、中国語で自己表現し、他者に伝えることを鍛える機会となる。

注意点

1) 自己表現プロジェクト④「紹介したい日本のことに関するオリジナルポスターを作成しょう！」は、3〜4 人の学習者とグループになって一緒に作業してもよいが４人以上では組まないこと。

2) プロジェクト発表の際、ポスター作成に関しては、なぜその場所やものを選んだのか、その理由を必ず内容に入れること。

学生のフォローについて

学生がもし、書きたいことがまだ習ったことのない表現である場合、次のようにフォローすることができる。教師に書きたい内容に関して自分の案を一度説明し、その中でまだ授業で習ってない表現や単語があれば、教師がそれを教える。また、時間がある時に教師の研究室へ行き、発表練習しても良いこととする。

評価

下記の評価基準以外にも、付け足したい評価基準がある場合、クラス全体で相談し、新しく付け加える評価基準が必要なものであるかどうか決める。

評価基準

　それぞれ、発表者が表現したことに関し、次のA～Gの７つの項目に関し１～５の点数をつける（1. 大変良い 2. 良い　3. 普通　4. あまり良くない 5. 悪い)。

A. 興味深い発表内容であった

B. 大きな声をだして話せていたか

C. メモを見ずに話せていたかの

D. 発音がきれい

E. パワーポイントがきちんと準備されている

F. 発表時の際使っているパワーポイントの字が見やすいものかどうか

G. 発表内容の構成がよい

第 20 課　中華街の中華料理（上）

到達目標：「様々な」という表現をつかって会話ができる

Hǎojiǔ méilái Zhōnghuájiē le háishì zhème rènao
田中: 好 久 没 来 中 华 街 了，还 是 这 么 热 闹。

Wǒ shì dìyīcì lái Shénhù de Zhōnghuájiē ne nǐ kuài gěi
你: 我 是 第一次 来 神 户 的 中 华 街 呢，你 快 给

wǒ jièshào jièshào
我 介 绍 介 绍。

Zhōnghuájiē de Zhōngguó tèsè xiǎochī hé Zhōngguó shí
田中: 中 华 街 的 中 国 特色 小 吃 和 中 国 食

cái hěnduō bǐrú zhèjiā de jiānbǐng zuǒbian zhè jiā de
材 很 多，比如 这 家 的 煎 饼，左 边 这 家 的

jiǎozi diàn háiyǒu qiánmian nàjiā xiǎolóngbāo dōu hěn
饺 子 店，还 有 前 面 那家 小 笼 包，都 很

hǎochī
好 吃。

Guǒrán měijiādiàn de ménkǒu dōu yǒu bùshǎorén páiduì ne
你: 果 然 每 家 店 的 门 口 都 有 不 少 人 排 队 呢。

Kěndìng wèidào búcuò
肯 定 味 道 不 错。

Nǐkàn háiyǒu hěnduō gèshìgèyàng de Zhōngguó tiáoliào
田中:你 看，还 有 很 多 各 式 各 样 的 中 国 调 料。

Zài Zhōngguó hěnduō dìfāng de kǒuwèi dōu bùyí yàng
在 中 国，很 多 地 方 的 口 味 都 不一 样，

yǒude dìfāng xǐhuan chī là bǐrú Húnán Sìchuān yǒu de
有 的 地 方 喜 欢 吃 辣，比如 湖 南、四 川，有 的

dìfāng xǐhuan chītián bǐrú Shànghǎi Jiāngsū
地 方 喜 欢 吃 甜，比如 上 海、江 苏。

Guàibude yǒu zhème duō zhǒnglèi de tiáoliào Guāng shì
你: 怪 不得 有 这么 多 种 类 的 调 料。光 是

làjiāojiàng jiù yǒu wǔ liù zhǒng dōu bù zhīdào mǎi nǎ
辣 椒 酱 就 有 五、六 种，都 不 知 道 买 哪

yìzhǒng hǎo
一 种 好。

Hāha xiànzài háiyǒu yíge gèngnán de xuǎnzé
田中:哈哈，现 在 还 有 一个 更 难 的 选 择。

Shénme
你: 什 么？

Wǒmen qù nǎjiā fàndiàn chī wǔfàn ne
田中: 我 们 去 哪 家 饭 店 吃 午 饭 呢？

第 20 課　目標にたどり着くための構文表現

bǐrú
1. 比 如　　接続詞　例を挙げて説明する時に用いる

Tā de àihào yǒu hěnduō bǐrú yóuyǒng huàhuà zuòcài
1)他 的 爱 好 有 很 多，比 如 游 泳 、 画 画 、 做 菜 。

彼の趣味は非常に多くあります。例えば、泳ぐこと、絵を描くこと、そして料理をすることです。

Yéye jiā de yuànzi lǐ yǒu hěn duō zhǒng lèi de huā bǐrú táohuā
2)爷爷 家 的 院 子 里 有 很 多 种 类 的 花，比 如 桃 花 、

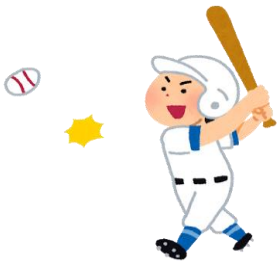
méihuā hái yǒu mòlìhuā
梅 花 还 有 茉 莉 花 。

祖父の庭には、多くの種類の花があります。例えば、桃の花、梅の花それからジャスミンの花があります。

ちょっと練習！

下の絵に対し、「比如」を使って、自分なりの文を自由に作り、ペアになり会話をしてみて下さい。

1. 下の A から F の絵を見て



dǎ bàngqiú
A 打 棒 球

dǎ pīngpāngqiú
B 打 乒 乓 球

dǎ yǔmáoqiú
C 打 羽 毛 球

dǎpáiqiú
D 打 排 球

huáxuě
E 滑 雪

tīzúqiú
F 踢 足 球

「回答参考例」

Wǒ cóng xiǎoshíhou jiù xǐhuan gèzhǒng yùndòng
我 从 小 时 候 就 喜 欢 各 种 运 动 。

Bǐrú dǎ bàngqiú tī zúqiú háiyǒu huáxuě
比 如 打 棒 球，踢 足 球 还 有 滑 雪 。

guǒrán
2. 果 然　副詞（言ったこと・予想したことと違わず）「案の定」「思ったとおり」

Zhè fùjìn de lāmiàn diàn dōu hěn hàochī
1）这 附 近 的 拉 面 店 都 很 好 吃 。

Guǒrán měijiā diàn de ménkǒu dōu yǒu bùshǎo rén páiduì ne
果 然 每 家 店 的 门 口 都 有 不 少 人 排 队 呢。

このあたりのラーメンのお店は、どこもおいしいです。どおりで、店もかなりの数の人が並んでるね。

Tiānqì yùbào shuō jīntiān yǒu yǔ xiàwǔ guǒrán xiàyǔ le
2）天 气 预 报 说 今 天 有 雨，下 午 果 然 下 雨 了。

天気予報によると今日は雨があるとのこと、案の定、午後は雨が降った。

ちょっと練習！

次の３人の会話文を完成させるために、C の下線部の会話を考えてみましょう。

参考回答/

Wǒmen hǎoxiàng mílù le Nǐ shìbúshì zhīdào zěnme qù qīngshuǐ sì a
A 我 们 好 像 迷 路 了。你 是 不 是 知 道 怎 么 去 清 水 寺 啊?

Shì a Sān nián qián wǒ hé wǒ bàba láiguò rìběn
B 是啊。三 年 前 我 和 我 爸爸 来 过 日 本。

「回答参考例」

Nǐ guǒrán zhīdào lùxiàn
C 你 果 然 知 道 路 线 。

gèshìgèyàng
3. 各 式 各 样　　形容詞　「多種多様さ・多様さ」

Háiyǒu hěnduō gèshìgèyàng de Zhōngguó tiáowèiliào hé shícái
1) 还 有 很 多 各 式 各 样 的 中 国 调 味 料 和 食 材 。

また、多くの様々な中国の調味料と食材がある。

Dēnghuìshàng gèshì gèyàng de huādēng hǎokàn jí le
2) 灯 会 上 各 式 各 样 的 花 灯 ， 好 看 极 了。

イルミネーションのイベントで様々なライトデザインがあり、すごくきれいです。

ちょっと練習！

guāng
4. 光　　副詞　　ただ～だけ、動詞助動詞の前で用いる

Guāngshì làjiāojiàng jiù yǒu wǔ liù zhǒng dōu bùzhīdào mǎi
1) 光 是 辣 椒 酱 就 有 五 六 种 ， 都 不 知 道 买

nǎyìzhǒng hǎo
哪 一 种 好 。

唐辛子ソースだけでも5～6種類あるから、どれを買ったらいいか分からない。

Guāng chīcài wàngjì chīfànle
2) 光 吃 菜 ， 忘 记 吃 饭 了。

おかずだけ食べて、ご飯を食べ忘れた。

第20課　目標達成のための練習問題

1．副詞“果然”と“光”を使って自由に作文を書き、できるだけ書いたものを覚えて、前に出て発表しましょう。

gèshì gèyàng
2. 各 式 各 样 を使って、例文を書き、次の授業で発表できるようにして下さい。

第 20 課の宿題について

上記の１で書いた“果然”と“光”の作文内容を録音し、添付ファイルで教師に送って下さい。

第 21 課　中華街の中華料理（下）

到達目標： 特徴を表現できるようになる

Měi jiā fàndiàn kànqǐlái dōu hěn búcuò zhēnnán juédìng
你：每 家 饭 店 看起来 都 很 不错， 真 难 决 定 。

Nǐ yǒumeiyǒu shénme xiǎng chī de
田中：你 有 没 有 什 么 想 吃 的？

Yàobù zánmen qù chī chǎocài ba
你：要 不， 咱 们 去 吃 炒 菜 吧。

Hǎoa nà jiù qiánmian zhèjiā ba kànqǐlái bǐjiào yǒu tèsè
田中： 好 啊,那 就 前 面 这 家 吧，看 起 来 比 较 有 特色。

Zǒujìn fàndiàn zuòxià
（走 进 饭 店 ， 坐 下 ）

Fúwùyuán diǎncài Wǒ xiǎng lái ge yúxiāngròusī nǐne
你：服务 员 ， 点 菜。我 想 来 个 鱼 香 肉 丝，你呢？

Nà wǒ jiù lái ge gōngbàojīdīng ba
田中：那 我 就 来 个 宫 爆 鸡 丁 吧。

Zhǔshí wǒyào chǎofàn nǐne
主 食 我要 炒 饭 ， 你呢？

Wǒ yào tiānjīn fàn xièxie
你：我 要 天 津 饭， 谢 谢！

Diǎncài wánbì
（ 点 菜 完 毕 ）

Wǒ bàba shàngzhōu cóng Zhōngguó chūchāi huílái gàosù wǒ
田中：我 爸爸 上 周 从 中 国 出 差 回 来 告 诉 我

shuō qíshí Zhōngguó méiyǒu tiānjīnfàn
说 ，其 实 中 国 没 有 天 津 饭 。

Zhēnde ma Wǒ yìzhí yǐwéi tiānjīnfàn shì Tiānjīn de tèsè
你： 真 的 吗？我 一 直 以 为 天 津 饭 是 天 津 的 特 色

càine
菜 呢。

Shìa wǒ dāngshí tīngle yě hěn jīngyà Shàngwǎng chá le
田中： 是 啊，我 当 时 听 了，也 很 惊 讶。 上 网 查 了

xià yuánlái tiānjīnfàn shì Rìběn de yījiā Zhōnghuáliào
下， 原 来 天 津 饭 是 日 本 的 一 家 中 华 料

lǐ diàn fāmíng de
理 店 发 明 的。

Zhēnyǒuqù xiàcì yídìng yāoqǐng wǒ de Zhōngguó péngyǒu lái
你：真 有 趣，下 次 一 定 邀 请 我 的 中 国 朋 友 来

chángchang tiānjīnfàn
尝 尝 天 津 饭。

Shì a zhè kěshì Rìběn cái yǒu de Zhōnghuá liàolǐ
田中：是 啊，这 可 是 日 本 才 有 的 中 华 料 理！

第 21 課　目標にたどり着くための構文表現

bǐjiào
1. 比　较　副詞 「わりに」「かなり」

Nà jiù qiánmian zhèjiā ba kànqǐlái bǐjiào yǒu tèsè
1) 那 就 前 面 这 家 吧，看 起 来 比 较 有 特 色。

そしたら、この先にあるこの店にしましょう。見たところ、特色のある店のようです。

Zhège fāngfǎ bǐjiào hǎo kěyǐ shìyíshì
2) 这 个 方 法 比 较 好，可 以 试 一 试。

この方法はわりといいと思います。採用することにしましょう。

Tāzuò de cài bǐjiào hào chī
3) 她 做 的 菜 比 较 好 吃。

彼女が作った料理はわりとおいしい。

ちょっと練習！

bǐjiào
4) 上記で使った**比　较** の表現を使って、①季節、②交通主題、③食べ物に関して、比較の文を 3 つ作り、それをペアで練習して下さい。また、それを暗記し、指名された人は、発表しなさい。

_____

_____

_____

qíshí
2. 其 实　「実は」「実際は」

Qíshí zhōngguó méiyǒu tiānjīnfàn
1) 其 实 中 国 没 有 天 津 饭。

実際、中国に、天津飯はありません。

Dàjiā dōu yǐwéi tā búhuì hànyǔ qíshí tā xué hànyǔ yǐjīng wǔ
2) 大 家 都 以 为 他 不 会 汉 语，其 实 他 学 汉 语 已 经 五

nián le
年 了。

多くの人が彼は中国語ができないと思っていますが、彼は、中国語を勉強してもう 5 年になります。

ちょっと練習！

日本と中国の間で、実は自分は日本では人気がある中国のものに関して、**其 实**(qíshí) を使って、自由に文を３つ作ってみましょう。

_____

_____

_____

_____

3. 一 直(yìzhí) 動作・状況の継続 「ずっと」

肯定文・否定文に用い、過去から現在、または現在から将来までの継続を表す

Wǒ yìzhí yǐwéi tiānjīnfàn shì Tiānjīn de tèsècài ne
1) 我 一 直 以 为 天 津 饭 是 天 津 的 特 色 菜 呢！

ずっと天津飯は天津の特色だと思っていました。

Tā yìzhí zài wǒ shēnbiān
2) 他 一 直 在 我 身 边 。

彼はずっと私のそばにいるだろう。

4. 原 来(yuánlái) 副詞「もとからそうであったのに」「今やっと気がついた」

XiǎoWáng jīntiān méilái shàngkè yuánlái shì shēngbìngle
1) 小 王 今 天 没 来 上 课，原 来 是 生 病 了。

王さんが今日授業に来なかったのは、思いもよらず、病気になってしまったからなんですね。

Bàba jīntiān tèbié kāixīn yuánlái shì shēngzhí le
2) 爸 爸 今 天 特 别 开 心， 原 来 是 升 职 了。

父が今日、特に嬉しそうだったのは、昇進することが決まったからなんですね。

第 21 課　目標達成のための練習問題

自由作文

yìzhí　yuánlái
一 直 と **原　来** を使って自由に作文を書き、気持ちを表現してみてください。

_____

_____

_____

第 21 課の宿題について

上記の 1 の自由作文の内容を何度も読み、練習して録音し、教師に添付ファイルで送って下さい。

第 22 課 ドラッグストアで通訳のアルバイト

到達目標:時間が経った結果のことを表現できるようになる。

Zuótiān wǒ qù yàozhuāngdiàn mǎi dōngxī hái gēn diànyuán
田中: 昨 天 我 去 药 妆 店 买 东 西，还 跟 店 员

xué le jǐjù Hànyǔ
学 了 几句 汉 语。

Yàozhuāngdiàn XuéHànyǔ Zhèshì zěnme huíshì
你: 药 妆 店 ？ 学 汉 语？ 这 是 怎 么 回 事？

Zuótiān wǒ lùguò yìjiā yàozhuāngdiàn xiǎng jìnqù mǎidōng
田中: 昨 天 我 路 过 一 家 药 妆 店， 想 进 去 买 东

xī Yàozhuāngdiàn lǐ yǒu hěn duō yóukè shuō Hànyǔ de diàn
西。药 妆 店 里 有 很 多 游 客， 说 汉 语 的 店

yuán bǐshuō Rìyǔ de diànyuán háiduō
员 比 说 日语 的 店 员 还 多。

Wǒ míngbáile Zhèjǐnián suízhe Zhōngguó yóukè yuèláiyuè
你: 我 明 白 了。这 几 年 随 着 中 国 游 客 越 来 越

duō hěn duō fàndiàn héshāngdiàndōu zhǎole huìshuō hànyǔ
多， 很 多 饭 店 和 商 店 都 找 了 会 说 汉 语

de Zhōngguórén diànyuán
的 中 国 人 店 员 。

Méicuò Suǒyǐ wǒ jiù xiǎng shìyíshì gēn diànyuán shuō Hàn
田中: 没 错！ 所 以 我 就 想 试 一 试， 跟 店 员 说 汉

yǔ
语。

Hāha zhōngyú zhǎodào liànxí de jīhuìle
你: 哈哈， 终 于 找 到 练 习 的 机 会 了。

Kěbushì Diànyuán tīng dào wǒ shuō Hànyǔ yě yòng Hànyǔ huí
田中:可 不 是 。店 员 听 到 我 说 汉 语，也 用 汉 语 回

dále wǒ hái yòu jiāo le wǒ jǐjù Hànyǔ
答了 我。还 又 教 了 我 几句 汉 语。

Zhēnde a nà gǎitiān yě jiāojiāo wǒ Méixiǎngdào zài shēng
你: 真 的 啊，那 改 天 也 教 教 我。没 想 到， 在 生

huózhōng yě yǒu liànxí Hànyǔ de jīhuì
活 中 也 有 练 习 汉 语 的 机 会。

Hǎode méiwèntí
田中: 好 的， 没 问 题。

第 22 課　目標にたどり着くための構文表現

hái
1. 还 （他の物事に比べて）「～よりいっそう」「もっと」「さらに」

Jīntiān bǐ zuótiān háirè
1) 今 天 比 昨 天 还 热。
今日は昨日より更に暑い。

Bèi fùmǔ kuājiǎng bǐchīle táng háikāixīn
2) 被 父母 夸 奖 比 吃 了 糖 还 开 心 。
父は母に褒められて、甘い飴を口にするよりもうれしかった。

ちょっと練習！

hái
还 を使い、予想していたことよりもさらに驚いたことに関して、作文をしてみて下さい。

_____

_____

_____

suízhe
2. 随 着 「つれて」「～とともに」
多く文頭に用い、事物の変化を表す

Zhèjǐnián suízhe Zhōngguó yóukè yuèláiyuèduō hěnduōfàndiànhé
1) 这 几 年 随 着 中 国 游 客 越 来 越 多 ， 很 多 饭 店 和

shāngdiàn dōuzhǎole huìshuō Hànyǔ de Zhōngguó diànyuán
商 店 都 找 了 会 说 汉 语 的 中 国 店 员 。
ここ２年間、中国の旅行客の増加によって、多くのレストランやデパートで中国語のできる中国人の店員が求められている。

Suízhe jīngjìde fāzhǎn hěnduō rén zhǎodàole xīngōngzuò
2) 随 着 经 济 的 发 展 ， 很 多 人 找 到 了 新 工 作 。
経済の発展に従って、多くの人が仕事を見つけることができた。

yuè yuè
3. 越 ～ 越　　「いよいよ」「いっそう」「ますます」

Tiānqìyuèláiyuèlěng zǎoshangchūményàoduōchuānyìdiǎn
1) 天 气 越 来 越 冷 ， 早 上 出 门 要 多 穿 一 点 。
天候はますます寒くなってきました。午前中、家を出る時は、もっと沢山着込んでからにして下さい。

Zhè fú huà yuè kàn yuè hǎo kàn
2) 这 幅 画 越 看 越 好 看 。 この絵は見れば見るほどいい。

ちょっと練習！

suízhe yuèláiyuè
上記の **随 着** と **越 来 越 ～** を使って、時代の変化に従い、変化してきたと思うことに関して、自由に作文を書いてみましょう。

_____

_____

_____

méixiǎngdào
4. 没 想 到　　「思いのほか」

Méi xiǎngdào zài shēnghuó zhōng yě yǒu liànxí Hànyǔ de jīhuì
1) 没 想 到 ， 在 生 活 中 也 有 练 习 汉 语 的 机 会 。
生活の中において、中国語を練習できる機会があるなんて思いのほかあるとは思わなかった。

Wǒmen dǎsuàn míngtiān qù jiāoyóu Méi xiǎng dào tiānqì yùbào
2) 我 们 打 算 明 天 去 郊 游 。 没 想 到 天 气 预 报
shuō yǒu táifēng
说 有 台 风 。
明日郊外に行って、遊びに行く予定だったのですが、天気予報による台風の知らせがあるとは知らなかった。

第 22 課の宿題について

méixiǎngdào
上記で学んだ **没 想 到** を使って、大学に入学して思いもよらなかったことについて、作文を自由に書いて下さい。授業のこと、学習のこと、友達との出会いのことなど、どんな内容を書いてもいいです。書いた内容は、録音し、添付ファイルで教師に送るようにして下さい。

第 23 課 自己表現プロジェクト⑤
「日本を訪れる中国人旅行者のために旅行のスケジュールプランを立てよう！」

前提

自己表現プロジェクト⑤は「日本を訪れる中国人旅行者のために旅行プランを立てよう！」というものである。第 20 課から第 22 課までで学んだことを通し、日本を訪れる中国人旅行者のために、あなたがいいと考える一日のスケジュールプランを立て、それを発表することで自己表現を行う。発表後、学習者が考えたスケジュールプランは、インターネットによってクラス全体が閲覧できるようにする。そして、最終的に最も優れたプランを立てた学生を選出する。

目標

日本を初めて訪れる人に日本のどこを紹介したいのか、また出発時間、集合時間、どのような食事にするのかなど、一日の旅行プランを立てることで、中国語の自己表現能力を養う。また、それを文章化したり、発表することでアウトプットの力も鍛える。

注意点

1) 自己表現プロジェクト⑤は、スケジュールプランを立てることが主要であるためプランの中に必ず、集合時間や出発時間、そしてお勧めの行先を中国語で入れること。
2) スケジュールプランを発表する際、紹介したい場所に関する自作の動画を入れたい場合、自己表現プロジェクト⑤「日本を訪れる中国人旅行者のスケジュールプランを立てよう！」に関連するものであれば可とする。

評価

録画時間は長くて 3～4 分内容とする。下記の評価基準以外にも、付け足したい評価基準がある場合、クラス全体で相談し、新しく付け加える評価基準が必要なものであるかどうか決める。

評価基準

それぞれ、発表者が表現したことに関し、次の A～G の７つの項目に関し１～５の点数をつける（1. 大変良い 2. 良い　3. 普通　4. あまり良くない 5. 悪い)。

A. 興味深い発表内容であった

B. 大きな声をだして話せていたか

C. メモを見ずに話せていたかの

D. 発音がきれい

E. パワーポイントがきちんと準備されている

F. 発表時の際使っているパワーポイントの字が見やすいものかどうか

G. 発表内容の構成がよい

第 24 課　中国航空に乗る

到達目標：初めてのことを経験する気持ちを表現できる

（隣席の乗客との話）

Nǐhǎo wǒ shì shísì kào chuāng de zuòwèi
你:你 好，我 是 十 四A 靠 窗 的 座 位。

Hǎode qǐng
乘客: 好 的， 请 ！

Gāng cái xièxiè nǐ
你:（席に座る） 刚 才 谢 谢 你。

Bú yòng kèqi Nǐ de Hànyǔ shuō de zhēnhǎo
乘客:不 用 客气。你 的 汉 语 说 得 真 好。

Nǎlǐnǎlǐ wǒ cái gāng kāishǐ xuéxí Hànyǔ Xiànzài xīnqíng
你: 哪里哪里，我 才 刚 开 始 学 习 汉 语。现 在 心 情

tèbié jīdòng zhèshì wǒ dìyīcì qù Zhōngguó ne
特 别 激 动，这 是 我 第一次 去 中 国 呢。

Shìma Yǐqián duì Zhōngguó yǒu liǎojiě ma
乘客: 是 吗？以 前 对 中 国 有 了 解 吗？

Yǐqián zài xuéxiào xué guò yìdiǎnr hànyǔ wèile zhècì
你:以 前 在 学 校 学 过 一 点 儿 汉 语，为了 这 次

Zhōngguóxíng wǒ zài wǎngluòméitǐ tèbié shì shèjiāoméitǐ
中 国 行，我 在 网 络 媒 体 特 别 是 社 交 媒 体

shàng kàn le hěnduō guānyú Zhōngguó de xīnwén Háigēn yì
上 看 了 很 多 关 于 中 国 的 新 闻。还 跟 一

xiē qù guò Zhōngguó de péngyǒu qǐngjiàole hěnduō jīngyàn
些 去 过 中 国 的 朋 友 请 教 了 很 多 经 验。

Kànlái zhǔnbèi de hěn chōngfèn a
乘客: 看 来 准 备 得 很 充 分 啊。

Zhōng guó de fēngsúxíguàn rìchángshēnghuó dōu gēn Rìběn
你: 中 国 的 风 俗 习 惯、日 常 生 活，都 跟 日 本

yǒu hěndà de bùtóng Wǒ xiǎng duō liǎojiěliǎojiě
有 很 大 的 不 同。我 想 多 了 解 了 解。

Dìyīcì qù Zhōngguó shìbúshì yǒu yìdiǎnr jǐnzhāng
乘客:第一次 去 中 国，是 不 是 有 一 点 儿 紧 张 ？

Shì yǒudiǎnr jǐnzhāng dàn gèngduō de shì qīdài Búguò zhè
你:是 有 点 儿 紧 张，但 更 多 的 是 期 待。不 过，这

shì wǒ dìyīcì zuò Zhōngguó hángkōng de fēijī yǒudiǎnr
是 我 第一次 坐 中 国 航 空 的 飞 机，有 点 儿

dānxīn zìjǐ cuòguò shénme zhòngyào tíshì
担 心 自己 错 过 什 么 重 要 提 示。

Búyào dānxīn wǒ kěyǐ tíxǐng nǐ
乘客:不 要 担 心，我 可 以 提 醒 你。

Fēicháng gǎnxiè
你:非 常 感 谢。

第 24 課　目標にたどり着くための構文表現

cái

1.　才　動作・行為がある時点より少し前に発生したことを示す

Wǒ cái gāng kāishǐ xuéxí Hànyǔ
1)我 才 刚 开 始 学 习 汉 语。

私は、中国語の勉強を始めたばかりです。

Cái chī le zǎo fàn yòu è le
2)才 吃 了 早 饭，又 饿 了！

食べたばかりなのに、もうお腹がすいた。

Nǐ qù nǎr ya cái huí lái jiù zǒu
3)你 去 哪儿 呀？才 回 来 就 走？

どこに行きますか？ 戻ってきたばかりなのに、またすぐに出かけますか？

wèile

2.　为 了　行為の目的を導き、何を目的としてなされたかを示す

Wèile xué hànyǔ wǒxiǎng qù Zhōngguó liúxué
1)为 了 学 汉 语，我 想 去 中 国 留 学。

中国語を勉強するために、中国留学に行く。

Wèile wánchéng gōngzuò tā tiāntiān jiābān
2)为 了 完 成 工 作，他 天 天 加 班。

仕事を終わらせるため、彼は毎日を残業する。

guānyú
3. 关 于 「～に関して」「について」

Guānyú zhège wèntí wǒ xiǎng zài gēn dàjiā tǎolùn yíxià
1) 关 于 这 个 问 题，我 想 再 跟 大 家 讨 论 一 下 。

この問題に関しては、もう一度みんなで話し合いたい。

Wǒ xǐhuan zuòcài yě xǐhuan kàn guānyú zuòcàide diànshì jiémù
2) 我 喜 欢 做 菜，也 喜 欢 看 关 于 做 菜 的 电 视 节 目。

私は料理をすることも好きですが、料理関連の番組を見ることも好きです。

ちょっと練習！

次の言葉をつかって重ね型で文を作り、A の質問に対する B の会話を完成させましょう。

cái
例） 才 を使って

Nǐ cóng shénme shíhou kāishǐ xué Hànyǔ de
A.你 从 什 么 时 候 开 始 学 汉 语 的？

いつ頃から中国語の勉強始めましたか？

Wǒ cái kāishǐ xuéxí Hànyǔ
B.我 才 开 始 学 习 汉 语 。

中国語は学び始めたばかりです。

liǎojiě wèile
1） 了 解 、 为 了 を使って

Nǐ wèishénme xiǎngqù Zhōngguó liúxué
A.你 为 什 么 想 去 中 国 留 学 ？

どうして中国に留学に行きたいのですか？

「回答参考例」

Wèile gèng liǎojiě Zhōngguó wǒ xiǎng qù Zhōngguó liúxué
B. 为 了 更 了 解 中 国，我 想 去 中 国 留 学 。

中国のことをもっと知るため、留学に行きたいです。

guānyú dōu xǐhuan
2） 关 于 、 都 、喜 欢 を使って

Nǐduì shìjièbēi gǎnxìngqù ma
A.你 对 世 界 杯 感 兴 趣 吗？

ワールドカップに興味がありますか？

「回答参考例」

Dāngrán guānyú zúqiúde bǐsài wǒdōu xǐhuan
B. 当 然， 关 于 足 球 的 比 赛，我 都 喜 欢 。
もちろん、サッカーに関する試合であれば全部好きです。

第 24 課　目標達成のための練習問題

１．次の絵を見てまずは、A～F の感情を口に出して発音し表現してみましょう。

gǎndòng
A 感　动

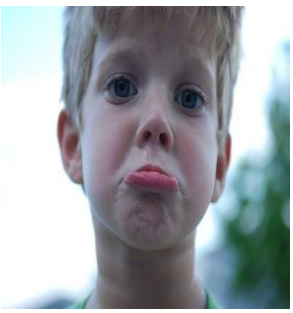
gāoxìng
B 高　兴

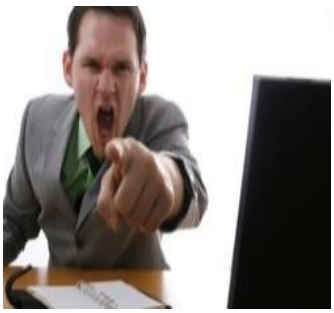
jǐnzhāng
C 紧　张

qīdài
D 期 待

dānxīn
E 担　心

hàipà
F 害 怕





2. 次の質問に対し、答えを自分のことに置き換えて、その時の状況に適した感情を A～F の中なら選び、会話してみましょう。

例)初めて会社で仕事した時、緊張しました。

Gāng kāishǐ gōngzuòde shíhou wǒ hěn jǐnzhāng
刚 开 始 工 作 的 时 候，我 很 紧 张 。

Dìyīcì jiàndào wǒ xǐhuan de míngxīng de shíhou
1) 第一次 见 到 我 喜 欢 的 明 星 的 时 候，

wǒhěn
我 很 _____。

Dìyīcì jiàndào hànyǔ lǎoshī de shíhou wǒ hěn
2) 第一次 见 到 汉 语 老 师 的 时 候，我 很 _____。

Dìyīcì zuò fēijī de shíhou wǒ hěn
3) 第一次 坐 飞 机 的 时 候，我 很 _____。

Dìyīcì qù zhōngguó de shíhou wǒ hěn
4) 第一次 去 中 国 的 时 候，我 很 _____。

Dìyīcì cānjiā péngyou de hūnlǐ wǒhěn
5) 第一次 参 加 朋 友 的 婚 礼，我 很 _____。

Míngtiān kǎoshì nǐ
6)A. 明 天 考 试 你_____吗？

Dāng rán yǒu diǎn Míng tiān kǎoshì de jié
B. 当 然 有 点 _____。明 天 考 试 的 结

guǒ duì wǒ láishuō hěn zhòngyào
果 对 我 来 说 很 重 要。

緊張するのは、当然ですね。明日の試験は私にとってすごく重要です。

3. 表現のための作文練習

自分が学生生活の中で一番印象に残っていることに関して自由に作文してみましょう（作文の中で、少なくとも１回は感情に関する表現をいれましょう）。

_____

_____

_____

4. 上記１で書いたことに関して、文章を見ずに声に出して発表してみましょう。

第 24 課の宿題について

上記の感情表現のための作文練習を、何度もアウトプットをして練習し、録音をして添付ファイルを教師に送るようにしましょう。

第25課　新しい職場での自己紹介

到達目標:自己紹介を含めた自己アピールを中国語で表現することができる

Dàjiāhǎo wǒde míngzì jiào _____。Fēicháng gāoxìng
大家好，我的名字叫_____。非常高兴

yǒujīhuì xiàng gèwèi jièshào wǒ zìjǐ Shǒuxiān yào shuōmíng de
有机会向各位介绍我自己。首先要说明的

shì wǒ de Zhōngwén búgòuhǎo xīwàng dàjiā kěyǐ duōduō bāohán
是，我的中文不够好，希望大家可以多多包涵。

Wǒhuì jìxù nǔlìde
我会继续努力的。

Wǒ chūshēng zài Rìběn Fújǐng xiànzàishì
我出生在日本福井，现在是_____（ここに

dàxuédexuéshēng Wǒ xiǎoshíhou jiù hěn
自分の大学の名前をいれる。）大学的学生。我小时候就很

xǐhuan Chénglóng de diànyǐng Dāngshí wǒde mèngxiǎng shì
喜欢成龙的电影。当时我的梦想是

chéngwéi yígè gōngfu míngxīng Suīrán hěn nǔlì de mófǎng
成为一个功夫明星。虽然很努力地模仿，

háishì méishénme yùndòng tiānfèn Xiànzài bǐqǐyùndòng wǒ gèng
还是没什么运动天分。现在，比起运动，我更

xǐhuan huàhuà háizài dàxué lǐ zìxuéle shèjì
喜欢画画，还在大学里自学了设计。

Shíwǔ suì de shíhou wǒ tūrán kāishǐ xǐhuan chī là de shíwù
十五岁的时候，我突然开始喜欢吃辣的食物，

suǒyǐkāishǐ xué zuò cài Xiànzài wǒ de péngyǒu men dōu tèbié
所以开始学做菜。现在，我的朋友们都特别

xǐhuan wǒ de shǒuyì
喜欢我的手艺。

Zhè shì wǒ dìyīcì lái Shànghǎi wǒ jiàode Shànghǎi hěnyǒu
这是我第一次来上海，我觉得上海很有

yìsi Xiàndàihuà de jiēdào kuàijié de shēnghuó fāngshì Rénrén
意思。现代化的街道、快捷的生活方式。人人

dōu chōngmǎn néngliàng hé rèqíng Wǒ yě hěn qīdài zài Shànghǎi
都充满能量和热情。我也很期待在上海

hé dàjiā yìqǐ gōngzuò Yǐhòu qǐngduōguānzhào
和 大 家 一起 工 作 。以 后 请 多 关 照 。

第 25 課 目標にたどり着くための構文表現

gòu
1. 够 「足りる」「十分である」

一定の数量・標準・程度などに到達する状態を表現する。

Qián gòu bú gòu
1) 钱 够 不 够 ? お金は足りますか?

Jǔ yí gè lì zǐ jiù gòu le
2) 举 一 个 例 子 就 够 了。 例をひとつあげるだけで十分である。

Shí jiān búgòuyòng
3) 时 间 不 够 用 。 時間が足りない。

◎副詞：多くの場合、後に「了」「的了」「的」を伴い、性質・状態の程度が甚だしいことを示す（「とても」「全く」）。

Nǐ dài de dōngxī yǐjīng gòu duō le
4) 你 带 的 东 西 已 经 够 多 了。
あなたが持ってきたものは、あまりにも多すぎる。

Búyòng dānxīn zhège chéngjì yǐjīng gòu hǎo de le
5) 不 用 担 心 ， 这 个 成 绩 已 经 够 好 的 了。
心配しないで下さい。この成績はもう十分すぎるほどいい成績です。

Xīnnián de dēng huì zhēn gòu rènao de
6) 新 年 的 灯 会 真 够 热 闹 的。
正月のイルミネーションのイベントは本当に賑やかだ。

◎動詞：（補語として他の動詞の後に用い、一定の程度を超えるさま）「たっぷりと」

Wǒ háiméi shuìgòu ne
7) 我 还 没 睡 够 呢。 私はまだ寝足りないない。

Wǒ yǐjīng chī gòu le
8) 我 已 经 吃 够 了。 私はもう嫌と言うほど食べた。

ちょっと練習！

gòu
“够”と指示された単語を使って、質問に答えて下さい。

yǐ jīng chī
例） 已 经 、吃 を使って

Zài duō chī yìdiǎnr ba
A. 再 多 吃 一 点 儿 吧！ もうちょっと食べて下さい。

Wǒ yǐjīng chī de gòu duō le
B.我 已 经 吃 得 够 多 了 。 もう既に十分に食べました。

zīgé dāng lǎoshī hái
1）资格 、 当 、 老 师 、 还 を使って

Nǐ xiànzài shì rìyǔ lǎoshī ma
A.你 现 在 是 日语 老 师 吗？

現在日本語の教師をされていますか？

「回答参考例」

Bùshì Wǒ dāng lǎoshī hái búgòu zīgé
B. 不 是，我 当 老 师 还 不 够 资格。

いいえ、日本語の先生になるにはまだ資格が足りません。

shíjiān gòu bù máng
2） 时 间 、够 、不、 忙 を使って

Nǐ gōngzuò zuìjìn mángma
A.你 工 作 最 近 忙 吗？

お仕事は最近忙しいですか？

「回答参考例」

Zuìjìn tàimáng le shíjiān dōubùgòu yòng
B. 最 近 太 忙 了，时 间 都 不 够 用 。

最近は忙しくて、時間が足りない。

chéngwéi
2. 成 为 「(変わって）～になる」

補語に用いる場合は“为”はなくてもよい。

Dāngshí wǒ de mèngxiǎng shì chéngwéi yígè gōngfu míngxīng
1）当 时 我 的 梦 想 是 成 为 一个 功 夫 明 星 。

その時の私の夢は、カンフーのスターになることでした。

Wǒde lǐxiǎng chéngle xiànshí
2) 我的 理 想 成 了 现 实 。

夢が現実になった。

3.次の職業表をみて、自分が小さかった頃の夢について会話を続けてみましょう。

lǎoshī 1. 老 师	先生
yùndòngyuán 2. 运 动 员	スポーツ選手
zúqiúxuǎnshǒu 3.足 球 选 手	サッカー選手
lánqiúxuǎnshǒu 4. 篮 球 选 手	バスケットボール選手
bàngqiúxuǎnshǒu 5. 棒 球 选 手	野球選手
wǎngqiúxuǎnshǒu 6. 网 球 选 手	テニス選手
tǐcāoxuǎnshǒu 7.体 操 选 手	体操選手
xiāofángyuán 8. 消 防 员	消防隊
jǐngchá 9. 警 察	警察
yīshēng 11. 医 生	医者
lǐfàshī 12.理 发 师	美容師
wàijiāoguān 13. 外 交 官	外交官
lǜshī 14.律 师	弁護士
yǎnyuán 15. 演 员	俳優
gēshǒu 16. 歌 手	歌手

mótèr 17. 模特儿	モデル
chúshī 18. 厨 师	シェフ
huàjiā 19. 画 家	画家
fānyì 20. 翻 译	翻訳家

例)

Nǐ xiǎoshíhou de mèngxiǎng shì shénme
A:你 小 时 候 的 梦 想 是 什 么？

Wǒ xiǎng chéngwéi zúqiú xuǎnshǒu
B:我 想 成 为 足 球 选 手 。

Wèishénme
A: 为 什 么？

Yīnwéi wǒ cóng qīsuì de shíhou jiù kāishǐ tī zúqiú yìzhí dōu
B: 因 为 我 从 七 岁 的 时 候 就 开 始 踢 足 球，一 直 都

hěn xǐhuan nà nǐ ne
很 喜 欢 。那 你 呢？

Wǒ xiǎoshíhòu xiǎng chéngwéi Yīngyǔ lǎoshī
A:我 小 时 候 想 成 为 英 语 老 师 。

Wèishénme
B: 为 什 么？

Yīnwéi wǒ cóng xiǎoxué jiù xǐhuan xué Yīngyǔ gāozhōng de shí
A: 因 为 我 从 小 学 就 喜 欢 学 英 语，高 中 的 时

hou hái qù le Yīngguó liúxué
候 还 去 了 英 国 留 学 。

第 25 課　目標達成のための練習問題

1. 表現のための作文練習：

中国語で実際に面接することを想定し、自己アピールを中国語で考えてみましょう！

2. 上記の 1 で書いたことに関して、文章を見ずに、声に出して発表してみましょう。

第 25 課の宿題について

上記の 1 表現のための作文練習を、何度もアウトプットをして練習し、録音をして添付ファイルを教師に送るようにしましょう。

1. 表現のための作文練習：

中国語で実際に面接することを想定し、自己アピールを中国語で考えてみましょう！

2. 上記の 1 で書いたことに関して、文章を見ずに、声に出して発表してみましょう。

第 25 課の宿題について

上記の 1 表現のための作文練習を、何度もアウトプットをして練習し、録音をして添付ファイルを教師に送るようにしましょう。

第 26 課　旅行会社ではじめてのインターンシップ

到達目標：相手に提案することを学ぶ

Nínhǎo Huān yíng guāng lín qǐng wèn yǒu shénme kěyǐ bāng
你：您 好！欢 迎 光 临，请 问 有 什 么 可以 帮

nín
您？

Wǒ dǎsuan shǔjià dài qīzǐ hé háizi qù Rìběn lǚyóu dàgài
乘客：我 打 算 暑 假 带 妻子 和 孩 子 去 日 本 旅 游，大 概

sì wǔtiānde shíjiān nǐ kěyǐ gěi wǒ tuījiàn yìxiē hǎode
四、五 天 的 时 间，你 可以 给 我 推 荐 一 些 好 的

lǚyóu lùxiàn ma
旅 游 路 线 吗？

Hǎode zài jièshào lùxiàn zhīqián wǒ xūyào zhǎngwò yìxiē
你：好 的，在 介 绍 路 线 之 前，我 需 要 掌 握 一 些

nín jiārén de jīběn qíngkuàng bǐrú nín háizi deniánlíng
您 家 人 的 基 本 情 况，比如 您 孩 子 的 年 龄

yǐjí jiārén de àihào děngděng
以及 家 人 的 爱 好 等 等。

Wǒ nǚér jīnnián shísuì tèbié xǐhuan kǎtōng diànyǐng
乘客：我 女儿 今 年 十 岁，特 别 喜 欢 卡 通 电 影。

Wǒ qīzǐ tā bǐjiào xǐhuan ānjìng de dìfāng
我 妻子，她 比 较 喜 欢 安 静 的 地 方。

Hǎode wǒ liǎojiě le Qǐng shāoděng wǒ qù zhǎo yìxiē shìhé
你：好 的，我 了 解 了。请 稍 等，我 去 找 一 些 适 合

nǐmen de lǚyóu lùxiàn
你 们 的 旅 游 路 线。

Zhǔnbèizīliào
（准 备 资 料）

Bù hǎo yìsi ràng nín jiǔ děng le Gēn jù nín jiārén de
你：不 好 意思，让 您 久 等 了。根 据 您 家 人 的

qíngkuàng wǒ shífēn tuījiàn zhètiáo Guānxī dìqū delǚyóu
情 况，我 十 分 推 荐 这 条 关 西 地区 的旅 游

lùxiàn
路 线。

Dōuyǒu nǎxiē dìfāng ne
乘客: 都 有 哪 些 地 方 呢？

Shǒuxiān Dàbǎn de Huánqiú yǐngchéng yóulèyuán fēicháng
你: 首 先 大 阪 的 环 球 影 城 游 乐 园 ， 非 常

shìhé háizi qícì Jīngdūdesìmiào shénshè bǐjiào ānjìng
适 合 孩 子，其 次 京 都 的 寺 庙 神 社 比 较 安 静，

wǒxiǎng nín qīzǐ yídìng huì xǐhuan zuìhòu hái kěyǐ qù
我 想 您 妻 子 一 定 会 喜 欢 。最 后 还 可 以 去

Shénhùgǎng kàn hǎi xiàtiān de hǎibiān tèbié shūfu
神 户 港 看 海，夏 天 的 海 边 特 别 舒 服。

Tīngqǐlái hěn búcuò nà wǒ huíqù wènwèn jiārén de yìjiàn
乘客: 听 起 来 很 不 错，那 我 回 去 问 问 家 人 的 意 见，

dàoshíhou zài liánxì nǐ fēicháng gǎnxiè
到 时 候 再 联 系 你，非 常 感 谢 。

Búyòng kèqi rúguǒ yǒu bù míngbái de qǐng suíshí gēn wǒ
你:不 用 客 气，如 果 有 不 明 白 的， 请 随 时 跟 我

menliánxì
们 联 系。

第 26 課　目標にたどり着くための構文表現

zhǎngwò
1.　掌　握　(理論、科学、事実、技術、言語などを理解して)「身につける」「つかむ」

Wǒ xūyào zhǎngwò yìxiē nín jiārén de jīběn qíngkuàng bǐrú
1) 我 需 要 掌 握 一 些 您 家 人 的 基 本 情 况 ，比 如

nín háizi de niánlíng yǐjí nín jiārén de àihào děngděng
您 孩 子 的 年 龄 以 及 您 家 人 的 爱 好 等 等 。

私は、ご家族様の現状を把握しておく必要があります。例えば、お子様のご年齢、ご家族様の好みなどです。

Xiànzài de dàxuéshēng dōu xūyào zhǎngwò yìxiē diànnǎo jìshù
2) 现 在 的 大 学 生 都 需 要 掌 握 一 些 电 脑 技 术 。

今の大学生は、何らかのパソコンの技術を把握しておく必要があります。

ちょっと練習!

zhǎngwò
掌　握と次の単語を自由に表現してみましょう。

1)**两种**を使って

Tā zhǎngwò le liǎng zhǒng wàiyǔ
「回答参考例」他　掌　握　了　两　种　外 语。

彼は２つの外国語をﾏｽﾀｰした。

2)**技巧**を使って

Wǒ zhǎngwò le kāichē de jìqiǎo
「回答参考例」我　掌　握　了　开　车　的 技　巧　。

私は運転のコツを把握した。

shìhé
2.　适 合　　人間や事物が要求・条件・好みを満たしている「ぴったりと」

Wǒ qù zhǎo yìxiē shìhé nǐmen de lǚyóu lùxiàn
1) 我 去　找　一 些　适 合　你 们　的 旅 游　路　线 。

私があなたと家族のみなさんに合った旅行のツアーを紹介致します。

Zhèběn shū hěn shìhé xiǎoxuéshēng dú
2) 这　本　书　很　适 合　小　学　生　读。

この本は、小学生にとても適している本です。

ちょっと練習！

shìhé
次の図を見て、 **适 合**　を使って中国語で自由に会話を作り表現してみて下さい。

「回答参考例」

Kuàidào shèngdànjié le Wǒ men bān huì jǔbàn yígè shèngdànjié
快 到 圣 诞 节 了。我 们 班 会 举 办 一个 圣 诞 节

de huó dòng Wǒ gěi dàjiā mǎi le hěnduō shèngdànlǎorén de
的 活 动 。我 给 大 家 买 了 很 多 圣 诞 老 人 的

fúzhuāng nǎ yī dǐng hóngmàozi shìhé lǎoshī ne
服 装 。哪 一 顶 红 帽 子 适 合 老 师 呢？

gēnjù
4. **根 据** 「根拠を置く」「基づく」

Gēnjù nín jiārén de qíngkuàng wǒ shífēn tuījiàn zhètiáo Guān
1) 根 据 您 家 人 的 情 况 ，我 十 分 推 荐 这 条 关

xī dìqū de lǚyóu lùxiàn
西 地 区 的 旅 游 路 线 。

家族の状況に基づいて、私はこの関西地区の旅行路線をおすすめしたいと思っています。

Gēnjù wǒmende liǎojiě zhèjiàn shì yǔ tā wúguān
2) 根 据 我 们 的 了 解 ， 这 件 事 与 他 无 关 。

私たちの調査するところによれば、この事件は彼とは関係ありません。

ちょっと練習！

次の(3)と(4)でみられる単語と **根 据** (gēnjù) を使って、自由に文を作ってみましょう。

shāngpǐn diàochá shāngpǐn
3) 商 品 调 查 商 品

「回答参考例」

Gēnjù wǒmen de diàochá zhège shāngpǐn huì mài de hěnhǎo
根 据 我 们 的 调 查 ， 这 个 商 品 会 卖 得 很 好 。

guīdìng jiàqī
4) 规 定 假 期

「回答参考例」

Gēnjù gōngsī de guīdìng měinián yǒu qī tiān jiàqī
根据 公司的 规定，每 年 有 七 天 假期。

shǒuxiān qícì zuìhòu
4. 首 先 ……其次 …… 最 后 …… 「最初に～、その次～、最後に～」

Zǎoshang qǐchuáng wǒshǒuxiān xǐliǎn shuāyá qícì huànyīfu zuì
1) 早 上 起 床 、我 首 先 洗 脸 、刷 牙，其次 换 衣服， 最

hòuchīzǎofàn
后 吃 早 饭 。

朝起きて、始めに顔を洗って、歯を磨いて、その次は着替え、最後に朝ご飯を食べる。

Xiǎng xuéhǎo hànyǔ shǒuxiān yàoduōtīng qícì yàoduō zhǎngwò
2) 想 学 好 汉 语， 首 先 要 多 听 ，其次 要 多 掌 握

dāncí zuìhòu yàoduō liànxí
单 词， 最 后 要 多 练 习。

中国語をきちんと学びたいのであれば、まず沢山聞いて、その次に単語の量を増やし、最後に沢山練習して下さい。

ちょっと練習！

shǒuxiān qícì zuìhòu
首 先 ……其次 …… 最 后 …を使って、あなたの日々の生活の中の習慣を表現してみましょう。

第 26 課　目標達成のための練習問題

1.表現のための作文練習

あなたがもし、旅行会社でインターンシップをしたと想定して、お客様にどのような場所をお勧めするか考えてみましょう。考えた後、みんなの前で発表してみましょう。

（場所が決まるまでの練習問題をこの中に取り入れる。）

2. 上記 1 で書いたことに関して、文章を見ずに、声に出して発表してみましょう。

第 26 課の宿題について

上記 1 表現のための作文練習を、何度もアウトプットをして練習し、録音をして添付ファイルを教師に送るようにしましょう。

第 27 課　自己表現プロジェクト⑥
「中国語でスピーチをしてみよう！」

前提

この 1 年間の中で学んできた中国語学習の中で､最初はどのような気持ちで始めたのか、そして 1 年後の今、何を得ることができたのだろうか。自己表現プロジェクト⑥は、これまで学んできた中国語の表現を使って、中国語の 1 年間の学習を通して、自分が変わったことに関して「あなたの中国語学習に関してスピーチをしてみよう」というものである。

目標

これまで中国語の授業や、自己表現プロジェクトを通し、中国語による様々な自己表現活動を通し、様々な形の活動を行ってきた。本教材の最後のまとめとなる自己表現プロジェクト⑥では、これまでの中国語の授業や自己表現プロジェクトで発表してきたことを全て活かし、自分の中国語学習を振り返り、どのように自分が変わってきたのか、中国語でスピーチする。

注意点

次の内容は必ずスピーチの内容の中にいれること。

1) 中国語の学習を最初はどのような考えや気持ちで始めたのか？1 年後の今、どのよう気持ちで何を得ることができたのか。

2) 学習者によっては自分の中国語の学習の変化を、以前出来なかった発音ができるようになったことなど､発音の変化を通して伝えたいと考えている者もいる｡そういった場合、スピーチ時に、以前自分が録音した中国語の発音を流してもいいこととする。

学習者へのフォローについて

1) 表現がまだ学習したことのない内容、あるいは、辞書でも見つかりにくい単語などの場合、教師がいくつか学生が使いたいと考えている表現を教え、最終的に学生はそれを自分の言葉にして発表できるようにする。

2) 発表に際し、中国語のアウトプットに関してどうしても自信がない学生は、休み時間を利用して、教師に発音の練習をしてもよいものとする。また、書いたものを教師に送り点検してもらってもよいものとする。

評価

下記の評価基準以外にも、付け足したい評価基準がある場合、クラス全体で相談し、新しく付け加える評価基準が必要なものであるかどうか決める。

評価基準

それぞれ、発表者が表現したことに関し、次の A～G の７つの項目に関し１～５の点数をつける（1. 大変良い 2. 良い　3. 普通　4. あまり良くない 5. 悪い）。

A. 興味深い発表内容であった

B. 大きな声をだして話せていたか

C. メモを見ずに話せていたかの

D. 発音がきれい

E. パワーポイントがきちんと準備されている

F. 発表時の際使っているパワーポイントの字が見やすいものかどうか

G. 発表内容の構成がよい

7.7「自己表現プロジェクト」に関する教師の役割

英語授業の内容は教師によって決まる度合いが高いため、他教科に比べ英語教師の学習者への影響は大きく、学生が英語を好きになるかどうかは、教師によって決まるといわれている（水野 1999)。中国語教育に関しても、英語教育と同様のことがいえるのではないだろうか。しかし、日常生活の中で中国語学習者が中国語と接する機会は英語より少ない。したがって、中国語の教師が学習者のニーズや学習動機に合わせた授業を進めていくという点において、中国語教育はある意味で英語教育より難しいとも考えられる。

本編では、教師の役割について、通常の授業時における役割と自己表現プロジェクト時の役割の２つに分けて考えることとする。

1. 通常の授業における教師の役割

第 6 章の中国語教育の現状調査において、中国語の初級学習者に対する授業が、文法中心であったことをふまえ、通常授業における教師の役割は以下のように考えられる。

(1) 日々の通常の授業を通し、学習者の中国語学習に対する動機やモチベーションを高める。

(2) 学習者のどのような能力を向上させたいのかという点に関して、方向性やビジョンをもち、学習者を主体とした授業を行うことができる

(3) これまでのような教師を主導とした教育ではなく、積極的に発信しようとする意欲を支援しながら、各セクションの末尾にある「自己表現プロジェクト」に繋がる一貫性（授業、教材、宿題）のある授業を通し、学習者の自己表現力の向上へ導く。

(4) IT 機器や単語カード、イラストや画像など、様々な言語学習に必要なツールを活用し、学習者が自ら考えて表現力を向上させることに近づける。

(5) 外国語の習得には、日頃の積み重ねが必要であるため、学習者が目標にたどり着くまで、小テスト等で理解度をチェックしたり、できないところをアドバイスする機会も設けることで、自信をつけさせることも重要である。

2. 自己表現育成プロジェクトにおける教師の役割

(1) 授業、教材、宿題、そして自己表現プロジェクトへとつながる一貫性のある中国語学習は、これまでの授業で行われなかったものであるため、それぞれの課の自己表現プロジェクトをどのように提示していくか、学習者に説明や例を示す(発表時の声のトーンや発表内容の組み立て方、宿題から表現プロジェクトへの繋げ方など)。

(2) 自己表現プロジェクト発表時は学習者が主役であるが、学習者が必要以上に不安になったり、緊張したりしないように、学習者が発表しやすいような雰囲気に流れを導く。

(3) 評価基準は、どれだけ声調の発音がいいのか、あるいは、形式的文法構造で話せたり書けたりしているだけで評価するのではなく、準備の度合いや日々の積み重さをもとに評価することを伝える（例：発表時にメモを見ずに発表できているか、または声を出して発表できているのか)。

(4) 自己表現プロジェクトの評価の基準は教師が準備するが、評価する人は、教師ひとりではなく、教師と学習者全体で評価することを説明する。また、評価基準に関しても、他に設ける必要がある基準はないか学習者と決めること。

結論

「教養」から「実用」

今、日本の第二外中国語の教育において、学習者が求めるものとは何か。それは、本論の第 6 章等の調査・インタビューからも明らかなように、何よりも「使える中国語」、「将来仕事で活用できる中国語」に他ならない。そもそも新しい言語を学習しようとするとき、このニーズは当然のことである。その言語を使って、たとえ日常の簡単なレベルであったとしても、まずは会話できるようになること、そして、多様な人々とコミュニケーションを取り、交流できるようになること、そのためにこそ本来、外国語を学習するのではないだろうか。しかし、日本の教育現場では、まさにこれまでの英語教育がそうであったように、この大切なことが実現できていない。

最も大きな問題は、教員が学習者のニーズを十分に汲み取れていないという点である。場合によっては、学生のニーズに気づけていないということもある。つまり、学習者と教師の間には意識のギャップが存在するのである。あるいは、あくまでも第二外国語の授業であるから、授業を通してできることは限られている、だから授業の目標は教養としての外国語を習得させればそれで十分だ、と考える教員も非常に多いのではないだろうか。

しかし、やはり本論の調査から明確になった通り、中国の文化や社会といった教養的な興味・関心から中国語を履修している学生の割合は今や決して高くない。日本の大学の状況は、もはや以前のそれとは異なっている。学生が求めているのは、やはり「使える」語学なのである。そして、このような状況の背景にあるのは時代の変化である。グローバル化の進展と同時に、経済面では日本と中国の関係がますます強くなっている。また、近年の爆発的なインバウンド（アジア、特に中国語圏からの外国人観光客）増加により、日本の街中でも普通に中国語話者と出会う、あるいは中国語を耳にするのが自然になっている。このような変化の中で、学生の中国語学習に対する動機もより実用的、実践的なものに大きく変化しつつあると考えられる。

中国語履修者の増加とともに、それと反比例してドイツ語・フランス語の学習者数が激減しているのも同じ理由ではないだろうか。例えば、かつてドイツ語やフランス語を履修する動機は、文化への興味や憧れであったと考えられる。だが、現代では時代のニーズは明らかに実用性の高い語学に向かっている。いいかえると、今、「教養としての

語学」から「実用としての語学」への大きな転換が起こっているのである。

「知識」から「能力」、そして自己表現へ

このような転換は、日本に限られたものではない。2000 年を境にして、欧米を中心に「知識伝達型」の教育が見直され、「能力育成型」の授業が重視されるようになった。欧米では OECD による「PISA リテラシー」、「DeSeCo キー・コンピテンシー」が取りまとめられている。EU による「CEFR ヨーロッパ参照基準枠」も同じ潮流に属する。そして、国内においても、「ジェネリック・スキル」「生きる力」「社会人基礎力」「学士力」等の概念が相次いで提唱され、「リテラシー」や「コンピテンシー」といった「新しい力」に注目が集まるようになる。

これらの概念に共通しているのは、時代や社会の要請に応えてゆける「汎用的能力」の育成である。すなわち、「何を知っているか」だけではなく、「知識を実際に活用できるか」、「何ができるのか」が問われるのである。この流れを受けて、語学の授業においても、「知っている」だけではなく、実際に「使える」ことこそが重要になってきているのである。このような能力重視型の教育は、グローバル化が加速する世界においては欠かせないものである。中央教育審議会の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」のもと、日本の各大学でも、近年、シラバス等で到達目標の明確化や能力としてのゴールの記載を求められるようになっている。知識・教養はもちろん重要であるが、それだけではもはや時代の要請には答えられないのである。

自己表現型のカリキュラム・デザイン

以上の考察からすると、自己表現を中心としたアウトプット型の中国語教育は、非常に重要であるとともに当然のことであるのではないだろうか。今後ますますそのニーズが高まるのではないかとも考えられる。中国語教育に携わる教員は、「教養から実用へ」、「知識から能力へ」の転換にしっかり意識を向け、時代の潮流に応える教育を行う必要がある。本論においては、この時代のニーズに対するひとつの答えとして、「カリキュラム・デザイン」案を取りまとめた。まだまだ問題点は数多く存在するとは考えているが、第二外中国語教育のひとつの新しい試みとして提案したい。

人はコミュニケーションをするとき、何を語りたいだろうか。それはおそらく、まず自分自身のことではないだろうか。人は自分について語りたい、自分のことを知っても

らいたいと感じているのではないか。それをきっかけにして、相手のことも知り、興味が広がり、交流の輪が拡大するのではないだろうか。つまり、自己表現は人間のコミュニケーションの場において非常に重要で、欠かせない要素であり、そこからすべてが始まるとも考えられる。本論が提案するカリキュラム・デザインにおいても、そのような観点から、自己表現を積み重ねることにより、やがてはグループやクラス全体でコミュニケーションの輪が広がり、交流が活性化するような構成にした。今後は、このカリキュラム・デザインがどこまで有効であるのか検証したいと考えている。実際の授業に適用した上で、問題点を抽出し、完成度を高めたいと考えている。

参考文献

1. 日本で発表された文献

相川充・津村俊充（1996）『社会的スキルと対人関係 ： 自己表現を援助する』誠信書房 p. 1, p. 3, p. 5, p. 49, p. 73

安部美咲(2010)「外国人児童と日本人児童とを結ぶ多言語活動の実践」『学校教育実践研究』（奈良教育大学教職大学院研究紀要）第 2 号 pp. 89-94

荒木昌子(2008)「大学生の口語表現能力を伸ばす教育」『月刊言語』37（3）pp. 34-41

安藤有美（2014）「自己表現行動に関わる心理社会的規定要因の研究」『名古屋大学博士論文(心理学)』pp. 1-5, pp. 202

石黒敏明(2013)「外国語教授法の歴史から学ぶ―これからの英語教育で何が必要か―」『神奈川大学心理・教育研究論集』第 34 号 pp. 17-34

家根橋伸子(2009)『日本語自己表現活動における「専有化」としての言語学習に関する研究』pp. 2～39、pp. 40～64

和泉伸一(2009）『フォーカス・オン・フォームを取り入れた新しい英語教育』大修館書店 pp. 8-16

市坡よし子（2002）「自己表現力の育成に関する研究」『岡山県教育センター研究紀要』第 230 号 pp. 1-28

岩居弘樹(2014)「Ipad を活用した学生によるビデオ作成」『中国語教育』第 12 号 pp. 38-42

岩本真理（2012）「中国語教育年表（1975 年以降を中心に）」『人文研究』（大阪市立大学大学院文学研究紀要）第 63 号 pp. 133-148

植村麻紀子(2013)「21 世紀の中国語教育を考える-グローバル社会を生きる人材を育てるという視点から」『中国語教育』第 11 号 pp. 1-19

王松（2013）「中国語学習における教師の指導行動と動機づけ 学習方略との関連：日本人大学生を対象に」『国際学研究』第 2 巻 第 1 号 pp. 107-114

王松・古川裕・砂岡和子（2016）「日本の大学生の中国語学習動機付け―全国 6 言語アンケートに基づく量的分析―」『中国語教育』第 14 号 pp. 104-117

大西博子（2008）「これからの第二外国語教育の方向性―中国語統一テキスト開発の取り組み」『語学教育部ジャーナル』(4)pp. 13-24

岡崎洋三（2014）「自己表現活動中心のマスターテクスト・アプローチによる自己創作」『多文化社会と留学生交流』(大阪大学国際教育交流センター研究論集) 第 18 号 pp. 55-66

緒方哲也（2009）「中国語教育におけるコミュニカティブ・アプローチの導入について ： 中国語・中国文学を専攻としない中国語学習者を対象とした実践と報告」『東北大學中國語學文學論集』第 14 号 pp. 77-95

小野秀樹（2002）「東京都立大学における中国語教育の現状」『日本の中国語教育-その現状と課題 2002』日本中国語学会 p. 103

郭春貴(2007)「大学における第２外国語の中国語教育の位置づけ」『広島修大論集』第 48 巻 第１号（人文）pp. 165-179

郭春貴(2008)「日本的大学二外漢語課程的教学模式探讨」『中国語教育』第 12 号 pp. 19-30

郭春貴(2014)「１周 2 节課的 2 外汉语教学模式探討－以广岛修道大学为例子－」『中国語教育』第 12 号 pp. 1-10

笠巻知子（2012）「リサーチに基づいた自己表現アプローチ法を使ったコミュニケーション能力向上の試み」『樟蔭学園英語教育センターフォーラム』(1) pp. 7-10

加藤秀俊（1970）『自己表現』中央公論社 p. 4

鎌田修・川口議一・鈴木睦（1996)『日本語教授法ワークショップ』凡人社 pp. 6-15

川口義一(2005)「表現教育への道程―『語る表現』は如何にしてうまれたか―」『講座日本語教育』第 41 分冊 早稲田大学日本語教育センターpp. 1-7

川口義一（1996）「日本語指導の文脈化」『日本語教育・異文化間コミュニケーション』北海道国際交流センターpp. 69-90

川口恭子(1997)「自己表現力を育てる授業のあり方―環境問題（家庭科）への取り組みから―」『和歌山大学教育学部実践研究指導センター紀要』No. 7 pp. 27-36

清原文代（2014）「デジタルで授業を豊かに！繰り返し練習:TTS と中国語音声入力、音が出てゲームもできる単語カード Quizle」『中国語教育』第 12 号 pp. 30-36

胡玉華(2008)「コミュニケーション能力の養成を目指した授業づくり―中国語授業における『場面つき学習』の試み―」『中国語教育』第 6 号 pp. 1-16

胡玉華(2009)『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』東方書店 pp. 26-37

胡金定(2014)「日本的漢語教育現状」『言語と文化』第 18 巻 pp. 125-130

胡玉華(2016) 「“3×3＋3”模式的汉语教学－综合学习活动的尝试」『中国語教育』第 14 号　pp. 181-197

胡玉華・馬叢慧（2014）「タスクを取り入れた中国語授業の試み」『中国語教育』第 12 号 pp. 151-167

胡土雲(2008)「我的漢語教学課」『中国語教育』第 6 号 pp. 203-206

吳丽君(2005) 『中国語の誤用分析―日本人学習者の場合―』pp. 3-63 関西大学出版部

公益財団法人国際文化フォーラム編(2011)『学習のめやす 2012―高校からの中国語・韓国語―（ダイジェスト版）』公益財団法人国際文化フォーラム

古賀範理（2002）「日本における外国語教育政策の現状と問題点」『久留米大学外国語教育研究所紀要』第 9 号 pp. 1-20

小林みずほ（2005）「自己表現活動を取り入れた小学校英語活動―学習環境づくりと評価の工夫を通して自尊感情を高める―」『一般留学生研究報告書』山梨県総合教育センターpp. 1-19

小林ミナ(2010) 『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法』アルク pp. 170-196

斎藤勇（1989）『自己表現上達法』講談社 p. 4

斉藤栄二・鈴木寿一(2000)『より良い英語を目指して―教師の疑問と悩みにこたえる』大修館書店 pp. 87-101

斉藤栄二(2008)『自己表現力をつける英語の授業』三省堂 pp. 19-85, p. 94, pp. 103-105, p. 122, p. 137

下野哲生(2010)「英語で意欲的に自己表現を図る『書くこと』の指導の在り方―中・長期的な到達目標に基づく課題設定と指導過程の工夫―」『鹿児島県総合教育センター平成 22 年度長期研修報告書』pp. 1-27

首藤信一（1999）「わが国における英語教育存廃論の系譜」『別府大学短期大学部紀要』第 18 号 pp. 77-92

城間真理子（2013）「コミュニケーション力と共同力の育成をめざして―高校中国語教育での実践報告―」『中国語教育』第 11 号 pp. 33-45

千田香子（2016）「外国語における学習動機 ： 大学初年次の第一・第二外国語学習に焦点を当てて」『言語文化研究』第 24 号 pp. 67-81

高橋すみれ (2013)「英語授業におけるエモーショナル・リテラシー教育のこころみ」『日本福祉大学全学教育センター紀要』第 1 号 pp. 71-92

高見沢孟(1989)『新しい外国語教授法と日本語教育』アルク pp. 94-109

武田和恵(2009)「大学における外国語教育の現状について」『言語と文化』第 22 号 文教大学大学院言語文化研究所 pp. 132-150

竹田宗継（2014）「経済のグローバル化と第二外国語習得の意義について」『同志社商学』65(5)pp. 533-547

田中武雄･田中知聡（2003）『Self-Expression 自己表現活動を取り入れた英語授業』大修館書店 pp. 8-37, pp. 46-57

田中奈央・金東奎・須賀和香子・高木美嘉・田中美樹・蒲谷宏（2012）「コミュニケーション活動型授業に関する考察―日本語 5B・6B における実践から―」『講座日本語教育』第 41 号 pp. 90-118

田邉鉄(2014)「デジタルの導入で授業は変わるか―第 11 回全国大会ワークショップまとめ―」『中国語教育』第 12 号 pp. 12-13

張軼欧(2012) 「第二外国語としての中国語の初級教育に於ける問題と対策」『外国語教育フォーラム』外国語研究センター第 6 号

張宏波（2015）「本学の教学改革と中国語教育の方向性 ： 他大学の先行事例に学びつつ」『明治学院大学教養教育センター紀要』9(1)pp. 63-78

張全真(2006) 「中国语会话（入门篇）（试用）围绕交际功能的话题及相关语法项目设计兼与日本近来年来刊行的中国语教材之比较研究」『言語文化研究』(松山大学)第 27 巻 第 1 号

塚本慶一(2013)『中国語通訳への道』大修館書店 pp. 52-65

辻野裕紀（2010）「〈他者の言語〉を〈自己表現言語〉として引き受けるということ：〈跨境的な生〉の実践をめざして」『日本語教育研究』第 19 号 pp. 37-57

筒井洋一（2008）「日本語表現法の意義と今後の展望」『月刊言語』37（3）pp. 19-24

鶴田洋子(2005)「日本語教師の教材作成能力をいかに養成するか」『新潟産業大学人文学部紀要』第 17 号 pp. 79-90

寺西光輝（2012）「第二外国語としての中国語の学習者をとりまく言語環境―コミュニケーション能力の育成と『複言語主義』の観点から―」『椙山女学園大学教育学部紀要』第 5 号 pp. 47-57

富作靖彦(2013)「新しい時代の外国語教育-その位相の変化と目標領域の拡大」『中国語教育』第 11 号 pp. 6-18

鳥居加菜(2012)「観光業における外国語母語スタッフのための日本語教材開発について」*Studies in language science* No. 2pp. 159-180

直山木綿子(2013)『イラストで見る全単元、全時間の授業すべて』東洋館出版社 pp. 104-105

中井弘一(2010)「高等学校における『英語の授業は英語で行う』についての一考察」『大阪女学院大学紀要』第 7 号 pp. 33-53

中西千香(2014)「レアリア:Web やアプリからみる中国、中国語」『中国語教育』第 12 号 pp. 22-28

中野貞治（2002）「高校中国教育の現状と課題」『日本の中国語教育―その現状と課題・2002―』日本中国語学会 pp. 27-30

永野善寛(2014)「蓄積と共有：学習・教育コンテンツのデータベース化とオープンエデュケーション」『中国語教育』第 12 号 pp. 14-21

日本中国語学会中国語ソフトアカデミズム検討委員会編(2002)「中国語教科書に関する課題」『日本の中国語教育-その現状と課題・2002』日本中国語教育学会 p. 181

羽井佐昭彦（2008）『国際社会で通用する自己表現の育成に向けて―英国における自己表現育成を参考に―』pp. 24-54　平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費成果報告書

長谷川良一(1995)『中国語入門教授法』東方書店 pp. 85-126, pp. 126-140

平木典子（2009）『アサーション・トレーニング ： さわやかな『自己表現』のために(改訂版)』日本精神技術研究所 p. 15, p. 107, pp. 109-111

平田オリザ(2006)「表現教育はなぜ必要か？」『日本労働研究雑誌』No. 549 pp. 9-12

廣内裕子(2012)「目的別外国語教育の一考察―看護学科の ESP（目的別英語教育）の英語コミュニケーションの授業報告―」『園田学園女子大学論文集』第 46 号 pp. 99-111

布和（2004）「中国語・日本語翻訳に関する一考察―翻訳教材の誤訳例を中心に―」『桜花学園大学人文学部研究紀要』第 6 号 pp. 223-231

藤井達也・植村麻紀子・胡興智・千場由美子・水口景子(2007)「学習指導案をどう生かすか―中国語教育のスタンダードの確立と学びのつながりの整備を見据えて―」『中国語教育』第 5 号 pp. 128－139

藤井玲子(2008)「『異なるもの』の理解と自己変容に着目して」『中国語教育』第 6 号 pp. 207-211

方経民(2000)「日本における中国語教育：1994-1997」『言語文化研究』第 20 巻 第 1 号 pp. 45-54

細川英雄(2002)「日本語教育におけるステレオタイプと集団型認識」『早稲田大学大学院日本語教育研究』第 1 号 pp. 65-78

細川英雄(2003)『日本語教育は何をめざすか―言語文化活動の理論と実践』明石書店 pp. 25-34

町田茂(2004)「中国語教育と教材開発の課題」『教育実践学研究』（山梨大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要）第 9 号 pp. 47-52

松井一彦(2013)「人材育成に向けた教育の在り方―国際バカロレア教育の現状と普及への課題―」『立法と調査』NO. 337 pp. 67-82

松下佳代（2014）「PISA リテラシーを飼いならす―グローバルな機能的リテラシーとナショナルな教育内容―」『教育学研究 81 巻 2 号』pp. 150-164

丸尾誠(2008)「中国語授業における試み」『中国語教育』第 6 号 pp. 196-202

三須祐介(2004)「第二外国語としての中国語教育」『広島経済大学研究論集』第 27 巻 第 3 号 pp. 55-66

水野知律子（2014）「英語教師に求められるもの―外国語学習方略の動機付け観点からの考察―」『香川高等専門学校研究紀要』NO.5 pp.89-98

水野満(1966)「視聴覚教材の作成と問題点」『講座日本語教育』早稲田大学日本語研究教育センターpp.97-110

村上公一(2016)「中国語教材における文化とコミュニケーション」『中国語教育』第14号 pp.24-29, p.30

村野井仁(2010)「アウトプットと第二言語習得」『東北学院大学文学部英文学科公開講座』pp.51-64

森下高治(1995)「自己開示に関する基礎的研究(2)―聞き手の聞き上手さと自己開示の第三者に対する伝達の影響―」『流通科学大学論集（人文・自然編）』NO.8(2) pp.133-153

八島智子(2001)「第二言語コミュニケーションと情意要因『言語使用不安』と『積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度』についての考察」p.86 『関西大学外国語教育研究 5』pp.81-93

山崎順平(2011)「アウトプットを重視した定着の試み」『中国語教育』第9号 pp.63-69

山下治之・平川八尋(2010)「強制アウトプット重視の第2言語指導法」『専修大学外国語教育論集』第38巻 pp.107-119

山本千津子(2005)「ロールプレイを用いた口頭表現教育に関する一考察―中級から上級レベルの日本語学習者を対象に―」『講座日本語教育』第41分冊 早稲田大学日本語研究教育センターpp.64-76

山本千津子（2006）「日本語の待遇表現教育における『自己表現』学習の意義」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要19』pp.151-178

楊達（2014）「中国語初年次教育について：早稲田大学における試み」『関西学院大学高等教育研究』第4号 pp.81-90

横野健二・東正一・田谷恵津子・兼近理子（2004）「本校における英語自己表現活動」『高校教育研究』p.56, pp.85-101

横山裕・有馬卓也(1998)「新しい中国語教育についての実践と提案―ビデオ教材の利用と音声入力の可能性―」『言語文化研究』第5巻 pp.329-344

吉島茂・大橋理枝ほか訳・編（2008）『外国語の学習、授業、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社

陸麗青(2006)「日本語教育における自己を表現する力の育成について―『形式へのこだわり』意識の変容の考察を通して」『言語文化教育研究』第 4 号 pp. 60-78

渡部敦(2009)「子どもの自己表現能力を高めるために」『国際文化フォーラム』(82) pp. 1-2

2. 中国で発表された文献

陈乃芳（2005）「利用北外优势,推动对外汉语教学事业」『汉语学习』p. 64

富娅琳・王云莉・冯娟・刘键（2010）「浅谈中国文化教育在外汉语教学中的重要性」『教育与教学研究』p. 171

耿直（2011）「改革开放以来对外汉语教材编写研究综述」『河南社会科学』第 19 卷 第 4 期 pp. 176-179

古川裕（2017）「汉语的全球化和在外汉语教学的国际化」『世界华文期刊』pp. 58-64

秦衍（2018）「关于日本大学二外汉语教学中跨文化教育的研究―通过对初级汉语教材的调查分析」『海外华文教育』pp. 11-21

王德春（1991）「汉外汉语教学漫议之七(三篇)」『汉语学习』pp. 42-44

王伟丽・李如龙（2009）「面向外汉语教学和教材编写的词汇义位赋值因素研究」『世界华文教学』pp. 264-270

辛平(2013)「日本本土汉语教材特征分析―以三套日本初级汉语教材为例」『国际汉语教育』2013 年第 02 期 pp. 144-151, p.182

张英（2001）「日本汉语教材及分析」『汉语学习』第 3 期 pp. 61-69

张英（1999）「语义与文化―兼析日本汉语教材」『汉语学习』第 6 期 pp. 45-51

郑丽芸（2017）「日本大学二外汉语教学的现状及对策-兼论女子大学的教学特色」『海外华文教育』pp.85－102

周玉珊(2011)「浅谈中文信息处理技术在外汉语教学中的应用」『北方文学(下半月)』pp. 135－136

朱川・叶军・崔良・林晓勤（1997）『外国学生汉语语音学习对策』语文出版社 pp. 15-24

3. 調査した教材(初級教材)

相原茂・陳淑梅・飯田敦子(2003)『恋する莎莎』朝日出版社

相原茂・陳淑梅(2014)『日中いぶこみ広場』朝日出版社

相原智美.安田真穂.吉田秦謙(2011)『話チャイナ！中国語入門テキスト』白帝社

荒川清秀・張筱平・上野由紀子(2009)『シンプルに中国語』同学社

飯塚君穂・阿部慎太郎（2015）『できる！中国語』朝日出版社

岩本真理・王占華(2002)『現代漢語初級』白帝社

尹景春・竹島毅（2012）『中国語はじめの一歩』白水社

内田慶市・張軟欧(2014)『しゃべくり中国語』金星堂

衛榕群・汪暁京・遠藤光暁（2015）『入門ビジュアル中国』朝日出版社

王祖茜・李志華・友野佳世（2003）『同窗友情―共に学ぶ中国語会話―』白帝社

岡田英樹・胡玉華(2010)『コミュニカティブ中国語 Level1』郁文堂

奥村佳代子・塩山正純・張 軼欧（2017)『初級中国語　会話編―自分のことばで話す中国語』

喜多山幸子・劉頴(2008)『一冊目の中国語　会話クラス』白水社

喜多山幸子・鄭幸枝(2009)『はじめまして！中国語』白水社

靳衛衛・別紅桜・相原里美(2010)『快活中国語 I』郁文堂

靳衛衛・中村俊弘・王峰(2016)『好きです♡中国語　文法編―汉语，我爱你!―』朝日出版社

靳衛衛・中村俊弘・王峰(2016)『好きです♡中国語　会話編―汉语，我爱你!ー』朝日出版社

胡金定・吐山明月・近藤久寿治（2004）『はじめての中国語 会話ツール 24』同学社

胡金定・吐山明月（2007）『中国語コミュニケーション　ステップ 24』白帝社

胡金定・吐山明月(2017)『すぐ話せる中国語』朝日出版社

顧春芳・村上幸造.・顧文(2005)『漢語入門　ようこそ中国へ』朝日出版社

小池一郎・名和又介ほか(2008)『開門！中国語』朝日出版社

姜丽萍・王枫・刘丽萍・王芳(2015)『STANDARD COURSE―中国語の世界標準テキスト 1―』

姜丽萍・王枫・刘丽萍・王芳（2015）『STANDARD COURSE―中国語の世界標準テキスト 2―』

佐藤晴彦・徐送迎(2013)『たのしくできる We can! 中国語初級』朝日出版社

史丹嵐.金子眞也(2009)『北京びより』好文出版

沈麗華（2007）『中国語キャンパスライフ』朝日出版社

杉野元子・黄漢青(2011)『大学生のための初級中国語 24 回』白帝社

周飛帆・田口善久・橋本雄一・韓越(2004)『話したくなる中国語』朝日出版社

徐送迎（2018）『初級中国語オリンピックへようこそ　会話編』朝日出版社

戴桂蓉・劉立新(2009)『初級　漢語口語１』北京大学出版社

陳淑海・劉光赤(2014)『しゃべっていいとも中国語』朝日出版社

陳淑梅・張国璐（2016）『いま始めよう! アクティブラーニング 初級中国語』朝日出版社

張慧娟・王武雲・朱藝（2016）『楽しく学ぼうやさしい中国語 基礎編』郁文堂

張美霞・陳薇(2009)『加油！中国語』郁文堂

塚本慶一・劉頴(1997)『１年生のコミュニケーション中国語』白水社

董燕・遠藤光暁（2004）『理香と王麗―話す中国語 1―』朝日出版社

董燕・遠藤光暁（2008）『ともだち・朋友 1』朝日出版社

中村俊弘・吉田泰謙・郝佳璐（2016）『好きです♥中国語 文法編―汉语，我爱你！―』朝日出版社

古川典代.福冨奈津子(2005)『料理で学ぶオイシイ中国語』朝日出版社

馬箭飛・李徳鈞(2006)『漢語口語速成　基礎篇』北京語言大学出版社

李軼倫（2015）『四コマ漫画で学ぶ中国語』朝日出版社

山下輝彦（2004）『中国語入門テキスト　你好！中国语』金星堂

楊凱栄・張麗群（2005）『表現する中国語　初級会話テキスト』白帝社

楊凱栄・張麗群(2011)『中国語へのアプローチ』朝日出版社

4．調査した教材（初級から中級教材）

植田渥雄・小林以久・曹泰和（2007）『八木さんの中国家庭訪問[新版]』金星堂

関根謙.陳祖蓓（2000）『中国語のひととき　初級から中級へ』朝日出版社

戸沼市子.邢玉芝.渋谷瑞江（2002）『動詞をながめて中国語 初級から少し進んで』朝日出版社

守屋宏則・柴森（2001）『中国語フィットネスエイト 初級から中級へ』朝日出版社

廖伊庄.利波雄一（2000）『楽しく学ぶ中国語―北京見聞編―』白帝社

楊凱栄・張麗群（2007）『中国語へのアプローチⅡ』朝日出版社

楊凱栄・張麗群（2016）『LOVE！上海 2―初級～中級編―』朝日出版社

5．英語の文献

Gardner. R. C., & Lambert, W. E. (1959) Motivational variables in second language acquisition, *Canadian Journal of Psychology*, no.13, pp.266-272.

6．**Web** 上の文献

独立行政法人日本学生支援機構
www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2017/index.html（2016/05/24）

日本政府観光局「統計データ（訪日外国人・出国日本人）」
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html（2016/06/13）

『外国語学習のめやす』-高等学校の中国語と韓国語教育からの提言-
http://www.tjf.or.jp/meyasu/　(2016/07/13)